

# 平成21年度放送大学大学院開設予定授業科目講義内容

平成20年11月発行

第 8 版

放送大学学園  
教務部教務課

# 目 次

## 1. 生活健康科学プログラム

番号		頁	メディア	単位
1	家族生活研究（'09） <sup>文</sup> .....（2009年度開設科目）...	1	R	2
2	食健康科学（'09） <sup>環</sup> .....（2009年度開設科目） 【自然環境科学プログラムと共通】...	4	TV	2
3	生活科学Ⅱ（'06）－住民主体の住居環境整備－ <sup>環</sup> 【自然環境科学プログラムと共通】...	8	TV	2
4	生活健康研究（'09） <sup>環</sup> .....（2009年度開設科目）...	11	R	2
5	健康科学（'05）－人々の健康を支える基盤－ <sup>環</sup> 【自然環境科学プログラムと共通】...	15	TV	2
6	精神医学（'06） <sup>環 臨</sup> ..... 【臨床心理学プログラムと共通】...	18	R	2
7	看護ケアの倫理学（'09） <sup>環</sup> .....（2009年度開設科目）...	20	R	2
8	スポーツ・健康科学（'09） <sup>教</sup> .....（2009年度開設科目）...	24	R	2
9	福祉政策Ⅰ（'06）－福祉政策の形成と実施－ <sup>政</sup> .....	27	R	2
10	福祉政策Ⅱ（'06）－福祉国家と福祉社会のゆくえ－ <sup>政</sup> .....	31	R	2

<sup>文</sup>：旧「総合文化プログラム（文化情報学群）」の科目です。

<sup>環</sup>：旧「総合文化プログラム（環境システム科学群）」の科目です。

<sup>政</sup>：旧「政策経営プログラム」の科目です。

<sup>教</sup>：旧「教育開発プログラム」の科目です。

<sup>臨</sup>：旧「臨床心理プログラム」の科目です。

## 2. 人間発達科学プログラム

番号		頁	メディア	単位
11	人間発達論（'09） <sup>教</sup> .....（2009年度開設科目）...	33	R	2
12	教育経営論（'08） <sup>教</sup> ..... 37	37	R	2
13	学校システム論（'07） <sup>教</sup> ..... 40	40	TV	2
14	教育課程編成論（'06）－学校は何を学ぶところか－ <sup>教</sup> ..... 43	43	R	2
15	才能教育論（'06）－身体活動能力の開発－ <sup>教</sup> ..... 46	46	TV	2
16	市民性形成論（'07） <sup>教</sup> ..... 49	49	R	2
17	逸脱行動論（'06） <sup>教</sup> ..... 52	52	TV	2
18	心理・教育統計法特論（'09） <sup>教 臨</sup> .....（2009年度開設科目） 【臨床心理学プログラムと共通】...	55	R	2
19	認知行動科学（'06）－心身の統合科学をめざして－ <sup>環 臨</sup> 【臨床心理学プログラムと共通】...	58	TV	2
20	認知過程研究（'07）－知識の獲得とその利用－ <sup>教</sup> ..... 61	61	R	2
21	教授・学習過程論（'06）－学習科学の展開－ <sup>教</sup> ..... 64	64	TV	2
22	学校臨床社会学（'07） <sup>教</sup> ..... 68	68	R	2
23	学校臨床心理学特論（'09） <sup>教 臨</sup> .....（2009年度開設科目） 【臨床心理学プログラムと共通】...	71	TV	2
24	生涯学習論（'06）－現代社会と生涯学習－ <sup>教</sup> ..... 74	74	R	2
25	人間情報科学とeラーニング（'06） <sup>教</sup> ..... 78	78	TV	2
26	発達心理学特論（'07） <sup>教 臨</sup> ..... 【臨床心理学プログラムと共通】...	81	TV	2

<sup>環</sup>：旧「総合文化プログラム（環境システム科学群）」の科目です。

<sup>教</sup>：旧「教育開発プログラム」の科目です。

<sup>臨</sup>：旧「臨床心理プログラム」の科目です。

### 3. 臨床心理学プログラム

		頁	メディア	単位
27	臨床心理学特論（'05） <sup>臨</sup> .....	86	R	4
28	臨床心理面接特論（'07） <sup>臨</sup> .....	90	R	4
29	臨床心理学研究法特論（'06） <sup>臨</sup> .....	96	R	2
	心理・教育統計法特論（'09） <sup>臨</sup> <sup>教</sup> .....			
	（2009年度開設科目）			
	【人間発達科学プログラムと共通】.....	(55)	R	2
	発達心理学特論（'07） <sup>臨</sup> <sup>教</sup> .....			
	【人間発達科学プログラムと共通】.....	(81)	TV	2
	認知行動科学（'06）－心身の統合科学をめざして－ <sup>臨</sup> <sup>環</sup>			
	【人間発達科学プログラムと共通】.....	(58)	TV	2
30	社会心理学特論（'09） <sup>臨</sup> .....	99	TV	2
	（2009年度開設科目）...			
31	家族心理学特論（'06） <sup>臨</sup> .....	102	R	2
	精神医学（'06） <sup>臨</sup> <sup>環</sup> .....			
	【生活環境科学プログラムと共通】.....	(18)	R	2
32	障害児・障害者心理学特論（'08） <sup>臨</sup> .....	105	R	2
33	臨床心理地域援助特論（'07） <sup>臨</sup> .....	108	R	2
	学校臨床心理学特論（'09） <sup>臨</sup> <sup>教</sup> .....			
	（2009年度開設科目）			
	【人間発達科学プログラムと共通】.....	(71)	TV	2

<sup>環</sup>：旧「総合文化プログラム（環境システム科学群）」の科目です。

<sup>教</sup>：旧「教育開発プログラム」の科目です。

<sup>臨</sup>：旧「臨床心理プログラム」の科目です。

### 4. 社会経営科学プログラム

		頁	メディア	単位
34	経済政策（'09） <sup>政</sup> .....	111	TV	2
	（2009年度開設科目）...			
35	途上国の開発政策（'09） <sup>文</sup> .....	114	TV	2
	（2009年度開設科目）...			
36	自治体と政策（'09） <sup>政</sup> .....	117	TV	2
	（2009年度開設科目）...			
37	社会的自我論（'08） <sup>政</sup> .....	120	R	2
38	法システムⅠ（'06）－生命・医療・安全衛生と法－ <sup>政</sup> .....	123	R	2
39	法システムⅡ（'07）－比較法社会論－日本とドイツを中心に－ <sup>政</sup> .....	126	TV	2
40	法システムⅢ（'06）－情報法－ <sup>政</sup> .....	129	R	2
41	EU論（'06） <sup>文</sup> .....	132	TV	2
42	国際社会研究Ⅱ（'07）－中国近代政治史－ <sup>文</sup> .....	137	R	2
43	国際政治（'07） <sup>文</sup> .....	140	TV	2
44	大学のマネジメント（'08） <sup>政</sup> .....	143	R	2
45	経営システムⅠ（'06）－企業の公的経営－ <sup>政</sup> .....	146	R	2
46	コーポレート・ガバナンス（'09） <sup>政</sup> .....	149	R	2
	（2009年度開設科目）...			
47	環境マネジメント（'06） <sup>政</sup> .....	152	TV	2
48	環境工学（'07） <sup>政</sup> .....	155	TV	2
	【自然環境科学プログラムと共通】...			
49	都市デザイン論（'06） <sup>政</sup> .....	159	TV	2

<sup>文</sup>：旧「総合文化プログラム（文化情報科学群）」の科目です。

<sup>政</sup>：旧「政策経営プログラム」の科目です。

## 5. 文化情報学プログラム

		頁	メディア	単位
50	総合人間学（'06） <sup>文</sup> .....	162	R	2
51	表象文化研究（'06） <sup>文</sup> .....	165	TV	2
52	地域文化研究Ⅰ（'06）－近現代ヨーロッパ史－ <sup>文</sup> .....	168	R	2
53	地域文化研究Ⅱ（'06）－東アジア世界の歴史と文化－ <sup>文</sup> .....	171	R	2
54	地域文化研究Ⅲ（'07）－ヨーロッパの歴史と文化－ <sup>文</sup> .....	174	TV	2
55	日本の歴史と社会（'09） <sup>文</sup> .....（2009年度開設科目）...	180	R	2
56	文化人類学研究（'05）－先住民の世界－ <sup>文</sup> .....	184	TV	2
57	言語文化研究Ⅰ（'07）－国語国文学研究の成立－ <sup>文</sup> .....	187	R	2
58	異文化の交流と共存（'09） <sup>文</sup> .....（2009年度開設科目）...	190	R	2
59	ことばと情報（'09） <sup>文</sup> .....（2009年度開設科目）...	193	R	2
60	総合情報学（'06） <sup>文</sup> .....	197	TV	2
61	世界の芸術文化政策（'08） <sup>政</sup> .....	200	TV	2
62	文化政策の展開（'07）－芸術文化の振興と文化財の保護－ <sup>政</sup> .....	202	R	2

<sup>文</sup>：旧「総合文化プログラム（文化情報科学群）」の科目です。

<sup>政</sup>：旧「政策経営プログラム」の科目です。

## 6. 自然環境科学プログラム

		頁	メディア	単位
63	生命環境科学Ⅰ（'05）－生物多様性の成り立ち－ <sup>環</sup> .....	205	TV	2
64	生命環境科学Ⅱ（'08）－環境と生物進化－ <sup>環</sup> .....	208	TV	2
65	複雑システム科学（'07） <sup>環</sup> .....	210	TV	2
66	物質環境科学（'09） <sup>環</sup> .....（2009年度開設科目）...	214	TV	2
67	物質環境科学Ⅱ（'08）－宇宙・自然システムと人類－ <sup>環</sup> .....	217	TV	2
68	地球環境科学（'05） <sup>環</sup> .....	220	TV	2
69	情報システム科学（'06） <sup>環</sup> .....	223	R	2
70	基礎情報科学（'09） <sup>環</sup> .....（2009年度開設科目）...	226	R	2
71	数理科学の方法（'09） <sup>環</sup> .....（2009年度開設科目）...	229	R	2
	健康科学（'05）－人々の健康を支える基盤－ <sup>環</sup> 【生活健康科学プログラムと共通】.....（15）		TV	2
	生活科学Ⅱ（'06）－住民主体の住居環境整備－ <sup>環</sup> 【生活健康科学プログラムと共通】.....（8）		TV	2
	食健康科学（'09） <sup>環</sup> .....（2009年度開設科目） 【生活健康科学プログラムと共通】.....（4）		TV	2
	環境工学（'07） <sup>政</sup> .....【社会経営科学プログラムと共通】.....（155）		TV	2

<sup>環</sup>：旧「総合文化プログラム（環境システム科学群）」の科目です。

<sup>政</sup>：旧「政策経営プログラム」の科目です。

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8910502	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 家族生活研究 ('09) = (R)

〔主任講師 (現職名) : 宮本みち子 (放送大学教授) 〕

〔主任講師 (現職名) : 清水新二 (奈良女子大学教授) 〕

### 講義概要

現代の家族変動は激しく、21世紀のゆくえは家族のあり方を抜きにしては論じられないといわれるほど、その動向は重要テーマとなっている。講義では、家族の歴史的推移を整理し、そのなかに現代家族を位置付ける。また、制度、集団、家族生活としての家族の実態と理論的アプローチの方法を述べる。各章は家族理論と家族の実態を、研究の具体例を紹介しながら整理する。

### 授業の目標

家族現象に関して、生活者として、また、地域、行政、企業で家族や人間生活にかかわる仕事をしている担当者が、動きつつある家族の実態を多角的視点から柔軟に認識し、科学的知識や理論を修得し、家族をミクロ・マクロの両レベルから理解できることをねらいとする。また、個人・地域・公共の場で必要とされる家族をめぐる問題理解を深め、その対応についても社会的サービスや行政政策の観点から視野を広げる。

### 履修上の留意点

学部開講科目の「現代世界の結婚と家族('08)」「人口減少社会の生活像('07)」「家族のストレスとサポート('08)」「ジェンダーの社会学('08)」を合わせて学習すると理解が深まる。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	家族をいかに観察するか	<p>家族のありようは、社会構造の影響を受けるとともに、家族のありようが社会構造に変化をもたらす。また、家族のありようは個人のライフコースを規定すると同時に、後者からも影響を受ける。本章では、家族のありようを社会と個人との関係から、歴史的に概観する。多角的に家族をとらえることで、われわれがかつての家族について抱いているステレオタイプな理解から脱却することが可能になる。</p> <p>【キーワード】 世帯、親族、直系家族制度、夫婦家族制度、家族認知、サラリーマンと専業主婦からなる世帯</p>	嶋崎尚子 (早稲田大学 教授)	嶋崎尚子 (早稲田大学 教授)
2	集団としての家族	<p>生活主体としての個人、生活システムとしての家族、社会構造の関連性から明らかになった実態は、どのように理解し、説明できるのか。その理論的枠組みを、制度、文化、規範、関係性、人間行為力をキーワードに整理する。ライフコース理論による家族研究を学習する。</p> <p>【キーワード】 核家族、核家族の機能、家族の非社会性、家族周期モデル、家族発達モデル</p>	嶋崎尚子 (早稲田大学 教授)	嶋崎尚子 (早稲田大学 教授)
3	ライフコースと家族	<p>個人の発達過程と家族のライフコースを実証研究から考察する。家族は時間の経過のなかで、発達的に変化することを理解する。そのさい、現代日本社会の家族をとりあげるだけでなく、欧米社会の家族を比較対象としてとりあげる。</p> <p>【キーワード】 ライフコース、ライフイベント、ライフコースの(脱)標準化、ライフコースの(脱)制度化、ライフコースの個人化</p>	嶋崎尚子 (早稲田大学 教授)	嶋崎尚子 (早稲田大学 教授)

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	システムとしての家族	<p>現代社会における生活システムと家族システムとの相互関係について解説したうえで、子どもを生活主体と捉えて、子どもの育ちを支える子育てシステムと子育てシステムにおける家族(親)の役割について問題提起をおこなう。</p> <p>【キーワード】 生活システム、家族システム、子育て支援システム</p>	神原文子 (神戸学院大学教授)	神原文子 (神戸学院大学教授)
5	相互作用としての家族	<p>家族の相互作用研究を概説する。特に家族ストレス論(ABC-Xモデル、二重ABC-Xモデル、FAARモデルへの理論的進展)、「病」や「問題」を生み出す相互作用研究、そして演技や感情から家族の相互作用をみていく視座などを説明する。</p> <p>【キーワード】 家族ストレス論、演技としての相互作用、感情としての相互作用</p>	上野加代子 (徳島大学教授)	上野加代子 (徳島大学教授)
6	ネットワークのなかの家族	<p>個人をとりまくネットワークの一部として家族をとらえる。個人のアイデンティティが固定化されるにはネットワークが供給する「重要な他者」が不可欠であり、重要な他者の供給装置としての家族の意義を概説する。そしてアジアの女性の国際移動と携帯やパソコンを利用したネットワーク、彼女たちのアイデンティティの変容についてもみていく。</p> <p>【キーワード】 個人のネットワーク、アイデンティティ、国際移動の女性化</p>	上野加代子 (徳島大学教授)	上野加代子 (徳島大学教授)
7	家族の個人化	<p>家族の個人化という観点から動きつつある現代家族の実態とその背景を説明する。「家族の個人化」研究を紹介すると共に、近代家族から現代家族への推移を、家族の個人化、個別化、私事化などの傾向と関連させつつ述べる。</p> <p>【キーワード】 家族の個人化、個別化、私事化、近代家族、個人単位の世界</p>	清水新二 (奈良女子大学教授)	清水新二 (奈良女子大学教授)
8	生活者にとっての家族ライフスタイル	<p>生活者にとっての家族ライフスタイルの多様なとらえ方と、家族ライフスタイルが多様化することの意味を解説するとともに、家族ライフスタイルの多様化を左右するライフチャンスについて問題提起する。とりわけ、健常者のみならず、子どもも障がい者も、だれもが生きる権利を尊重されるためのライフチャンスの条件整備を喚起したい。</p> <p>【キーワード】 生活者、家族ライフスタイル、ライフチャンス</p>	神原文子 (神戸学院大学教授)	神原文子 (神戸学院大学教授)
9	職業と家族	<p>家族は職業・労働を通して所得を得て家族生活を再生産している。この回では家族と職業・労働をどのように結びつけて捉えるかを整理する。さらに、時代の推移とともに、職業と労働とがどのように発展し、そのことが家族にどのような影響を及ぼしてきたかをみていく。</p> <p>【キーワード】 職業分類・職業・家族経営・雇用システム・日本型雇用・女性労働</p>	宮本みち子 (放送大学教授)	宮本みち子 (放送大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	ジェンダーと家族	近代化にともなう「近代家族」の誕生が、ジェンダー関係にどのような影響を及ぼしたかを見る。また、子育てや介護などのケア・ワークに焦点を当てて、ジェンダーの視点からみる。最後に、家族の仕事・時間・お金を、ジェンダーの切り口で整理する。  【キーワード】 ジェンダー・性役割分業・家父長制・近代家族・アンペイド・ワーク	宮本みち子 (放送大学教授)	宮本みち子 (放送大学教授)
11	現代社会と家族ストレス	家族が体験する家族ストレスに焦点をあて、関連する概念の整理をしながら家族がどのようにストレスに向き合い、対処をしていくのかを学ぶ。あわせて、現代の家族が直面しやすい家族ストレスの社会的背景についてABCXモデルの枠組みを使いつつ説明し、理解を深める。  【キーワード】 家族システム、家族ストレス、ストレス対処戦略、家族危機、家族生活の二面性	清水新二 (奈良女子大学教授)	清水新二 (奈良女子大学教授)
12	家族と病い	病いが決して個人的事柄ではなく周囲をも含めた社会的な事柄、とりわけ家族にとってしばしば大きな生活上の出来事となって影響をおよぼすことを確認する。そのうえで病者本人と周囲の相互作用について学び、これを家族の生活に当てはめて考えるとどうなるかを検討する。  【キーワード】 欲求充足の相互規定性、分配正義、疾病利得と病者役割、共依存、アダルト・チルドレン	清水新二 (奈良女子大学教授)	清水新二 (奈良女子大学教授)
13	別れと遺族支援	家族生活に焦点をあわせながら、別れと悲嘆、そしてそこからの回復について、自死(自殺)遺族の場合を取り上げ、その実態、直面する苦悩、課題を理解する。その上でそうした家族問題への社会的対応一般について学び考える機会とする。  【キーワード】 喪失と悲嘆、曖昧な別れ、封印された死、自死遺族、自殺対策基本法	清水新二 (奈良女子大学教授)	清水新二 (奈良女子大学教授)
14	人口構造と家族	わが国の人口構造は、少産少死という歴史的な転換期の最終段階にあるが、「超少子化」といわれる低い出生率の状態が続いている。このような少子高齢化は社会の様相を大きく変えつつある。その実態をおさえ、少子高齢化がマクロレベルとミクロレベルでどのような世代間関係と関わっているのかを整理する。  【キーワード】 人口高齢化・人口転換・合計特殊出生率・第2の人口転換・少子化対策	宮本みち子 (放送大学教授)	宮本みち子 (放送大学教授)
15	社会政策と家族	家族にかかわる社会政策の構成と、それが家族とどのような関連性を有しているのか、近年の社会政策の特徴をみていく。また、現代家族が生活保障システムとどのようにかわりながら変容を遂げ、そこにどのような課題があるのかを検討する。  【キーワード】 社会政策・家族政策・福祉国家・脱商品化・脱家族化・稼ぎ手モデル・個人モデル・ジェンダー政策	宮本みち子 (放送大学教授)	宮本みち子 (放送大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8910510	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 食健康科学 ('09) = (TV)

〔主任講師 (現職名) : 中谷 延二 (放送大学教授) 〕

〔主任講師 (現職名) : 小城 勝相 (奈良女子大学教授) 〕

### 講義概要

高齢化した日本の社会において「健康」は最も関心の高い課題のひとつである。食生活は人間の生命と活動、健康を支えるものとも基本的で重要な生活行為である。本科目ではヒトの健康の基盤となる重要な食品成分を解説し、生活の質“QOL”の向上に寄与することを目指した食の科学を論ずる。具体的には食品の機能(栄養機能、嗜好機能、生体調節機能)を概説し、食品素材に含まれる各機能を有する成分について解説し、動脈硬化、糖尿病、がんなどいわゆる生活習慣病の予防、食習慣の改善、機能性を発揮する食品(特定保健用食品、機能性食品など)について論ずる。あわせて大きな社会的脅威と不安を与えた食品の安全性に関する問題と食環境の重要性を論ずる。

### 授業の目標

健康を目指した食生活を構築するためには食物(食品)に含まれる成分の基本的機能を理解する。栄養素の化学と機能を習得し、さらに多種類の食材に含まれる微量な非栄養素の生体に有効にはたらく機能成分の理解を目標とする。あわせて嗜好性を豊かにする食品成分を知る。

### 履修上の留意点

化学と生物学の基礎を学んでおくこと、さらに栄養学、生化学関連の科目を履修していることが望ましい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	食品の機能と健康	人間生活のなかで「食」はヒトの健康を支える最も重要な位置を占める。生命の維持、活動エネルギーの補給に食物(食品)を摂取する。食品には3つの機能(栄養機能、嗜好機能、生体調節機能)があり、食品に含まれる成分が機能を発現する。これら機能成分について概説する。  【キーワード】 食品の機能、栄養機能、嗜好機能、生体調節機能、特定保健用食品	中谷延二 (放送大学教授)	中谷延二 (放送大学教授)
2	糖質の科学	糖質(炭水化物)は主としてエネルギー源としてはたらく。日常的に摂取する穀類、イモ類、豆類に多く含まれるデンプンが主なエネルギー源である。糖質は単糖類、少糖類(オリゴ糖)、多糖類に分類され、それぞれの有効な機能を紹介する。消化、吸収、代謝機構を述べ、エネルギー産生機構を解説する。  【キーワード】 糖質、単糖類、少糖類、多糖類、グルコース、デンプン、オリゴ糖、食物繊維、エネルギー産生	中谷延二 (放送大学教授)	中谷延二 (放送大学教授)
3	脂質の科学	脂質は水に不溶で、有機溶媒に溶解する脂溶性食品成分である。高エネルギー栄養素である。脂質を構成する脂肪酸類の化学的特性を述べ、脂質の酸化反応および生合成経路を解説する。脂質の消化、吸収機構、機能についても述べる。  【キーワード】 脂質、脂肪酸、不飽和脂肪酸、コレステロール、過酸化脂質	中谷延二 (放送大学教授)	中谷延二 (放送大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	タンパク質の科学	<p>タンパク質は生命を維持する上で重要な機能を担う。タンパク質を構成するのは20種類のアミノ酸であり、グリシンを除くとすべてL型と呼ばれる立体構造を持つ。地球生命におけるL-アミノ酸の起源からタンパク質の構造、酵素反応、機能について解説する。</p> <p>【キーワード】 L-アミノ酸、必須アミノ酸、タンパク質、酵素、ヘモグロビン</p>	小城勝相 (奈良女子大学教授)	小城勝相 (奈良女子大学教授)
5	ビタミンとミネラルの科学	<p>これらは体内では合成できず、食物から摂取する必要のある栄養素である。ビタミンは、化学的性質はそれぞれ異なるが、すべて微量成分で、生命の維持・調節に不可欠な役割を持っている。ミネラルは1日あたり100 mg以上摂取すべきマクロミネラルと必要量がそれ以下のマイクロミネラルに分類できる。体の中で1 kgも存在するカルシウムから、極微量しか存在しないセレンやコバルトまで多彩である。これらの化学と機能を解説する。特にカルシウムの機能と骨の健康について解説する。</p> <p>【キーワード】 ビタミン、ミネラル、カルシウム、鉄、コバルト、セレン</p>	小城勝相 (奈良女子大学教授)	小城勝相 (奈良女子大学教授)
6	嗜好成分の科学 香り成分の科学	<p>「おいしさ」は食品、ヒト、環境などの因子によって決定される。それらの相互関係を概説するとともに、食品由来因子のひとつである「香り成分」を取り上げ、ヒトが香りを感知するしくみ、食品由来の香り成分、調理過程で生成する香り成分の化学的特性および機能性について論じる。</p> <p>【キーワード】 おいしさを決定する因子、香り成分、香り成分の生成</p>	菊崎泰枝 (大阪市立大学大学院准教授)	菊崎泰枝 (大阪市立大学大学院准教授)
7	呈味成分の科学	<p>食品に含まれる呈味成分は、食品のおいしさを決定する最も重要な食品由来因子である。ヒトが味を感知するしくみを概説し、呈味成分(甘味、塩味、酸味、苦味、うま味の5基本味、および辛味、渋味)の化学的特性と機能性について論じる。</p> <p>【キーワード】 甘味、塩味、酸味、苦味、うま味、辛味、渋味</p>	菊崎泰枝 (大阪市立大学大学院准教授)	菊崎泰枝 (大阪市立大学大学院准教授)
8	食品色素の科学	<p>食品に含まれる色素は構造上、ポルフィリン系、カロテノイド系、フラボノイド系などに分類できる。それぞれについて化学的特性、機能性について論じるとともに、褐変など食品の保存、加工、調理過程で生じる色素についても解説する。</p> <p>【キーワード】 ポルフィリン系色素、カロテノイド、フラボノイド、褐変</p>	菊崎泰枝 (大阪市立大学大学院准教授)	菊崎泰枝 (大阪市立大学大学院准教授)
9	生体内酸化ストレスと疾病	<p>地球上のほとんどの生命は酸素を使ってエネルギーを得ている。エネルギーを使って生命は高い秩序を維持することができる。さらに環境汚染物質や医薬品などは肝臓で酸素を使った酸化反応によって解毒しているし、体内に侵入した病原菌などは酸素を使って殺している。一方、酸素は細胞内で活性酸素になって、老化、癌、動脈硬化などいわゆる生活習慣病を引き起こすと考えられている。あとで述べられる生活習慣病との関連において、望ましい酸化と望ましくない酸化、両方について化学的に解説する。</p> <p>【キーワード】 酸化ストレス、ATP、恒常性、ラジカル反応、活性酸素、生活習慣病</p>	小城勝相 (奈良女子大学教授)	小城勝相 (奈良女子大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	活性酸素による生活習慣病と食による予防	第9章でのべた、望ましくない酸化、即ち、活性酸素によって起こると考えられる生活習慣病の食による予防について解説する。  【キーワード】 活性酸素、動脈硬化、メタボリックシンドローム、生活習慣病、抗酸化系食品、特定保健用食品、コレステロール、高血圧	小城勝相 (奈良女子大学教授)	小城勝相 (奈良女子大学教授)
11	糖尿病の食による予防と是正	糖尿病は戦後急速に増加し、その予備軍まで含めると40歳以上の国民3人に1人に達する。急増の主因は、食の欧米化と身体活動量の低下である。糖尿病は血糖が上昇する疾患であるが、自覚症状がないまま進行し、網膜、腎臓、神経の障害、動脈硬化疾患などの合併症を発生させ、患者の生命と生活の質を脅かす。食事は、運動・薬物療法と並ぶ糖尿病治療の三本柱であり、量とバランスが考慮された糖尿病の食事療法は、すべての生活習慣病の予防・治療の基本となる。  【キーワード】 肥満、インスリン、HbA1C、食事療法、運動療法、食品交換表、管理栄養士	曾根博仁(お茶の水女子大学人間文化創成科学研究院准教授)	曾根博仁(お茶の水女子大学人間文化創成科学研究院准教授)
12	動脈硬化の食による予防と是正	食は健康の源であり、その量とバランスの乱れはさまざまな生活習慣病に結びつく。特に動脈硬化による脳卒中と心臓病は日本人の死因の三分の一を占めるが、糖尿病と共に、この動脈硬化を強く促進する脂質異常症(高脂血症)と高血圧の進行においても、身体運動と並び食習慣が深く関与している。現代に生きる我々は、これらの生活習慣病に対応するために、その食生活を根本的に見直すことが求められる。  【キーワード】 LDLコレステロール、HDLコレステロール、トリグリセリド、血圧、生活習慣病	曾根博仁(お茶の水女子大学人間文化創成科学研究院准教授)	曾根博仁(お茶の水女子大学人間文化創成科学研究院准教授)
13	メタボリックシンドロームとその他の生活習慣病の食による予防と是正	メタボリックシンドロームとは、放置されがちな初期の高血糖・高血圧・脂質異常症(高脂血症)が、肥満を背景に同一人に重なり、動脈硬化疾患が多発する状態である。その根本的原因は、過食と運動不足によるエネルギーバランスの乱れであり、解決には生活習慣の是正が必須である。他にもアルコール性肝疾患、痛風、一部の癌などについても食生活との関連が指摘されている。一方、科学的根拠が薄い健康食品の氾濫も問題になっており、消費者側も科学的エビデンスに基づく適切な判断が必要である。  【キーワード】 リスクファクター、診断基準、内臓脂肪、インスリン抵抗性	曾根博仁(お茶の水女子大学人間文化創成科学研究院准教授)	曾根博仁(お茶の水女子大学人間文化創成科学研究院准教授)
14	わが国で頻発する食品由来疾患	食の安全について、刹那的な情報に振り回されて不安を感じる者が非常に多い。本講義では、消費者として注意すべき食品由来疾患を患者数に基づいてランク付けし、各疾患の原因と対策について概要を説明する。  【キーワード】 ノロウイルス、カンピロバクター、サルモネラ、腸炎ビブリオ、下痢原性大腸菌	西川禎一(大阪市立大学大学院生活科学研究科教授)	西川禎一(大阪市立大学大学院生活科学研究科教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
15	健康な食生活	<p>摂食の意義、食物の生体へのはたらき(食品成分の機能)について把握する。「何をどのように食べたらよいか」に関し、食生活指針、食事摂取基準、食事のバランス、食事バランスガイドを概説する。これからの栄養学として遺伝子学を取り入れたニュートリゲノミクス(栄養遺伝子学)を語る。</p> <p>【キーワード】</p> <p>食品機能、食事摂取基準、食事バランスガイド、遺伝子、ニュートリゲノミクス</p>	中谷延二 (放送大学教授)	<p>菊崎泰枝 (大阪市立大学大学院准教授)</p> <p>小城勝相 (奈良女子大学教授)</p> <p>曾根博仁(お茶の水女子大学人間文化創成科学研究院准教授)</p> <p>中谷延二 (放送大学教授)</p>

## ＝ 生活科学Ⅱ（'06）＝（TV）

### －住民主体の居住環境整備－

- 〔主任講師（現職名）： 本間 博文（放送大学教授） 〕  
 〔主任講師（現職名）： 小林 秀樹（千葉大学教授） 〕  
 〔主任講師（現職名）： 藤本 信義（宇都宮大学名誉教授） 〕

#### 全体のねらい

居住環境整備は21世紀の日本社会が取り組むべき重要な社会課題の一つである。従来のように行政や民間のディベロッパーなど供給者側に依存した整備手法は、様々な限界を露呈し近年急速に居住者参加型のプロジェクトが増えつつある。本講義では、このような住まいづくり、まちづくりに参加する住民に対し、有効な知識や様々な情報並びに手法を提示し、プロジェクトの推進を支援しようとするものである。2章から8章までが住まいづくり、9章から15章までがまちづくりと2部構成になっている。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	居住者参加の意味	集合住宅づくり、並びに居住地環境整備における居住者参加の意味を解説し、講義全体の狙いを述べる。2回目以後は、前半を住まいづくり、後半を居住地環境整備について論じる。	本間博文 (放送大学教授) 藤本信義 (宇都宮大学名誉教授)	本間博文 (放送大学教授) 小林秀樹 (千葉大学教授) 藤本信義 (宇都宮大学名誉教授)
2	世界のコープ住宅	居住者組合(housing co-operative)による住宅供給は、欧米、カナダで盛んに取り込まれており、その全体像を概観する。併せて日本の居住者参加型集合住宅の位置づけを明らかにする。 海外取材映像を活用する。	小林秀樹 (千葉大学教授)	小林秀樹 (千葉大学教授)
3	日本のコーポラティブ住宅	日本のコーポラティブ住宅の歴史と特徴を紹介する。とりわけ、最近企業やコーディネーター主導の企画型コープが増えてきているが、現地ロケなどの映像を交えてその実態を解説する。 ゲスト 中林由行氏(NPOコープ住宅推進協議会事務局長)	本間博文 (放送大学教授)	本間博文 (放送大学教授)
4	スケルトン定借マンションの事業プロセス	スケルトン定借マンションは、居住者参加が必須の条件ではないが、通常のコーポラティブ住宅に比べて土地取得のハードルがない分、参加型の事業が大半を占める。この新しい住宅供給システムの紹介と事業プロセスを解説する。 ゲスト 田村誠邦(株)アークブレイン代表	小林秀樹 (千葉大学教授)	小林秀樹 (千葉大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
5	居住者参加による環境共生住宅	環境と共生することにより、都市への建物の環境負荷を出来るだけ軽減し、出来るだけ良好な状態で自分たちの居住環境を造ろうとする運動がコープ住宅と一体となって実現している。居住者参加による環境共生住宅の現状を紹介する。 ゲスト 甲斐徹郎 (㈱チームネット代表)	本間博文 (放送大学教授)	本間博文 (放送大学教授)
6	コレクティブハウジング	家族形態の多様化を受けて生活の一部を共同化する住まい方を求めたコ・ハウジング (スウェーデンではコレクティブハウス) が欧米を中心に定着している。現地での取り組みと近年の日本での展開を紹介する。	小谷部育子 (日本女子大学教授)	小谷部育子 (日本女子大学教授) 小林秀樹 (千葉大学教授)
7	住民参加による公共住宅の再生	公共住宅の建て替えや大規模改修にあたり、居住者参加を重視する動きが出てきている。その背景と課題について事例を交えて考察する。	横山俊祐 (大阪市立大学大学院教授)	横山俊祐 (大阪市立大学大学院教授) 本間博文 (放送大学教授)
8	マンション建て替え	老朽化するマンションの建て替えは今後重大な社会問題に発展する可能性が高い。当然居住者参加によって事業を進められることになるが、参加のあり方が大きな課題になる。近年の事例を紹介しながら、今後の取り組みへの指針を探る。 ゲスト 田村誠邦(㈱アークブレイン代表)	本間博文 (放送大学教授)	本間博文 (放送大学教授)
9	まちづくりワークショップ(1) 参加型まちづくりの手法	参加型まちづくりの手法として、ワークショップは広く適用されるようになってきているが、その種類、内容、適用範囲は多岐にわたっている。まず、ワークショップとは何かを明らかにしたうえで、米国の事例に学びながら適用の実態を整理し、実際の企画と運営方法等について論じる。	藤本信義 (宇都宮大学名誉教授)	藤本信義 (宇都宮大学名誉教授)
10	まちづくりワークショップ(2) ワークショップの実際	ワークショップが参加型まちづくりにどのように有効なのか、留意点は何か等について、経験してみないと実感としてなかなかとらえにくい。そこで、参加型まちづくりを進めているひとつの事例を採り上げ、ワークショップの具体的な進め方にふれてもらい、初歩的な理解に資する。	藤本信義 (宇都宮大学名誉教授)	藤本信義 (宇都宮大学名誉教授)
11	「つなぎ」の戦略によるまちづくり	「まちづくりはヒトづくり」であるが、モノづくりとコトおこしが連動している。モノ・ヒト・コトをつなぐことによって生き活きとしたまちづくりができることを、具体例で提示する。都市農村交流や、昔と今をつなぐまちづくりについても、その必要性を明らかにする。	藤本信義 (宇都宮大学名誉教授)	藤本信義 (宇都宮大学名誉教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
12	NPOによるまちづくり	NPOによるまちづくりへの取り組みが盛んになりつつあることに焦点をあて、NPOの活動領域をまず概観し、実際にまちづくり活動を展開しているNPOの位置づけを行う。具体的な事例としては、特定地域のまちづくりに関わるNPOと、全国を視野に入れて都市農村交流を図るNPOの2つを紹介する。	藤本信義 (宇都宮大学名誉教授)	藤本信義 (宇都宮大学名誉教授)
13	景観に配慮したまちづくり	欧米に比べて遅れをとってきた我が国の景観行政も、「景観法」の公布・施行によって、良好な景観を国民資産として守り育てることを明らかにした。景観に配慮したまちづくりを行うためには、市民が景観をどのように評価し、どのように行政との協働を図るべきかを、先進的な自治体の取り組みをもとに検討する。また、景観規制の厳しいフランスの事例から、景観計画の視点を学ぶ。 ゲスト 和田幸信(足利工業大学教授)	藤本信義 (宇都宮大学名誉教授)	藤本信義 (宇都宮大学名誉教授)
14	グラウンドワーク	行政依存により身近な居住環境と関わるのが希薄化してしまっただ現代社会で、ボランティアなどコミュニティやNPOの力を引き出し、企業や行政と連携して身近な居住環境をコミュニティが創造していく動きをつくろうとするのがグラウンドワークである。1980年代はじめに英国に端を発し日本のみならず世界に広がりつつあるグラウンドワークの考え方と実践方法を紹介する。 ゲスト 小山善彦(バーミンガム大学講師)	三橋伸夫 (宇都宮大学教授)	三橋伸夫 (宇都宮大学教授)
15	グリーンツーリズムと農家民宿	過密な大都市に生まれ育ち、時間に追われてストレスを抱える都市生活者が増えるにつれて、緑豊かな田園環境でゆったりとした時間を家族や友人と過ごすグリーンツーリズムが注目され、こうした人々を引き受け交流するため農家が自らの居住環境を整える農家民宿が増えつつある。その動きを先進地のひとつである英国やわが国の事例を通して紹介しながら今後のあり方を探る。 ゲスト 青木辰治(東洋大学教授)	三橋伸夫 (宇都宮大学教授)	三橋伸夫 (宇都宮大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8910529	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 生活健康研究 ('09) = (R)

(主任講師 (現職名) : 藤原 康晴 (放送大学教授) )  
(主任講師 (現職名) : 本間 博文 (放送大学教授) )

### 講義概要

豊かな生活といえば、物質的な豊かさや解釈しがちであるが、精神的な豊かさ、心の豊かさが大きな比重を占めている。物質的に、そして精神的に豊かな生活が真に豊かな生活であり、質の高い生活といえよう。この科目では、生活者の家族や地域の人々等の「人的環境」、住居や生活用製品などの「物的環境」、保健医療環境、「社会福祉環境」そして「生活者個人の状態」を対象に、生活の質にかかわる「主体性」、「創造性」、「関係性」、「相互扶助性」、「快適性」、「安心・安全性」、「持続可能性」等の観点からアプローチすることによって自己の生活の質の向上および他者の生活の質の向上につなげる方策や課題を追究する。

### 授業の目標

生活、保健医療、看護、社会福祉の各分野における生活者の自立と共生の観点から生活の質の向上を追究し、家庭、地域、企業、非営利組織、行政等において、生活や健康、福祉に関する課題を主体となって解決していく力量形成を目標としている

### 履修上の留意点

この科目は、生活健康科学のキーワード「生活の質の向上」の基本的事項を概説したものであり、「生活の質の向上」にかかわる各分野の内容は、それぞれの専門科目の学習によって理解を深めてほしい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	今、なぜ「生活の質」が問われるのか	生活の場における財・サービスは着実に充足されてきたが、生活に対する満足度は低下の傾向にある。生活のさまざまな場面の満足度の総合されたものを「生活の質」とみなすことができ、生活の各分野における質的アプローチが欠かせない。「生活者個人の状態」「生活者の人的環境」「生活者の物的環境」「保健医療環境」「社会福祉環境」を対象に、生活の質にかかわる観点から評価し、その質の向上につなげる枠組みを提案する。	藤原 康晴 (放送大学教授)	藤原 康晴 (放送大学教授)
2	個人と家族の生活経営	非婚化、晩婚化、離婚と再構成家族の増加等、多様化し流動化する個人と家族の生活において、生活経営の目標と方法が確立しにくく、生活の質の確保が困難になっている。第一に、生活経営の背景としての経済、社会、家族環境の状況の全体像を示す。第二に、生活経営の問題点として、生活経営の主体形成が稀薄化していること、生活手段の利用と配置に格差があること等を取り上げる。第三に、多様な生活形態における生活経営の主体形成と家族の共同生活を促すような経済的、社会的環境を展望し、個人と家族の生活経営を総合的に支援する家族生活政策の必要性を強調したい。	松村 祥子 (放送大学教授)	松村祥子 (放送大学教授) ゲスト: 宮本みち子 (放送大学教授)
3	居住環境整備における「生活の質」	住まいは家族生活の容器である。このことは生活が変わるにつれて住まいもそれに対応しながら変わらなければならないということを意味している。生活の質を問題にするときに常にこのことを念頭において考える必要がある。本章では、第二次世界大戦後の家族のあり方の変化と住まいの対応について概観し、標準設計方式が大量住宅供給に果たした役割と、その仕組みによって提供された住宅の質について考察する。	本間 博文 (放送大学教授)	本間 博文 (放送大学教授) ゲスト: 亀田紀子 (放送大学大学院修了者)

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	居住環境整備における「自立と共生」	戦後の住宅供給を担った旧「住宅公団」も改組され、供給の第一線から退いたことに示されるように、標準設計方式による大量供給はすでに時代の要請から外れ、多様なライフスタイル、ライフステージの居住者に対してどのように対応していくかが問われている。そのような観点から注目されているスケルトン・インフィル方式の考え方を、NEXT21のプロジェクトを通じて紹介し、さらにこの考え方を取り入れたスケルトン定借マンション方式を介して住まいづくりにおける共生のあり方を探る。	本間 博文 (放送大学教授)	本間 博文 (放送大学教授)
5	21世紀の住まいづくりに求められるもの	21世紀の居住環境整備における重要な課題の一つは老朽化したマンションの建て替えである。この事業はまさに居住者主体の集合住宅づくりそのものである。この事業過程をトレースし、円滑に事業を進めるための条件を検証した結果、有能な事業コーディネータ(専門家)の存在と、集合住宅についての客観的であり、国民が容易に理解可能な性能表示制度の確立が必要であること、そしてこのような条件が整備されて初めて自立と共生が意味を持つことを述べる。	本間 博文 (放送大学教授)	本間 博文 (放送大学教授)
6	安全で安心できる消費生活 その1 商品・サービス消費にかかわる安全確保と情報伝達	自然災害、犯罪、交通事故、消費する食品、生活用品、悪質商法、振り込め詐欺など生活のさまざまな場において、安全を脅かす事件や事故が続発している。それを過大あるいは過小に報道するマスコミの影響もあって、危険であるにもかかわらず多くの人々が安心している事例あるいはその逆の事例もある。商品・サービス消費にかかわる事故においても、危険の程度と人々の不安が対応していないものがある。とりわけ商品・サービス消費においては同じような事故が繰り返し起きており、この事故情報の収集とその伝達によって再発防止を推進する行政、事業者、生活者の役割を探る。	藤原 康晴 (放送大学教授)	藤原康晴 (放送大学教授)  ゲスト: 中谷延二 (放送大学教授)
7	安全で安心できる消費生活 その2 生活用品による事故と使用者	生活用品の事故が多発している。その事故原因の30%以上が使用者の不注意や誤使用によるものである。製品の使い方には、取扱説明書に記載されている「正常使用」、社会通念に反した無謀な「非常識な誤使用」およびその境界に「予見可能な誤使用」があり、これらの使用方法と責任所在について紛争処理の実態を取り上げて考察する。さらに、生活用品による事故の未然防止、再発予防に向けて、行政、製造者の取り組みとともに実際の事故事例をもとに、使用者が自分の安全のために、そして他者の安全のために取り組まねばならないことは何かについて考える。	藤原 康晴 (放送大学教授)	藤原 康晴 (放送大学教授)
8	低炭素社会に向けた生活スタイル	地球温暖化が急速に進行しており、その原因とされている温室効果ガスの排出削減が緊要である。しかし、家庭部門のエネルギー消費は増大を続けており、低炭素社会の実現に向けた生活スタイルの創出が求められている。ここでは、家庭から排出されるCO2を削減するため、生活系ごみのリデュースを推進する市民、環境研究者、行政の協働した先進的な取組みを紹介する。さらに、日常生活のなかで排出しているCO2の量を認識することによる生活者一人ひとりのエネルギー消費削減の実践とその効果を考察する。	藤原 康晴 (放送大学教授)	藤原康晴 (放送大学教授)  ゲスト: 奈良由美子 (放送大学准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
9	健康生活とケアニーズ	医学の進歩、保健医療福祉の充実、また経済的発展は、日本に世界一の長寿社会をもたらしたが、一方では、急速な高齢化や高度医療技術の進歩を背景に、必ずしも皆が「健康」でいるわけではない。慢性疾患の増加、健康生活に対する欲求の高まりは、常に人々を健康不安に陥らせており、むしろ「病い」や「障がい」とともに健やかに生きるという考え方が求められつつある。本章では、健康や保健医療の領域で20世紀後半に起こった考え方の変遷にはどのようなものがあるのか、またそれに応じて登場した「クオリティ・オブ・ライフ」という概念の導入を歴史的に理解することで、人々の生活の自立・自律と「クオリティ・オブ・ライフ」を高めるケアニーズとはどのようなものかを考察する。	井上 洋士 (放送大学准教授)	井上 洋士 (放送大学准教授)
10	チームケアと看護活動の拡大	医療技術など治療医学の発展は、さまざまな疾病の原因の究明と治療に貢献し、平均寿命を飛躍的に延ばした。最新の治療も加わり、これまで治せなかった多くの患者の命を救っている。しかし、長期にわたるケアが重要な社会的課題になっており、それに対応する形でチームケアの必要性が出てきている。本章ではまず、チームケアとは何か、その一端を理解したうえで、チームケアの中心的な担い手である看護師は、チームの調整者としてどのように活動し役割を果たしているのか、具体的な事例を見ながら理解する。患者・家族や市民のチームケアへの参加とそれに向けてのレジリエンスについても考察を深める。	井上 洋士 (放送大学准教授)	井上洋士 (放送大学准教授)  ゲスト: 高崎絹子 (放送大学教授)
11	健康づくりに向けたプライマリケア体制の構築	人々のプライマリケアは、わが国では、疾病の治療は保険料を財源とした保険制度、そして疾病の予防は税金を財源とした自治体の保健事業という、ふたつの体制によって担われてきた。そして、充実したプライマリケア体制が確保され、平均寿命の大きな伸びがあり、結果として生活習慣病の増加が人々の健康づくりの深刻な課題になっている。そのような中で、平成18年6月に高齢者医療確保法が制定され、わが国のプライマリケア体制は、新たな段階を迎えているといえる。本章では、西洋医学のあゆみとそれを支えてきた体制、わが国のプライマリケア体制の特性と課題、また人々の健康づくりに向けた、今後のプライマリケア体制の構築をどのように展望するのか、それらのことを中心に学ぶ。	多田羅浩三 (放送大学教授)	多田羅浩三 (放送大学教授)
12	わが国の保健事業の史的展開 ー管理型から自発型へー	わが国では、昭和12年に保健所法が制定され、医療施設から独立して、衛生思想、衛生体制の充実、疾病予防に特化した事業を担う機関として保健所が生まれた。昭和57年に老人保健法が制定され、市町村の保健事業が、人々の健康づくりの基盤として大きな役割を果たしてきた。その実績の上に、平成12年3月に健康日本21が発表され、平成14年には健康増進法が制定された。そして平成20年4月には、高齢者医療確保法が施行され、メタボリック・シンドロームを対象とした特定健診・保健指導が、医療保険制度の保険者によって実施されることになった。本章では、わが国における保健事業体制の特徴、推進されてきた主な保健事業の内容、その概容、特徴について学び、特定健診・保健指導が実施されることになったことの歴史的意義について考える。	多田羅浩三 (放送大学教授)	多田羅浩三 (放送大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
13	利用者主体の社会福祉	2000年以降の社会福祉制度においては、措置制度(行政処分による福祉サービス)から利用制度(利用者主体の契約選択)への移行が目指されている。そこで推進されているのは、個人の選択を尊重した制度、質の高いサービスの拡充、個人の自立生活を総合的に支援する地域福祉の充実である。しかし、社会福祉が特別なニーズをもった一部の人を対象にするものではなく、広範な人々の自立支援のために利用されるものに移行する中で多く問題も発生している。特に自立支援の理念と方法の揺らぎの中で雇用への誘導が過度になされたり、サービスの質量が不足して家族の負担が過重になっている等、利用者主体の社会福祉の実質化には程遠い状況がみられる。新たな理念と枠組みの社会福祉の現状と課題を整理し、有効な生活支援策になるために必要な福祉環境について検討したい。	松村 祥子 (放送大学教授)	松村 祥子 (放送大学教授)  ゲスト: 大曾根 寛 (放送大学教授)
14	社会福祉の担い手	社会福祉の政策・制度を立案する者、公私の諸機関で社会福祉制度の運営に係わる者、相談・コーディネートに携わる者、サービス提供に直接従事する者等、多くの種類と数の担い手によって社会福祉は実施されている。少子高齢化、情報化、国際化等の社会変化と個人や家族の生活変化の中で、社会福祉は大きな転換期にある。拡大するニーズと制限される社会資源の狭間にあつて、社会福祉が人々の生活の質向上に資するためにはどのような社会福祉の担い手が必要であるか。社会福祉の担い手が現在、直面している問題と課題を明らかにし、これからの社会福祉の担い手のあり方について検討したい。	松村 祥子 (放送大学教授)	松村 祥子 (放送大学教授)  ゲスト: 大曾根 寛 (放送大学教授)
15	つながりをもたらす生活の質の向上	家族、地域、職場等における人と人のつながりが生活満足度、充実感、安心感を与えていることが知られているが、経済社会の変化やライフスタイルの多様化によって人々のつながりが希薄化し、「生活の質」や社会にさまざまな影響を与えている。この科目の最後となるこの回では、生活者とその人的、物的、保健医療、社会福祉環境との共生を考えるとともに、社会福祉分野、次世代育成分野、環境保全分野、交通安全、防犯・防災分野、保健医療分野、看護分野、地域活性化分野など生活の各分野におけるつながりの構築に向けた活動を取り上げ、つながりの再構築のために何が必要であるかを考える。	藤原康晴 (放送大学教授) 多田羅浩三 (放送大学教授) 井上 洋士 (放送大学准教授) 松村祥子 (放送大学教授)	藤原康晴 (放送大学教授) 多田羅浩三 (放送大学教授) 井上 洋士 (放送大学准教授) 松村祥子 (放送大学教授)

# ＝ 健康科学（'05）＝ (TV)

－人々の健康を支える基盤－

〔主任講師： 多田羅 浩三（放送大学教授）〕

〔主任講師： 瀧澤 利行（茨城大学教授）〕

## 全体のねらい

平均寿命世界一の社会は、世界一多様な健康状態の人たちが生活する社会であり、そのような社会が求めている新しい科学の役割こそ、「健康科学」が担わなければならないか。そうした観点に立って、講義ではヒポクラテス以来の人類の医学のあゆみ、また人々の健康を支える制度の構築に先駆的な取り組みをすすめてきたイギリスのプライマリケアの現状についての理解をもとに、21世紀の「健康科学」が、人々の多様な健康状態を支える科学として、どのような方向を目指すべきか、考えたい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	医学のあゆみ その1	西洋医学の父といわれ、医神アスクレピオスを奉じて活躍した、ヒポクラテスの医学の、症状の観察、液体病理学、瘴気論という方法と考え方、またヒポクラテスの医学を継承したローマ時代の医師、ガレノスの生氣論を中心に、その内容、特徴について学び、西洋医学の原点を確認したい。	多田羅 浩三 (放送大学教授)	多田羅 浩三 (放送大学教授)
2	医学のあゆみ その2	人間の発見をモットーとする、ルネッサンスという時代を迎え、ヴェザリウスの解剖学が生まれ、ハーベイ、ラマツツイーニ、モルガーニ、ビシャー、シュヴァン、ウイルヒョウらによるヒポクラテスの液体病理学への挑戦をつうじて得られた人間の疾病の本態についての理解、またスノー、パスツール、コッホ、フレミングらによる瘴気論への挑戦、ナイチンゲール、ペッテンコーフェルらによる瘴気論の継承によって進められてきた疾病への闘いのあとをたどり、その特徴について考えてみよう。(パスツール以下は、医学のあゆみ その3で講義)	多田羅 浩三	多田羅 浩三
3	医学のあゆみ その3	ヒポクラテスの医学において、最も重視されたのは症状の詳細な観察と記録である。その伝統を継承したのは、シデナム、プールハーヴェであり、産業革命を背景に登場してきた病院を舞台に区分収容という方法を取り入れ、症状の中に疾病を発見するという診断学の手法を明らかにしたのがブライトである。3回の講義のまとめとして、長いあゆみを経て到達した現代の医学の特徴をふまえ、21世紀の健康科学の目指すべき方向について考えてみたい。	多田羅 浩三	多田羅 浩三
4	イギリスのプライマリケアに学ぶ その1 人々の健康を支えるシステム	イギリスでは、1911年の国民健康保険制度の発足以降、公衆衛生、一般医の医療の上に、病院の医療が重ねられるよう、プライマリケアの管理システムをどのように構築するか、1948年の国民保健サービスの実施を経て、100年に近い取り組みがすすめられてきた。講義では、その意義、特徴について考えてみたい。現地にオックスフォード・プライマリケア・トラストを訪問し、現状や課題について話しを聞き、紹介したい。	多田羅 浩三	多田羅 浩三
5	イギリスのプライマリケアに学ぶ その2 人々の健康を支える施設	プライマリケアの中核を担っているヘルスセンター、また地域の多様な住民を対象にした母子保健事業の拠点となっているファミリーセンター、在宅での療養を中心にしたケアをすすめるために設置されている成人用、小児用のホスピスなどが、人々のプライマリケアを支えている。オックスフォードに設置されている、これらの施設を訪問し、施設の特徴や課題について、話しを聞き、紹介したい。	多田羅 浩三	多田羅 浩三

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
6	イギリスのプライマリケアに学ぶ その3 人々の健康を支える多様なスタッフ	地域にあって、疾病ではなく人間を診るという理念のもとに活躍している一般医、また健康課題のよき相談相手として活躍している保健師、ナイチンゲール以来の伝統の中で在宅看護を担っている地区看護師など、多様な専門職によって、人々の健康は支えられている。これらの専門職の人たちをオックスフォードに訪問し、その仕事ぶりを紹介したい。	多田羅 浩三	多田羅 浩三
7	現代社会における健康問題の多様化	現代社会における健康問題は先進国においては、ライフスタイルの変化にともなう生活習慣病を中心とした慢性疾患と社会構造の複雑化に起因する心身のストレス性疾患が増加しており、発展途上国では貧困による栄養障害や感染症がなお健康阻害要因として大きな位置を占めている。文明化の過程で疾病像がどの様に変化するかを検討しながら、現代社会における栄養、運動、こころの健康問題について検討してみよう。	瀧澤 利行 (茨城大学教授)	瀧澤 利行 (茨城大学教授)
8	ヘルスプロモーションと健康増進	こんにちは、多様化した健康問題を解決するための国際的動向としてヘルスプロモーション運動が展開されている。個人の健康向上のためのスキルアップや技術向上と社会的環境整備の両面を指向したこの活動は、先進諸国においても発展途上国においても共有できる理念・方法として普及している。ここでは、その理論的背景と具体的構成要素について、考察を加える。	瀧澤 利行	瀧澤 利行
9	健康管理・健康教育の新しい展開	急性疾患から慢性疾患への疾病像の変化にとまない、プライマリケアの重要性が提起されるようになって久しいが、こんにちはではさらに健康管理においては根拠にもとづく健康管理(EBHC)やケアの質管理の問題が論じられ、健康教育においても行動変容からさらに住民参加型の健康教育へと方法論が拡大している。ここでは、専門家の裁量や経験性への依存にとどまらず、情報の共有による創造的・双発的な健康管理と健康教育の動向を検討する。	瀧澤 利行	瀧澤 利行
10	健康と文化	人々の健康に関する働きかけは、前回までの講義で明らかにされたような科学的方法論による追求とともに、個別の地域や集団の文化性に強く規定される。人々の健康増進をその生活の次元に合わせて融和的に実現するためには、対象集団の文化的特性や地域の実情を十分に知る必要がある。ここでは地域への保健活動の前提としての健康と文化的特性との関係を主要な理論や実例を通して考えていくことにする。	瀧澤 利行	瀧澤 利行
11	人々の健康を支える事業 - 成果と展望 -	わが国の公衆衛生は、保健所の機能を基盤として成長してきた。近年、多くの事業が保健所から市町村へ移行している。市町村が実施している母子保健事業、老人保健法による保健事業、介護保険事業計画、健康日本21地方計画などについて、大阪府摂津市を訪問し、現状を中心に、その実績から、人々の健康を支えている事業の役割、成果、展望などについて考えてみよう。	多田羅 浩三	多田羅 浩三
12	健康の危機管理	人々の健康を支えるという課題について考えた場合、人々の健康は、大きな公害や震災、流行病などによって大きな被害を受けてきた。それらの経験から学ぶことは極めて多く、貴重であると思われる。とくに戦後、わが国が経験した水俣病やイタイタイ病、阪神淡路大震災、大腸菌 O157 食中毒、バイオテロ、SAHS などの事例を振り返り、危機管理の基本的なあり方について考えてみたい。	多田羅 浩三	多田羅 浩三

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
13	公衆衛生の役割と 展望	人類の公衆衛生は、19世紀、産業革命を背景とした人口の都市への集中と国際的な経済交流の発展を背景とした感染症の流行という事態に直面して生まれた社会の制度である。フランクやチャドウィック、ラムゼイ、シモンらの活躍によって構築されてきた、公衆衛生の伝統について学び、とくに社会の関与が人々の健康に対し、どのような役割を担うことができるか、公衆衛生の展望について考えてみたい。	多田羅 浩三	多田羅 浩三
14	健康日本 21 の意義 － 国民の責務と 人々の健康－	西洋医学は、人類の疾病への闘いに大きな成果を挙げた。その現代の優等生は日本である。昭和 61 年には男女ともに平均寿命世界一の記録を達成した。そのような実績にもかかわらず、わが国の生活習慣病による死亡数は激増している。平均寿命世界一の社会は、最も多様な健康状態の人たちが生活している社会である。結果として、人々の生活習慣、医療保険制度、保健事業や福祉事業のあり方が厳しく問われている。そのような状況の中ですすめられている、健康日本 21 の意義について考えてみたい。	多田羅 浩三	多田羅 浩三
15	人々の社会を 支える制度	人類の歴史の中で生まれ発展してきた制度の中で、とくにイギリスの歴史にみられる、陪審制度、議会制度、大学、修道院の解体と救貧法、プロフェッションの誕生、医療保障制度の成立などにフォーカスをあてて、長い歴史の中で人々の社会を支える制度が築かれてきた歴史について考えてみたい。その中で、講義の最終回として、人々の健康を支える基盤が目指すべき方向について、考えてみたい。	多田羅 浩三	多田羅 浩三

＝ 精神医学（'06）＝（R）

〔主任講師： 仙波 純一（さいたま市立病院総合心療科部長）〕  
 〔主任講師： 石丸 昌彦（放送大学教授）〕

全体のねらい

この科目は臨床心理士養成コース大学院の科目として作成されたものである。したがって、ある程度医学的な知識がなくとも、精神医学の役割を理解できるように工夫されている。診断学は簡単な記述にとどめ、精神科疾患を提示し、その治療の道筋を把握できるように作成した。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	精神医学とは何か	医学における精神医学の占める位置を説明し、次に精神医学の簡単な歴史と現状について述べる。精神症状を把握するための面接法、臨床検査法、および診断法の概略を述べる。	仙波 純一 (さいたま市立病院総合心療科部長)	仙波 純一 (さいたま市立病院総合心療科部長)
2	精神医学的面接法	精神医学的面接は、症状の聴取だけでなく、診断あるいは治療にも直結する重要な行為である。	仙波 純一	仙波 純一
3	統合失調症（1）	精神医学の最大の課題のひとつである統合失調症をとりあげ、その疫学、症状、推定されている成因などについて述べる。	石丸 昌彦 (放送大学教授)	石丸 昌彦 (放送大学教授)
4	統合失調症（2）	統合失調症の治療法すなわち、薬物療法、精神療法、社会復帰療法などについて述べる。	石丸 昌彦	石丸 昌彦
5	気分障害（1）	従来の診断名では躁うつ病とよばれる気分障害をとりあげ、その疫学、症状、推定されている成因などについて述べる。	仙波 純一	仙波 純一
6	気分障害（2）	気分障害の治療法を構成する薬物療法と精神療法の役割を述べる。	仙波 純一	仙波 純一
7	不安障害（1）	伝統的には神経症と呼ばれてきた疾患群を不安障害としてとりあげ、その主なものについて、疫学、症状、治療法などを述べる。	石丸 昌彦	石丸 昌彦

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
8	不安障害(2)・ 摂食障害	第7章に続き、不安障害について述べる。さらに、拒食症・過食症などの摂食障害の疫学、症状について述べる。	石丸 昌彦	石丸 昌彦
9	人格障害	境界性人格障害などを含む人格障害(パーソナリティ障害)の概念、特徴について述べる。	石丸 昌彦	石丸 昌彦
10	薬物・アルコールや身体疾患による精神障害	社会問題化しているアルコール依存症、覚醒剤依存症などの疫学、症状、治療について述べる。中枢神経系疾患の部分症状として現れる精神症状について解説する。	仙波 純一 石丸 昌彦	仙波 純一 石丸 昌彦
11	老年期の精神障害	高齢化社会で問題となる老人性認知症や老年期のうつ病をとりあげ、その疫学、類型、症状、治療について述べる。	石丸 昌彦	石丸 昌彦
12	児童青年期の精神障害	小児期に明らかとなる広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害などについて述べる。	市川 宏伸 (東京都立梅ヶ丘病院 院長)	市川 宏伸 (東京都立梅ヶ丘病院 院長)
13	精神科治療(1)	精神科治療薬の種類とその推定される作用機序について述べる。	仙波 純一	仙波 純一
14	精神科治療(2)	精神科治療における心理・精神療法をとりあげ、その基本原則について述べる。	石丸 昌彦	石丸 昌彦
15	日本の精神医療の現状	日本の精神医療の現状を行政や法律の面から検討する。同意の得られない治療は精神保健福祉法に基づいて行われる。また刑事責任能力などについて司法上の問題が生じることもある。さらに、精神障害者が地域に住み満ち足りた生活や活動を行えるために地域で行うべき精神医療や福祉について述べる。	仙波 純一	仙波 純一

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8910537	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 看護ケアの倫理学 ( ' 0 9 ) = ( R )

〔主任講師 (現職名) : 高崎絹子 (放送大学教授) 〕

〔主任講師 (現職名) : 山本則子 (東京医科歯科大学教授) 〕

### 講義概要

近年、医学や科学技術が進歩するなかで、医療における倫理的課題への関心は、先端 的医療や医療事故等の問題に止まらず、また、医療従事者や医療を受ける患者や病弱者 だけでなく、一般の人々の間にも高まっている。それは、医療は予防から急性期・慢性 期治療、リハビリテーション、さらにターミナルに至る人生のあらゆるステージで、人々の生老病死に密接に関わりをもち、QOLに深く関連しているからである。現実的な健康課題や医療的ニーズを満たすために、そこに生ずる倫理的課題を理解して看護ケアを提供することである。本科目では、医療倫理の原則、看護倫理の課題を理解し、一人一人がどのように判断し、看護ケアを提供することが必要かについて考察する。

### 授業の目標

医療倫理や看護倫理の歴史と原則を踏まえて、看護ケアを提供する場の特徴と倫理的課題について理解し、解決のためのプロセスを考える。倫理的課題は、医療従事者、患者・病弱者及び家族それぞれの価値観や判断とそのズレ、さらに、医療や日常生活を取り巻く環境や制度・政策の状況等に深く関連していることを理解する。できるだけ事例を多く取り上げるとともに、理論的な検討を行うことを目指す。

### 履修上の留意点

医療倫理、看護ケアの倫理的課題の特質から、個々の倫理的課題に対応する明確な解 答を求めるのではなく、課題をめぐる様々な状況を含めて、アセスメント能力、判断能 力を高めるのが重要であることを理解する。

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	看護ケアの特質と看護倫理	保健医療福祉の場においては、cure(治療)とcare(ケア)が両輪となって機能することが重要である。しかし、治療や療養生活の方針をめぐって、患者・クライアント、医師や他のスタッフ、あるいは家族との間に意見の違いが生じ、さまざまな問題や倫理的課題が起こる。看護者は、その解決をめぐってさまざまなジレンマに直面するが、ここではCareを第一義的な役割とする看護者は、患者・看護・医師との間の人間関係や職場環境の調整を含め、問題解決のためにどのように倫理的責任と役割を果たすことができるかを考察する。	高崎絹子 (放送大学教授)	高崎絹子 (放送大学教授)
2	医療における倫理的原則	「ヒポクラテスの誓い」を嚆矢とするローカル色強く師弟継承的な誓約は、時代下るとともに同業職能集団の自己規定的な内視へと発展してきた。現代にいたって、そこに医療を受ける側の人々の権利という視点が導入されることとなった。医療従事者ばかりでなく、市民、法学者・司法者や行政者、そして倫理学者が望ましい医療のあり方を模索し、これまで実に様々な倫理的な綱領、宣言、原則が提出されてきた。しかしこれらすべてが矛盾なく調和しているわけではない。医療従事者が個々のケースにそれらをただ機械的に適用することで倫理問題を必ず解消できると期待することはできない。そこで倫理原則の厳選・適用範囲・制約を探っていく必要がある。	服部健司 (群馬大学大学院医学研究科教授)	服部健司 (群馬大学大学院医学研究科教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
3	医療倫理学と看護倫理学	医療倫理の「医療」を医師法に定められた医業を指すとみると、医療倫理は医師の振舞い方をめぐる規範としてとても狭く理解されることになる。他方、「医療」を広くとらえるならば、医療倫理は看護倫理をも包含するものとみなされる。その場合、看護倫理に特異的な要素というものは何なのだろうか。他の医療職種にとっての倫理と看護倫理とが決定的に違う点はあるのだろうか。それらが衝突し合うことはないのだろうか。看護師は看護倫理のみを問われ、考えていさえすれば十分なのだろうか。こうした問いに答えるためには、医療と看護との関係、倫理と倫理学の意味やはたらかとといった基本的な事柄に立ち返って考えてみる必要がある。	服部健司 (群馬大学大学院医学研究科教授)	服部健司 (群馬大学大学院医学研究科教授)
4	看護倫理の理念	看護ケアの実践では倫理的判断を求められる場面が多く、看護ケアの倫理は看護の専門性と深くかかわっている。ここでは看護倫理の歴史とその位置づけ、看護倫理の原則、看護師の倫理綱領について概観し、看護ケアの倫理における理念とは何か、またそれはどのような特徴をもつかを考える。	大西香代子 (三重大学医学部看護学科教授)	大西香代子 (三重大学医学部看護学科教授)
5	看護ケアにおける倫理的課題	看護ケアにおける倫理的課題に気づき、適切な倫理的判断を行うために必要な概念やモデルについて概観する。またプライバシー保護や機密保持、インフォームド・コンセント、意思決定支援など、患者・クライアントや家族に対する看護ケアの実践にとって普遍的な倫理概念について考える。	大西香代子 (三重大学医学部看護学科教授)	大西香代子 (三重大学医学部看護学科教授)
6	成人期の看護ケアと倫理(1)ー急性期の看護を中心としてー	ライフサイクルにおいて成人期は、個人的にも家族・社会的にも重要な役割を担っており、特に成人期の疾病は重大な影響をもたらす。成人期の急性期にみられる倫理的な課題には、救急患者のインフォームド・コンセントと代理決定、脳死と臓器移植などがあげられる。これらの内容と現状について理解し、倫理的課題に直面した場合に看護者が取り得る態度や行動を、既存の理論などを用い、事例を通して考察する。	山本則子 (東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科教授)	山本則子 (東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科教授)
7	成人期の看護ケアと倫理(2)ーガン看護を中心としてー	ガンは生命に関わる疾患であり、ガン患者の治療の過程においては、告知やインフォームド・コンセント、治療の進め方から死の迎え方まで、様々な倫理的課題が生じる。以前に比べると、診断や治療は格段の進歩を遂げ、緩和ケアを実施するところも多くなってきたが、選択肢の増加などにより新たな倫理的課題も生じている。ガン看護で患者や家族の苦しみに寄り添う看護者が、どのように倫理的役割を果たすことができるかを事例を通して考察する。	大西香代子 (三重大学医学部看護学科教授)	大西香代子 (三重大学医学部看護学科教授)
8	母子看護ケアと倫理(1)ー母性看護の倫理を中心としてー	人が生まれるプロセスは、長期の妊娠期間とドラマチックともいえる出産に象徴される。このプロセスには、妊産婦の身体的、心理的な問題だけでなく、家族的、社会的な状況が影響しており、そこには多くの倫理的課題が含まれている。医学技術の発達により、妊娠出産に伴う危機から多くの命が救われるようになったが、一方では、生む生まないの選択、人工流産、不妊治療、さらには遺伝子診断、対外受精や代理出産の問題等の先端医療技術も医療倫理課題をより複雑にしている。こうした様々な背景や治療とケアの問題に伴う倫理的課題を理解し、援助するために看護者の果たす倫理的役割を、事例を通して考察する。	石井トク 日本赤十字 北海道看護 大学学長)	石井トク (日本赤十字 北海道看護 大学学長)

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
9	母子看護ケアと倫理 (2)－小児看護の倫理を中心として－	子どもがこの世に生を受け、心身ともに健康に成長して社会人として育つまでには、母親や家庭だけでなく、多くの人々のあたたかい支援が必要である。特に、疾病や傷害をもつ子どもは、医療だけでなく、様々なケアを必要とするが、家族の養護や育児能力が十分でなかったり、環境が整っていない場合には、生命の危機など、基本的な生存権を奪われる場合もある。看護者は、子どもや母親などの養護者の状況を的確に把握し、適切な援助を行うとともに、倫理的課題の解決を図るために何を必要とする必要があるかについて事例を通して考察する。	石井トク (日本赤十字 北海道看護 大学学長)	石井トク (日本赤十字 北海道看護 大学学長)
10	精神科看護ケアと倫理	精神科看護ケアにおいては、患者本人の意思が不明瞭であったり、家族の意向や社会の要請との間にギャップを生じたりすることが多い。また、非自発的な入院治療や隔離・拘束が認められている領域であることから、患者の立場はきわめて弱く、特に倫理的配慮の必要な領域といえる。看護者が患者を暴力的に支配した負の歴史もふまえながら、その人権擁護における看護者の役割について、事例を通して考察する。	大西香代子 (三重大学医 学部看護学 科教授)	大西香代子 (三重大学医 学部看護学 科教授)
11	高齢者看護ケアと倫理(1)－急性期における看護を中心として－	身体的、心理的、社会的のいずれの側面にも自立能力が低下した高齢者は、権利や尊厳が侵されやすい立場におかれることが多い。特に、治療が優先される医療の場では、しばしば治療方針と高齢者や家族のニーズとの間にギャップが生じ、緊急を要する手術や人工呼吸器の装着、あるいは臓器移植や高度医療に伴う濃厚な治療が行われる場合、倫理的問題が生じることが多い。高齢者をめぐる倫理的課題を理解し、高齢者の健康と安全、QOLを守るために、看護者の倫理的役割は何かについて既存の理論を用い、事例検討を通して考察する。	山本則子 (東京医科歯 科大学大学 院保健衛生 学研究科教 授)	山本則子 (東京医科歯 科大学大学 院保健衛生 学研究科教 授)
12	高齢者看護ケアと倫理(2)－認知症の看護ケアを中心として－	認知症をもつ人とその家族をケアする際には、多くの倫理的課題に直面する。治療や各種セラピーに関する意思決定、社会資源の利用に関する意思決定、療養の場と生活に関する決定などである。これらの課題の構造と現状について理解し、倫理的課題に直面した場合に看護者がとり得る態度や行動を、既存の理論などを用い、事例検討を通して考える。併せて認知症をもつ人への権利擁護の活動や成年後見制度などについて学ぶ。	高崎絹子 (放送大学教 授)	高崎絹子 (放送大学教 授)
13	在宅ケアと倫理	家庭はプライベートな場であり、他者の介入には限界がある。このため在宅ケアにおける倫理的課題は、施設における課題とは異なる様相を呈する。家族の介護責任についての考え方、家族による介護放棄・虐待の問題、社会資源の利用に関する意思決定などである。これらの課題の構造と現状について理解し、倫理的課題に直面した場合に看護者がとり得る態度や行動を、既存の理論を用い、事例検討を通して考察する。	山本則子 (東京医科歯 科大学大学 院保健衛生 学研究科教 授)	山本則子 (東京医科歯 科大学大学 院保健衛生 学研究科教 授)
14	看護研究と倫理	人間を対象とする研究を行う際には、研究の目的やその結果がもたらす影響を十分考慮するとともに、研究の対象となる人へのインフォームド・コンセントや、安全に配慮して行う必要がある。医学・医療の発展の歴史においては、多くの研究が行われてきたが、研究の対象となる人の安全と権利を守るために、ヘルシンキ宣言が採択された。看護分野においても看護研究の倫理指針が定められているが、医学研究に参画したり、看護研究を行う際の看護職の倫理的配慮と役割について考える。	高崎絹子 (放送大学教 授)	高崎絹子 (放送大学教 授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
15	看護倫理の課題と展望	医療・看護を取り巻く状況は急速に変化し、また、人々の生活様式や価値観も時代の影響を受けて多様化している。医療サービスに対するニーズも多岐にわたり、要求レベルが高まっているが、倫理的問題も増加している。医療の学際的な協力、国際化が求められるなかで、チームケアの中心的な役割を担う看護師は、人々のQOLの向上を目指して、様々なジレンマを乗り越え、看護の倫理的意思決定のプロセスにおけるアセスメントや判断能力を向上させることにより、問題の解決と倫理的役割を果たすことであることを学ぶ。	高崎絹子 (放送大学教授)	高崎絹子 (放送大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8910545	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名(メディア) = スポーツ・健康科学 ('09) = (R)

〔主任講師(現職名) : 樋口 満 (早稲田大学教授) 〕  
 〔主任講師(現職名) : 福永 哲夫(鹿屋体育大学長) 〕  
 【担当専任教員 : 臼井 永男(放送大学准教授) 〕

### 講義概要

はじめに、今日、私たちがスポーツを日常生活のなかに積極的に取り入れることの意義を歴史的視点から概説する。次に、運動・スポーツの生理学的基礎、及び健康の保持・増進という視点から運動・スポーツの理論について解説する。さらに、運動・スポーツが子どもや女性の健康の保持増進、中高年者の生活習慣病の予防に及ぼす効果を解説する。また、生活習慣病の運動療法、老化防止・介護予防に及ぼす運動・スポーツの有効性について、社会経済的視点とも関連させて解説する。

### 授業の目標

我々が生活する現代社会は、日常生活において身体活動が著しく不足する傾向があり、さまざまな生活習慣病の発症を助長している。そのため、子どもから高齢者に至るすべての年齢階層において、意識的に運動・スポーツを組み込んだライフスタイルの構築が必要である。そこで、全15回の講義を通して、運動・スポーツの生理学的基礎理論の理解を踏まえて、全生涯にわたっての運動・スポーツを取り入れた生活が、健康の保持・増進にとっていかに重要であるかを理解し、自発的、積極的な運動・スポーツ実践や運動・スポーツ指導につながることを目標とする。

### 履修上の留意点

「身体福祉論('07)－身体運動と健康－」を学んでおくと、本講義の理解が容易になるので望ましい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	はじめに －健康の保持・増進 という視点から運動・ スポーツを科学する －	現代社会において、運動・スポーツが健康の保持・増進、生活習慣病予防のために重要であることを理解するために、人間の生活史について解説する。日本の健康づくりの沿革について解説する。  【キーワード】 運動不足病、生活習慣病、メタボリックシンドローム、運動基準2006、運動指針2006	樋口 満 (早稲田大学 スポーツ科学 学術院・教 授)	樋口 満 (早稲田大学 スポーツ科学 学術院・教 授)
2	運動・スポーツの生 理学(1) 呼吸・循環器系機能 と運動・スポーツ	呼吸・循環器系の構造と機能の理解を踏まえて、一過性運動時の喚気応答、心拍数、心拍出量、酸素摂取量の変化を理解する。そして、持久性トレーニングによる最大酸素摂取量の増加と持久性運動能力の向上について説明する。  【キーワード】 呼吸器系、循環器系、最大酸素摂取量、持久性トレーニング	宮地元彦 (独)国立健 康・栄養研究 所・プロジェ クトリーダー)	宮地元彦 (独)国立健 康・栄養研究 所・プロジェ クトリーダー)
3	運動・スポーツの生 理学(2) 神経・骨格筋系機能 と運動・スポーツ	神経系の構造と機能、脳の運動中枢、及び運動の発現と制御、運動が脳・神経系に及ぼす効果を解説する。骨格筋の構造と機能、骨格筋の力学的特性(筋線維特性)、及び運動トレーニングが骨格筋の構造と機能に及ぼす影響について解説する。  【キーワード】 脳・神経系、運動の発現と制御、骨格筋の力学的特性	福永哲夫 (鹿屋体育大 学・学長)	福永哲夫 (鹿屋体育大 学・学長)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	運動・スポーツの生理学(3) エネルギー代謝機能と運動・スポーツ	エアロビック、及びアネロビックな一過性運動時のエネルギー代謝と関連する栄養素の機能、及び運動時の各種ホルモン動態、さらに疲労の発現について解説する。また、トレーニングによるエネルギー基質の代謝的变化について解説する。 【キーワード】 エネルギー代謝、エネルギー源栄養素、運動時のホルモン動態	樋口 満 (早稲田大学 スポーツ科学 学術院・教授)	樋口 満 (早稲田大学 スポーツ科学 学術院・教授)
5	健康の保持・増進のための運動・スポーツの理論(1) トレーニング概論	トレーニングの理論とトレーニング条件(強度・頻度・期間)について概説するとともに、暑熱環境下におけるトレーニング時の水分補給の重要性について健康管理という視点から解説する。 【キーワード】 トレーニングの法則、トレーニング強度、トレーニング頻度、トレーニング期間、暑熱環境	福永哲夫 (鹿屋体育大 学・学長)	福永哲夫 (鹿屋体育大 学・学長)
6	健康の保持・増進のための運動・スポーツの理論(2) エアロビクトレーニング	持久性運動(エアロビックエクササイズ)の各種強度指標について解説する。各種エアロビクトレーニングによる最大酸素摂取量の変化とその要因について健康の保持・増進という視点から解説する。 【キーワード】 エアロビック運動、最大酸素摂取量、%V02max、METS(メッツ)	谷口有子 (国際武道大 学・教授)	谷口有子 (国際武道大 学・教授)
7	健康の保持・増進のための運動・スポーツの理論(3) レジスタンストレーニング	筋力と筋量増強に及ぼすレジスタンストレーニングの効果について、健康の保持・増進という視点から解説する。 【キーワード】 レジスタンス運動、筋パワー、筋持久力	福永哲夫 (鹿屋体育大 学・学長)	福永哲夫 (鹿屋体育大 学・学長)
8	運動プログラムの管理と運動負荷試験	運動プログラムを実施するに当たって必要なメディカルチェック、及び運動負荷試験と心電図モニタリングについて解説する。また、服薬者における運動プログラムについても解説する。 【キーワード】 運動プログラム、メディカルチェック、運動負荷試験、心電図モニタリング	坂本静男 (早稲田大学 スポーツ科学 学術院・教授)	坂本静男 (早稲田大学 スポーツ科学 学術院・教授)
9	健康の保持・増進と運動・スポーツ(1) 子どもの発育・発達と健康	少年期から思春期を経て青年期に至る身体の形態発育、及び機能発達と、それらに影響を及ぼす運動習慣と各種運動・スポーツの効果について、健全発達と健康管理という視点から解説する。 【キーワード】 発育、発達、暦年齢、生理学的年齢	谷口有子 (国際武道大 学・教授)	谷口有子 (国際武道大 学・教授)
10	健康の保持・増進と運動・スポーツ(2) 女性の健康と性ホルモンの影響	女性の身体的特徴とその加齢変化について、女性ホルモンの役割と関連させて概説する。そして、女性の健康・体力と、それに影響を及ぼす運動・スポーツの効果について、食習慣とも関連させて解説する。 【キーワード】 女性の身体的特徴、女性の体力、性ホルモン	谷口有子 (国際武道大 学・教授)	谷口有子 (国際武道大 学・教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	生活習慣病予防と運動・スポーツ(1) 肥満・高脂血症	メタボリックシンドロームの概念と定義を概説し、その基礎疾患としての内臓脂肪型肥満、肥満判定について解説する。また、肥満、高脂血症の予防や運動療法について減量と関連づけて解説する。  【キーワード】 メタボリックシンドローム、内臓脂肪型肥満、高脂血症、減量	坂本静男 (早稲田大学 スポーツ科学 学術院・教授)	坂本静男 (早稲田大学 スポーツ科学 学術院・教授)
12	生活習慣病予防と運動・スポーツ(2) 高血圧症・動脈硬化	高血圧症、動脈硬化の発症メカニズムとそれらの運動による予防と運動療法について解説する。  【キーワード】 高血圧症、動脈硬化	宮地元彦 ( (独) 国立健康・栄養研究所・プロジェクトリーダー)	宮地元彦 ( (独) 国立健康・栄養研究所・プロジェクトリーダー)
13	生活習慣病予防と運動・スポーツ(3) 糖尿病	糖尿病の定義と分類、および2型糖尿病の発症メカニズムについて概説する。一過性運動時の糖代謝の変化、及び持久性トレーニングによる糖代謝機能改善効果について解説する。  【キーワード】 糖尿病、血糖値、インスリン、GLUT4	樋口 満 (早稲田大学 スポーツ科学 学術院・教授)	樋口 満 (早稲田大学 スポーツ科学 学術院・教授)
14	生活習慣病に対する適切な運動療法	生活習慣病に対する適切な運動療法について、各種有症患者に対する注意点と運動処方の実際について解説する。  【キーワード】 生活習慣病の有症患者、運動処方、運動療法	坂本静男 (早稲田大学 スポーツ科学 学術院・教授)	坂本静男 (早稲田大学 スポーツ科学 学術院・教授)
15	老化防止・介護予防と運動・スポーツ	高齢社会における介護予防、QOL向上という視点から、高齢者に対する運動・スポーツの有効性について解説する。また、その社会・経済的効果について解説する。  【キーワード】 高齢社会、老化防止、介護予防、QOL	宮地元彦 ( (独) 国立健康・栄養研究所・プロジェクトリーダー)	宮地元彦 ( (独) 国立健康・栄養研究所・プロジェクトリーダー)

# ＝ 福祉政策 I ( ' 0 6 ) ＝ ( R )

－福祉政策の形成と実施－

〔主任講師(現職名)：大森 彌 (東京大学名誉教授)〕

〔主任講師(現職名)：松村 祥子(放送大学教授)〕

## 全体のねらい

この講義でいう福祉政策は、主として、政府活動のうち人々の安心と社会の安定に結びついていく政策の束を指している。人々は、しばしば、福祉政策の適否や有効性によって政府自体へ支持を与えるかどうかを判断する。その意味で、福祉政策は、政府の存在と活動の正統性にかかわる重要性をもっている。しかし、安心と安定に寄与する政策の展開には個人、家族、団体、地域、中央と地方の政府などさまざまな活動主体の間で、資源の動員と連携・協働が不可欠である。したがって、福祉政策の制度の変更や設計にも具体的な施策・事業の実施にも、多くの活動主体が参加し、その過程は開かれたものにならざるをえない。本講義は、現代日本に焦点をあて、その全容の解説を試みる。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	福祉政策の体系	「年金、医療、福祉等」の再編が目指されているが、どんな方向と方法によって、現代日本人の生活不安が緩和され、生活問題が解決されるのだろうか。この回では、この講義で扱う「児童・高齢者・障害者福祉及び所得保障、地域福祉等の福祉政策」が社会保障の中でどのような位置を占めているのかを明らかにする。また福祉政策を実効性のあるものにするためにはどんな体系が必要かについて検討する。	松村 祥子 (放送大学教授)	大森 彌 (東京大学名誉教授)  松村 祥子 (放送大学教授)
2	現代生活の課題に 応える福祉政策とは	長寿化、男女共同参画、流動化する雇用環境への対応は、21世紀のわが国の福祉政策にとっての試金石といえるだろう。変動する経済社会条件の中で、個人、家族の生活困難のどの部分をどの程度、社会的責任とするのか。また、福祉政策の形成と実施にあたって、行政、事業者、利用者それぞれの役割と相互関係の位置づけ等が明らかにされなければならない。この回では、「個人の生活の質」と「社会の生活の質」の両立を目指す福祉政策の展開について検討したい。	松村 祥子 (放送大学教授)	大森 彌 (東京大学名誉教授)  松村 祥子 (放送大学教授)
3	公共政策としての 福祉政策	政府が、何を目標に、誰を対象とし、いかなる財とサービスを、誰の負担で、いかに供給するかは、人々の暮らしの安心を保障し、社会の安定に影響すると同時に、政府への信頼と支持の基礎ともなる重要性を持っている。こうした観点から、個人・家族、地域、政府間(国・地方)関係、国際社会の変化も視座に入れながら、公共政策としての福祉政策の特色を浮き彫りにする。	大森 彌 (東京大学名誉教授)	大森 彌 (東京大学名誉教授)  松村 祥子 (放送大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	福祉政策の制度設計	福祉政策は、憲法・法律・条例などの制度的枠組みの中で展開されている。制度は福祉政策の目標・内容とともにその達成のために人々がとりうる行動の仕方を枠付けている。それが時代と社会の変化の中で桎梏となれば新たな制度設計が問題となる。この制度設計と政策革新をめぐる理論（「ごみ箱モデル」や「政策の窓」）とその政治過程（福祉構造改革・分権改革など）の特色を解説する。	大森 彌 (東京大学 名誉教授)	大森 彌 (東京大学 名誉教授)  松村 祥子 (放送大学 教授)
5	福祉政策のプロセス	福祉政策は、福祉分野における課題発見・調査分析・企画立案・決定・実施・評価という政策過程の中で捉えることができる。これらの段階ごとにアクターの顔ぶれと関係は変わるが、そこには「政策共同体」のような一定の構造もみられる。アクター（「人」）の資質や能力、動員される資源、駆使される手法、現場・地域・第一線職員の役割、政策情報と参画などにも言及し、このプロセスの特色と問題点を解説する。	大森 彌 (東京大学 名誉教授)	大森 彌 (東京大学 名誉教授)  松村 祥子 (放送大学 教授)
6	福祉の法律と政治	社会福祉政策を実施していく際に根拠とされる福祉法には、社会福祉の組織に関する法、社会福祉サービスに関する法、財政に関する法、権利救済に関する法等がある。また、現在では、社会福祉の範囲が広がり、隣接する領域も各方面にわたっている。したがって、福祉という名を冠することのない法律もきわめて重要な福祉関連法となっている。福祉改革のなかで、どのような法制がつくられているのか。その内容と意味を検討する。 社会福祉政策を形成し実施するプロセスでは、政治が大きな影響力をもっている。行政等により立案された政策を論議決定するだけでなく、政党による政党立案も、政治のなかで行われている。福祉をめぐる政治の今日的状況は一変した。その変化と問題点を示す。	栃本一三郎 (上智大学 教授)	栃本一三郎 (上智大学 教授)
7	福祉の供給体制	社会福祉の供給体制の骨格を構成する福祉行政といえば、中央政府をピラミッドの頂点とする行政組織があり、それを通じて公費の配分を行うというとならえ方が、わが国では一般的であった。しかし市民の自由な活動を特色とする NPO や企業などの参入による民営化や地方分権化のなかで、供給多元化の条件整備と新たな自己規律をどう形成していくのが、大きな政策課題になっている。	栃本一三郎 (上智大学 教授)	栃本一三郎 (上智大学 教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
8	福祉の資源 —財源と人材そ して福祉実践の マネジメント—	福祉政策に関する国、都道府県及び市町村の関係が変化の中で、それぞれの立場の責任と活動内容の再編が進んでいる。特に人口構造や経済環境の変化に対応するためにどのように社会福祉の財源や人材の質量を確保するかが大きな課題となっている。と同時にそのような人材を生かす、さらにはそのような人材が提供するサービスをどのように提供するのかそのマネジメントが福祉政策では欠かせない領域となってきた。その意味で人材とともに福祉実践のマネジメントについても論じる	栃本一三郎 (上智大学 教授)	栃本一三郎 (上智大学 教授)
9	児童家庭福祉政 策	児童家庭福祉の制度と政策を考察する際には、次のことを検討する必要がある。それは、「個人-家族-国家の三者の関係」や、「家族の自律と国家の介入のバランス」の問題である。また、具体的な制度設計に際しては、所得保障政策や労働市場政策との連携についても視野に入れなくてはならない。これらのことを念頭において、少子高齢社会における児童家庭福祉の制度と政策のあり方について考察を行う。	増田幸弘 (日本女子 大学准教授)	増田幸弘 (日本女子 大学准教授)
10	高齢者福祉政策	高齢者の福祉に関する施策といえば、介護保険を思い浮かべる人が多いであろう。しかし、高齢者の暮らしを支えるという点からみれば、生活費の原資となる老齢年金、医療を保障する老人保健も必要不可欠な施策である。この講義では、これらの施策を総合的に取扱う。そのうえで適切な高齢者福祉施策のあり方を考えていきたい。	倉田 聡 (元北海道 大学教授)	倉田 聡 (元北海道 大学教授)
11	障害者福祉政策	障害者福祉の領域では、平成 15 年度から支援費制度が施行された。これによって、障害者福祉の実践活動がどのように変容しつつあるのか、そしてこれから障害者福祉施策はどのような方向に進んでいくのかを考えていく。より具体的な実践事例を念頭におきながら、施策の方向性を占うような講義を予定している。	倉田 聡 (元北海道 大学教授)	倉田 聡 (元北海道 大学教授)
12	所得保障政策	所得保障の制度と政策を考察する際には、その保障方法や保障水準に関する理論と現状について検討する必要がある。同時に、次の点についても視野に入れる必要がある。それは、所得保障政策と労働市場政策との連携、民間保険（私的保険）の活用等である。これらのことを念頭において、少子高齢社会における所得保障の制度と政策のあり方について考察を行なう。	増田幸弘 (日本女子 大学准教授)	増田幸弘 (日本女子 大学准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
13	地域福祉政策と 地域社会の再構築	人々の生活の拠点である地域社会は、社会福祉の利用と供給の交差点でもある。 経済社会構造の変化の中で、家庭と職場の通過点となった地域社会を再編して新しい生活安定のネットワークを作らねばならない。 施設福祉と在宅福祉をつなぎ、公的福祉と民間福祉が協働する場としての地域のあり方と地域福祉政策の課題を示す。さらに地域包括経済の形成やソーシャルキャピタルと地域社会政策についても論じていく	栃本一三郎 (上智大学 教授)	栃本一三郎 (上智大学 教授)
14	リスクの拡大と 福祉政策	リスク・マネジメントの中でミクロの部分は、社会福祉施設等の運営管理の問題として、管理者や経営者の責任問題に直結するために、かなり論議され、対応策が検討されてきている。しかし、マクロのリスク・マネジメントにおいてはある程度予測可能な国内的な対応として政治・財政・制度の欠陥・破綻に対する対応が考察されているが、予測困難なリスクとして、自然災害や国際的なテロ・紛争などはクライシス・マネジメントとして困難な課題を抱えている。今日、こうしたリスクの拡大に対して福祉政策はいかなる備えをすべきであろうか。そこに「予防」という古くて新しい理念が登場する。	秋山智久 (昭和女子 大学大学院 教授)	秋山智久 (昭和女子 大学大学院 教授)
15	福祉政策研究の 方法	修士課程で、福祉政策研究をする為の基本的な手続として ① テーマの設定 ② 先行研究業績の精査・分析 ③ 資料の収集・分析 ④ 考察と課題の提示 ⑤ 論文の執筆がある。ここでは資料の入手と分析についての基礎的な方法を中心に、修士研究への取り組み方について解説する。	松村祥子 (放送大学 教授)	大森 彌 (東京大学 名誉教授)  松村祥子 (放送大学 教授)

## ＝ 福祉政策Ⅱ（'06）＝（R）

－福祉国家と福祉社会のゆくえ－

〔主任講師： 武川 正吾（東京大学大学院教授）〕

〔主任講師： 大曾根 寛（放送大学教授） 〕

### 全体のねらい

福祉政策Ⅱ（'06）では、福祉国家や福祉社会のあり方について、社会学、経済学、法学など社会科学の視点から考察する。福祉制度の内容を学習するというよりも、政治・経済・社会の構造的な変化を踏まえつつ、福祉政策の拠って立つ根拠、公共政策・経済政策・社会政策など他の政策との関連、国際社会における位置などを明らかにし、政策への客観的な分析を加え、福祉国家と福祉社会のゆくえを考えることとする。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	福祉政策とは何か	この回の講義では、「福祉」や「福祉政策」といった概念について検討する。特に、社会政策など関連する概念との関係を歴史的背景も踏まえながら論じつつ、公共政策や経済政策など既存の政策の大きな枠組みとの関係についても議論する。	武川 正吾 (東京大学大学院教授)	武川 正吾 (東京大学大学院教授)
2	福祉政策の範囲	この回の講義では、この科目で取り扱う範囲を明らかにする。福祉政策は最も広い意味では、雇用、所得保障、保健・医療、福祉サービス、住宅、教育、環境、まちづくりなどが含まれる。この科目では雇用・社会保障・住宅などが主な対象である。	同 上	同 上
3	人権と福祉政策	この回の講義では、福祉政策の根拠となる人権の概念とその体系性について検討する。日本国憲法上の根拠として、従来しばしば引き合いにだされてきた「生存権」だけでなく、「幸福追求権」や「平等権」「自由権」「社会権」と呼ばれる人権の類型との関係、さらにいわゆる「人格権」「健康権」などの新しい人権についても学習する。	大曾根 寛 (放送大学教授)	大曾根 寛 (放送大学教授)
4	立法の構造と動向	この回の講義では、社会福祉に関する国際的な条約・宣言と日本国憲法、法律、政令、条例など広義の立法が社会福祉の仕組みをどのように作り上げているのかを学習する。そのために法令の形式的な階層構造を学ぶだけではなく、関係する法令がいかなる社会的・経済的・政治的背景から登場してきたのかを理解する。	同 上	同 上
5	法と行政の実務	この回の講義では、法と行政の関係について議論する。最近の裁判事例を通して、福祉政策を具体的に担う行政機関がどのような責任を負っているのかを考察してみよう。裁判過程を分析することによって、市民と福祉施設、そして、行政機関の関係を見つめなおす契機となるだろう。	同 上	同 上
6	権利擁護システム	この回の講義では、当事者の権利を守る方策について学習する。従来は、行政機関の介入・指導によって解決されてきたことが多いように思われる。しかし、今後は、当事者の行政に対する権利だけでなく、当事者を取り巻く多様な関係者との権利義務の確認と実現が必要となるだろう。	同 上	同 上

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
7	必要と資源	この回の講義では、必要（ニード）と資源を結びつける福祉政策の役割について論ずる。福祉政策における必要の概念が、需要、行政需要などといった概念との関連で説明される。これらに、資源をどのように結合させるかが問題となる。	武川 正吾 (東京大学大学院教授)	武川 正吾 (東京大学大学院教授)
8	福祉政策の実施過程	この回の講義では、福祉政策の実施過程について検討する。選別主義と普遍主義など原理的な課題を考察しつつ、資源の分配過程・供給システムを多面的に明らかにする。そこでは専門職の役割も再検討されることとなるだろう。	三重野 卓 (山梨大学教授)	三重野 卓 (山梨大学教授)
9	政策評価とサービス評価	この回の講義では、福祉政策の評価について学習する。政策評価の視点、指標、方法、手段、情報公開、住民参加などを議論するとともに、具体的なサービスを提供する事業所のサービス評価の課題にも言及する。	同上	同上
10	分配的正義 ～福祉政策の根拠～	この回の講義では、分配的正義という観点から福祉政策をとらえ直す。正義論と厚生経済学の最近の動向を踏まえながら、所得や資産などの再分配のあり方やその根拠について検討する。これにより、福祉政策が政治哲学や経済思想と密接に関係していることを学習する。	後藤 玲子 (立命館大学教授)	後藤 玲子 (立命館大学教授)
11	ジェンダー・エクイティ	この回の講義では、福祉政策をジェンダーの視点から検討する。男女共同参画社会の推進が福祉政策にどのような影響を与えているのかを考察するとともに、今後を展望するうえで焦点となるアンペイドワークの配分状況や、ジェンダー・エクイティの考え方について解説する。	下夷 美幸 (法政大学准教授)	下夷 美幸 (法政大学准教授)
12	福祉国家と福祉社会	この回の講義では、福祉国家と福祉社会という概念について、歴史的背景を踏まえながら学習する。福祉国家の登場と変遷、福祉社会論の意義と展開を検討する。さらに福祉国家と福祉社会の関係にも論及する。	武川 正吾 (東京大学大学院教授)	武川 正吾 (東京大学大学院教授)
13	福祉レジームの考え方	この回の講義では、福祉多元主義について議論する。エスピン・アンデルセンなどに依拠しながら、福祉政策のいくつかのモデルを描き出す。国際比較の中で、日本の福祉政策について位置づけてみたい。	同上	同上
14	グローバル化と福祉政策	この回の講義では、1980年代から90年代にかけてのグローバル化が各国の福祉政策に与えた影響について検討する。資金、物資、人が国境を越えて移動するとともに企業も多国籍化していったボーダレス社会において福祉政策はどのように変貌してきたのかを振り返る。	同上	同上
15	福祉政策と学問	この回の講義では、これまでの学習を踏まえ、福祉政策について学問的なアプローチをすることはどういうことか、政策動向の解説でもなく、単なる実践の紹介でもなく、学問として福祉政策に取り組もうとするときの心構え、方法、課題などを検討する。政策実務や実践と学問とをどのようにしたら結びつけることができるかについても考える。	大曾根 寛 (放送大学教授)	武川 正吾 (東京大学大学院教授)  大曾根 寛 (放送大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8920508	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 人間発達論 ('09) = (R)

〔主任講師 (現職名) : 住田 正樹 (放送大学教授) 〕

〔主任講師 (現職名) : 田中 理絵 (山口大学准教授) 〕

### 講義概要

発達を人間の生涯にわたる変化の過程として捉え、その生涯過程を発達社会学の視点から考察していく。発達社会学の視点から人間の生涯過程を見ると、社会的役割の移行過程として捉えることができる。そしてその移行過程は、社会的役割の学習過程、社会的役割の遂行過程、社会的役割を喪失する喪失過程という3つの過程の段階に区分できる。社会的役割のなかでも特に主要な役割は職業的役割と家庭的役割であり、この2つの社会的役割を中心に考察を進めていく。

人間の発達過程のなかでも学習過程の段階がもっともドラマティックな変化を示す。そのため人間発達研究は学習過程の段階を中心に取り上げるのが、これまでの一般的な考察方法であった。しかし本講義では、遂行過程および喪失過程にも比重をおいて考察していく。

### 授業の目標

人間の発達過程が社会的・文化的条件によって規定されることはいうまでもない。人間の発達は、生物学的現象や心理学的現象だけではなく、社会学的現象でもある。本講義は、人間の発達過程を分析していくための発達社会学の基礎的概念と方法を学び、人間の発達現象が生起していく過程を考察していくための社会的視点を得ることを目的とする。

### 履修上の留意点

発達社会学は、人間の発達過程に対して社会的・文化的な文脈や環境がどのような影響を与えているのかを解明していく学問である。これに類似した学問に発達心理学(または生涯発達心理学)がある。発達心理学は年齢に伴う行動や心的機能の変化を研究する学問である。同じ人間の発達過程を対象にしても発達社会学と発達心理学ではアプローチも異なり、分析方法も異なり、分析の方向も異なる。だが、だからこそ多産的な学問的成果を産む。発達社会学と発達心理学とのアプローチの相違、分析方法や分析の方向の相違に留意しつつ人間の発達過程についての考察を深めていただきたい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
<b>第Ⅰ部 人間発達と社会的役割</b>				
1	人間の発達過程と役割移行過程 －発達社会学の視点から－	発達とは誕生から死に至る全生涯の変化をいう。この、生涯にわたる人間の発達過程を発達社会学の視点から見ると、発達社会学の視点から人間の生涯をみると社会的役割の移行過程、すなわち社会的役割の学習(役割学習準備期、役割学習期、役割猶予期)、社会的役割の遂行(役割遂行期)、社会的役割の喪失(役割喪失期)という過程として捉えることができる。社会的役割のなかでも職業的役割と家庭的役割はその中核である。  【キーワード】 発達、社会化 社会的役割、役割移行、発達社会学	住田 正樹 (放送大学教授)	住田 正樹 (放送大学教授)  田中 理絵 (山口大学准教授)
<b>第Ⅱ部 社会的役割の学習過程</b>				
2	言語の獲得と自我形成 －役割学習準備期－	言語の獲得と自我形成は人間発達の基盤であり、人間発達にとって最も重要な側面である。意識の未分化な状態で生まれてきた子どもは家族とのコミュニケーションを通して自他の区別を意識するようになり、次第に自分自身に気づき始める。それが言語を獲得するようになると明確に自他を区別するようになり、他者の観点から自分自身を対象化して認識し、自我を形成していく。  【キーワード】 言語の獲得、シンボル、自我形成、重要な他者、コミュニケーション	住田 正樹 (放送大学教授)	住田 正樹 (放送大学教授)  田中 理絵 (山口大学准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
3	社会的ネットワークの 形成と拡大 —役割学習期(I)—	<p>子どもは児童期にさしかかると、それまでの家族中心の人間関係は拡大し、新たなネットワークを形成していく。近隣の大人や、同年代の遊び仲間、教師や同級生などとの関係である。この新たなネットワークを通して、子どもはフォーマル、インフォーマルに社会化されていくが、特に遊び仲間は強い社会化の影響をもつ。こうした人々とのネットワークを通して子どもは自己を相対化していき、自己中心的な思考から脱却していく。</p> <p>【キーワード】 社会化 仲間集団、役割取得、一般化された他者</p>	田中 理絵 (山口大学准教授)	住田 正樹 (放送大学教授) 田中 理絵 (山口大学准教授)
4	性役割の分化 —役割学習期(II)—	<p>性別は、それぞれの社会の文化によって異なるけれども、いずれの社会にあっても最も基本的な区分である。だから性役割を学習し、性別にしたがった行動をとるようになっていくことは子どもの社会化にとって基本的で重要なこととなる。性役割獲得は両親、仲間、他の大人との関係を通して、またメディアを通してなされていく。そして性役割に結びついた性的行動の意味を学んでいく。</p> <p>【キーワード】 性の社会化、性役割の獲得、ジェンダー、アイデンティティ、隠れたカリキュラム</p>	田中 理絵 (山口大学准教授)	住田 正樹 (放送大学教授) 田中 理絵 (山口大学准教授)
5	自我覚醒と自己探索 —役割猶予期(I)—	<p>自身の将来や進路を模索する時期。そのために「自分とは何か」を問い、自省するようになる。自己を対象化して、自己を見つめるようになるわけである。そのためにそれまで安定的だった自我は揺れ動き、深刻な葛藤や不安に陥ることもあるが、しかしこうした過程を経て、新たな自己に気づき、自己を再構築していく。いわゆるアイデンティティの確立の問題である。</p> <p>【キーワード】 自我覚醒、自己探索 モラトリアム、アイデンティティ、</p>	田中 理絵 (山口大学准教授)	住田 正樹 (放送大学教授) 田中 理絵 (山口大学准教授)
6	職業と配偶者の選択 過程 —役割猶予期(II)—	<p>職業的役割と家庭的役割は社会的役割の中核をなすが、学校教育を修了すると青年は職業に就き、また配偶者を得て新たな家族を形成して、自立した生活を営む。そのための職業的役割の選択と配偶者の選択の試行の時期が、この段階である。分業が進み職業が多様化し、そしてまた私的交際の自由な現代において、職業と配偶者の選択はどのような社会的要因に規定され、どのような過程を経て決められていくだろうか。</p> <p>【キーワード】 職業的役割、家庭的役割、職業選択、職業アスピレーション、配偶者選択</p>	住田 正樹 (放送大学教授)	住田 正樹 (放送大学教授) 田中 理絵 (山口大学准教授)
第Ⅲ部 社会的役割の遂行過程				
7	職業キャリアの形成 —役割遂行期(I)—	<p>職業的役割を選択・決定し、実際にその職業に就いたとしても直ちに職業的役割を遂行できるわけではない。職業役割を遂行していくためには、その遂行に必要な知識や技術、価値観や行動様式を習得しなければならない。そのための準備と試行、初歩的職務の遂行といった職業キャリア形成の期間が必要である。と同時に、この期間はその職業が自分の適性に合っているかどうかを判定するための職業的役割遂行の試行期間でもある。</p> <p>【キーワード】 職業的社会的化、職業キャリア、職業集団、組織的社会的化</p>	住田 正樹 (放送大学教授)	住田 正樹 (放送大学教授) 田中 理絵 (山口大学准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
8	家族の形成と親役割 —役割遂行期(Ⅱ)—	<p>配偶者を得て結婚し、新たな家族(生殖家族)を形成すると、それまでの習慣的行動(定位家族における役割行動)を調整して、夫婦間で新たな行動パターンを形成することになる。夫婦間での役割配分である(新婚期)。その後、出産・育児によって親は親になったことを自覚し、親としての役割期待や役割義務について学び、親役割を形成していく(育児期=第一子の誕生から就学までの時期)。</p> <p>【キーワード】 定位家族、生殖家族、夫婦役割、親役割、家族の変容、育児支援</p>	田中 理絵 (山口大学准 教授)	住田 正樹 (放送大学教 授) 田中 理絵 (山口大学准 教授)
9	職業キャリア・パター ンの確立と安定 —役割遂行期(Ⅲ)—	<p>一定の職業に継続的に従事することによって、職業的役割を遂行していくための動機づけと行動パターンは明瞭になり、職業キャリア・パターンは確立し、安定化する。終身雇用・年功序列という日本型雇用慣行のもとで、これまでは多くの人たちは「会社人間」として働いてきた。しかしそのためにいろいろな問題も生じてきた。そして今職場環境が大きく変化して、人々の働き方も変化してきている。</p> <p>【キーワード】 集団帰属意識、日本型雇用慣行、会社人間、役割葛藤、職務ストレス</p>	住田 正樹 (放送大学教 授)	住田 正樹 (放送大学教 授) 田中 理絵 (山口大学准 教授)
10	家族の拡大と子ども の教育 —役割遂行期(Ⅳ)—	<p>第一子の就学、第二子の誕生となり、家族は拡大期に入る。親役割は育児から子どもの教育に移る。子どもの教育を巡ってさまざまな問題が生じ、親は何かと気を揉み、不安に陥る時期である。いじめ、不登校、非行、進学の問題など。また、子どもの教育費をはじめ経済的負担が増す時期でもあり、育児負担が減って時間的余裕が生まれた母親の再就職も増える。一方、父親の仕事は充実・多忙化する時期で、父親不在となることも多い。</p> <p>【キーワード】 親役割、青少年問題、父親不在、ワーク・ライフ・バランス</p>	田中 理絵 (山口大学准 教授)	住田 正樹 (放送大学教 授) 田中 理絵 (山口大学准 教授)
11	多様な女性の生き方 —役割遂行期(Ⅴ)—	<p>かつての女性の生き方は、伝統的な性別役割意識に支えられ、固定的・画一的だった。現在、こうした性別役割意識は次第に薄れ、女性の生き方の選択肢は大幅に増加した。しかしその一方で、性役割は明確な社会規範としてなおも存在し、女性のライフスタイルは錯綜している。少子化などの問題とも関連が指摘される女性の生き方の多様化とはどのような事態なのか。</p> <p>【キーワード】 女性のライフサイクルの変容、性別役割分業、性役割の錯綜</p>	田中 理絵 (山口大学准 教授)	住田 正樹 (放送大学教 授) 田中 理絵 (山口大学准 教授)
第Ⅳ部 社会的役割の喪失過程				
12	職業役割の喪失 —役割喪失期(Ⅰ)—	<p>仕事から引退し、職業役割を喪失する時期。したがって労働時間は短くなり、経済的報酬は減少し、職業的役割に結びつく人間関係は希薄となる。また子どもも独立し、脱親役割期(post-parental period)でもあるから、家庭的役割についても夫婦関係に限られ、したがって夫婦関係の繋がりが強まっていく。しかし定年に対する多くの高齢者のイメージはこれまでとは異なり、アクティブなイメージへと変わってきている。</p> <p>【キーワード】 定年退職、引退過程、代替的役割、社会活動、伴侶性</p>	住田 正樹 (放送大学教 授)	住田 正樹 (放送大学教 授) 田中 理絵 (山口大学准 教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
13	高齢者の社会参加と 生きがい －役割喪失期(Ⅱ)－	<p>全ての仕事から引退して職業生活から離脱する。だが職業は社会的地位を決定する主要な要因であるだけに、その代替的役割が不在であれば、孤独感を感じるようになる。だが、多くの高齢者は職業的役割の代替的役割として地域の社会活動に参加し、その活動を生きがいとして、アクティブな生活を送っている。社会的責任が減り、個人的自由が増大して自分の望むことが可能な時代である。高齢者はどのような生活を望み、どのように生活しているか。</p> <p>【キーワード】</p> <p>離脱理論と活動理論、代替的役割、社会参加、生きがい</p>	住田 正樹 (放送大学教授)	住田 正樹 (放送大学教授)  田中 理絵 (山口大学准教授)
14	高齢化と病気・死 －役割喪失期(Ⅲ)－	<p>人間も生物有機体である限り、確実に衰退し、老衰の道を進む。罹患率も高くなる。高齢化による罹患はそのまま死を迎えることを意味する。それまで所属していた集団からは離脱せざるを得ず、また配偶者の病気・死によって最も親密な関係にあった夫婦関係も消滅する。こうした社会的繋がり喪失は孤独をもたらすことにもなる。やがて避けることのできない死に向かう。高齢者は死をどのように受け入れるのか。</p> <p>【キーワード】</p> <p>老化、孤独感と不安感、病気、生活習慣病、死ぬ過程</p>	住田 正樹 (放送大学教授)	住田 正樹 (放送大学教授)  田中 理絵 (山口大学准教授)
第Ⅴ部 人間発達研究の課題				
15	人間発達研究の課題	<p>これまでの発達研究は、人間の誕生から成人期に至るまでの時期を中心に進められてきた。この時期が最もドラマチックに変化する期間だからである。だが、発達とは人間の生涯にわたる継続的な過程である。成人期に至るまでの過程で形成された特性が成人期以降もそのまま保持されるとは限らない。発達概念および発達研究の方法が再検討されなければならない。</p> <p>【キーワード】</p> <p>生涯発達、社会的役割、役割移行過程、縦断的方法</p>	住田 正樹 (放送大学教授)	住田 正樹 (放送大学教授)  田中 理絵 (山口大学准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	平成20年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8940282	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 教育経営論 (' 08) = (R)

[主任講師 (現職名) : 小川 正人 (放送大学教授) ]

[主任講師 (現職名) : 勝野 正章 (東京大学大学院准教授) ]

### 講義概要

現在、日本では教育改革が進行中であるが、今日の改革が従来と大きく異なるのは、国の教育行政から学校単位の経営に至るまであらゆるレベルで問題が生起し、それらに対応した改革が同時進行的に取り組まれている点である。講義では、国、自治体、学校の各段階における教育システムの現状と問題、改革の論議・動向等を概観し、これからの教育システムの改革と経営・運営上の課題を考える。現在の教育システムとそれが直面する諸問題、そして、それらに対する対応策＝政策課題について、教育の経営・管理という観点から学習することを目的とした科目である。

### 授業の目標

全15回の講義を通じて、国、自治体、学校の教育システムの実情と問題、改革の動向と政策課題を理解できるようにすることを目指す。受講対象者としては、現職教職員、教育管理職、教育行政職等を想定した講義内容であるが、教育改革に関心をもつ保護者、市民等の学習者にとっても広く日本の教育システムと経営・管理の問題、課題を学べるものとした。放送教材では、国、自治体の教育政策・行政の担当者や学校関係者等からの取材等も多く取り入れるなど具体的な事例を通して学べるものとした。

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	転換期の教育経営	本講義の総論として、本講義全体で考えていきたいことを明らかにするために、教育経営をめぐる近年の行政環境の変容と教育政策の変化を考える。  【キーワード】 教育経営、教育政策	小川 正人	小川 正人 勝野 正章
2	国の教育行政機関と教育政策過程	旧来の国の教育行政組織と教育政策決定過程の構造や特徴を概観したうえで、2000年以降の中央省庁再編によってそれがどのように改革され変化したのかを解説する  【キーワード】 教育行政、文部科学省、与党、内閣府	小川 正人	小川 正人
3	地方分権改革による国と地方自治体関係の変化	2000年地方自治法大改正に結実した地方分権改革により、文部科学省と地方自治体・教育委員会の教育行政関係がどのように変化したのかを学ぶ。  【キーワード】 地方分権、地方自治法、地方自治体、中央地方関係	小川 正人	小川 正人
4	国の教育経営手法の変化と自治体教育経営の課題	2000年以降の中央省庁再編と地方分権改革等によって国・文部科学省の教育経営手法がどのように変化してきているのか、それら変化の下で自治体の教育経営はいかなる課題を担うことを期待されているのかを考える  【キーワード】 教育経営手法、出口(成果・結果)管理、評価	小川 正人	小川 正人

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
5	自治体教育経営と教育委員会改革	自治体教育経営の要とされる教育委員会制度に対して、近年、廃止を含めた見直しの論議が浮上しているが、それら改廃論議を吟味しながら教育委員会制度の改革方策と可能性を考える  【キーワード】 教育委員会制度、教育委員会改革、地方教育行政法	小川 正人	小川 正人
6	公立学校改革の動向と課題	今日、学校選択やコミュニティ・スクール、学校評価等、多様な手法による公立学校改革が進行中であるが、その改革の社会経済的背景と考えながら、公立学校改革の争点と課題を探る。  【キーワード】 公立学校、学校選択制、学校参加	小川 正人	小川 正人
7	教員給与改革の動向と課題	教育問題は教員問題といわれるが、学校組織・経営や教員人事管理の見直し政策の要として現在進行中の教員給与改革の動向と課題を考える  【キーワード】 教員の処遇、人材確保法、教職調整額、超過勤務	小川 正人	小川 正人
8	学校経営と社会的環境の変化	今日の学校経営をめぐる社会的環境の変化は著しいものがある。それらを概観しながら、今日の学校経営に求められている改革について考える。  【キーワード】 グローバル経済、新経営主義、格差社会	勝野 正章	勝野 正章
9	学校経営をめぐる政策動向	学校経営は競争的環境のなかで自主性・自律性を発揮し、教育効果をあげることを求められるようになってきている。こうした政策・制度的動向について、主要な政策提言などを参照しながら検討する。  【キーワード】 公教育の機能不全、教育の市場化、学校の自主性・自律性	勝野 正章	勝野 正章
10	学校の組織と文化	学校は合理性が重視される官僚制組織という側面とともに、価値・規範や感情などによって構築される文化的組織という両面性を持っている。学校経営の基礎理論として、この両面性について考える。  【キーワード】 システム論的組織観、緩やかな結合	勝野 正章	勝野 正章
11	学校リーダーシップ論	自律的な学校経営が求められるようになるにつれて、リーダーシップに対する注目が強まっている。学校の教育力を高めるために求められるリーダーシップのとはどのようなものか、スクールリーダー養成・研修をめぐる最近の動向も参考にしながら考える。  【キーワード】 教授的リーダーシップ、変革的リーダーシップ、民主主義とリーダーシップ	勝野 正章	勝野 正章

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
12	学校評価と学校改善	<p>教育活動についての説明責任を果たすことと、組織の活性化を目的とする学校評価の重要性が強調されるようになってきている。学校改善という観点から、その現状と課題について検討する。</p> <p>【キーワード】 マネジメントサイクル、学校評価のマイクロ・ポリシー、学校改善</p>	勝野 正章	勝野 正章
13	教員の評価と専門職としての成長	<p>従来の勤務評定に代わる新たな教員評価の一つの特徴は力量向上を明確な目的として掲げている点にある。教員評価は専門職としての成長にどのように貢献しうるのかを国内外の研究を参考にしながら考える。</p> <p>【キーワード】 人的資源経営、教員評価の職能成長モデル、目標管理</p>	勝野 正章	勝野 正章
14	学校財務経営と学校職員	<p>学校の自立的経営を支える財政的側面に注目して、裁量予算の拡大などの動向を検討する。あわせて、学校事務職員など教員以外の職員に関する政策・制度改革の動向についても検討する。</p> <p>【キーワード】 学校裁量予算、家庭の教育費負担、学校職員</p>	勝野 正章	勝野 正章
15	開かれた学校づくり	<p>今日、開かれた学校づくりの名のもとに地域住民・保護者によるクラブ活動や授業に対する協力から学校経営への参加まで多様な実践が取り組まれている。ソーシャル・キャピタル(社会関係資本)という理論的視点を参照しながら、このような実践の課題と可能性について考える。</p> <p>【キーワード】 学校参加、パートナーシップ、社会関係資本</p>	勝野 正章	勝野 正章

事務局 記載欄	開設 年度	平成 19 年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8940231	履修 制限	有	単位 数	2
------------	----------	----------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 学校システム論 ( ' 0 7 ) = (TV)

[ 主 任 講 師 (現職名) : 竹内 洋 (関西大学教授) ]

#### 講義概要

「学校」という言葉も実態もいまのわれわれには自明視されている。しかし、学校は人類の歴史のある段階で発明された人工装置である。学校という人間形成装置が社会の変化のなかでどのように変貌してきたのか、そしていまなにゆえ学校の秩序の揺らぎが問題化されるのであろうかを講義する。

#### 授業の目標

文明としての学校の可能性と問題を浮かびあがらせ、これからの学校像を描きたい。

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	学校が輝いたとき	敗戦後、日本人は教育の拡大によって悲惨と不幸の脱出を願った。新潟県佐渡島両津町（現、佐渡市）を事例としながら戦後の貧困のなかから新制高等学校創設に立ち上がった人々の希望と努力の跡をふりかえる。	竹内 洋 (関西大学 教授)	竹内 洋 (関西大学 教授)
2	高度成長・教育 拡大・大衆勉強 社会	1955年から73年までは、年平均10%以上の経済成長がつづいた。日本社会は急激に豊かになり、多くの人々が義務教育以上の高等学校そして大学に進学できるようになった。こうして生じた教育拡大のメカニズムについて考える。	竹内 洋 (関西大学 教授)	竹内 洋 (関西大学 教授)
3	大衆受験社会の 誕生と衰退	教育拡大は、大衆勉強社会と大衆受験社会をもたらした。過熱した大衆受験社会の隠れたカリキュラムについて考えるとともに、少子化による近年の受験圧力の低下がどのような学校に入学するのかではなく、なにを学ぶのかの学校の力の重要性を立ち上げていることを探る。	竹内 洋 (関西大学 教授)	竹内 洋 (関西大学 教授)
4	教育問題の変 貌：学校外部か ら学校内部へ	1970年前後までは、学校は希望の場として内部が問われることはなく、教育問題は、学校をとりまく、外部（社会）におかれた。しかし、しだいに学校そのものが教育問題の場としてまなざしをそそがれるようになる。このような教育問題のまなざしの変化とその背景について考える。	竹内 洋 (関西大学 教授)	竹内 洋 (関西大学 教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
5	学校への疑惑； 脱学校論と社会的再生産理論	学校という装置そのものへの疑惑理論の代表的なものは、学校は自発的学びを衰弱させるとする「脱学校論」（イヴァン・イリッチ）と学校は社会の階級構造を再生産するという「社会的再生産理論」であるが、これらの理論について検討する。	竹内 洋 (関西大学 教授)	竹内 洋 (関西大学 教授)
6	葛藤の場としての学校：『坊ちゃん』と夏目漱石	学校組織のモデルには教師や生徒の統合された配置がなされており、学校内の逸脱や葛藤を従とする機能モデルと学校組織の本質は内部に矛盾をかかえた葛藤のほうの主であるとする葛藤モデルとがある。夏目漱石の「坊ちゃん」などを題材にしながら、学校を考える視角について講述する。	竹内 洋 (関西大学 教授)	竹内 洋 (関西大学 教授)
7	パブリック・スクールというノスタルジア(1)	英国のパブリック・スクールについては全人教育がなされる学校の理想として多くの国々でモデルとされてきた。なにゆえパブリック・スクールが学校の模範とされたかを、パブリック・スクールの誕生と展開のなかで探る。	竹内 洋 (関西大学 教授)	竹内 洋 (関西大学 教授)
8	パブリック・スクールというノスタルジア(2)	前回の続きを講述し、さらに変化の激しい現代社会のなかで学校の模範とされたパブリック・スクールはどのようにして伝統を守り、21世紀に適応しているのか。教育における保守と革新について考える。	竹内 洋 (関西大学 教授)	竹内 洋 (関西大学 教授)
9	反抗少年トニー・ブレアとパブリック・スクール	英国のブレア首相はパブリック・スクール、フェテス校出身である。規律の厳しいパブリック・スクールの中での苦悩と反抗の青春がたくましい人間形成につながったことを、ブレア首相を教えたフェテス校教師のインタビューなどを通じて、考える。	竹内 洋 (関西大学 教授)	竹内 洋 (関西大学 教授)
10	プレイ・バック 旧制高等学校 (1)：旧制高等学校とは	戦前日本には、パブリック・スクールに対応したエリート学校としての旧制高等学校があった。旧制高等学校もよき学校のモデルとされている。旧制高等学校の誕生と展開を探る。	竹内 洋 (関西大学 教授)	竹内 洋 (関西大学 教授)
11	プレイ・バック 旧制高等学校 (2)：社会移動か社会的再生産か	パブリック・スクールとの比較もまじえながら旧制高等学校教育の功罪について考える。	竹内 洋 (関西大学 教授)	竹内 洋 (関西大学 教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
12	プレイ・バック 旧制高等学校 (3) : 教養主義という学生文化	旧制高等学校は、教養主義のメッカだったといわれる。教養主義という学生文化はどのようなものであったか。教養主義の現代的意味はなにかなどについて考える。	竹内 洋 (関西大学 教授)	竹内 洋 (関西大学 教授)
13	教育問題の考え方：実証主義的アプローチと解釈主義的アプローチ	教育問題の考え方を実証主義的アプローチと解釈主義的アプローチのちがいで切り口がちがってくることを説明する。登校拒否やいじめ問題を例にして講術する。	竹内 洋 (関西大学 教授)	竹内 洋 (関西大学 教授)
14	PISAショック	PISAの学力テストでフィンランドは世界一だった。しかし、フィンランドの生徒の学校外学習時間が特に多いというわけではない。フィンランドの学校を訪ねながら、どのようにしてこのような成果を挙げているか学校力や教師力の成功についてみる。	竹内 洋 (関西大学 教授)	竹内 洋 (関西大学 教授)
15	教育への信頼： 伝統の創造力	学校と教育、学びの意味について総括的に考える。	竹内 洋 (関西大学 教授)	竹内 洋 (関西大学 教授)

# ＝ 教育課程編成論（‘06）＝（R）

－学校は何を学ぶところか－

〔主任講師（現職名）： 安彦 忠彦（早稲田大学教授）〕

## 全体のねらい

副題に「学校は何を学ぶところか」とあるように、学校教育の独自性について、その明確な理解を得ることを目的とする。とくにそれについて、「教育課程」がどうつくられているのか、を詳しく見ていくことにより、その独自の性格を理解し、その限界や問題点をも認識することをめざす。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	教育課程とカリキュラムと教育内容	「教育課程」という用語は、あまり普通の人には聞きなれないものと言ってよい。また学界では「カリキュラム」という専門用語が使われる。加えて「教育内容」という用語も、一般的に使われている。本講義全体に使われる重要語句なので、まずその意味の異同・関連について明確にする。	安彦 忠彦 (早稲田大学教授)	安彦 忠彦 (早稲田大学教授)
2	日本の学校の教育目標と教育課程	理論的な検討をする前に、日本の学校の「教育目標」と「教育課程」の実際について、その基本的な内容の範囲と性格を理解しておくことにする。「教育課程」とは学校にしかないものであり、計画レベルのものであり、だからこそ当該の学校の教師にしか作れないものであることを明確にする。	同上	同上
3	教育課程の構成要素：内部要素と外部要因	教育課程を「編成」ということは、何をどうすることなのかについて、「構成」や「開発」の一部としての「編成」という観点から、教育課程の構成要素を明らかにし、それを内部要素と外部要因に分け、それぞれをどういう関係で組み合わせればよいのかについて検討する。	同上	同上
4	教育内容の組織化と人格・学力との関係	教育内容は学校の教育目標に従って組織化される。それによって具体化する教育課程は「人格」と「学力」の両方を形成するよう期待されている。ではその両方は、教育内容をどのような比重や関係づけによって組織化すればよいのか、現状を踏まえて吟味する。	同上	同上

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
5	教育内容としての学校知：理論知と体験知	教育内容は、教育課程を通して「学校知」として教えられる。それは基本的に「理論知」であり「学問知」である。しかし、問題とされているのは、それが子どもの日常の「体験知」と結びつかず、所期の教育的効果を挙げていない、という点である。学校はこの問題をどう解決すればよいのかを考える。	安彦 忠彦 (早稲田大学教授)	安彦 忠彦 (早稲田大学教授)
6	教育内容選択の基礎原理：存在論的基礎	教育課程編成の際、その内容範囲をどこまで含むものにするのかについて、とりあえず一定の哲学的・思想的立場を決めねばならない。一回目は、どんな内容を選んで教えるのかの基準について、その哲学的・思想的立場の相違がどのように具体的な教育課程の相違となって表れるかを検討する。	同上	同上
7	教育内容組織の基礎原理：認識論的基礎	教育課程編成の際、その中身である教育内容を、子どもがどのような学習を通して身に付けていくか、その認識形成の様相を広い視野から考えておく必要がある。二回目は、人間の認識が一通りではなく複数あると考えて、その違いによって教育課程がどのように違ってくるかを考察する。	同上	同上
8	教育内容構成における三本柱と四本目	教育内容の背後には、伝統的に「学問的要請」「社会的要請」「心理的要請」の三つが欠かせない柱としてあるとされてきた。近年、環境・国際・情報・福祉・平和などの現代的・今日的課題への対応を図るため「人間的要請」とも言うべき、先の三本柱を貫く重要な内容を含める必要に迫られている。	同上	同上
9	教育課程編成における学問的要請の吟味	教育課程編成で最も古典的な教育内容は「学問的要請」による「教科・科目」である。その中核は「哲学」「文学」「言語学」「自然科学」「社会科学」であり、付随して「音楽」「や」「美術」などの芸術分野がある。現在では、その中身が「学び方」の方に大きく移ってきていることに注目する。	同上	同上
10	教育課程編成における社会的要請の吟味	教育課程編成上、歴史的に見て最も興味深いのが「社会的要請」による「教科・科目」や「領域」である。その特徴は、時代の政治的・社会的変化により、教育課程の中に、政治的要請や経済的要請ないし職業的要請から準備教育的な意味をもつ内容が導入されてきた点である。その変容と特質を探る。	同上	同上

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	教育課程における潜在的部分の吟味	最近の教育課程研究で注目されているのが「潜在的カリキュラム」と呼ばれるものである。それは主として社会的要因に結びつくもので、種々の面での差別、階層の固定化と再生産、学力格差による不平等の拡大などの問題が取り上げられる。現在、この点の「分析」は「編成」上も不可欠である。	安彦 忠彦 (早稲田大学教授)	安彦 忠彦 (早稲田大学教授)
12	教育課程編成における心理的要請の吟味	教育課程編成で、学習者が子どもである場合、その生理的・心理的発達や興味・関心などの状況を可能な限り把握し、個々の子どもに即した効果的な学習が展開できるように工夫しなければならない。最近の脳科学などの研究成果などを踏まえながら、編成上の位置づけを吟味する。	同上	同上
13	教育課程における個性の位置づけの吟味	教育課程編成における「個と集団」の問題は古典的なものの一つであろう。それを「個性」及び「個人差」の観点から検討し、望ましい個と集団の関係がどのような特質をもち、それをどのように実現すればよいかについて、集団のもつ教育上の長所・短所を明確にしながらか吟味する。	同上	同上
14	教育課程の類型：古典的類型からハイブリッド・モデルへ	教育課程をどういうデザインのものに編成するかは、教師のデザイナー意識が必要である。これまでの類型を押さえ、最近の類型を知り、自分の学校ではどういうものにするかのデザインを決めることができなければならない。目的に応じて、これらの類型を修正したり、使い分けたりする視点を考える。	同上	同上
15	教育課程の経営と評価：デザイナーとしての教師・カリキュラムの一部としての教師	教育課程は常に改善・改良されて再編成されねばならない。子どもによってそれは絶えず評価される。教師はその意味で「カリキュラム・マネージャー」としての側面をもつとともに、その際、教師自身が潜在カリキュラムの一部として、学習の内容であり対象でもあることに留意することが必要である。	同上	同上

# ＝ 才能教育論（'06）＝ (TV)

## －身体活動能力の開発－

〔主任講師：宮下 充正（東京大学名誉教授）〕

〔主任講師：大築 立志（東京大学教授）〕

### 全体のねらい

才能教育論では、才能は遺伝的にどの程度決められているのか、そして、才能は教育を含めた環境的要因によってどの程度伸ばすことができるのか、という2つの問題解決がスタートであり、ゴールでもある。ところが、遺伝的要因と環境的要因とは相互に影響を及ぼし合うため、それぞれの効用については明確な結論が下せないまま推移してきた。本講義では、定量化しやすい身体活動能力の開発を中心として、才能教育のあり方を解説することにした。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	才能は教育できるか	才能とは、特異的な目的を達成させることにできる、遺伝的な要因が強く影響するが訓練すればそれだけ高度になる能力と定義する。そして、才能教育の目的は、それぞれの特異的な分野において優れた成果を生み出すことができるように能力の向上をうながすことである。	宮下 充正 (東京大学 名誉教授)	宮下 充正 (東京大学 名誉教授)
2	身体活動能力開発と神経系の可塑性	1000億個といわれる神経細胞は、動作の遂行という視点からみると、単純な機構の反射動作から、自動動作、随意動作へと成長とともに複雑な機構へ発達していくのがわかる。本章では、主として中枢神経系の働きを身体活動能力の開発という視点から解説する。	大築 立志 (東京大学 教授)	大築 立志 (東京大学 教授)
3	身体活動能力開発と筋骨格系の可塑性	人間は自分の意志を表現する際、しゃべる、書く、跳び上がるなど、適当な筋群を活動させる。筋肉の細胞については、遺伝的及び環境的要因によって、どのような違いがみられるかなど広範囲な研究が行われてきた。本章では、それらの研究成果を身体活動能力の開発という視点から紹介する。	八田 秀雄 (東京大学 准教授)	八田 秀雄 (東京大学 准教授)
4	身体活動能力開発と呼吸循環系の可塑性	人間を構成する細胞の生命保持のためのエネルギーは、エネルギー獲得代謝と呼ばれる体外から取り入れる栄養物質と酸素の反応によって得られる。このエネルギー獲得代謝の中核をなす呼吸循環系機能の可塑性について、身体活動能力の開発という視点から解説する。	八田 秀雄 (東京大学 准教授)	八田 秀雄 (東京大学 准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
5	記憶能力と計算能力	教育の原点は、記憶能力と計算能力を高めることにあるとされてきた。しかし、人間社会を構成する情報量の肥大化は、個人の記憶能力の限界を超えている。また、最近のコンピュータは人間の計算能力をはるかにしのいでいる。このような環境下での教育のあり方を、再考する。	伊 東 乾 (東京大学 准教授)	伊 東 乾 (東京大学 准教授)
6	作曲家と演奏家の相違	多くの人のところをとらえる新しい曲を作り出す能力と、作られた曲を聴衆が満足するように演奏する能力とは、どこに違いがあるのだろうか。著名な音楽家の誕生の背景と音楽教育の実態を参考にして、音についての才能教育を解説する。	伊 東 乾 (東京大学 准教授)	伊 東 乾 (東京大学 准教授)
7	偏差値に基づく能力評価の意味と限界	集団を構成する人々に、さまざまな課題を課して、その結果から構成員の序列を決める方法が広く行われている。序列は課題の内容と集団の特徴によって決まる。本章では、集団の構成員に序列をつける意義とその限界について論究したい。	渡 辺 哲 司 (九州大学 講師)	渡 辺 哲 司 (九州大学 講師)
8	身体活動能力とその発達に及ぼす遺伝的要因	身体活動を遂行する能力は、どの程度先天的に決定され、あるいは、どの程度後天的に開発可能なのだろうか。最近、分子遺伝学的研究、双生児法・発育発達学を組み合わせた研究などにより、新たな知見が蓄積されつつある。それらの成果を紹介、解説する。	渡 辺 哲 司 (九州大学 講師)	渡 辺 哲 司 (九州大学 講師)
9	絶対音感と学習可能性	音を聞き分ける能力を音感という。このうち絶対音感とは、音高を楽器などの助けを借りずに識別する能力で、幼児期に訓練しなければ身につけにくいといわれる。才能教育という視点から音感教育に言及したい。	伊 東 乾 (東京大学 准教授)	伊 東 乾 (東京大学 准教授)
10	からだを動かす能力の開発	腕や脚を伸ばす、寝返る、這う、歩く、走る、跳ぶ。これら自分のからだを動かす能力が身につく課程を観察し、自発的学習によるものなのか、他者による指導の影響を受けるものなのかを検討し、からだを動かす能力の開発について解説する。	平 野 裕 一 (国立スポーツ科学センター主任 研究員)	平 野 裕 一 (国立スポーツ科学センター主任 研究員)
11	用具をあつかう能力の開発	手に筆をもって絵を描く、字を書く、あるいは、手にもったボールを投げる、ラケットを振ってボールを打つ、といった能力の学習過程を観察し、運動指導の効率の高い至適年齢の存在を検討する。	平 野 裕 一 (国立スポーツ科学センター主任 研究員)	平 野 裕 一 (国立スポーツ科学センター主任 研究員)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
12	身体障害者の運動能力の開発	からだを動かす能力の一部が先天的あるいは後天的に失われた人たちが、適切な用具を使って、複雑な運動の遂行能力を高め、パラリンピックと呼ばれる競技会に出場している。そのような人たちの運動能力開発の可能性を検討する。	白井永男 (放送大学 准教授)	白井永男 (放送大学 准教授)
13	知的障害者の能力開発	学習困難、精神遅滞、その他、知的能力が低いと診断された人たちの中で、音楽、絵画などで優れた能力を表す人がいることは、よく知られている。そのような事例を取り上げ、知的障害者の特異的能力開発の可能性を検討したい。	大築立志 (東京大学 教授)	大築立志 (東京大学 教授)
14	成長と加齢にもなうパフォーマンスの変化	オリンピックがその国のスポーツ振興の機会となることは良く知られている。2008年開催予定の北京オリンピックに向けて、国家がどのようにエリートスポーツ選手の育成を図っているか紹介する。他方、マスターズ競技会が盛んになりトレーニングを実践して参加する中高年齢者が増加している。高齢者に残された運動能力の開発の可能性を検討する。	宮下充正 (東京大学 名誉教授)	宮下充正 (東京大学 名誉教授)
15	発達と個性を重んじた才能教育	1個の細胞から増殖し、複雑な組織体となって誕生した個人は、その遺伝的制約の範囲の中で、成長という時間と環境という刺激とによって影響されながらさまざまな身体活動能力は成熟していく。その課程で教育はどうあるべきか考えていきたい。	宮下充正 (東京大学 名誉教授)	宮下充正 (東京大学 名誉教授)

事務局 記載欄	開設 年度	平成 19 年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8940274	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	----------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 市民性形成論 ( ' 0 7 ) = ( R )

[ 主 任 講 師 (現職名) : 二宮 皓 (広島大学副学長) ]

### 講義概要

現代社会が価値観の多様化、社会の階層構造化、地球的広がりの中でのグローバル化、技術の先端化、揺らぎを見せる民主主義の問題など急激な変動に直面し、一人ひとりの市民の政治的社会化、とりわけシティズンシップと呼称される市民性形成をどのように推進・支援すべきかが社会政策・教育政策の重大な課題となっている。本講義では現代社会に投影される「市民性 (市民的資質)」を考え、諸外国における市民性形成論やそのシステム並びにプログラムを検証しながら、「21 世紀の市民性」形成のあり方を探る。

### 授業の目標

「市民性」概念を多面的に理解し、諸外国の市民性形成の歴史、システム及びプログラムを学び、21 世紀の社会に求められる「市民的資質」をどのように捉えることができるかその方法論を学び、わが国の市民性形成のあり方について各自の考え方を構築することを基本的な狙いとする。

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	市民性概念を探る	市民性 (Citizenship) について、「市民権」「国民」「公民」「エスニシティ」の問題と対比しながら、その概念を探り、いまなぜ市民性形成論なのかその意義を探り、21 世紀の市民性形成論の課題を検討する (講義と対談形式)。	二宮 皓 (広島大学副学長)	二宮 皓 (広島大学副学長)
2	市民性形成論 (1) — 民主主義的市民性形成論	民主主義的市民性 (Democratic Citizenship) の概念、政治的社会化理論の問題、民主主義的市民性形成論の展開、「能動的で責任ある市民性 (Active and Responsible Citizenship)」の形成論、及び民主主義的市民性形成の課題について検討する。	二宮 皓 (広島大学副学長)	二宮 皓 (広島大学副学長)
3	市民性形成論 (2) — グローバル市民性形成論	グローバル市民性 (Global Citizenship) の形成論及び世界市民性 (World Citizenship) の形成論を検討し、世界市民性形成の一つの方法論としての「討議・熟慮に基礎をおくカリキュラム (Deliberation-based Curriculum)」の適用可能性を検討する。	二宮 皓 (広島大学副学長)	二宮 皓 (広島大学副学長)
4	市民性形成論 (3) — 多文化主義的市民性・ポストモダンの市民性・メディア時代の市民性・ジェンダーと市民性	急激に変化する社会における市民性形成について、新たな挑戦としての多文化主義的市民性 (Multi-cultural Citizenship)、ポストモダンと市民性概念、メディア時代における市民性論、そしてジェンダーと市民性の関係などについて講義し、新たな市民性形成への挑戦について検討する。	二宮 皓 (広島大学副学長)	二宮 皓 (広島大学副学長)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
5	日本の市民性形成論—公民教育から新たな市民性形成論へ	公民教育の歴史展開を簡単に振り返り、現在の公民教育と市民性形成論について考察し、新たな動向としての品川区の「市民科」導入の問題や学校における市民性形成のためのカリキュラムを検討し、一つの事例としてクロス・カルチュラル・コンピテンシー理論に依拠する市民性形成を提案する。	二宮 皓 (広島大学 副学長)	二宮 皓 (広島大学 副学長)
6	アメリカの市民性形成論(1) —市民性概念の歴史的・社会的文脈	アメリカ合衆国における市民性概念の歴史的展開を概観し、その形成論を考察する。	棚橋健治 (広島大学 教授)	棚橋健治 (広島大学 教授)
7	アメリカの市民性形成論(2) —初等・中等教育における市民性形成	アメリカ合衆国の初等・中等学校における市民性教育の具体的なプログラムを取り上げ、そこで形成が目指される市民性の内実とその形成の論理ならびに課題など考察する。	棚橋健治 (広島大学 教授)	棚橋健治 (広島大学 教授)
8	フランスの市民性形成論(1) —歴史的・社会的文脈	「人権宣言」は個人を身分制から解放して「市民」を創出し、すべての者を市民として育てることが公教育の役目となった。フランス独特の市民性概念の生成・変容と、市民性形成をめぐる種々の問題を検討する。	藤井佐知子 (宇都宮大 学教授)	藤井佐知子 (宇都宮大 学教授)
9	フランスの市民性形成論(2) —学校での教育の展開	第三共和制期に始まった学校での公民教育は、幾多の姿を変えながら1985年以降段階的に再興がはかれてきた。知識のみならず、態度、価値を含めることを課題としている市民性教育の具体的なプログラムとそれらをめぐる教育的諸問題を考察する。	藤井佐知子 (宇都宮大 学教授)	藤井佐知子 (宇都宮大 学教授)
10	イギリスの市民性形成論(1) —歴史的・社会的文脈	イギリスにおける市民性概念の歴史的変遷について自由主義および公民的共和主義の伝統を概観する。続いて今日の政治的・社会的状況と市民性形成について考察する。	新井浅浩 (西武文理 大学教授)	新井浅浩 (西武文理 大学教授)
11	イギリスの市民性形成論(2) —学校での教育の展開	イギリスにおける市民性形成のための学校教育の取り組みについて、歴史的展開を概観する。その上で、近年のイギリスの教育政策について論じ、その論理やシステムあるいは具体的なプログラムについて初等中等教育を中心として講義する。	新井浅浩 (西武文理 大学教授)	新井浅浩 (西武文理 大学教授)
12	EUの市民性形成論	ヨーロッパ(EU)における新たな市民性形成のための教育について概観する。欧州連合やユネスコ、OECD、欧州評議会などの国際機関によって提言され、推進されている市民性教育のプログラムを考察し、各国の取り組みの動向を講義する。	新井浅浩 (西武文理 大学教授)	新井浅浩 (西武文理 大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
13	アジアの市民性形成論(1)ータイを中心として	タイ国における市民性形成について、日本との比較を念頭におきながら、国家教育法の分析、カリキュラムの分析、児童生徒への意識調査結果の分析から考察し、これからの市民性教育のモデル案を提案する。	平田利文 (大分大学 教授)	平田利文 (大分大学 教授)
14	アジアの市民性形成論(2)ームスリム(イスラーム教徒)の市民性形成論	タイにおける少数派であるムスリム(イスラーム教徒, タイ国民の約4%)の世界観や, ムスリムを対象として実施した市民性に関する意識調査結果の分析等から, ムスリムの市民性形成論を探る。	平田利文 (大分大学 教授)	平田利文 (大分大学 教授)
15	提言:21世紀の市民性形成論を問うー「多次元市民性」論を中心として	21世紀の市民的資質の把握、「多次元市民性(Multi-dimensional)」論に基づいて新しい市民性形成論を提案する。それと同時に諸外国の事例などから日本における市民性形成論が何を学ぶことができるか、今後の課題は何かについても話し合いを行い、21世紀の市民性形成論をについて検討する(講義と対談形式)。	二宮 皓 (広島大学 副学長)	二宮 皓 (広島大学 副学長)

## ＝ 逸脱行動論（‘06）＝（TV）

〔主任講師（現職名）： 鮎川 潤（関西学院大学教授）〕

### 全体のねらい

この授業では、「逸脱行動」に関する理論を検討したのち、逸脱行動のもっとも代表的なものとして「少年非行」と「犯罪」を主要なテーマとし、さらに「薬物依存」などについても考察を深めることとする。

とりわけ「逸脱行動」を、それを行う「逸脱行為者」ばかりではなく、逸脱行動によって被害を受ける「被害者」、逸脱行動をコントロールする「社会統制エージェント」、逸脱行動を直接目撃したり、マスメディアなどを通じて見聞したりすることによって逸脱行動への特定の社会的態度をとる「社会の構成員」の相互作用を通じて構成されるものとして考察したい。

逸脱行動への社会統制機関の対応を視野に入れ、逸脱行為者と被害者との関係についても検討することによって、受講生に対して新たな視点と気づき、知識と洞察の深まりを提供できることを願っている。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	逸脱行動とは何か—逸脱行動の諸相	「逸脱行動」は、「社会規範に違反したり、標準から大きくかけ離れているとみなされる行動」というように戦略的に定義される。 講義を始めるにあたって、まず「逸脱行動」の定義とその外延を検討したい。少年非行、犯罪、薬物依存などを取り上げ、逸脱行動に対する「許容化」と「拒否化」、「医療化」と「刑罰化」などについても考察する。	鮎川 潤 (関西学院 大学教授)	鮎川 潤 (関西学院 大学教授)
2	逸脱行動の諸理論(1)	逸脱行動に関する理論のうちで、古典的な理論に属する「社会解体論」、「分化的接触理論」、「アノミー理論」などについての知見を確認し、逸脱行動の分析を行うための素地を獲得したい。	同上	同上
3	逸脱行動の諸理論(2)	逸脱行動に関する理論のうちで、1960年代以降の主要な理論である「レイプリング・パースペクティブ（ラベリング理論）」、「社会的コントロール理論」、「コンフリクト理論」、「発達犯罪学」などについて考察したい。	同上	同上
4	逸脱行動の諸理論(3)	逸脱行動の理論のうちで、最近発達してきた「割れ窓（破れ窓）理論」などの理論と、少年非行を考察する上で有益な「中和化の技術理論」、「非行サブカルチャー論」などを検討する。少年非行や犯罪について具体的に考察する手がかりを得たい。	同上	同上

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
5	日本の少年非行	逸脱行動の代表として「少年非行」・「少年犯罪」を取り上げ、以後7回にわたって考察する。 「少年非行」とはいったい何か、わが国においてそれはどのようなものであったのか、歴史的な視点をまじえて検討したい。さらに現在、急速な社会変動が進展するなかで、少年非行・少年犯罪がどのような特徴を持っているのかについても考察したい。	同上	同上
6	少年非行と法執行機関	少年による逸脱行動に対して周囲の人々や社会統制機関が協働した結果として、少年非行は産出される。 いったいどのような少年によるどのような行為が少年非行とされるのか、「犯罪少年」、「触法少年」、「不良行為少年」などに腑分けされて析出するのかを、少年非行に対する第一線機関である警察に焦点を当てて考察したい。その際に、日本の地域差にも着目したい。	同上	同上
7	家庭裁判所と少年非行	家庭裁判所において非行少年に対する調査と決定がどのように行なわれるのかを検討する。家庭裁判所の少年審判や調査官はどのような役割を担い、現在どのような変化を迫られているのか、などについて考察する。	同上	同上
8	少年院・保護観察	非行少年の処遇に関して、少年院での矯正教育、地域で一般市民である保護司を担い手として行なわれる保護観察の実際について考察する。少年院でのさまざまな処遇技法について考察するとともに、少年院を仮退院した少年が社会復帰するための施設である更生保護施設の取り組みについても見てみたい。	同上	同上
9	触法少年の処遇と少年の刑事裁判	14歳未満で犯罪に該当する行為を行った少年の処遇と、14歳以上で重大な犯罪を行って成人と同じように裁かれる少年について検討する。児童相談所、児童自立支援施設、さらに刑事裁判所や少年刑務所における少年をめぐる相互作用や処遇の特徴などについて、北欧のスウェーデンでの取り組みにも着目して考察したい。	同上	同上
10	犯罪被害者と修復的司法	犯罪に対する対応として、犯罪や非行を行った側の更生とともに、被害者の心の癒しが重要な課題となる。近年、被害者と加害者との直接対面・対話が、どちらの課題にとっても有効であることが論じられている。これを修復的司法と呼ぶが、アメリカ合衆国やニュージーランドの例などを通じて、日本での可能性について考えてみたい。	前野育三 (関西学院 大学名誉教 授)	前野育三 (関西学院 大学名誉教 授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	少年法改正と少年司法の将来	2000年10月に国会で少年法改正が成立し、翌年4月から改正少年法が施行された。この改正がどのように審議されて成立したのかを分析する。 歴史的な発言をふまえて、少年非行への社会的対応がどのように変化しようとしているのかについても考察したい。	鮎川 潤 (関西学院 大学教授)	鮎川 潤 (関西学院 大学教授)
12	成人犯罪—高齢犯罪者の処遇	成人犯罪の趨勢と注目すべき犯罪現象について考察する。「性差・ジェンダー」と「年齢・エイジング」の観点をまじえて検討したい。 現在、過剰収容状態を迎えている矯正施設における処遇、ならびにわが国の刑務所の顕著な特徴となっている受刑者の高齢化とその対応についても分析を加えたい。	同上	同上
13	薬物乱用	薬物によって異なる薬理作用の特徴をふまえて、薬物乱用について考察したい。その際、社会的に是認された合法的薬物についても視野におさめることとする。 薬物乱用者に対する社会的対応については、北欧のスウェーデンにおける薬物離脱プログラムや薬物乱用者の自立施設を紹介しながら検討したい。	同上	同上
14	社会問題としての逸脱行動	「少年非行」、「少年犯罪」などの逸脱行動が社会的に注目を集め「社会問題」となっていくプロセスについて考察する。その際に、メディアの果たす役割にも注目して分析したい。 「ドメスティック・バイオレンス」、「ストーカー」、「いじめ」、「校内暴力」、「登校拒否・不登校」、少年非行の「凶悪化」「低年齢化」などについて考察する際にも利用可能であることを目指したい。	同上	同上
15	逸脱行動の将来	「逸脱行動」は英語の“deviant behavior”が翻訳されたものである。この概念もアメリカ合衆国における一つの社会的被拘束性のもとで構成されたものである。このカテゴリーとそれが包含する諸社会現象に関する研究を省察し、わが国における発展の可能性を展望してまとめたい。	同上	同上

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8920516	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 心理・教育統計法特論 ('09) = (R)

〔主任講師 (現職名) : 福田 周 (大正大学准教授) 〕  
 〔主任講師 (現職名) : 卯月 研次 (大正大学准教授) 〕  
 【担当専任教員 : 大場 登 (放送大学教授) 〕

### 講義概要

臨床心理学研究や発達・教育研究において、その研究法には、「数量的」研究と「質的」研究の2つの枠組みで捉えられることが多い。特に臨床心理学では、事例研究を中心とした質的研究がその主たる研究法として取り上げられることが多いが、「数量的」研究法もまた臨床心理学研究になじまない方法では決してない。あくまでも臨床実践に生かされるような「数量的」研究を行なうにはどのような統計法が有効であるのか、実際の研究事例を用いながら解説していく。具体的には調査研究で多く用いられる多変量解析法、実験を用いた仮説検証型の臨床研究などを取り上げて考察していく。

### 授業の目標

全15回の講義を通じ、心理学における統計法の手法を身につけるとともに、臨床実践の中での数量的研究視点を持ち方、仮説検証型の研究方法の利点と欠点などを理解し、実際の研究アイデアに生かせるようになることを目標とする。さらに、理論的理解だけではなく、実際に演習を行ないながら、数量的分析を行なえるようにしていく。

### 履修上の留意点

研究法の全体的な基礎を習得するために、「臨床心理学研究法特論('06)」を学んでおくことが望ましい。また、発達研究や質的研究に関しては、「発達心理学特論('07)」を合わせて学んでおくことが望ましい。統計法そのものの基礎的な知識に関しては、学部「心理学研究法('03)」、「計量心理学('06)」などを参考にするとよい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	数量的研究とは	統計学の歴史を概観しながら、臨床心理学研究に統計学がどのように取り入れられてきたかを解説する。さらに仮説検証型の研究方法を用いた研究スタイルの特徴を説明し、数量的分析の基本の手順について理解を深める。  【キーワード】 統計学、確率論、仮説検定、推測統計、帰無仮説、対立仮説、検定力、標本集団、母集団	福田 周 (大正大学・ 准教授)	福田 周 (大正大学・准 教授)
2	基礎統計	ここでは、心理・教育統計法で扱う「データ」について理解を深める。尺度の種類による数値の性質の違いを理解した上で、統計の基礎概念である平均値や標準偏差、正規分布などの考え方を確認しておきたい。  【キーワード】 尺度の種類、記述統計、代表値、標準偏差、不偏分散	卯月 研次 (大正大学・ 准教授)	卯月 研次(大 正大学・准教 授)
3	推測統計	推測統計における帰無仮説の意味を説明し、さらに推測検定の仕組みを解説する。その上で統計学における確率、推測といった基本概念についてt検定を例に取り、理解を深める。  【キーワード】 推測統計、標準化、有意差、帰無仮説、対立仮説、第1種の過誤、第2種の過誤、t検定、t分布	卯月 研次 (大正大学・ 准教授)	卯月 研次(大 正大学・准教 授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	t検定	推測統計の中でも基礎的な検定であるt検定を取り上げ、その種類や留意点などを説明する。また、対応のあるデータと対応のないデータの違いやF検定についても説明する。  【キーワード】 対応のあるデータ、対応のないデータ、対応のあるt検定、ウェルチの法、F検定	卯月 研次 (大正大学・ 准教授)	卯月 研次(大 正大学・准教 授)
5	分散分析	分散分析の基本的な考え方と使い方を説明する。まず実験・研究計画の種類や要因・水準について説明し、一要因の分散分析で計算の仕組みと結果の見方を学ぶ。さらに、二要因の分散分析と交互作用についても理解を深める。  【キーワード】 分散分析、要因、水準、被験者間計画、被験者内計画、多重比較、交互作用	卯月 研次 (大正大学・ 准教授)	卯月 研次(大 正大学・准教 授)
6	名義尺度の検定— $\chi^2$ 乗検定	臨床心理学の研究においては、得られるデータが名義尺度であって、それぞれのカテゴリーにあてはまる人数の比率の差を統計的に検定したい場合が多くある。本章では、このような場合の検定法として、最も一般的な $\chi^2$ 検定について解説する。  【キーワード】 名義尺度、期待度数、観測度数、Fisherの直接法	藤田悟郎(科 学警察研究 所・室長)	藤田悟郎(科 学警察研究 所・室長)
7	順序尺度でのノンパラメトリック検定	臨床心理学の研究においては、厳密な間隔尺度や比率尺度を用いた測定にはそぐわない性質の変数を扱うこともよくあり、その場合は用いられる質的データの分析に有効となる統計的検定はノンパラメトリック法である。名義尺度については、第6章の $\chi^2$ 検定がその方法であるが、この章ではおもに順序尺度を用いた場合のノンパラメトリック法を解説する。  【キーワード】 マン・ホイットニーのU検定、ウィルコクソンの順位和検定、Wilcoxonの符号付き順位検定、クラスカル・ウォリスの検定、フリードマンの検定	福田 周 (大正大学・ 准教授)	福田 周 (大正大学・准 教授)
8	相関研究	相関は、2つの変数どうしの関連を探る指標である。人間の営みにおけるさまざまな行動や反応は普通、ひとつの変数の要因だけで決定されることはない。その背後にあるさまざまな要因がお互い関連しあった結果としてひとつの反応が生じる。ここでは、相関に関する基本的な概念とその計算方法、そして相関の結果の解釈の仕方について解説する。  【キーワード】 相関図、ピアソンの積率相関係数、順位相関、無相関検定、擬似相関	福田 周 (大正大学・ 准教授)	福田 周 (大正大学・准 教授)
9	多変量解析の概説	臨床心理学における研究では、ある事象に関係する多様な要因を同時に分析し、その複雑な関係からある一定の傾向や因果関係を推測していく研究スタイルがとられることが多い。その際によく用いられる解析手法として多変量解析法について説明し、その有効性と留意点を理解していく。  【キーワード】 外的基準、目的変数、説明変数、外生変数、内生変数	福田 周 (大正大学・ 准教授)	福田 周 (大正大学・准 教授)

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	重回帰分析	臨床心理学の研究においては、例えば、子供や成人の不安や精神健康などの適応の水準を調査し、適応に影響を与える複数の要因を同時、あるいは別に調査して、適応の水準と要因との関係を分析することがよくある。本章では、このような場合の分析方法として、最も一般的に用いられる重回帰分析について解説する。  【キーワード】 ダミー変数、標準偏回帰係数、重相関係数、決定係数	藤田悟郎(科学警察研究所・室長)	藤田悟郎(科学警察研究所・室長)
11	因子分析	因子分析は、複数の観測された変数の背後にある共通の要因を探る統計技法であり、心理学では頻繁に使用されている多変量解析の一つである。本章では、因子分析の研究例を紹介した上で、因子分析の基本的な考え方や分析の手順について解説する。  【キーワード】 因子分析、潜在変数、共通因子、独自因子、因子負荷量、単純構造、因子得点	堀井俊章(横浜国立大学・准教授)	堀井俊章(横浜国立大学・准教授)
12	主成分分析	主成分分析は、多くの変数を縮約し、新しい合成変数を作り出すための手法である。本章では、主成分分析の研究例を紹介した上で、その基本的な考え方や分析の手順について解説する。また、因子分析との違いについても説明する。  【キーワード】 主成分分析、合成変数、主成分、主成分負荷量、固有ベクトル、主成分得点	堀井俊章(横浜国立大学・准教授)	堀井俊章(横浜国立大学・准教授)
13	共分散構造分析	臨床心理学の研究においては、質問票などで調べた複数の構成概念について、やや複雑なモデルを仮定して構成概念間の因果関係を明らかにしたい場合がある。このような場合に使われる、共分散構造分析について解説する。  【キーワード】 観測変数、潜在変数、パス係数、適合度、パス解析	藤田悟郎(科学警察研究所・室長)	藤田悟郎(科学警察研究所・室長)
14	質的変数の多変量解析	臨床心理学の研究においては、質問票などにより、質的データを数多く集め、変数間の関係を同時に分析したい場合が、比較的よくある。このような場合に利用可能な分析方法である、ロジスティック回帰分析、判別分析、コレスポネンス分析について解説する。  【キーワード】 ロジスティック回帰分析、判別分析、コレスポネンス分析、数量化Ⅲ類	藤田悟郎(科学警察研究所・室長)	藤田悟郎(科学警察研究所・室長)
15	総括—数量的研究法の活用の際の留意点	これまでの研究手法を総括しながら、臨床実践における数量的研究法の活用の際、実際に気をつけるべき点を考えていく。特に、実証的研究のデータ収集方法に関する配慮を中心に解説する。  【キーワード】 因果関係・実験的研究・相関的研究・実験計画・剰余変数・被験者間計画・無作為配置・ワーディング	福田周(大正大学・准教授)	福田周(大正大学・准教授)

＝ 認知行動科学（'06） ＝ (TV)  
－心身の統合科学をめざして－

〔主任講師（現職名）：西川 泰夫（放送大学教授）〕

全体のねらい

人の心や行動を解明しようと取り組む分野は、現状多岐にわたる。なかでも、心理学が果たしてきた役割は大きい。一方では、哲学的思索や思弁をふまえながらも、現在では、認知科学、行動科学、数理言語学、情報科学、コンピュータ科学、そして脳神経科学や物理学などからの科学的取り組みが新たな地平を開いている。こうした分野を統合して、認知行動科学と総称する。その背景、基盤、応用、そして新たな展開状況を解説し、自らの自己実現から心身の健康さらに安全で豊かな社会の実現に向けて、各自がこの問題解決に創造的に取り組むさいに欠かせない基本的概念体系や論拠を提示する。

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	プロローグ	認知行動科学－心身の統合科学を目指して－。 常識問題－フレーム問題－。パラダイム・シフト。 認識の源泉－ボトム・アップかトップ・ダウンか－。 パターン認識。問題解決。創造の源、計算力。 認知行動科学への導入。記述、解説用語のレベル。 意味論のはざま。演繹論理と形式論理。	西川 泰夫 (放送大学 教授)	西川 泰夫 (放送大学 教授)
2	認知行動科学の 背景 (1)	心身をめぐる思弁と思索から。 デカルトの心身二元論。心とは。身体とは。 心身問題。言葉と自由意志。動物は言葉を持つか。 クレバー・ハンスの事例。条件反射学。実験行動分 析学。機械は知性を持つか。チューリング・テスト。 脳、ニューラル・ネットワーク。カントの呪縛。	同上	同上
3	認知行動科学の 背景 (2)	心身をめぐる思索から科学的実証へ。 ホッブスの心身一元論。推理、心は名辞の計算機。 オートマトンの系譜。動物霊気の正体。 ガルヴァーニの起死回生実験。デカルトの心身問題 の解消に向けて。精神物理学。三段論法。アリスト テレスの形式論理学。形式化、抽象化、そして数学 化の意義。論理学の基本ルール。関係構造。 同一律、矛盾律、排中律。逆、対偶、反対関係。	同上	同上
4	認知行動科学の 背景 (3)	現代記号論理学、命題論理学と述語論理学。 命題論理学。文章と文章を結び付ける4つの規則。 真理値、真理値表、真理関数。論理関係構造、演算。 論理代数の基本法則。矛盾、トートロジー。 述語論理学。主語の変数化、述語化。文章の関数化。 一変数関数、二変数関数、多変数関数。量化、量化 記号。公理系の無矛盾性、完結性。	同上	同上

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
5	認知行動科学の 背景 (4)	「反射」の仕組みから「脳」のモデルへ。 精神的分泌現象。パヴロフの条件反射学。無条件刺激と無条件反応の結びつき。条件付け操作、強化、消去、消去抵抗、自然回復。精神的分泌の正体。高次条件付け。一次信号系、二次信号系。洞察対試行錯誤。ケーラーのチンパンジーの知能テスト。ソーンダイクのネコの問題箱。条件反応を引き起こすメカニズム。神経系のタイプ。パヴロフの脳モデルの制約、限界とその後の展開。脳神経細胞は、非線形閾値素子。	同上	同上
6	認知行動科学の 基盤 (1)	行動 (の) 科学。行動心理学。ワトソンの行動主義。行動主義宣言。行動主義者の綱領。心理学の数学化。行動科学としての心理学。心は白紙。経験論。環境論。学習。情動条件付け—アルバート坊やの事例—。ワトソンの心理科学史の上での評価。新行動主義者たちの取り組みから—操作的概念の役割と意義。ミラーの獲得性動因論、不安とは。動因低減、動機論。	同上	同上
7	認知行動科学の 基盤 (2)	実験行動分析学—オペラント心理学—。 スキナーの略年譜。スキナーの排除する「理論」とは。三項関係。機会刺激—オペラント行動—強化の随伴性。弁別刺激。強化子 (正、負、罰)。強化のスケジュール。スキナー箱。累積記録器。日常場面での行動分析。刺激制御下にある自発オペラント行動。環境は、行動を淘汰する。相互間の刺激制御。	同上	同上
8	認知行動科学の 基盤 (3)	人間情報処理システム。入力情報の変換・伝達・処理・伝達・再変換・情報の出力過程。情報の流れの中で。情報伝達容量。SN比。情報量。情報量の単位。負のエントロピー。秩序と無秩序。対数関数。サイバネティクス。フィードバック・システム。ホメオスタシス。サーボ・メカニズム。情報伝達経路としての人。魔法の数「 $7 \pm 2$ 」。情報の処理とは。チャンク化、コード化。語の冗長性。	同上	同上
9	認知行動科学の 基盤 (4)	認知過程論。情報処理システム・モジュール。 直接記憶範囲。注意の範囲。スパーリングの実験から。部分報告法。全体報告法。記銘。直後再生。遅延再生。感覚貯蔵。リセット機能。パターン認識。セルフリッジ・モデル。パンデモニアム・モデル。おばあさん細胞説。ネットワーク説。ボトム・アップ・プロセス。トップ・ダウン・プロセス。予期図式。創造性、創造的問題解決。	同上	同上
10	認知行動科学の 基盤 (5)	記憶システム。一次記憶、二次記憶。行動論と記憶。 エビングハウスの忘却曲線。無意味つづり。節約率。記憶崩壊と干渉理論。順行・逆行抑制。緊張理論。抑圧理論。短期記憶過程と長期記憶過程の分離。系列位置曲線。初頭効果。親近性効果。短期記憶情報の検索過程。高速悉皆走査直列処理。中途打ち切り走査。長期記憶過程。確率過程論モデル。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	認知行動科学の 基盤(6)	中央制御システム。脳のモデル。形式ニューロン。シナプス結合荷重(係数)。閾値。シグモイド関数。形式ニューラル・ネットワーク。パーセプトロン。分類。誤り訂正学習法。ヘップの疎通原理。パーセプトロンの計算。パターン変換計算。学習収束原理。隠れ層。排他的or計算。非線形力学系モデル。ホップフィールド・モデル。エネルギー関数。極小値。ボルツマン・モデル。	同上	同上
12	認知行動科学の 応用(1)	動物モデル。行動療法。薬理療法。行動医学。パヴロフの分化条件付け。実験神経症。消去法。消去抵抗。拮抗条件付け。系統的脱感作法。葛藤のタイプ。マッサーマンの実験。心的ストレス。ワトソンの情動条件付け。刺激汎化。スキナーのオペラント技法。行動修正・変容法。応用行動分析学。教育工学。エア・クリブ。行動薬理学。生活習慣病。刺激制御。自己制御。環境設計(ユートピア論)。	同上	同上
13	認知行動科学の 応用(2)	動物モデル。認知行動療法。心身問題。ブラディ実験。ストレス刺激・ストレス反応。心身症。心的疲労。ストレスと免疫機構。ワイス実験。三つ組み法。統制群、実験群、ヨークト群。回避・回避葛藤。心因性胃障害。セリグマン実験。学習性絶望感。無力感。心因性うつ症モデル。信念、世界観。自己制御。経験の後遺症。対処可能性。認知行動的対処法。認知行動的免疫法。認知行動的耐性強化法。ハイテク導入技法。バイオ・フィードバック法。薬理法。	同上	同上
14	認知行動科学の 応用(3)	動物モデル。比較認知行動科学。スキナーのコロンバン・シミュレーション計画。ハトによる認知過程のシミュレーション。二羽のハトによる言語を用いた会話。創造的問題解決過程。高い天井につるしたバナナをつつくハトの洞察。短期記憶過程。ハトのメモ取り。自己認識。自己認識実験パラダイム。ハトの鏡像理解。応用比較認知行動科学。行動工学。	同上	同上
15	エピソード	認知科学の成立基盤再考。人間の知性再考。心の記号・計算論。論理関係構造。四則演算。文法。人工知能研究(ダートマス会議)。情報科学セミナー。情報処理システム。記述のレベルと用語。形式体系。チューリング・マシンの計算。デネットの計算論を巡る論理地図。高教会派計算主義。禅的全体論。ドレイファスの反記号論・反計算論。身体・文脈・意図。志向性。サールの中国語の部屋思考実験。意味の役割。チューリング・テスト再考。ペンローズの反人工知能論。ゲーデルの不完全性定理。おわりに。	同上	同上

事務局 記載欄	開設 年度	平成 19 年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8940240	履修 制限	有	単位 数	2
------------	----------	----------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 認知過程研究 ( ' 0 7 ) = ( R )  
 - 知識の獲得とその利用 -

[ 主任 講 師 (現職名) : 稲垣 佳世子 (千葉大学教授) ]  
 [ 主任 講 師 (現職名) : 鈴木 宏昭 (青山学院大学教授) ]  
 [ 主任 講 師 (現職名) : 大浦 容子 (新潟大学教授) ]

#### 講義概要

ここでは高次の認知(思考)過程における知識の獲得と利用に焦点をあてる。日常場面や教育場面での私たちの活動の多くは問題解決と理解の過程として捉えられるが、上手な問題解決や、物事のよりよい理解には「理解力」や「問題解決力」といった一般的能力ではなく、その領域に関する「知識」が重要な役割を果たしていることを示す。さらに認知の主体として人間(幼児、児童、大人)が頭の中にモデルを構成し、それを通して外界に対処する能動的な存在であることを示す。

#### 授業の目標

- (1) 認知過程に関する主要な研究成果・最近の研究成果を伝えること
- (2) 学生が認知過程についての研究をみずからおこなう時の手助けになること

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	認知過程を研究 するとは	「認知過程」を研究するとはどのようなことかについての道案内をする。教育場面や日常場面での私達のさまざまな活動の多くは問題解決と理解の過程と捉えられること、認知過程研究で使われる知識や推論など重要な概念について解説する。	稲垣佳世子 (千葉大学 教授)	稲垣佳世子 (千葉大学 教授)
2	子どもが世界を 理解する仕方	子どもはかなり早い時期から特別教えられていないにもかかわらず、世界の重要な諸側面を切り分け、それぞれに異なる因果的な説明を適用できるという点で、今まで考えられてきたよりも有能な存在であることを示す。	稲垣佳世子 (千葉大学 教授)	稲垣佳世子 (千葉大学 教授)
3	概念変化：知識 の大幅な組み替 え	日常生活場面や学校場面で獲得する知識の多くは、新しく情報を取り入れるたびに少しずつ改変されるが、時を隔ててみると知識の大幅な組み替えが生じていることがある。日常場面と学校場面におけるこうした概念変化について解説する。	稲垣佳世子 (千葉大学 教授)	稲垣佳世子 (千葉大学 教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	熟達者と初心者のちがい	熟達者と初心者はどこがどう異なるのだろうか。主にスポーツや芸術、職業場面での熟達者を例にしながら、熟達者の豊かで構造化された知識を明らかにする。	大浦容子 (新潟大学 教授)	大浦容子 (新潟大学 教授)
5	熟達化の社会・文化的基盤	初心者が熟達者になっていく過程は、初心者が熟達者のコミュニティに実践活動を通じて参加していくことである。熟達化の過程で他の人々や文化がつくり出した道具についてのメンタルモデルを作っていくことを明らかにする。	大浦容子 (新潟大学 教授)	大浦容子 (新潟大学 教授)
6	問題解決の基本図式	問題解決を問題空間内での探索として定式化する見方を解説する。次に、探索を制御するヒューリスティクスについて解説を行う。最後に、問題解決で得られた知識の転移について説明を行い、問題表象の重要性を指摘する。	鈴木宏昭 (青山学院 大学教授)	鈴木宏昭 (青山学院 大学教授)
7	教科学習における問題解決と転移	算数や理科などの教科における問題解決プロセスの特徴についてまず解説を行う。次に、教科の学習を困難にする原因を、知識表象の性質、素朴概念の観点から検討する。最後に、こうした困難を克服するために有効な心理メカニズムを紹介する。	鈴木宏昭 (青山学院 大学教授)	鈴木宏昭 (青山学院 大学教授)
8	外的資源を用いた問題解決と学習	人間は、通常さまざまな外的資源（道具、メモ、図表、他者）を意識的、無意識的に利用しながら問題解決を行っている。外的資源を用いた問題解決の事例を紹介しながら、それらが認知プロセスにおいて果たす役割を明らかにする。	鈴木宏昭 (青山学院 大学教授)	鈴木宏昭 (青山学院 大学教授)
9	創造的問題解決	洞察、発見を含むような創造的問題解決においては、通常の問題解決とは異なり、非定型的な問題表象をつくり出す必要がある。ここでは創造的問題解決を認知の多様性及びその評価という観点から捉えて、ひらめきの生じるメカニズムを解説する。	鈴木宏昭 (青山学院 大学教授)	鈴木宏昭 (青山学院 大学教授)
10	推論の諸相	人間の思考において問題解決と同様に重要なのが推論である。ここではまずさまざまな推論(演繹、帰納、類推)の区別を行う。次に、日常的思考において、演繹、帰納、類推がどのように関連しあうかを論じる。	服部雅史 (立命館大 学准教授)	服部雅史 (立命館大 学准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	判断・推論におけるバイアス	人々が事象について行う推論にはさまざまなバイアス（偏り）があることが知られている。その主なもの（カーネマン、トヴァスキー、ギーゲレンツァーなどの研究）を紹介し、それらがなぜ簡単には消去されないかを考える。	楠見 孝 (京都大学 大学院准教授)	楠見 孝 (京都大学 大学院准教授)
12	批判的思考とメタファ的思考	人は論理的な規準にもとづいて批判的に思考し、推論におけるバイアスを最小限にしようとしている。他方では、類似性や近接性にもとづく比喻を使って理解したり、新たな表現を生み出しており、このメタファ的思考は文学作品だけでなく、日常生活でも発揮されている。	楠見 孝 (京都大学 大学院准教授)	楠見 孝 (京都大学 大学院准教授)
13	認知と社会的相互作用	推論は個人の頭の中で生じるとはいえ、その個人をとりまく文脈、とくに異なる立場の他者の存在によって強く影響されること、逆に他者との相互作用を通して推論や認知が促進されることをしめす。	大浦 容子 (新潟大学 教授)	大浦 容子 (新潟大学 教授)
14	談話理解	談話理解の研究のために、いわゆる認知心理学でとりあげられてきた実験はどのようなもので、そこから明らかになったことは何か、未解決な問題は何かを検討する。合わせて談話の産出（作文など）についてもふれる。	秋田喜代美 (東京大学 大学院教授)	秋田喜代美 (東京大学 大学院教授)
15	教室における談話	教室学習における教師と生徒、生徒同士の談話を調べることによって生徒の思考を促す教師のことばや子どもの発言がどのようなものかを検討する。こうした談話については文化差のあることも知られている。	秋田喜代美 (東京大学 大学院教授)	秋田喜代美 (東京大学 大学院教授)

## ＝ 教授・学習過程論（'06）＝ (TV)

－ 学習科学の展開 －

〔主任講師（現職名）： 大島 純（静岡大学教授）〕

〔主任講師（現職名）： 野島 久雄（成城大学教授）〕

### 全体のねらい

こうした名称の科目では、通常教室での教授・学習のみを取り上げることが普通だが、この科目では、学習心理学で扱ってきた実験的研究や、認知科学などでの学習研究の対象になってきた「非公式の」教育場面での教授・学習も含めて、なるべく包括的に見ていく。ヒトという種は、単に生物として進化してきたばかりでなく、文化という人工物の体系を作り上げ、それを各個体が学習により内化することで有能さを増大させてきた。その意味で広義の学習ないしそれを援助する教育が決定的に重要なことは確かだし、子どもの側には成人の行動様式を真似ようとする傾向、おとなの側には子どもに教えようとする傾向が元々備わっているとみられる。さらに、実践と並行して学習の援助をある程度意図的、計画的に行おうとする試み（例えば徒弟制度）も、古い歴史を持つ。これらについての説明が、前半の中心になる。

公式の教育とは通常、小学校、中学校など、学習者の将来の生活のための一般的な準備を行う機関での教育を指すが、そうした学校は多様な教育の機会の一つにすぎず、まして今日見られるような欧米型の学校が普及したのはわが国でもここ百年たらずのことでしかない。制度としての学校は、人々の全面的な支持を得ているといえないどころか、それに対する非難や批判が高まりつつある。しかし、今日の高度に技術化された社会の教育において学校が占める位置は無視できないものである。この科目の後半では、学校の独自の役割が何か、それを効果的に果たすためにはどのような視点や接近が必要であるかを吟味する。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	学習研究と学習科学	ヒトの生物学的特徴として、発達の過程で、文化という人工物の体系を各個体が学習により内化すること、こうした広義の学習ないしそれを援助する教育が決定的に重要なことを述べる。さらに、教室および教室外での学習の様相とそれを援助する意図的・意識的な試みである教育、およびそうした過程を解明しようとする学習科学の性格について述べる。	波多野誼余夫（元放送大学教授）  大島 純（静岡大学教授）	波多野誼余夫（元放送大学教授）  大島 純（静岡大学教授）
2	比較認知科学から見たヒトの学習	さまざまな種の動物の社会的知能や認知的知能、経験に基づく行動変容の可能性などについての最近の報告から、学習に関してヒトが他の動物といかなる生物学的基盤を共有しているか、どのような独自性を持っているのか考える。	藤田和生（京都大学大学院教授）	藤田和生（京都大学大学院教授）
3	言語獲得の諸相	米、欧で大ベストセラーになったピンカーの著作『「本能」としての言語』と、これに対する、言語獲得の社会的、実用的基盤を強調する立場からのトマセロの批判を手がかりに、言語獲得の本質を論じる。	波多野誼余夫（元放送大学教授）	波多野誼余夫（元放送大学教授）

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	素朴理論獲得における生得的制約と経験	最近の概念発達研究によれば、乳幼児はかつて考えられていたよりもずっと知的に有能な存在であり、世界の限られた側面についてではあるが、特徴的な因果的説明を行うことのできる知識の体系を持つという。このことを実験的に示す。	大島 純 (静岡大学 教授)	大島 純 (静岡大学 教授)
5	熟達化	初心者と熟達者の知識、技能の差異、さまざまな領域における熟達化の諸相、熟達の型の違い、熟達を促進する経験などについて述べる。	野島久雄 (成城大学 教授)	野島久雄 (成城大学 教授)
6	日常的認知と非公式の教育	教育とは広く学習を援助しようとする意図的、意識的な営みであり、学校教育はそのごく一部にすぎない。徒弟性や実践への参加という形態での教育のもつ強みや限界について考える。発展途上国での例のほか、わが国などでの学校外での学習や広義の教育についても論ずる。	野島久雄 (成城大学 教授)	野島久雄 (成城大学 教授)
7	文化の中の学習	学習すなわち知識獲得の過程は、社会文化的文脈により直接に影響されるのみならず、社会文化的価値の内化された形態ともいべきメタ認知的信念（例えば学習観）によっても影響される。したがって、教育技術を輸出入することには慎重でなくてはならない。	波多野誼余夫 (元放送 大学教授)	波多野誼余夫 (元放送 大学教授)
8	帰納推論と学習メカニズム	ヒトという種は、相関関係にもとづいて要素間の構造を決定しうるばかりでなく、それを媒介している観察できない過程を想定しうる、ある特定事象をより抽象的な事象の事例とみなして、抽象的な規則性を抽出しうる、など特有の強力な学習メカニズムを持っている。ここではこれについての実験心理学的知見を提供する。	波多野誼余夫 (元放送 大学教授)	波多野誼余夫 (元放送 大学教授)
9	学習の認知神経科学	脳と心の関連についての関心が高まるなか、高次の学習の理解にも、認知神経科学からの寄与が期待されるようになった。急速に進展しつつある認知神経科学からの知見のうちで、学習科学にとって見落とせないのはどんなことか、今後期待されるのはどんな発展かを論じる。	酒井邦嘉 (東京大学 大学院准教授)	酒井邦嘉 (東京大学 大学院准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	学びにおける協 調の意味	学びを展開するとき、学習者が他者で行う様々な行為がその認知過程に多大な影響を及ぼす事がわかっている。こうした学習者同士の協調作業が学習に及ぼす影響を整理する事は、協調作業を教育計画の立案の中に適切に導入していくために重要である。具体的な研究事例をふまえて、協調作業の認知的なメカニズム、およびその教育への応用について検討する。	白水 始 (中京大学 専任講師)	白水 始 (中京大学 専任講師)
11	学習環境のデザ インと原則	情報テクノロジーやその他の多様な教材、教授法、あるいは学習活動のあり方など、教育計画を立案していくときに検討すべき多様な要素を総合的にデザインしていくときに必要な考え方について、これまでの学習研究の知見をベースに考えていく。また、そこでは様々な学習環境をデザインするという立場から教育計画の立案を捉え直し、その行為自体が立案した計画自体の評価をその後の発展へつながる研究手法を紹介する。	大島 純 (静岡大学 教授)	大島 純 (静岡大学 教授)
12	授業研究と教師 教育	学校における学習環境をデザインする主要な人物は教師である。それ故に、教師が自らの教育計画の立案をとおした知的生産活動に従事し続けなければ、学習者のための適切な学習環境の発展もあり得ない。教師の職業的発達において、授業研究という活動システムを適切に利用しながら、新しい学びのための学習環境を構築していくとはどのようなことなのか、具体的な事例をもとに検討する。	大島 純 (静岡大学 教授)	大島 純 (静岡大学 教授)
13	情報テクノロジー の教育への導入	その発展が著しい情報テクノロジーは、たな教育の支援ツールとして大きな期待が持たれている。テクノロジーの機能が学習者の内的な資源とどのように関連し、学習効果を生成していくのかといった、いわゆる「学習者とテクノロジー」の協調的な学び、あるいは「テクノロジーに支援された学習者同士」の協調的な学びについて、の認知的なメカニズムやそれをもとにした教育計画の立案のための原則について考えていく。	大島 純 (静岡大学 教授)	大島 純 (静岡大学 教授)
14	教育評価－新し い学びの視点－	学びは終わる事のない学習者の知的生産的な活動である。こうした活動において、価値を持つ意味は非常に大きい。価値とはそれまでの学習者の達成状況を教授者が評価するだけでなく、の先学習者がより自らをのばしていくためにどのようなことを考えなくてはならないかと言う処方箋を提示する必要がある。こうした形成的評価の重要性と同時に、来教育というものが持つ長期的な効果を検討するための新しい研究手法やアプローチについて考えていく。	大島 純 (静岡大学 教授)	大島 純 (静岡大学 教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
15	学習科学の展開	これまでの14回の講義を振り返るとともに、学習科学の新しい動向、それがわが国の教育的伝統にどのように取り入れうるかを論ずる。	波多野誼余夫（元放送大学教授）  大島 純（静岡大学教授）	波多野誼余夫（元放送大学教授）  大島 純（静岡大学教授）

事務局 記載欄	開設 年度	平成 19 年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8940258	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	----------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

＝ 学校臨床社会学（‘07）＝（R）

〔主任講師（現職名）：酒井 朗（大妻女子大学教授）〕

講義概要

学校臨床社会学は今日の学校教育や児童生徒が抱える種々の問題の社会学的理解とそれへの対応や支援の取り組みの意義や課題を社会学的な視点や方法論を用いて検討する新しい学問領域である。この講義では、マクロな視点から急激な社会変容が学校教育や個々の児童生徒に及ぼす影響を論じるとともに、具体的問題の実相を現場に即して解明する。それと同時に問題への対応や支援の在り方とその効果・課題等について論じる。

授業の目標

- 1) 学校教育や児童生徒が抱える諸問題への社会学的洞察力を養う
- 2) 研究方法論のバリエーションを理解し、それぞれの有効性と留意点を把握する。
- 3) 学校や児童生徒への支援に対して社会学的視点を採り入れることの意義を理解する。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	学校臨床社会学とは何か	学校臨床社会学の学問的視座や「臨床」の意味合いを解説するとともに、そうした新しい学問が要請されている社会的背景を説明する。また、2回目以降に取り上げるトピックについて概説するとともに、それらを通じて深めていきたい中心的テーマを紹介する。	酒井 朗 (大妻女子 大学教授)	酒井 朗 (大妻女子 大学教授)
2	学校の秩序のゆらぎ	従来は自明のように維持されてきた学校内における秩序が、近年「学級崩壊」「私語の蔓延」などの形でゆらぎ始めている。こうした現象を通じて、学校の秩序の脆さと、秩序の再生がいかんにして可能かについて考える。	伊藤茂樹 (駒沢大学 教授)	伊藤茂樹 (駒沢大学 教授)
3	不登校をどう見るか	近年不登校という現象は、矯正すべき病理としてよりも、調整や介入の必要な問題という位置づけに変化しつつある。このように至った経緯やそこで行われている取り組み、それらがもたらす新たな問題などについて、多面的に考える。	同 上	同 上
4	「総合的な学習の時間」と授業の課題	2002年度より学校現場で「総合的な学習の時間」が完全実施となった。「総合的な学習の時間」への学校現場の取り組みを紹介するとともに、その実践が抱えている課題を概観し、併せて、その実践を通して学校教育や教師がどのように変わろうとしているのかを検討する。	紅林伸幸 (滋賀大学 准教授)	紅林伸幸 (滋賀大学 准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
5	教師の抱える問題と教師の成長	教師のバーンアウトや不適格教員が社会問題化する一方で、「生きる力」の育成や学力の向上に効果的に取り組むことができる、実践力のある教師が強く求められている。多様な課題を抱えて成長していく教師のあり方と、彼らの成長を支える教師集団の《協働性》について考察する。	同上	同上
6	保健室の構造・機能・意味	1990年代初頭、「保健室登校」のことばとともに学校の保健室が社会的に注目されるようになった。なぜ保健室なのか、子どもたちにとって保健室はどのような場所なのか。そこでは、どのように日々子どもと向き合っているのか。その基本的なメカニズムを会話分析的に可視化し、保健室のリアリティを明らかにする。	秋葉昌樹 (龍谷大学 准教授)	秋葉昌樹 (龍谷大学 准教授)
7	演劇的手法を用いた会話分析研究の実際	臨床的研究において重要なポイントは、〈いま・ここ〉の当事者性にいかにアプローチするかということにある。演劇的手法と会話分析を組み合わせたアプローチによって、当事者性を可視化しつつ、研究する者自身が当事者の〈いま・ここ〉を再体験する研究法について、具体例を交えつつ紹介していく。	同上  (協力： 中根 真 (龍谷大学 短期大学部 准教授))	同上  ゲスト： 中根 真 (龍谷大学 短期大学部 准教授)
8	現代高校生の進路選択と支援の取り組み	フリーターやニートの問題が注目される今日、高校の進路指導の在り方が問われている。こうした中で、筆者自身が取り組んでいる進路選択支援の取り組みを踏まえ、高校生の進路選択意識のあり様と、その変容にむけた支援の在り方を検討する。	酒井 朗  (協力： 千葉 勝吾 (都立高校 教諭))	酒井 朗  ゲスト： 千葉 勝吾 (都立高校 教諭)
9	学校不適応問題に対する校種間連携の意義と課題	学校不適応の要因の1つとして指導や学校文化が校種毎に違うことが指摘されている。その現状と問題の背景を読み解くとともに、幼小連携、小中連携の意義とその実践にむけた原理的検討を行う。	同上	同上
10	ニューカマーと学校教育	「ニューカマー」と呼ばれる外国人児童生徒の学校経験、およびかれらを受け入れた学校現場における対応のありように注目することで、日本の学校教育の特質と課題が明らかになる。外国人児童生徒への支援を実りあるものとするには、何をどのように認識し、どのような問いの立て方をする必要があるのかを検討したい。	児島 明 (和光大学 専任講師)	児島 明 (和光大学 専任講師)
11	学校教育とジェンダー問題	近年の学校現場では、男女の望ましい関係やそれを達成するための取り組みに関して、異なる見解が錯綜している。様々な見解を典型的に把握することで、学校現場でのジェンダーをめぐる混乱の背景を理解し、ジェンダー問題とどう向き合うべきかを考える。	多賀 太 (久留米大 学准教授)	多賀 太 (久留米大 学准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
12	青年期とジェンダー	青年期の葛藤や問題行動の多くは、その様相が男女で大きく異なるが、そうした男女差が生じる社会的背景が改めて問われることは少ない。ジェンダーの視点からとらえ直すことで、青年期の諸問題を多角的に理解し、問題への取り組み方を考える。	同 上	同 上
13	少年非行と学校	近年その増加や凶悪化が喧伝される少年非行は、学校との関連で論じられることが多い。しかしこれはどこまで妥当なのだろうか。少年非行と学校の関連を冷静にとらえなおし、学校現場で何ができるか、何をすべきかを考える。	伊藤 茂樹	伊藤 茂樹
14	ケータイ、インターネットと青少年	社会の情報化の進展が青少年の生活や人間関係に及ぼす影響を、ケータイ、インターネットを例に検討するとともに、予想される問題とそれへの対応について検討する。	酒井 朗  (協力： 千葉 勝吾 (都立高校 教諭))	酒井 朗  ゲスト： 千葉 勝吾 (都立高校 教諭)
15	まとめー社会変容とこれからの学校教育	授業の目標に掲げた3点に沿って、この講義で扱った各トピックの意味や意義を整理する。それとともに、学校臨床社会学研究の今後の発展の可能性ならびに実際に研究を進めて行く上での倫理問題について検討する。	同 上	同 上

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8920524	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 学校臨床心理学特論 ('09) = (TV)

〔主任講師 (現職名) : 滝口俊子 (放送大学教授) 〕

〔主任講師 (現職名) : 高石浩一 (京都文教大学教授) 〕

### 講義概要

我が国における学校臨床心理学の発展は、1995年の公立中学校に対するスクールカウンセラーの試験的配置に始まり、現在小中高校など約10000校にスクールカウンセラーが配置されていることによって示されている。またその活動内容についても、特別支援教育や適応指導教室、緊急支援などにまで多岐にわたり、ますますその幅を広げつつある。これまでの学校臨床心理学の成果を概観すると同時に、今後のそのあり方を諸外国の例や識者の意見をもとに探っていききたい。

### 授業の目標

全15回の講義を通して、多岐にわたる学校臨床心理学の活動を概観し、特にスクールカウンセラーが具体的にどのように関わっているかを理解すると共に、今後目指すべき方向性を模索する姿勢を学ぶことを目標とする。学校現場で単に受身に起こってくる事態に対処するだけでなく、自ら能動的に動くことができる臨床心理士の養成を最終目標とする。

### 履修上の留意点

「スクールカウンセリング('05)」、「乳幼児・児童の心理臨床('07)」を参考に履修することが望ましい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	我が国の学校臨床心理学	我が国の学校臨床心理学が、どのように発展してきたか、その推移と、スクールカウンセラーのシステム作りの工夫について、紹介する。さらに学校臨床心理学の今後について考える。  【キーワード】 教育と心理臨床、文部科学省、学校臨床心理士専門委員会	滝口俊子(放送大学教授)	滝口俊子(放送大学教授)
2	学校臨床心理学の実践～小・中学校の場合	子どもの成長の課題について、小学生・中学生の問題や昨今の子どもの傾向などを紹介する。問題の低年齢化、家庭環境の変化などに伴い、幼児期のカウンセリングの要請も多いので、保育カウンセリングについても取り上げる。  【キーワード】 スクールカウンセリング、保育カウンセリング、発達課題、発達障害、家庭環境、友人関係	滝口俊子(放送大学教授)	滝口俊子(放送大学教授)
3	学校臨床心理学の実践～高校・大学の場合	義務教育以降の高校・大学における学校臨床は、その進学率の高さから、小中学校の義務教育機関と同様の問題を抱えながら、同時に機関の特殊性に基づいて休退学の容易さ、その後のフォローのあり方など、対応に微妙な違いがある。そうした機関の特殊性を考慮した学校臨床のあり方を論じる。  【キーワード】 休退学、学生相談	高石浩一(京都文教大学教授)	高石浩一(京都文教大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	不登校をめぐる支援	近年、不登校状態の子どもたちの背景となる心理的・社会的な状況が多様化してきている。この現状について整理した上で、学校教育システムの中での多面的な不登校支援の仕組みについて、適応指導教室、別室登校、スクールカウンセラーからの支援の役割について論じる。  【キーワード】 不登校、適応指導教室、別室登校	香川克(京都文教大学准教授)	香川克(京都文教大学准教授)
5	いじめ・非行をめぐる支援	昨今、教育現場で起こる自殺などの、大きな引き金として注目されているいじめ、非行といった問題に対して、どのように考え、具体的に対処していけばよいかを考える。とりわけ、加害者・被害者双方の支援のありかたといった観点から、単なる悪者探しに終わらない支援の方向性を探求していきたい。  【キーワード】 いじめ、加害者・被害者支援	吉田圭吾(神戸大学准教授)	吉田圭吾(神戸大学准教授)
6	発達障害をめぐる支援	落ち着かない子ども・対人関係に問題を抱える子ども・学習に困難を抱える子どもに、LD・ADHD・高機能広汎性発達障害など発達障害の観点から、「特別支援教育」が学校教育の中で始められている。学校臨床心理士は発達障害やその周辺の子どもたちに対して、どのような支援が出来るかについて論じる。  【キーワード】 発達障害、特別支援教育	香川克(京都文教大学准教授)	香川克(京都文教大学准教授)
7	危機介入と緊急支援	事件・事故・災害など、学校システム全体が揺らぐような事態が生じる場合、システム全体を視野に入れながら心理的な支援活動を行うことを“緊急支援”と呼ぶ。また、暴力被害や非行など、当該の児童生徒や家族に対して、個別的ではあるが緊急性の高い“危機介入”を求められる場合もある。このような際のスクールカウンセラーの活動について論じる。  【キーワード】 学校システム、緊急支援、危機介入	香川克(京都文教大学准教授)	香川克(京都文教大学准教授)
8	諸外国の学校心理臨床	諸外国、とりわけ学校臨床の先進国である欧米の学校臨床心理学的支援の展開、現状について学習すると同時に、実際の学校臨床心理学的支援について、体験者などのお話をもとに、我が国でも導入可能な学校現場における心理臨床の方向性を探る。  【キーワード】 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー	高石浩一(京都文教大学教授)	高石浩一(京都文教大学教授) 吉田圭吾(神戸大学准教授)
9	教師との連携・支援体制づくり	スクールカウンセラー制度はかなり定着してきたが、スクールカウンセラーと教師との連携は学校ごとに大変難しい場合もある。教師とスクールカウンセラーがお互い十分納得して連携するために必要な条件や校内教育相談システムについて議論し、合わせて学校の保護者・子どもへの支援体制づくりについて考察する。  【キーワード】 スクールカウンセラー、教育相談、教師との連携	吉田圭吾(神戸大学准教授)	吉田圭吾(神戸大学准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	保護者への対応	近年学校を揺るがす保護者からの教育現場への過剰な要求、それに対応する教師の悩みが数多く報告されている。“困った親”にはどのようなタイプがあるのか、タイプごとの教師の対応の仕方、“困った親”に対する基本的な態度などを論じながら、保護者との連携の基本原則について多面的に考察していく。  【キーワード】 “困った親”、保護者の罪悪感、保護者との連携	吉田圭吾(神戸大学准教授)	高石浩一(京都文教大学教授)
11	学校を越えて一家庭訪問、メール	教育現場は学校だけではない。教育委員会や適応指導教室、さらには地域の不登校児を受け入れるNPOなどさまざまな団体、病院や保健所との連携もまた、学校臨床の視野に入りつつある。インターネットの利用や家庭訪問など、学校という枠を越えるスクールカウンセラーの活動について考察してみたい。  【キーワード】 家庭訪問、メール、適応指導教室	高石浩一(京都文教大学教授)	高石浩一(京都文教大学教授)
12	学校臨床のアセスメント	学校臨床心理学におけるアセスメントとは、児童生徒のアセスメント、保護者や教師のアセスメントに加えて、学校システム全体に関するアセスメントも含まれる。その具体的な方法や姿勢、さらには学校臨床への活用の仕方について、守秘義務との関連も視野に入れながら考察してみたい。  【キーワード】 学校アセスメント、心理テスト	高石浩一(京都文教大学教授)	高石浩一(京都文教大学教授)
13	スクールカウンセラーの研修	学校臨床心理士(スクールカウンセラー)は、面接室で児童・生徒・保護者・教職員に面接すると共に、面接室外での諸活動がある。多様な要請に応えられるスクールカウンセラーとして不可欠な研修、心理臨床の力量をあげるために不可欠なスーパーヴィジョンについても、詳述する。  【キーワード】 大学院教育、事例検討会、研修会、スーパーヴィジョン	滝口俊子(放送大学教授)	滝口俊子(放送大学教授)
14	スクールカウンセラーへの期待(1)	学校臨床心理学は研究も大切であるが、子どもたちの成長・発達に役に立たなくては意味がない。子どもの関係者の声に耳を傾ける。  【キーワード】 信頼関係、連携、広い深い視野	滝口俊子(放送大学教授)	滝口俊子(放送大学教授)
15	スクールカウンセラーへの期待(2)	教育に深くかかわる方に、スクールカウンセラーへの期待と要請を語っていただく。  【キーワード】 教育の未来、教育委員会、学校文化、宗教性	滝口俊子(放送大学教授)	滝口俊子(放送大学教授)

# ＝ 生涯学習論（‘06）＝（R）

－現代社会と生涯学習－

〔主任講師（現職名）： 岩永 雅也（放送大学教授） 〕

## 全体のねらい

先進諸国の教育システムにおいて、生涯学習あるいは生涯教育という概念が重要な位置を占めるようになってから、すでに30年余りが経過した。その間、多くの社会で人々の教育水準や知的レベルが上昇したが、技術革新の一層の進展には人々にそれを上回る勢いでより高度な社会生活上の技能の獲得を求めるようになってきている。さらに、少子高齢化、産業の空洞化と経済システムの変質といった社会経済的要因の変動も著しい。そうした中であって、生涯学習自体も大きく変化している。旧態依然とした理念はすでに有効性を著しく減じ、時代と人々の変化に即応した新しい生涯学習のあり方がさまざまに模索されているのが現状である。本講義では、そうした今日的な状況をふまえ、社会全体から問題を把握していくというマクロな立場から、まず現代社会における生涯学習概念の出自を俯瞰し、ついで生涯学習を取り巻く現代社会の諸環境を概観する。さらに、行政、経済、産業といった社会の諸相と生涯学習の関わりについて整理し、近似の環境を有する世界各国の生涯学習の現状を見た上で、生涯学習がわれわれの生きる現代社会においていかなる意味を持っているのか、また持とうとしているのかについて考察を進める。本講義の履修にあたっては、ミクロな分析視点に立つ学部科目『生涯学習と自己実現』の履修もあわせてお勧めしたい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	生涯学習の理念	生涯学習の理念はどのような背景のもとで、いつ、どのようなものとして登場し、社会にどう受け入れられてきたのだろう。ここでは、まず生涯学習の出自とその背景を整理し理念の変遷を跡付けることで、生涯学習を社会全体の視点から検討するという姿勢を明確にしていく。	岩永 雅也	岩永 雅也
2	近代化と教育	近代国民国家は、例外なく学校教育制度を近代的国民の形成に利用してきた。そうした近代化における国民教育としての学校教育の意味と役割について検討する。その上で、特にわが国の明治初期に早生的に萌芽していた生涯学習的理念的国民教育的理念への転換についても考察を加える。	岩永 雅也	岩永 雅也
3	人材養成と学校教育	わが国は、戦後教育改革以後、高度経済成長期を経て、学校教育による付与資格が労働市場での人材配分の大勢を決するという、いわゆる「学歴社会」のシステムを作り上げてきたといわれている。生涯学習の理念とは対極にあるともいえるその人材育成・配分システムについて検討する。	岩永 雅也	岩永 雅也

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	職業と教育訓練	わが国は、伝統的に OJT(就業しながら技能を修得する)の比重が高い社会であった。しかし、生産技術や情報技術の著しい進歩は、OJT 中心の技能修得を困難にしつつある。労働とその技術習得を巡る環境変化と、新しいリカレント教育の潮流について紹介し、その今日的な意味を探る。	岩永 雅也	岩永 雅也
5	成人教育と社会教育	成人教育には、移民や長期滞在外国人に対する再教育という政策的側面があったが、広義の社会政策の視点から、伝統的な成人教育の政策的な意義とその変遷、そして現代の生涯学習への継続性といったテーマを詳細に検討する。また、その日本的な形態である社会教育が社会の多様化と自由化の潮流の中で大きく変容しつつある現状についても俯瞰し、その歴史的な意義についても整理して考察する。	岩永 雅也	岩永 雅也
6	学校と社会の連携	従来は全く別個のシステムと考えられてきた学校と社会教育あるいは地域での学習も、少子高齢化の進展とともにその連携が積極的に主唱されるようになった。しかし、歴史的に異質なものとして存在してきた両者の連携・融合には多くの問題も併存している。ここでは、学社連携、学社融合の意義と課題について、現状を基に考察を進める。	岩永 雅也	岩永 雅也
7	大学と生涯学習	大学をはじめとする高等教育機関は、これまで比較的生涯学習に冷淡であったが、国立大学の独法化を契機として大学等の生涯学習への関心は高まりつつある。現在のその両者の関係について、事例に則しつつ具体的に検討する。	岩永 雅也	岩永 雅也
8	余暇と生涯スポーツ	労働環境の変化、あるいは主婦のライフコースの変化に伴い、自由裁量時間のあり方が質量ともに変化してきている。また、余暇活動の一環としてのスポーツ活動も変わりつつある。日本人の余暇生活とスポーツ活動の変化をさまざまな側面から検証し、それが生涯学習とどう関わっているかについて実証的に検討する。	岩永 雅也	岩永 雅也

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
9	行政による生涯学習支援	多くの行政主体では、社会教育からの継続性を保ちながら生涯学習に関する支援施策が行われている。行政による生涯学習支援の現状と問題点を具体的に考察し、あわせて生涯学習指導者のリクルートや育成が地域的にどのように行われているかについても検証する。また、生涯学習に関わるボランティア活動や情報提供、データベース（バンク）などについてもその現状を紹介する。	岩永 雅也	岩永 雅也
10	生涯学習市場の展開	今日、生涯学習者とその潜在的希望者は、市場全体から見ても決して無視し得ないだけの巨大なマーケットを形成しつつある。生涯学習それ自身が、一つの確立した事業分野として成立しているのである。事業あるいは経済活動としての生涯学習、生涯教育はどのように発展してきたのか、また現在どのような問題と発展の可能性を持っているのかといった諸点を、主に経済的な観点から考察する。	岩永 雅也	岩永 雅也
11	海外の生涯学習 (1)	わが国の生涯学習を考える上で、他の諸国の生涯学習の現状を知ることは重要である。そこで、前後二回にわたり世界各地の生涯学習の歴史と現状およびその特色を紹介する。ここでは、特に、近代学校教育制度が発祥し、生涯学習理念もそこに起源を持つヨーロッパ諸国を中心に取り上げ、その伝統と社会変動との狭間で多様な可能性を模索する現状を紹介する。	岩永 雅也	岩永 雅也
12	海外の生涯学習 (2)	前回に引き続き、世界各地の生涯学習の現状とその特色を紹介する。ここでは、現在生涯学習の最先進国であるアメリカ、さらに、ヨーロッパから100年以上も遅れて近代化の歩みを開始したアジアの二つの国、中国と韓国を取り上げる。これらの国々では、社会経済的発展の過程もヨーロッパ各国とは大きく異なり、また、それ故に生涯学習を取り巻く環境も著しく違っていたといえる。それらの国々における生涯学習の状況を把握することによって、ヨーロッパ諸国とは異なる観点から生涯学習システムを見ていく。	岩永 雅也	岩永 雅也

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
13	情報通信技術と 生涯学習	情報通信技術の飛躍的な進展によって、生涯学習者、とりわけ個別在宅学習者にとって非常に強力な学習ツールが提供されるようになった。IT時代とも呼ばれる現代と近未来のメディア環境を概観し、IT化の生涯学習への影響と今後の可能性について考察する。また、放送大学同様にメディアを利用して遠隔教育を行っている各国の諸大学の現状を紹介し、その社会的背景と課題についても考察する。	岩永 雅也	岩永 雅也
14	生涯学習の評価 と調査	生涯学習は、ややもすると施設や機会の提供、支援システムの構築といったインプットのみで語られがちであって、その成果や学習者の達成についての評価調査が見落とされる傾向にある。ここでは、生涯学習への評価および学習者の意識などを調査する具体的な方法について学習する。	岩永 雅也	岩永 雅也
15	生涯学習の課題 と展望	ごく近い将来、すべての定型的な教育が生涯学習を軸に統合され、学ぶことに関する限り規制や障害のない「学習社会」が出来ると期待されている。しかし、その実現のためには、多くの問題が解決、改善されなければならない。望ましい学習社会を実現するための条件、課題にどのように取り組んでいくべきかについて議論を展開する。	岩永 雅也	岩永 雅也

= 人間情報科学と eラーニング ( ' 0 6 ) = (TV)

- [ 主任 講 師 (現職名) : 野嶋 栄一郎 (早稲田大学教授) ]  
 [ 主任 講 師 (現職名) : 鈴木 克明 (熊本大学大学院教授) ]  
 [ 主任 講 師 (現職名) : 吉田 文 (早稲田大学教授) ]

全体のねらい

高度情報化社会の技術革新を利用した教育改革が e-learning である。しかし、e-learning は教育改革である以上、人間の側のサイエンスから変革をされていかねばならない。情報科学と教育科学の間に立って、教育の革新を進める原動力としての人間情報科学を提案する。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	人間情報科学と e-learning 概説	日本における e-learning の状況 インターネットという技術革新を教育改革につなぐ 人間情報科学	野嶋栄一郎 (早稲田大 学教授)	野嶋栄一郎 (早稲田大 学教授)
2	「人間情報科学」 より「人間と映 像の関わり」を 考える	人間情報科学の必要性 人間情報科学と認知心理学 人間と映像 マルチメディア学習と認知心理学	中島義明 (早稲田大 学教授)	中島義明 (早稲田大 学教授)
3	ネットワーク社 会における学習 環境のデザイン	生態学的学習環境モデル 情報技術による学習環境のデザイン 社会的構成主義とネットワーク利用による学習	菅井勝男 (大阪大学 名誉教授)	菅井勝男 (大阪大学 名誉教授)
4	ネットワーク社 会における情報 教育	インターネットが教育に果たす役割 学校と社会の違い 我国の情報教育 ソーシャルプレゼンス	赤堀侃司 (東京工業 大学大学院 教授)	赤堀侃司 (東京工業 大学大学院 教授)
5	インストラクシ ョナルデザイン (ID) とは何か	ID の生みの親ガニエ教授の研究業績を中心に、ID の 目標は教育の効果・効率・魅力を高めることである ことを解説する。 あわせて、動機づけを扱った ARCS モデルの提案者 ケラー教授と ID モデルを集大成したテキストの編 者ライゲル教授の訪問インタビューから、ID モ デルの実際を紹介する。	鈴木克明 (熊本大学 大学院教 授)	鈴木克明 (熊本大学 大学院教 授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
6	システムのアプローチと学習心理学に基づく ID	IDの歴史に詳しいリーサー教授と評価の4段階モデルの提唱者カークパトリック教授へのインタビューを交えて、IDの歴史を概観する。あわせて、ゴールベースシナリオ理論の提唱者シャンク教授のインタビューを交えて、行動主義・認知主義・構成主義の学習心理学に基づいた ID モデルの実際について紹介する。	鈴木克明 (熊本大学 大学院教授)	鈴木克明 (熊本大学 大学院教授)
7	自己管理学習を支える構造化技法と学習者制御	e-learningに必要な自己管理学習を支えるID技法について構造化と学習者制御の概念を中心に紹介する。教授カリキュラムマップの提唱者ウェージャー教授、精緻化理論の提唱者ライゲルース教授、画面構成理論の提唱者メルル教授のインタビューを交える予定。	鈴木克明 (熊本大学 大学院教授)	鈴木克明 (熊本大学 大学院教授)
8	e-learning における学習者中心設計と ID の今後	講義中心の学習環境を再設計する手段として WebPSI による大学の授業実践例を紹介しながら、学習者中心設計の原則に基づいた対面講義そのものの再設計について解説する。e-learning と ID の今後について、訪問インタビューからメッセージをまとめて紹介する。	鈴木克明 (熊本大学 大学院教授)	鈴木克明 (熊本大学 大学院教授)
9	我国の高等教育に見る e-learning	信州大学大学院の e-learning 東北大学大学院の e-learning 園田学園女子大学の e-learning	野嶋栄一郎 (早稲田大 学教授)	野嶋栄一郎 (早稲田大 学教授)
10	早稲田大学における e-learning の実践と評価	早稲田大学 e スクールの立ち上げと背景 早稲田大学 e スクールの構成 授業のライブ撮影とブロードバンド 教育コーチの役割と評価 教育の時間的、空間的拡大	野嶋栄一郎 (早稲田大 学教授)	野嶋栄一郎 (早稲田大 学教授)
11	我国の企業内教育と e-learning	我国の企業内教育の現状と問題点を整理し、今起きているパラダイムシフトとそこにおける e-learning の役割についてのべる。また、企業内教育での e-learning の導入事例 (NTT 東日本、フォーラムエンジニアリング、日本ユニシス) から、教育モデル、評価モデル、運用モデルを整理、概観し、その現状と課題を整理する。	松居辰則 (早稲田大 学教授)	松居辰則 (早稲田大 学教授)
12	高等教育における e-learning の世界的展開	高等教育の世界における e-learning は、1990 年前後にアメリカにおいてはじまった、比較的新しい現象であり、それは瞬く間にヨーロッパやアジアにおいても普及した。それぞれの地域での普及の程度や様態を、e-learning 提供機関の形態、提供プログラムの内容、教職員や学生の特徴から概観し、高等教育における e-learning の特色を把握する。	吉田 文 (早稲田大 学教授)	吉田 文 (早稲田大 学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
13	e-learning による高等教育システムの変容	e-learning が高等教育システムに導入されたことによって、従来の高等教育システムでは想定していなかった事態がいくつか生じているが、ここでは、ミクロな観点からみた提供プログラムの質保証の問題と、マクロ的にみたグローバリゼーションという問題とが交差する、アクレディテーションに焦点を当てて論じる。	吉田 文 (早稲田大学教授)	吉田 文 (早稲田大学教授)
14	e-learning が開く高等教育の未来	インターネットの特性は様々であるが、ここではオープンネス（公開性）に焦点を当てて、その特性が新たな知の構築にどのような可能性を秘めているかを、MIT によってはじまった OCW (Open Course Ware)、カーネギー財団の知識メディア研究所の CASTLE などアメリカで開始されたいくつかのプロジェクトから考察することを目的とする。	吉田 文 (早稲田大学教授)	吉田 文 (早稲田大学教授)
15	e-learning は教育の変革にどのように寄与するか	日本の高等教育における e-learning 展開の実情 e-learning は教育の何を変えうるか？ 人間情報科学と e-learning 再考	野嶋栄一郎 (早稲田大学教授)	野嶋栄一郎 (早稲田大学教授)

事務局 記載欄	開設 年度	平成 19 年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8940266	履修 制限	有	単位 数	2
------------	----------	----------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 発達心理学特論 ( ' 0 7 ) = (TV)

[ 主任講師 (現職名) : 内田 伸子 (お茶の水女子大学副学長) ]  
 [ 主任講師 (現職名) : 氏家 達夫 (名古屋大学教授) ]

### 講義概要

「生涯発達」・「生涯学習」の視点に立って、ヒトの発達過程を、気質、感情、対人関係、自己意識、言語、思考などの諸相から最新の知見を紹介しながら講義する。臨床知と学問知を架橋するためのコラムを手がかりにして人間の生涯発達過程について理解を深め、さらに発達研究の実証的な方法を知ること、さらに発達研究の方法論について考察する。

### 授業の目標

ヒトは回りの人々との対人的なやり取りを通して人間化、文化化へ道程をたどる。生涯発達の過程では生物学的制約を受けながらも、環境からの入力によって、さらに自分自身の自己意識や自由意志の力によって発達を遂げる。人間は生涯発達し続け、自己をつくりかえていく存在である。講義から人間発達の可塑性の大きさを実感すると共に、自分自身の生き方を省察し、生きることの意味に到達することが目標である。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	発達をとらえる： 生得-経験論争	発達心理学では、生まれか育ちか、経験か生得かをめぐる20世紀の間に心理学における「発達」の捉え方がどのようにかわってきたか、1960年頃から盛んになった相互作用説、さらに1980年代から出てきた文化文脈説、21世紀に意識されはじめた歴史的視点の導入など、言語と認識の起源を探るための方法論を例として取り上げ、発達研究に進化心理学や比較行動学、歴史心理学の視点の意義を述べる。これを踏まえて、今後、発達心理学はどのような方向に発展していくべきかについて論考を進める。	内田伸子 (お茶の水女子大学副学長)	内田伸子 (お茶の水女子大学副学長)
2	子どもは変わる、大人も変わる： 人間発達の可塑性	ヒトとして生まれても、生物学的要因、社会・文化的要因の一つでも十分に機能することなしには人間にはなれない。発達心理学領域では遺伝か環境かをめぐる論争が繰り返されてきた。本章では人間発達を規定する要因は遺伝か環境か、発達はどこまで可塑的なのかについて考察する。現代社会は大人にとってストレスがきわめて高い。そのしわよせは無力な子どもたちに向かう。子どもの自律を阻む過保護の親、幼児初期から子どもの将来へのレールを敷いて塾に通わせ、文字や数の訓練を開始する親がいる。その一方で、親自身も孤立し養育放棄や虐待に走る。過保護と虐待、現象的には反対だが、子どもを支配し、その発達を阻む点ではどちらも同じである。このような歪んだ環境の中で心身ともに深く傷つきながらも見事に立ち直り発達を遂げていく子どもたち。彼らの姿は、人間の発達がいかに可塑性に富んでいるかを劇的に示してくれる。	同上	同上

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
3	感じる心：情動の発達	情動の研究がさかんに行われるようになってきた。情動の脳モデルや進化心理学が注目されているし、情動の機能主義的モデルがますます広く受け入れられるようになった。この章では、情動の理論として、これらのモデルや考えを紹介する。情動の機能主義的モデルによれば、情動は個人の行動やそれともなう環境との関係の変化と連動しながら発達する。発達のプロセスで起こっていることを示す研究やデータを紹介しながら、情動発達の仕組みについての考察を進める。最後に、情動と社会的行動や問題行動との関係を取り上げる。	氏家達夫 (名古屋大学大学院教授)	氏家達夫 (名古屋大学大学院教授)
4	思い出はどこから：出来事の記憶と想起	幼児は2, 3歳になると、見たことや体験したことの記憶を話すようになる。また、多くの大人にとって、過去を振り返り思い出すことができるのは、2, 3歳頃からの記憶である。日常的な些細な出来事から人生を左右するような重大な出来事まで、特定の時間、場所で起きた、体験や出来事の記憶は「自己」の履歴となり、現実感を維持し、将来への展望をつくりだす。このようなエピソード記憶の成立を支える要因は何か。体験を分かち合うことを促す対話、自己の感覚、そして、いつどこで体験したかという情報源の特定が重要な要因として考えられている。	仲真紀子 (北海道大学大学院教授)	仲真紀子 (北海道大学大学院教授)
5	想像する心：思考と談話の成立	ことばは象徴機能を基礎にして成立し、人とのやり取りの手段として、また内的なモデル(表象)を構成する手段となる。やがて、象徴機能を基礎として想像力が開花し幼児期を通して発達するのと軌を一にして、ディスコース(談話や物語)が生成されるようになる。人は、世界を語り、自己を語る。ことばは世界を認識し、自己意識を形成する有力な手段となる。	内田伸子 (お茶の水女子大学副学長)	内田伸子 (お茶の水女子大学副学長)
6	情報を分かち合う：出来事の報告と目撃証言	双方向コミュニケーションの多くは、質問、あるいは情報提供の依頼と応答、すなわち情報提供からなっている。大人と子どものコミュニケーションも同様であり、多くの場合、大人が質問や問いかけを行い、子どもがそれに答える。日常生活ではこれでもく事が運ぶことが多い。しかし、例えば事故や事件の報告を求めるなど、子どもしかもっていない特定の情報を大人が得ようとする場合には、このようなコミュニケーションの形態が妨害として働くことがある。質問、とくにクローズ質問を繰り返すと答えが変わってしまう、前に尋ねた質問の内容が次の質問の答えに反映されるなど、種々の弊害が知られている。こういった問題を踏まえ、自発的な報告を主体とした面接法が開発され、実用にも付されている。	仲真紀子 (北海道大学大学院教授)	仲真紀子 (北海道大学大学院教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
7	心を読み取る： 心の理論の発達	幼児期の子どもたちにおいて、自分が知っていることは人も知っているかのような行動がよく普通に見られる。「自己中心的思考」とか「自己他の区別の未分化」などと呼ばれてきた問題は、この四半世紀余の間に「心の理論」というテーマで研究が進んできた。心を理解するという事は、物を理解するという事とは違った別の難しさをはらんでいる。しかし、子どもたちは幼児期の4歳から6歳の間に、心を読み取る能力獲得の最初のステップに立ち、そのことが子どもの思考や行動を豊かにしていく。心を読み取る能力は、集団生活を送る人間が進化の過程で身につけてきた能力であり、霊長類研究やロボット研究においても、ますます重視されるようになってきている。	子安増生 (京都大学 大学院教授)	子安増生 (京都大学 大学院教授)
8	心をはぐくむ： 自律性の発達	人間の発達を自律性の側面からとらえることができる。子どもは、養育者との関係の中で自律性を発達させる。自律性の発達にとって、子どもの行動発達や気質特徴が重要な意味をもつ。子どもの運動能力や認知能力の発達にとともに、子どもは自分の行動や情動の制御のパターンを変化させるし、養育者の子どもに対する行動も変化する。養育者の行動と子ども自身の特徴との間には交互作用があることもわかっている。また、子どもの行動に対する親の行動は、親が所属する文化や社会的条件の影響を受ける。	氏家達夫 (名古屋大学 大学院教授)	氏家達夫 (名古屋大学 大学院教授)
9	才能をはぐくむ： 多重知能理論と教育	人の能力は、相対的に独立したいくつかの機能単位(モジュール)から成り立っているという考え方が、この20年ほどの間に有力視されるようになってきた。多重知能理論では、人間の能力を学校知能、社会的知能、芸術的知能に大別する。心にモジュール性があるということは、それぞれの知能が相互に独立して発達するという事である。特定の才能を発達早期から鍛える英才教育と、さまざまなモジュールを広く満遍なく育てる全人教育は、一見すると正反対の目標に立っているようだが、いずれも知能のモジュール説からみれば妥当な考え方である。すなわち、知能のモジュール説を学ぶことは、教育のあり方を考える上で大きな示唆を与えてくれるものである。	子安増生 (京都大学 大学院教授)	子安増生 (京都大学 大学院教授)
10	三つ子のたましい： 幼児教育の実践の特徴	今日ではほとんどすべてのこどもが何らかの幼児教育の経験を経ている。ここでは、家庭における養育や親子関係が幼稚園や保育園での経験とどのようにつながっていくのかを考えたい。また、日本の幼児教育における指導の方法やその基礎にある教師たちの信念の特徴を主にアメリカと比べてより明確にしたい。	臼井 博 (北海道教育 大学教授)	臼井 博 (北海道教育 大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	学びを学ばせる：学校文化の談話構造	幼児期の終わり頃までには、子どもは二次のことば、すなわち、読み書きの世界への第一歩を踏み出す。読み書きを媒介にして子どもの世界は時間・空間を隔てた伝達を可能にし、子どもの意識は「今」「ここ」を超えて広がるようになる。また、文字はことばについてメタ的に捉えることを可能にする。児童期の終わりにはメタ認知能力と思考操作の深化に伴い、三次的ことばに変化し、考える手段としてのことばは一層確実なものになる。個人的なやり取りの中で育まれた生活言語は質的に改変され、公共性の高い言語を獲得するようになる。本章では子どもが読み書き能力をどのように獲得していくか、また、読み書き能力の獲得が子どもの認識過程にどのような影響を及ぼすか、書くことと考えること、感じること、さらに振り返ることとの関係について考察することにより、学校文化の学びの意味を考える。	内田伸子 (お茶の水 女子大学副 学長)	内田伸子 (お茶の水 女子大学副 学長)
12	メディアからの学び：子ども文化と発達	現代の子どもたちは、生まれたときから、テレビ、ビデオ、テレビゲーム、コンピュータ、携帯電話などさまざまなメディアに取り囲まれて生活している。子どもたちは、このようなメディアからどのようなことを学んでいるのだろうか。子ども向けの番組でも、それをきちんと理解するには、映像文法の理解など、多くの前提を必要としている。また、メディアの中には、子どもの発達を妨げたり、歪めたりするものはないのだろうか。本当に「2歳までの子どもにテレビを見せてはいけない」のだろうか。子どもの発達にとってメディアはどのような役に立つのだろうか。この章では、子どもの文化の中に根づいているさまざまなメディアと発達の関係について考えてみよう。	子安増生 (京都大学 大学院教授)	子安増生 (京都大学 大学院教授)
13	学びつつける心：小学校6年間の発達	学童期という名称があるように、この時期の子どもの生活時間のなかで一番多くの時間を学校で過ごす。ここでは主に小学校の6年間の子どもの発達の姿を見ていきたい。この時期の重要な発達課題の一つは、社会の構成メンバーとして必要な基本的な知識や技能の習得であり、それは学校の全体的なカリキュラムを通じてなされるが、授業がそのもっとも中心的なものである。その授業の特徴、そこでどのようなことが学ばれているのかを見ていきたい。また、学習に対する動機づけの性質とその学童期を通じての変化についても考えてみたい。	臼井博 (北海道教育 大学教授)	臼井博 (北海道教育 大学教授)
14	子どもと大人のはざま：青年期の意味	青年期の課題を自律—自立の問題と捉える。学童期から青年期にかけて、参照集団が親から仲間へと変化する。しかし、親の提供する行動基準や価値は役割を失うわけではない。早期の自由は必ずしもよい結果を生まないし、非行などの問題行動に対する仲間の影響は、親との関係で緩衝される。自律—自立の問題は、アイデンティティの問題でもある。青年	氏家達夫 (名古屋大学 大学院教授)	氏家達夫 (名古屋大学 大学院教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
		は社会からの認証と自分らしさの間の葛藤を解消しなければならない。アイデンティティ確立のプロセスを、それを妨害する要因と関連づけて考察する。		
15	幸せを求めて： 生病老死の発達 心理学	加齢についての研究がさまざまな角度から進められている。この章では、加齢がわれわれの心の状態や能力にどのような影響を及ぼすのかを検討する。加齢は、基本的に生物学的現象である。しかし、加齢による変化には大きな個人差があることがわかっている。その個人差は、部分的に遺伝子レベルや物質代謝のレベルで理解されるが、心理学的要因が大きく関与していることも事実である。この章では、加齢の生物学モデルを前提に、加齢の個人差に対する心理学的要因の効果を検討することで、サクセスフル・エイジング（アンチ・エイジング）のための心理学的条件を明らかにする。	氏家達夫 (名古屋大学大学院教授)	氏家達夫 (名古屋大学大学院教授)

＝ 臨床心理学特論（'05）＝（R）

〔主任講師：橋 玲子（新潟青陵大学大学院教授）〕  
 〔主任講師：齋藤 高雅（放送大学教授）〕

全体のねらい

臨床心理学特論では心理臨床活動の基礎となるさまざまな考え方（パラダイムや学派）や心理臨床に必要な知識や技法を述べる。心理臨床は多様な現場を持っているので（たとえば教育臨床とか病院臨床など）、それぞれの対象によって違いはみられるものの、こころの専門家として理解しておかなければならない基本的な視点が存在する。このような観点から、臨床心理学的知識や技法が心理臨床活動にどのように生かされていくのか、心理臨床行為の特異性は何か、また倫理の重要性などについて論ずる。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	臨床心理学とは	臨床心理学の研究分野、心理臨床家の活動領域、臨床活動と倫理の問題、心理臨床の教育と訓練について論ずる。	橋 玲子 (新潟青陵 大学大学院 教授)	橋 玲子 (新潟青陵 大学大学院 教授)
2	臨床心理学と 精神医学 1 臨床心理学の歴史	臨床心理学の誕生と精神医学との関係についてふれ、臨床心理学が確立する過程をアメリカと日本の例で述べる。	同 上	同 上
3	臨床心理学と 精神医学 2 心の病：神経症	心の病、特に神経症について、神経症の概念やその特徴、発症機制、治療について述べる。	馬場 謙一 (放送大学 客員教授)	馬場 謙一 (放送大学 客員教授)
4	臨床心理学と 精神医学 3 心の病：精神病	精神病的分類、主な精神病である統合失調症（精神分裂病）、躁うつ病、非定型精神病の紹介をする。	同 上	同 上
5	臨床心理学と 精神医学 4 心の病：心身症	心理的な負荷やストレスによって生ずる身体症状、心身相関の問題、心身症の種類、特異な心身症などについて述べる。	同 上	同 上
6	臨床心理学と 近接領域	臨床心理学にはたくさんの近接領域があるが、ここでは特に哲学と文化人類学について述べる。	橋 玲子	橋 玲子

臨床心理学プログラム

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
7	臨床心理パラダイム	臨床心理学にかかわる4つのパラダイム、生物学的、精神分析的、認知・行動論的、人間学派的パラダイムについて述べる。	橋 玲子	橋 玲子
8	心のはたらき1 無意識の発見	心のはたらき方には無意識の問題を避けて通れない。無意識の発見、精神分析学的立場からとらえる人間像について述べる。	齋藤 高雅 (放送大学 教授)	齋藤 高雅 (放送大学 教授)
9	心のはたらき2 自我と無意識の 関係	無意識のはたらきでは、特に自我との関係が重要になってくる。不安と防衛、自我の防衛機制、症状形成などについて述べる。	同 上	同 上
10	心のはたらき3 イメージと身体	無意識には意識に至るさまざまなチャンネルがある。その中からイメージと身体感覚を取り上げ、心理臨床との関連を述べる。	橋 玲子	橋 玲子
11	心と身体： 性を考える	心と身体に直接係わるものとして、性がある。性について臨床心理学の観点から考えてみる。	同 上	同 上
12	ライフサイクル 論1 乳・幼児期	発達の課題と心の問題について、精神保健および精神分析的発達論の観点から乳幼児期について述べる。	齋藤 高雅	齋藤 高雅
13	ライフサイクル 論2 児童期	先に続いて、児童期の精神保健と臨床心理学的特徴について述べる。	同 上	同 上
14	ライフサイクル 論3 思春期・青年期	思春期・青年期の臨床心理学的特徴について述べる。	同 上	同 上
15	ライフサイクル 論4 中年期	成人期・中年期の臨床心理学的特徴について述べる。	同 上	同 上

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
16	ライフサイクル 論5 老年期	老年期の臨床心理学的特徴について述べる。	齋藤 高雅	齋藤 高雅
17	心理アセスメン ト1 アセスメントと は	心理臨床とアセスメント活動について、特にアセスメント面接、心理検査、観察について述べる。なお、精神医学的診断についてもふれ、心理臨床家のアセスメントと比較検討する。	橘 玲子	橘 玲子
18	心理アセスメン ト2 アセスメント面 接	アセスメント面接の目的、すすめ方、その必要性など具体的な説明をする。さらに治療面接との違いにもふれる。	同 上	同 上
19	心理アセスメン ト3 心理検査	パーソナリティの説明、パーソナリティの全体的理解について述べる。これらとの関連で、心理検査のめざす点、テストバッテリー、心理テストの理論にもふれる。	同 上	同 上
20	心理アセスメン ト4 知能検査・質問 紙法	知能検査の歴史、知能の概念と検査の関連、利用上の留意点について述べる。質問紙法については、各質問紙法の構成と特徴を代表的検査で紹介する。さらに心理測定のお考え方についてもふれる。	同 上	同 上
21	心理アセスメン ト5 投映法	よく利用されている投映法であるロールシャッハ法、TAT、SCT、描画法を紹介する。投映法の特徴を知り、利用上の留意点を述べる。事例で心理テストの実践にふれる。	同 上	同 上
22	心理療法1 精神分析療法	フロイト,S.に始まる精神分析療法について概説する。治療関係、抵抗、転移、逆転移、行動化、その他重要な概念について述べる。	馬場 謙一	馬場 謙一
23	心理療法2 分析心理学的心 理療法	ユング,C.G.に始まるユング派心理療法について、そのもっとも基本的なところを紹介する。	大場 登 (放送大学 教授)	大場 登 (放送大学 教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
24	心理療法3 認知・行動療法	認知・行動療法における心理的援助活動の多様な方法について述べ、さらに心理臨床で使われる認知・行動療法の代表的な概念を説明する。ゲストを招いて放送する予定。	橋 玲子	橋 玲子 ゲスト 嶋田 洋徳 (早稲田大学教授)
25	心理療法4 来談者中心療法	ロジャーズ,C.による来談者中心療法の展開と特徴、その理念などについて述べる。ゲストと共に、ロジャーズの人柄や理論を紹介する。	同 上	橋 玲子 ゲスト 村山 正治 (九州産業大学大学院教授)
26	心理療法5 森田療法と内観療法	日本で発展した二つの心理療法、森田正馬が確立した森田療法と吉本伊作が開発した内観療法について紹介をする。	同 上	橋 玲子
27	心理療法6 臨床動作法	成瀬が発展させた臨床動作法について、特に身体を通しての心理的援助という視点を紹介する。ゲストと共に放送する。	同 上	橋 玲子 ゲスト 鶴 光代 (秋田大学教授)
28	心理療法7 児童の心理療法	児童の心理的な問題に対して行われる遊戯療法の紹介をする。また、養育者との面接の必要性と留意点について述べる。	滝口 俊子 (放送大学教授)	滝口 俊子 (放送大学教授)
29	心理療法8 集団心理療法	集団で行われる心理療法について、その考え方と実施の方法、個人療法との違い、適用範囲、今後の展開などについて述べる。	橋 玲子	橋 玲子
30	コミュニティと 心理臨床	学校臨床、被害者支援、HIV カウンセリングなど、コミュニティの中で展開する心理臨床は、これまでの心理臨床とは異なる視点が必要になっている。これらの代表的なテーマについて述べる。	同 上	同 上

事務局 記載欄	開設 年度	平成 19 年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8950172	履修 制限	無	単位 数	4
------------	----------	----------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 臨床心理面接特論 ( ' 0 7 ) = ( R )

[ 主 任 講 師 (現職名) : 大場 登 (放送大学教授) ]

[ 主 任 講 師 (現職名) : 小野 けい子 (放送大学教授) ]

### 講義概要

心理療法を行う臨床心理士には、外科手術のためのメスも、化学的に身体(脳)に働きかける薬も与えられていない。基本は、クライアントの心身が訴える声に耳を傾けること・セラピストの心身で受けとめること。しかし、この「心身が訴える声に耳を傾けつづけること」が如何に困難な営みであるか、そして、逆に、「一人の生きた人間(セラピスト)が、長期間にわたって耳を傾けつづける・受けとめつづけること」によって、クライアントの心身がゆっくりとではあるが、確実に「変容」の歩みを始めるものであることを、30章(4単位)にわたって詳細に論じる予定である。

### 授業の目標

実際の心理臨床の現場で臨床心理学的面接、ないし、心理療法を行ってゆくにあたって、臨床心理士にとって、もっとも基本となる姿勢・留意点、そして、心理療法技法論の基礎について体系的に学習することを目的とする。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	はじめに：心理療法とは？	心理療法とは一体どのようなものであるのだろうか？	大場 登 (放送大学教授)	大場 登 (放送大学教授) ゲスト： 川戸 圓 (大阪府立 大学教授・ ユング派分 析家)
2	耳を傾ける	悩みや問題をもって来談した方に、忠告や説得をしても、それが効を奏するのは、よほど問題の軽い場合である。心理療法において、サイコセラピスト(以下セラピストと略)は、クライアントの話にまず耳を傾け、そこに示される感情を受け入れてゆく。	小野けい子 (放送大学教授)	小野けい子 (放送大学教授)
3	心理療法の器 (1)	心理療法という営みは、基本的にはセラピストとクライアントの間で生起するが、この営みを抱え、保護するものとして「心理療法の器」が必要である。セラピストの守秘義務から始まって、面接時間・面接室・面接頻度・料金といった、「治療的枠組み」について考える。	小野けい子 (放送大学教授)	小野けい子 (放送大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	心理療法の器 (2)	「器」に保護される中で、心理療法のプロセスは初めて進行する。セラピスト自身もまた、心理的変容過程を守り保護する「心理療法の器」であるということができる。前章で述べた面接室、面接時間等につき、本章では、「心理療法の器としてのセラピスト」について述べる。	小野けい子 (放送大学 教授)	小野けい子 (放送大学 教授)
5	トピックス：心 理臨床の現場か ら—①児童相談 所	本講義では、トピックスとして、様々の心理臨床現場での実際の心理療法、個々の現場固有の特徴・経験・感動・困難さについても紹介してゆくことにしている。第一回の今回は、児童相談所における臨床心理士の仕事を紹介してみることしたい。	大場 登 (放送大学 教授)	大場 登 (放送大学 教授)  ゲスト： 高浪 恵 介 (埼玉県南 児 童 相 談 所)
6	初 回 面 接	「初回面接」はその後の長い心理療法の第一歩である。クライアントにとっても、このセラピストとやってゆくことができるかどうかを見極める機会であるのと同時に、もちろん、セラピストも面接を引き受けることにするか否かを決定する大切な面接である。	大場 登 (放送大学 教授)	大場 登 (放送大学 教授)  ゲスト： 森 さ ち 子 (慶應義塾 大学医学部 精神神経科 学教室)
7	心理療法とアセ スメント(1) -成人の場合	心理アセスメントは心理療法を開始するにあたって必要不可欠である。アセスメントが確実になされることが、その後の心理療法にとっての基盤となる。	齋藤 高雅 (放送大学 教授)	齋藤 高雅 (放送大学 教授)
8	心理療法とアセ スメント(2) -子どもの場合	年齢や性格によっては、心理検査を用いるアセスメントも行われるが、幼い子どもの場合は、プレイセラピーをしながらのアセスメントになる。また、親面接による情報も子どものアセスメントの素材となる。	滝口 俊子 (放送大学 教授)	滝口 俊子 (放送大学 教授)
9	他職種との連携	医療機関で心理療法を行う場合に限らず、医師を始めとする他職種との連携は一つの大きなテーマである。学校領域での心理臨床業務の遂行には学校の教職員(クラス担任、養護教諭、教員、事務職員など)、場合により児童相談所、教育相談所、あるいは警察関係者等における他職種との連携は重要な課題である。	齋藤 高雅 (放送大学 教授)	齋藤 高雅 (放送大学 教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	トピックス：心理臨床の現場から—②医療機関	医療機関における臨床心理士の業務について検討するとともに、放送授業では実際の現場の臨床心理士 染谷利一先生をゲストにお迎えしてインタビューを行いたい。	齋藤 高雅 (放送大学 教授)	齋藤 高雅 (放送大学 教授)  ゲスト： 染谷利一 (東京大学 医学部付属 病院精神神 経科)
11	セラピストによる「仮説」の設定	クライアントの姿・語ること・症状に「耳を傾け」ていると、セラピストの心に、いろいろな疑問・連想・イメージ、見立てや仮説も、そして、時にはその見立てと抵触するイメージが浮かんでくることもある。	大場 登 (放送大学 教授)	大場 登 (放送大学 教授)
12	セラピストの「問いかけ」と「コメント」	「共感的に傾聴」することが、サイコセラピーの一方の柱だとすれば、仮説に基づいて、クライアントの反応を慎重に見守りつつ「問いかけ」をしてゆくことが、もう一方の柱と言えるだろうか。	大場 登 (放送大学 教授)	大場 登 (放送大学 教授)
13	セラピストとクライアントの関係性(1)	クライアントの訴え・セラピストによる傾聴・両者の個性が「器」の中で次第に「煮詰まって」くるにしたがって、クライアントの心の中の様々な「外的・内的人物像」は、心理療法で相対している「セラピスト」像と微妙なつながりを持ち始める。	大場 登 (放送大学 教授)	小野けい子 (放送大学 教授)
14	セラピストとクライアントの関係性(2)	クライアントから投げかけられるクライアントの心の中の「外的・内的人物像」、そして、その「人物像」に伴う複雑で、濃密、時に圧倒的な様々の感情は、セラピストの心に一定の心理的影響を及ぼさずにいることは決してない。かくして、セラピストの心もまた、「器」の中の「心理的なプロセス」に必然的に関与してゆくことになる。	大場 登 (放送大学 教授)	小野けい子 (放送大学 教授)
15	トピックス：心理臨床の現場から—③保育カウンセリング	心理臨床の新しい領域、「保育カウンセリング」について紹介するとともに、現場の臨床心理士をお迎えして、インタビューを行う。	滝口 俊子 (放送大学 教授)	滝口 俊子 (放送大学 教授)  ゲスト： 坂上 頼子 (日野市保 育カウンセ ラー)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
16	意識と無意識	心理療法に携わる中で、人間の心には、意識している部分の他に、無意識の領域が存在すると仮定したほうが理解しやすいという経験に遭遇する。治療論的にも、意識の統制力をやや弱めることによって、内面的なものに向かい、自己治癒力を活性化する方法がとられることについて論じる。	小野けい子 (放送大学 教授)	小野けい子 (放送大学 教授)
17	箱庭療法	内面的なものを言語に頼らず自由に表現する方法として、描画法、遊戯法などがあるが、ここでは箱庭療法を取り上げて、この方法を紹介するとともに、箱庭の中で自己表現をすることによる自己治癒力の働きについても論じる。	小野けい子 (放送大学 教授)	小野けい子 (放送大学 教授)
18	家族面接	心理療法においては、様々な問題を顕在化しておられる本人ではなく、そのご家族が面接にみえることも多い。また、本人とご家族両方への面接が求められることも多い。それらをどう考え、どうすれば良いのかについて取り上げる。	小野けい子 (放送大学 教授)	小野けい子 (放送大学 教授)
19	若者たちと心理療法	思春期～青年期にあたる若者たち特有の心性と、いくつかの臨床現場でのセラピストとのやり取りを中心に論じていきたいと思う。思春期～青年期と出会う臨床現場での実際を織り込む予定である。	佐藤仁美 (放送大学 准教授)	佐藤仁美 (放送大学 准教授)
20	トピックス：心理臨床の現場から④犯罪被害者支援	「犯罪被害者支援」の立場で、警察という職場で相談活動をしておられる臨床心理士の業務についてご紹介するとともに、放送授業では、実際の現場の臨床心理士伊藤可奈子先生をゲストにお迎えして、インタビューを行いたい。	小野けい子 (放送大学 教授)	小野けい子 (放送大学 教授)  ゲスト： 伊藤可奈子 (広島県警察本部警務部警察安全相談課被害者対策室)
21	夢と癒し	古代ギリシャで、人々が心身の病に見舞われると、人々はアスクレピオス医神の神殿を訪ねた。齋戒沐浴の後、彼らは神殿最奥の小部屋で眠り、「癒しの夢」の訪れを待った。日本の古代・中世においても、人生の困難や病に出会った人々は、「貴船」や「石山」に詣でたり、「観音」さんに籠って、「癒しの夢」の到来を待った。	大場 登 (放送大学 教授)	大場 登 (放送大学 教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
22	心理療法と夢 (1)	古代ギリシャ・アスクレピオス神殿で当時の人々が夢による癒しを求めた営みはインキュベーションと呼ばれるが、Meier, C. A. によれば「このインキュベーションが2000年の眠りを経てFreud, S. の診察室・自由連想のカウチで復活した」と言われる。	大場 登 (放送大学 教授)	大場 登 (放送大学 教授)
23	心理療法と夢 (2)	たしかに心理療法で、我々がクライアントの話に耳を傾けていると、「そう言えば今朝こんな夢を見ました」と報告されることが多い。「耳を傾ける」とは、この意味で、「心の最奥からの声」あるいは、「人間の意識を超えた領域からの声」に対してのことでもあるのかもしれない。	大場 登 (放送大学 教授)	大場 登 (放送大学 教授)
24	心理療法とコン ステレーション (布置)	心理療法の面接でクライアントの語ることを注意深く聴いていると、クライアントの内界で問題となっているテーマと見事に対応する外界の出来事が、クライアントの周囲で生じていることをよく経験する。だからこそ、一見「外的・日常的」だけと思われるクライアントの経験にも我々は、大きな関心を寄せて傾聴することができるとも言えよう。	小野けい子 (放送大学 教授)	小野けい子 (放送大学 教授)
25	トピックス：心 理臨床の現場か ら⑤HIVカ ウンセリング	今回のトピックスでは、いわゆる HIV カウンセリングにあたっている心理臨床の現場を紹介したい。HIV 心理臨床の実際・チーム医療・仕事の困難さ・セクシュアリティ・日頃感じていること・いわゆる HIV 感染者の方々やエイズ患者の方々との出会いを通して考えさせられたことなどが紹介される予定である。	大場 登 (放送大学 教授)	大場 登 (放送大学 教授)  ゲスト： 仲倉高広 (国立病院 機構 大阪 医療センタ ー 免疫感 染症科)
26	困難な事例との 出会い	心理療法の営みを続けていると、セラピストは、必ずといってよいほど圧倒的な難しさ・無力感・不安を感じざるを得ないようなクライアントに出会うものである。人間の心の闇は恐ろしい程に圧倒的で、且つ深いものである。	大場 登 (放送大学 教授)	大場 登 (放送大学 教授)  ゲスト： 川戸 圓 (大阪府立 大学教授・ ユング派分 析家)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
27	心理療法の面接 と記録	面接記録には、クライアントのことよりは、セラピストを自称してきた自分の不安や無力感、あるいは面接の行われた晩に眠れぬ中で垣間見た「恐ろしい夢」が書き留められることも多いであろう。そもそも面接記録は、一体どのようなことを、どの程度書いたらよいのだろうか。	大場 登 (放送大学 教授)	大場 登 (放送大学 教授)
28	スーパーヴィジ ョン	心理臨床の研修にとって不可欠な体験として、スーパーヴィジョンがある。個人スーパーヴィジョンとグループスーパーヴィジョンの比較、スーパーヴァイザーの選び方や、スーパーヴィジョンの料金、期間について。さらに個人分析との異同についても述べる。	滝口 俊子 (放送大学 教授)	滝口 俊子 (放送大学 教授)
29	トピックス：心 理臨床の現場か ら⑥心理療法 機関	臨床心理士が企画運営する心理療法機関を紹介し、臨床心理士・西村寛子先生をゲストに迎えてインタビューを行う。	大場 登 (放送大学 教授)	大場 登 (放送大学 教授)  ゲスト： 西村寛子 (山王教育 研究所)
30	おわりに：講師 からのメッセー ジ	30回にわたる授業の最後は、今後さらに心理臨床の勉強を続け、将来的に心理臨床領域において臨床心理士として仕事をしてゆこうとする受講生に向けた主任講師からのメッセージとなる予定である。	大場 登 (放送大学 教授)	大場 登 (放送大学 教授)  小野けい子 (放送大学 教授)

＝ 臨床心理学研究法特論（‘06）＝（R）

〔主任講師（現職名）：齋藤 高雅（放送大学教授）〕

全体のねらい

臨床心理学研究の困難さと重要性について解説する。臨床心理学においては、臨床実践や調査研究とプライバシーを含む倫理面の問題および研究から得られる公共性との両立と相克が重要なテーマである。究極的には、クライアントの利益に還元されることが優先される。これらの点について留意しながら、臨床心理学研究法について解説する。具体的には、量的研究と質的研究、研究のプロセス、面接法・観察法、質問紙調査法、投影法、事例研究法、アセスメント、家族、グループ、コミュニティ・アプローチ、評価研究などである。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	臨床心理学の領域と研究法	臨床心理学の領域と研究法についてアセスメント、心理療法、家族、グループおよびコミュニティなど主な項目を取り上げ、そのアウトラインを述べる。臨床心理学研究として重要なことは、研究目的の明確化である。それによって、研究方法が自ずと絞られてくるからである。また、臨床心理学研究の基本的問題である、1) クライアントの利益の優先、2) プライバシーや倫理的な問題の重要性についてふれる。	齋藤 高雅 (放送大学教授)	齋藤 高雅 (放送大学教授)
2	研究法の種類 量的研究と質的研究	近年、研究対象の現象の背後にある重要な鍵概念を抽出したり、現象の構造的特徴を記述できるモデルや仮説を構築することに主眼をおいた「質的研究」への関心が高まっている。「量的研究」と「質的研究」の方法論上の特徴を研究例を通して概説する。	名取 琢自 (京都文教大学教授)	名取 琢自 (京都文教大学教授)
3	研究の基礎 研究のプロセス	臨床現場で問題を感じ、その問題意識を研究として遂行していく研究のプロセスについて概説する。文献検索、文献レビューを通じて先行研究の文献的検討、さらに研究方法・対象を検討し、具体的な研究計画の立案と実施など、一連の研究の過程について触れる。	齋藤 高雅 (放送大学教授)	齋藤 高雅 (放送大学教授)
4	研究法① 面接法・観察法	臨床的面接と調査的面接に大別し、それぞれの面接の特質を概説する。面接・観察は、臨床実践としての活動に欠かせないが、同時に臨床心理学研究の研究法論としても欠かせない手法である。近年、多く用いられるようになってきた構造化面接、半構造化面接ならびに観察法について触れる。	齋藤 高雅 (放送大学教授)	齋藤 高雅 (放送大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
5	研究法② 質問紙調査法	質問紙を用いた調査は、様々な研究で使われている。多変量解析を用いて、多次元的な質問紙尺度を構成する方法について解説する。	香川 克 (京都文教 大学准教授)	香川 克 (京都文教 大学准教授)
6	研究法③ 投影法	投影法の特徴を、質問紙法などの他の方法と比較しながら説明し、その意義について考察する。代表的な投影法として、ロールシャッハ法研究の実際について紹介し、それを通じて投影法研究にまつわる留意点について解説する。最後に、大学院生が投影法研究をする際のポイントについてもふれる。	津川 律子 (日本大学 教授)	津川 律子 (日本大学 教授)
7	研究法⑤ 実験法	臨床心理学においても、実験による研究は重要である。その古典的1例として、ユングによる言語連想実験をとりあげ、心理学的事実を明らかにするための数量化の意義について解説する。また、実験研究を実施する際の基本概念(実験群・統制群など)についても説明する。	名取 琢自 (京都文教 大学教授)	名取 琢自 (京都文教 大学教授)
8	研究法⑥ 事例研究法	事例研究法は臨床心理学において最も重要な研究法の1つである。本講では、知識伝達と技術習得のちがいを、概念的知識と手続き的知識のちがいに注目しながら、臨床の場において人間を統合的にとらえる実践的方法として洗練されてきたこの事例研究法の意義と限界について検討したい。	名取 琢自 (京都文教 大学教授)	名取 琢自 (京都文教 大学教授)
9	領域と研究法① 心理療法	主に個人を対象とした心理療法における研究のトピックスを取りあげる。治療の場における治療構造の問題、見立てにおけるこころの病理学の役割、セラピストクライアント関係における職業的役割関係と転移・逆転移の問題、心理療法における過程研究、スーパービジョン・教育、治療効果判定などについて取りあげる。	齋藤 高雅 (放送大学 教授)	齋藤 高雅 (放送大学 教授)
10	領域と研究法② アセスメント	臨床心理学におけるアセスメントについて概説し、その重要性について述べる。主に面接におけるアセスメント、心理検査によるアセスメントなど心理アセスメントの諸方法を紹介し、留意点について述べる。また、アセスメント面接、心理査定などの方法を活用した研究についての概説を行う。	齋藤 高雅 (放送大学 教授)	齋藤 高雅 (放送大学 教授)
11	領域と研究法③ 家族	家族療法の歴史を概観し、最近の動向として、ナラティブ・アプローチと心理教育について概説する。家族を研究する方法として、家族の構造や関係性を視覚化する方法や、家族成員の感情表出の評価方法、家族を評価する質問紙法について解説する。	上別府圭子 (東京大学 大学院准教 授)	上別府圭子 (東京大学 大学院准教 授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
12	領域と研究法④ グループ・アプローチ	グループを利用して、個人の成長や適応に資する活動が広い領域で活発に適用されており、グループ・アプローチ、集団心理療法などと呼ばれている。これらの活動の意義や特徴を明らかにする研究法について解説する。	香川 克 (京都文教 大学准教授)	香川 克 (京都文教 大学准教授)
13	領域と研究法⑤ コミュニティ・ アプローチ	近年、学校や地域社会における心の問題が社会的に関心を集めている。臨床心理学はこの領域に様々な接近を試みている。その接近法から明らかにされる諸側面を概説する。	香川 克 (京都文教 大学准教授)	香川 克 (京都文教 大学准教授)
14	評価(効果)研究	心理療法やコミュニティ・アプローチの効果を明らかにすることは、臨床心理学にとって重要な課題の一つである。心理療法の効果研究、対人サービス支援のシステムティックな評価研究、メタ分析について概説する。また、これらの効果評価を通して実践活動をどう改善していくかについてもふれていきたい。	元永 拓郎 (帝京大学 大学院准教授)	元永 拓郎 (帝京大学 大学院准教授)
15	総括：臨床心理学研究の難しさと重要性について	臨床心理学研究法のまとめとして、研究の難しさと重要性について述べる。難しさに関しては、クライアントのプライバシーや利益、倫理問題が関わっていることがあげられる。重要性については、研究によって臨床的な活動が公共の知識として活用され、ひいてはクライアントに貢献することができることを概説する。	齋藤 高雅 (放送大学 教授)	齋藤 高雅 (放送大学 教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8950504	履修 制限	有	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名(メディア) = 社会心理学特論 ('09) = (TV)

{主任講師(現職名) : 細江達郎(岩手県立大学教授) }

{主任講師(現職名) : 菊池武烈(東北大学教授) }

### 講義概要

①心理学と社会学(文化人類学)の境界領域の科学としての社会心理学の学的な発展をたどり、その特質や研究方法を概説する。②社会心理学の視点からのパーソナリティ、社会(集団)、文化について、さらに社会心理学的人間理解の重要な視点である社会化、生涯発達についてそれぞれ論考する。③社会心理学の基本的な方法である、フィールドワークの方法に基づく、研究例(社会変動と個人の発達・身体表現、占い、職業伝承、医療などを)を具体的に提供する。④臨床社会心理学的な視点から、犯罪・非行、被害者支援の課題をとりあげ社会心理学と臨床心理学の接点との関係を明らかにする。

### 授業の目標

心理学と社会学の境界領域の科学としての社会心理学の研究視点は日常のレベルでの人間理解の視点である。人は個人として心身の過程を持つとともに、他者との社会的関係、その関係を規定するさまざまな規範・文化との関係で実際の行動を起こしていく。本講義ではこの多面性そのものを探求する社会心理学的アプローチを理解するとともに、そのことが臨床心理学的課題のみならず、多くの人間生活上の課題の理解に適切な枠組みの提供となることを明らかにしていく。

### 履修上の留意点

臨床心理学的課題がさまざまな社会適応上の課題であるという視野を持ち、社会的日常的な問題に常に興味をもちながら履修されることを願っている。各授業名称や提供される素材の表面的な関心だけでなく、それぞれが持つ、人間生活理解への意味づけおよび人間科学の全体的な枠組みへの位置づけなどを常に意識した履修を期待したい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	社会心理学の対象と方法	1) 全体の講義の概要、2) 社会心理学の成立の歴史、対象とする人間、方法の特殊性を概説する。本社会心理学特講全体で一貫して扱われるフィールドワーク的社会心理学の方法について説明し、人間生活上の諸課題の理解にもつ意味を明らかにする。 【キーワード】 社会心理学史、研究方法、フィールドワーク、	細江 達郎 (岩手県立大学)	細江 達郎 (岩手県立大学)
2	社会心理学とパーソナリティ	社会心理学とパーソナリティ心理学という隣接する2つの立場から行われてきた「パーソナリティ」研究の史的展開について簡潔に論じるとともに、両者の統合にむけた、人と状況の相互作用論に基づくコヒアレント(coherent, 統合的)なアプローチの重要性について、主観的充実感(subjective well-being)研究等の具体例を示しながら解説する。 【キーワード】 相互作用論、コヒアランス、主観的充実感	堀毛 一也 (岩手大学)	堀毛 一也 (岩手大学)
3	集団の社会心理学	1) 個人と社会(集団)の関係、2) 他者へのさまざまな影響関係の中での「集団」の位置づけ、3) 集団の諸特徴、を概説する。4) 集団の諸特徴がある状況下では目的達成に阻害的な働きをってしまう例を見て明らかにする。 【キーワード】 群集集団過程、服従、同調、集団麻痺	細江 達郎 (岩手県立大学)	細江 達郎 (岩手県立大学)

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	文化と社会心理学 ～ねだられた民族誌 家(エスノグラファー) ～	社会心理学など人文社会科学において、文化への接近法(アプローチ)として大別して2種類ある。外在的アプローチと内在的アプローチである。外在的アプローチとは普遍的な心理学的プロセスと想定し、アウトプットの違いを文化によって説明する。内在的アプローチとは文化を身をもって、内部から理解しようとする。本章では実際にどのように文化理解が進むか、そのプロセスをアフリカ牧畜民トゥルカナの人びととのやりとりとみていく。人間存在お理解を旨とする社会心理学にとって、文化への内在的アプローチの重要性を指摘する。 【キーワード】 規範、価値、文化の諸理論	作道 信介 (弘前大学)	作道 信介 (弘前大学)
5	社会化の社会心理学	人・社会・文化の交差点で人間形成をとらえる社会化研究は社会心理学の基本概念の1つであるが、その学際性の故に多種多様な研究課題、アプローチと理論を抱えることになった。ここでは社会化研究に現れた主要な概念、理論、研究領域を整理し解説する。 【キーワード】 社会化	大江 篤志 (東北学院大学)	大江 篤志 (東北学院大学)
6	生涯発達の社会心理学	人間の発達成人期までに留まらず、生涯にわたって続く。これは社会心理学的な人間理解にとって特に重要な視点である。それぞれの段階での発達課題をどのように達成し、ひとは人生を歩んでいくのか理解のための理論的枠組みを提供する。 【キーワード】 発達課題	菊池 武剋 (東北大学)	菊池 武剋 (東北大学)
7	ポジティブ心理学の発展	本章では、最近急速に注目を集めているポジティブ心理学の研究動向について概説する。ポジティブ心理学は、従来の心理学が疾病モデルを中心に、病気や障害からの回復に焦点を合わせてきたという反省のもとに、人間の長所や強さを積極的に探求しようという方向性をもつ心理学的動向を指す。ここでは主観的充実感(subjective well-being)の概念を軸に、ポジティブな認知様式の特質や、対人関係・健康との関連について論じる。 【キーワード】 ポジティブ心理学、主観的ウェルビーイング	堀毛 一也 (岩手大学)	堀毛 一也 (岩手大学)
8	社会変動の社会心理学	個人の進路・職業選択などの分岐点での選択行動は、その基盤となる社会の変動と関わる。戦後日本の団塊の世代といわれる人々の人生、特に社会変動経済変動に大きな影響を受けた地方出身層の長期にわたる追跡調査を素材にして社会心理学的視点で見ていく。 【キーワード】 団塊の世代、戦後社会、集団就職、職業的社会化	細江 達郎 (岩手県立大学)	細江 達郎 (岩手県立大学)
9	地域の社会心理学	多くの地域社会はいま深刻な過疎化、高齢化という変化のなかにある。本講義では宮城県の小離島である江島をフィールドとして取り上げ、地域社会の変化を解き明かす鍵となるような活動をとおして、過疎-高齢化の過程を世代間の社会化の相互作用という視点からみていく。 【キーワード】 地域社会、進路選択、伝統的社会化システムの解体と再編、伝統漁撈	大江 篤志 (東北学院大学)	大江 篤志 (東北学院大学)

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	交渉・治療儀礼・ 占い ～北西ケニア・ トゥルカナの問題 対処～	社会はそれぞれ問題対処の独特の方法をもっている。本章では北西ケニア・牧畜民トゥルカナにおける問題対処の論理と方法を交渉、治療儀礼、占いにみる。まず、日常的な問題は相手に援助を求める交渉で、病気については家畜を使った儀礼が頼りにされている。解決できないような問題は占いに委ねられ、背後に「他者の怒り」があるとされる。そこには牧畜という生業を支える「協働原理」を見出すことができる。 【キーワード】 牧畜社会、交渉、儀礼、占い	作道 信介 (弘前大学)	作道 信介 (弘前大学)
11	社会変動と身体 ～「糞肛門」の出現 ～	1980年代にアフリカ牧畜民トゥルカナの間に新しい病気が出現した。「糞黄門」である。この病気は干ばつ以後の食生活の変化によって引き起こされた病気であるという。私たちは新しい病気に対して免疫など生物学的適応をおこなうだけではない。社会文化的に意味づけ、対処法をみいだす。本章ではこの「糞肛門」を、トゥルカナの人びとが干ばつ以後の社会変動にたいして身体をこしらえなおすことで対応した例として提示する。 【キーワード】 社会変動、マッサージ、体現化と身体化	作道 信介 (弘前大学)	作道 信介 (弘前大学)
12	犯罪・非行の社会心理学	犯罪・非行の原因論は、人を犯罪に向かわせる要因をとらえようとしてきた。特に青少年非行の場合、その当事者である少年に対して焦点が当てられてきた。しかし非行という行動そのものが社会関係の中ではぐくまれ、起こっているのだから、単に当事者だけを見ていては、この問題を理解することはできない。一つの研究を取り上げて吟味することで、青少年非行の問題に社会心理学的に接近することの意味を考える。 【キーワード】 非行	菊池 武剋 (東北大学)	菊池 武剋 (東北大学)
13	被害者支援の社会心理学	犯罪や非行という行動は、加害者・被害者・第三者の相互影響関係の中で発生する。被害者に目を向けることで、加害者・被害者の関係、犯罪・非行場面の力動的な理解がなされる。さらに近年、大きな課題となっている「被害者支援」について考察する。被害者支援は被害者にとって必要であるが、このことは加害者の更正・矯正にとっても大きな意味があることである。 【キーワード】 被害者支援	菊池 武剋 (東北大学)	菊池 武剋 (東北大学)
14	臨床心理学と社会心理学	人と人との相互作用や影響関係扱う社会心理学と心理・行動の障害の治療や援助をめざす臨床心理学とは、本来、相互に補完しあえる関係にありながら交流は少なかった。近年、この二つの心理学のインターフェイス(境界領域)を積極的に開拓しようとする新しい分野が「臨床社会心理学」と呼ばれて関心が高まってきている。 【キーワード】 インターフェイス、臨床社会心理学	菊池 武剋 (東北大学)	菊池 武剋 (東北大学)
15	社会心理学のめざすもの:講義の総括	1) 講義全体をまとめ、本社会心理学特論が目指すものを再確認する。 2) 特に普通の人間生活のレベルを理解する社会心理学的な接近や枠組みの重要性についてあらためて明らかにする。 【キーワード】 人間生活、フィールド研究、社会心理学の応用、しろうと理論	細江 達郎 (岩手県立大学)	細江 達郎 (岩手県立大学)

## ＝ 家族心理学特論（‘06）＝（R）

〔主任講師（現職名）：横山 知行（新潟大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：佐藤 仁美（放送大学准教授）〕

### 全体のねらい

近年の少子高齢化社会、高度情報化社会の中で、私たちをとりまく社会環境は大きな変貌を遂げようとしている。こうした時代背景の中で、現代の家族には、これまでにない新たな課題が生じている。その一方で、いかなる時代、文化においても普遍的な課題を有している。本講義では、まず、今日の家族が抱えるさまざまな課題について検討し、次に、この課題が果たせなかった場合に生じる諸問題について取り上げることとする。そして、このような諸問題に対する援助の方法について、臨床の実際にふれつつ講じていきたいと思う。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	家族心理学への誘い	家族は、個々の構成員の総和にとどまらない、独自の自律性を有している「システム」として捉えることができる。このような観点を持ちつつ、家族の構造と機能を概観してみたい。	横山 知行 (新潟大学教授)	横山 知行 (新潟大学教授)
2	家族ライフサイクル(1)	誕生から死まで、ライフサイクルの中での家族の変化を、個と集団の両側面から考えてみたい。人生各時期に訪れる「危機」という出来事を取り上げ、個々人と家族の変化をながめてみる。	佐藤 仁美 (放送大学准教授)	佐藤 仁美 (放送大学准教授)
3	家族ライフサイクル(2)	胎児期から青年期に至るまでの、子どもと家族との関係について、心理臨床の知見に基づいて述べる。子どもの変化成長は、祖父母・親・きょうだいと密接に関係していることを学んでいただきたい。	滝口 俊子 (放送大学教授)	滝口 俊子 (放送大学教授)
4	家族と離別	「家族」には、実は「離別」がつきものである。親の死・パートナーの死・子どもの死・兄弟姉妹の死。さまざまな事情による離婚。親の離婚によって子どもに訪れる一方の親との別れ。さまざまな事情によって生じる「生みの両親」との離別。本章では「家族と離別」について考えてみたい。	大場 登 (放送大学教授)	大場 登 (放送大学教授)
5	家族の深層	個人に、自らが気づいていないのにもかかわらずその行動に影響を与えるという無意識が想定されているのと同様に、家族においても、その構成メンバーが意図せずま影響をうける家族の無意識を想定することができる。この回ではこの諸相について、論考してみたい。	横山 知行 (新潟大学教授)	横山 知行 (新潟大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
6	家族内コミュニケーションとその病理	個々の家族には、それぞれに特徴的なコミュニケーション様式がある。この様式の歪みが顕著となり、病理性を帯びるものとなった時、家族構成員に障害が生じる場合さえある。このような歪みが増大していく悪循環のプロセスについて検討したい。	横山 知行 (新潟大学 教授)	横山 知行 (新潟大学 教授)
7	摂食障害と家族	家族療法家により指摘されてきている摂食障害家族病理について、その代表的なものを中心に概説する。加えて、近年実証的な方法論で検証されつつある、摂食障害の家族機能に関する研究結果についても紹介する。これらをふまえて、実際の臨床で経験する家族力動についても例示したい。	上原 徹 (群馬大学 講師)	上原 徹 (群馬大学 講師)
8	虐待・ドメスティックバイオレンス	従来、虐待とドメスティックバイオレンス(DV)は、別個の問題として異なった領域の専門家が扱う問題であった。最近になり両領域の接近が始まり、改正児童虐待法では家庭内でのDV被害の目撃自体が虐待と定義された。別個の問題と捉えられていた虐待とDVが、実際は重複し起きることに、昨今、特に注目が集まっているといえる。本講では「ひとつの家庭・家族の中での暴力」として虐待およびDVを捉える視点を紹介したい。	柳田 多美 (新潟大学 講師)	柳田 多美 (新潟大学 講師)
9	家族アセスメント(1)	家族機能評価に広く用いられている質問紙、Family Adaptability and Cohesion Evaluation Scale(FACES)、Family Assessment Device(FAD)、Family Environment Scale(FES)について概説する。また、精神医療の領域で確実にエビデンスを蓄積している実証的家族評価である「家族の感情表出 Expressed emotion(EE)」について、その歴史的経緯、概念の広がり、評価の実際について解説する。	上原 徹 (群馬大学 講師)	上原 徹 (群馬大学 講師)
10	家族アセスメント(2)	個人療法場面で表現される家族イメージを取り上げ、そこから読みとれる家族アセスメントについて考えてみる。家族イメージ法、遊戯療法場面での描画・箱庭表現、家族描画法を中心に紹介したい。	佐藤 仁美 (放送大学 准教授)	佐藤 仁美 (放送大学 准教授)
11	家族療法の理論と実際(1)	一口に家族療法といっても、さまざまなアプローチがある。まず、家族システムの歴史・発達過程に焦点を当てる多世代家族療法(Transgenerational Family Therapy)について紹介し、その基本的な概念(三角関係、破壊的権利付与など)とセラピストの態度(多方面に向けられた肩入れ)・技法(ジェノグラム)について解説する。	野末 武義 (明治学院 大学講師)	野末 武義 (明治学院 大学講師)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
12	家族療法の理論 と実際(2)	家族システムの構造に焦点を当てる構造派家族療法 (Structural Family Therapy) について、さらに家族機能に焦点を当てる短期療法 (Brief Therapy) について、その基本的な概念とセラピストの態度 (ジョイニング)・技法 (リフレーミングなど) について解説する。	野末 武義 (明治学院 大学講師)	野末 武義 (明治学院 大学講師)
13	家族療法の理論 と実際(3)	心理教育的アプローチを主とした家族介入・援助について、理論的基盤、代表的な構造、手法の概説、適応の拡大、について講義を行う。また、わが国での心理教育的アプローチの広がり、ガイドラインの作成、さらにはさまざまな問題や領域への広がりについても考察したい。	上原 徹 (群馬大学 講師)	上原 徹 (群馬大学 講師)
14	個人療法におけ る家族	個人療法におけるクライアントの課題には、個人自身の問題とは切っても切り離せない家族との関わりがある。本章では、心理療法の中で生ずる家族イメージについて、部分的に遊戯療法などの事例を通してアプローチしてみたい。	佐藤 仁美 (放送大学 准教授)	佐藤 仁美 (放送大学 准教授)
15	家族とコミュニ ティー	コミュニティという視点から家族を考えてみる。特に、学校臨床の現場から、子どもをとりまく家族と学校のあり方を、一部事例を通して検討してみたい。	佐藤 仁美 (放送大学 准教授)	佐藤 仁美 (放送大学 准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	平成20年度 (第2学期)	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8950245	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	------------------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 障害児・障害者心理学特論 ( ' 0 8 ) = ( R )

〔主任講師 (現職名) : 佐藤新治 (別府大学教授) 〕  
 〔主任講師 (現職名) : 田中新正 (大分大学教授) 〕  
 〔主任講師 (現職名) : 古賀精治 (大分大学教授) 〕

### 講義概要

様々な障害のある人に臨床心理学的援助を提供するに当たって必要な基本的知識を全15回にわたって講義する。各障害について理解するために、先ず、障害の概念(状態像)やアセスメントの方法について説明し、さらに、発達の視点からみた障害のもつ意味、社会的視点からみた障害のもつ意味について説明し、障害のある人の心理学的援助のあり方について講義する。

### 授業の目標

全15回の講義を通じて、各障害について定義(概念)を明確にし、それぞれの障害に特有の発達上の課題、社会生活上で生じてくる様々な問題を理解すること、そして問題解決のための心理学的援助のあり方を理解することを目標とする。また、このことを通して人にとっての障害の意味について考えることを目標とした。

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	特殊教育から特別支援教育へ	2007年4月より「特殊教育」から「特別支援教育」に法改正が行われ施行された。今回の改正により転換された理念や、見直しされた学校制度や教員免許制度について、従来の理念・制度と比較しながら解説する。  【キーワード】 特別支援教育・特別支援学校・センター的機能	田中新正(大分大学・教授)	田中新正(大分大学・教授)
2	発達早期における障害	乳児幼児期における障害児の心理的問題を中心に解説し、発達の基礎となる時期であることを踏まえ早期発見・早期治療の重要性や親の支援のあり方について述べる。  【キーワード】 早期教育・早期発見、遺伝子、代謝障害、染色体異常、心身障害児施設	佐藤新治(別府大学・教授)	佐藤新治(別府大学・教授)
3	視覚障害児・者の理解と心理的援助	視覚障害の概念、分類について概説した後、心理的特性として、触覚の発達、言語発達、行動等について説明し、様々な困難に対する心理的援助のあり方について述べる。  【キーワード】 視覚障害、盲、弱視、点字、歩行、バーバリズム、ブラインディズム	佐藤新治(別府大学・教授)	佐藤新治(別府大学・教授)
4	聴覚障害児・者の理解と心理的援助	聴覚障害の概念、分類について概説した後、心理特性として、コミュニケーション、認知、学習、社会性等について説明し、様々な困難に対する支援のあり方について述べる。  【キーワード】 聴覚障害、ろう(聾)、難聴、言語発達、聴能、手話、伝音難聴、感音難聴、補聴器、人工内耳	佐藤新治(別府大学・教授)	佐藤新治(別府大学・教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
5	知的障害児・者の理解	<p>まず知的障害にかかわる用語について整理する。次に米国精神遅滞協会における知的障害の定義と分類について述べた後、わが国の医学、教育、福祉における知的障害の定義と分類について解説する。</p> <p>【キーワード】 AAMR(2002)、AAMR(1992)、DSM-IV-TR、就学基準、療育手帳</p>	古賀精治(大分大学・教授)	古賀精治(大分大学・教授)
6	知的障害児・者への心理的援助	<p>米国精神遅滞協会のマニュアルに基づいて知的障害のある人に必要な援助の全体像について概説した後、臨床心理の専門家に求められる援助としての心理アセスメント、心理療法、発達援助法について解説する。</p> <p>【キーワード】 支援、知能検査、適応行動の検査、行動障害</p>	古賀精治(大分大学・教授)	古賀精治(大分大学・教授)
7	肢体不自由児・者の理解	<p>肢体不自由の定義、分類、主な起因疾患について概説した後、脳性まひの運動発達の特徴、そして認知と学習、発語と言語の問題、身辺自立、情緒・社会性等の発達上の特徴について解説する。</p> <p>【キーワード】 脳性まひ、随伴障害、ADL、水蛭子</p>	田中新正(大分大学・教授)	田中新正(大分大学・教授)
8	肢体不自由児・者への心理的援助	<p>肢体不自由があるひとの発達過程における心理的援助について解説する。早期発見について紹介した後、早期療育について医学的立場と心理学的立場について解説する。家族への心理的援助についても解説する。</p> <p>【キーワード】 早期療育、動作法、体験様式、ピア・カウンセリング</p>	田中新正(大分大学・教授)	田中新正(大分大学・教授)
9	重度重複障害児・者の理解と心理的援助	<p>重度重複障害児の特性を紹介し、重複障害児の教育の場と教育課程について解説する。重度重複障害児の多くが受けている「訪問教育」について解説し、心理的立場からの援助の考え方と事例を紹介する。</p> <p>【キーワード】 重度重複障害、重症心身障害、訪問教育</p>	田中新正(大分大学・教授)	田中新正(大分大学・教授)
10	病弱児・者の理解と心理的援助	<p>病弱者の定義と、病弱・虚弱児教育の歴史および病気の概要について解説し、2002年に改正された就学基準と、病弱教育対象児童生徒の病気の種類の推移について解説する。ホスピタリズムや家族支援について解説する。</p> <p>【キーワード】 病弱教育の歴史、病気の推移、ホスピタリズム</p>	田中新正(大分大学・教授)	田中新正(大分大学・教授)

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	発達障害児・者の理解と心理的援助－ADHD(注意欠陥/多動性障害)－	<p>発達障害の概念について整理した後、医学と教育におけるADHDの定義と分類について解説する。それからADHDの原因や併存障害などについて概説し、最後にADHDのアセスメントとADHDのある人への基本的な援助のあり方、家族への支援等について論じる。</p> <p>【キーワード】 不注意、多動性、衝動性、自尊心の低下</p>	古賀精治(大分大学・教授)	古賀精治(大分大学・教授)
12	発達障害児・者の理解と心理的援助－自閉症－	<p>医学と教育における自閉症、高機能自閉症、アスペルガー症候群の定義、自閉症と他の障害との鑑別等について述べた後、自閉症のある人に特有の物の見方や考え方に応じた専門的な援助方法のいくつかについて解説する。</p> <p>【キーワード】 対人的相互反応の質的な障害、コミュニケーションの質的な障害、反復的で常同的な行動や興味、構造化、ソーシャルスキルトレーニング</p>	古賀精治(大分大学・教授)	古賀精治(大分大学・教授)
13	発達障害児・者の理解と心理的援助－LD(学習障害)－	<p>LDの概念に関する歴史的経緯、そしてわが国の教育と医学におけるLDの定義と分類について解説した後、LDのある人の学習上の諸問題に対する心理学的アセスメントに基づく教育・心理的援助の方法について述べる。</p> <p>【キーワード】 読む、書く、計算する、認知処理特性</p>	古賀精治(大分大学・教授)	古賀精治(大分大学・教授)
14	障害の受容	<p>障害の受容は、障害のある人々、及び家族にとって最も大きな課題である。障害の受容とは何か、受容のプロセスなど心理臨床的課題を中心に、援助のあり方について考える。</p> <p>【キーワード】 障害受容、価値の転換、ステージ理論</p>	佐藤新治(別府大学・教授)	佐藤新治(別府大学・教授)
15	地域社会と障害 - 社会参加 -	<p>障害のある人々の社会参加は、今日の大きな課題である。バリアフリー、ノーマライゼーションが叫ばれてきたが、障害者を取り巻く環境はまだまだ厳しく、その中で障害者の苦悩は大きく渦巻いている。そのような悩みについての心理臨床的援助について述べる。</p> <p>【キーワード】 国際障害分類(ICIDH)、国際生活機能分類(ICF)、自立、社会参加、バリアフリー、障害者雇用促進法</p>	佐藤新治(別府大学・教授)	佐藤新治(別府大学・教授)

[ 主 任 講 師 (現職名) : 箕口 雅博 (立教大学教授) ]

講義概要

社会 (コミュニティ) とのかかわりのなかで生活している人間の心理社会的問題を解決するためには、人の環境への適応を援助するだけでなく、その個人をとりまく環境を人に適合するように改善していく働きかけが重要であると考えます。本講義では、「臨床心理アセスメント」「臨床心理面接」に次いで、心理臨床実践の第三の柱と位置づけられる「臨床心理地域援助 (コミュニティ援助)」の考え方と方法をコミュニティ心理学の視座から追求する。

授業の目標

講義の前半では、臨床心理地域援助の定義、歴史、理論的背景、基本的発想、介入・援助の方法などについての概論的な解説をおこない、後半では、予防的介入、危機介入、コンサルテーション、社会的支援とネットワークづくり、他職種との協働などに焦点を当て、臨床心理地域援助の実際について、さまざまな領域における実践例を通して体験的理解を得ることを課題とする。

臨床心理学プログラム

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	現代社会と心の問題—臨床心理地域援助の視座	「社会 (コミュニティ) の変化に呼応する形で噴出している今日のさまざまな心理社会的問題の解決に心理臨床家がどのように応えられるか」について、コミュニティ心理学の立場から検討する。	箕口 雅博 (立教大学教授)	箕口 雅博 (立教大学教授)
2	臨床心理地域援助とは何か—定義・理念・発想・独自性・サービス提供のあり方—	「心理アセスメント」「心理面接」に次いで心理援助活動の第三の柱である「臨床心理地域援助 (コミュニティ援助)」の定義・理念・発想・独自性・サービス提供のあり方について質疑応答形式で概説する。	箕口 雅博 (立教大学教授)	箕口 雅博 (立教大学教授)  対談: 大学院生
3	予防の概念と予防的介入	コミュニティ・アプローチと伝統的心理臨床のそれとの大きな違いは、「治療より予防を重視する」点にある。ここでは、精神保健領域における予防の概念について明らかにし、予防的介入の実際について概説する。	久田 満 (上智大学教授)	久田 満 (上智大学教授)
4	危機理論と危機介入	日常生活で危機に直面している個人や集団に迅速で即効的な援助的介入をおこなうことは、独自の理論と目的をもった心理援助の方法のひとつであり、コミュニティ援助を進めていくうえで欠かすことのできないものである。ここでは、「脅威査定・管理」という新たな危機介入の枠組みも紹介しつつ、危機介入の理論と実際について概説する。	箕口 雅博 (立教大学教授)  資料提供: 毛利 元貞 (トリインターナショナル)	箕口 雅博 (立教大学教授)  対談: 毛利 元貞 (トリインターナショナル)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
5	コンサルテーションによる介入と援助	コミュニティ援助を進めていくうえの基本的な介入方法であり、実践上の重要な戦略のひとつである、心理コンサルテーションの理論と実践について、事例を交えながら概説する。 ※現場インタビュー	箕口雅博 (立教大学 教授)	箕口雅博 (立教大学 教授)
6	ソーシャル・サポート・ネットワークワーキング—連携と協働による援助—	コミュニティのなかで、どのような人びとと手をたずさえ、どのような人びと対象に、どのような方法でアプローチすれば、心理臨床が役に立つのかについて、「ソーシャル・サポート・ネットワーク」、「連携」と「協働」をキーワードとしながら検討する。次に、ソーシャル・サポート介入の実際として、中国帰国者の心理社会的適応援助に関するアクションリサーチを紹介する。	箕口雅博 (立教大学 教授)  高 島 克 子 (東京女子 大学教授)  資料提供： 丹羽 郁 夫 (法政大学 教授)	箕口雅博 (立教大学 教授)  高 島 克 子 (東京女子 大学教授)  対談： 丹羽 郁 夫 (法政大学 教授)
7	学校臨床における臨床心理地域援助	今日、学校現場では、不登校・いじめ・学級崩壊・切れる子ども・LD・ADHDなどの問題が起こるだけでなく、学校内外での子どもの安全も脅かされる状況が発生している。このような学校コミュニティへの多様なアプローチをどのように展開していくかについて、スクールカウンセラーの立場から検討を加える。 ※現場インタビュー	箕口雅博 (立教大学 教授)  資料提供： 藤 後 悦 子 (立教大学 講師)	箕口雅博 (立教大学 教授)  対談： 藤 後 悦 子 (立教大学 講師)
8	軽度発達障害の子どもへの地域援助—特別支援教育を中心として—	LD (学習障害)、ADHD (注意欠陥多動障害)、高機能自閉障害など、いわゆる「軽度発達障害」と呼ばれる子どもたちを、学校・地域ぐるみでどのように支援していくかは、今日、心理臨床家が取り組むべき重要課題のひとつとなっている。これらの課題について、応用行動分析および行動コミュニティ心理学の立場から述べる。 ※現場インタビュー	大石幸二 (立教大学 准教授)	大石幸二 (立教大学 准教授)
9	子育て・保育支援におけるコミュニティアプローチの実際	育児をめぐる不安と子どもを虐待する母親の増加、家庭内離婚と夫婦 (異性) 間暴力の問題などにみられるように、家庭の機能は孤立化し、親と子は閉ざされた環境の中で向かい合っている。多くの親たちは、子育てに関して体験的な知識をほとんどもてず、苦労や喜びを分かち合う仲間も少ないなかで悪戦苦闘している。こうした問題への多様かつ予防的介入として、心理臨床家のおこなうコミュニティ援助の実際をとりあげる。 ※ 現場インタビュー	箕口雅博 (立教大学 教授)  資料提供： 藤 後 悦 子 (立教大学 講師)	箕口雅博 (立教大学 教授)  対談： 藤 後 悦 子 (立教大学 講師)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	暴力・犯罪に関するコミュニティ問題へのフェミニスト・アプローチ	児童虐待、異性間暴力 (DV)、暴力犯罪の被害者とその家族など、暴力・犯罪の関与する心理社会的問題へのアプローチについて、「フェミニストセラピー」および「脅威査定管理」の枠組みから検討を加える。 ※現場インタビュー	高 島 克 子 (東京女子 大学教授)	高 島 克 子 (東京女子 大学教授)
11	大学キャンパスにおける学生支援—コミュニティモデルにもとづく留学生支援を中心に—	大学キャンパスで展開しうる学生支援活動の実際について、学生相談室・留学生センターにおける心理臨床家の立場から検討する。 ※留学生、ボランティア学生インタビュー	加賀美常美代 (お茶の水 女子大准教 授)	加賀美常美代 (お茶の水 女子大准教 授)
12	精神障害者へのコミュニティ援助	精神障害者が地域コミュニティで生活するためには、「生活する場」「仲間づくりの場」「働く場」が保証されていなくてはならない。ここでは、地域精神保健の領域で、その活動の基盤としている代表的な現場におけるコミュニティ援助について述べるとともに、そこで働く心理臨床家の他職種との連携と協働のありかたについて検討する。 ※現場インタビュー	高 島 克 子 (東京女子 大学教授)	高 島 克 子 (東京女子 大学教授)
13	医療・保健・福祉領域におけるコミュニティ援助	医療・保健領域におけるコミュニティ援助として、ターミナルケア・HIV カンセリングをとりあげ、心理臨床家の活動の実際を述べる。福祉領域におけるコミュニティ援助の実際として、高齢者の地域ケア活動および児童相談所・児童福祉施設それぞれの場における児童虐待問題へのアプローチを中心にとりあげる。 ※現場インタビュー	箕 口 雅 博 (立教大学 教授)	箕 口 雅 博 (立教大学 教授)
14	産業領域におけるコミュニティ援助—EAP活動を中心として—	産業領域におけるコミュニティ援助として、主にEAP (従業員支援プログラム) 活動の実際をとりあげ、その効用と意義について述べる。 ※現場インタビュー	箕 口 雅 博 (立教大学 教授)  資料提供： 松本桂樹 (ジャパン EAPシス テムズ)	箕 口 雅 博 (立教大学 教授)  対談： 松本桂樹 (ジャパン EAPシス テムズ)
15	臨床心理地域援助の課題と展望—研究と実践の統合をめざして—	臨床心理地域援助 (コミュニティ援助) を今後どのように展開していくかについて座談会形式で検討する。主なテーマとしては、「対象と領域ごとの展望」「理論と実践方法の検討」「教育と訓練」「職業倫理」「研究と実践の統合」などを扱う予定である。	箕 口 雅 博 (立教大学 教授)	座談会： 箕口雅博 高島克子 久田 満

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8930503	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 経済政策 ('09) = (TV)

※この科目は「経済政策 I ('05)」を一部改訂した科目です。

改訂回は1, 9, 10, 12, 13, 14, 15回です。

[主任講師 (現職名) : 林 敏彦 (放送大学教授) ]

### 講義概要

政府の経済政策は、民間経済活動が円滑に行われるための制度的及び経済的基盤を整え、市場制度を補完し、必要に応じて自ら市場に参加して、効率的で、公正で、よりよい資源配分の実現を目指すことを目標とする。この科目では、前半で現代の経済政策が果たすべき役割に関する基礎理論を学習し、後半では7つの個別分野の政策課題について検討する。

### 授業の目標

政治を志す人、国や地方自治体の政策担当者、さらに政策の最終的判断者である一般市民を対象として、「温かい心情と冷静な頭脳」(マーシャル)を備えた政策論争の作法を身につけることを目的とする。

### 履修上の留意点

学部共通科目「経済学入門('04)」または「経済学入門('08)」、および学部専門科目「現代経済学('04)」または「現代経済学('08)」を学んでおくことが望ましい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	経済政策はなぜ必要か (※改訂回)	政府が行う施策のうち、人々の経済生活に直接影響するものを経済政策と呼ぶ。日本のような市場経済において、経済政策はなぜ必要なのだろうか。シカゴ学派の考え方と制度学派の考え方を比較検討してみよう。  【キーワード】 政府の役割、新古典派、制度学派	林敏彦 (放送大学教授)	林敏彦 (放送大学教授)
2	社会の厚生	政策効果は、社会全体の構成を基準にして判断されなければならない。社会厚生は、市民主権の原則のもとに、効率性と公正さを追求することにより高まる。経済政策決定、実行過程への参加のあり方も重要な政策評価の対象となる。  【キーワード】 効率性、公正さ、社会的厚生関数	林敏彦 (放送大学教授)	林敏彦 (放送大学教授)
3	カルドア=ヒックス基準	政策が人々の全員一致で支持される場合には問題ないが、一般にある政策がとられれば、それによって新しく利益を受ける人と利益を失う人が現れる。利害得失を超えた政策判断はどのような基準に基づいて行えばよいのだろうか。  【キーワード】 パレート効率性、カルドア=ヒックス基準、費用便益分析	林敏彦 (放送大学教授)	林敏彦 (放送大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	市場の成功と失敗	<p>市場メカニズムによって最適な資源配分が実現されるというのはどういうことだろうか。市場はどのような場合に成功し、失敗するのだろうか。どのような財でも市場取引に委ねることで社会的最適が実現されるのだろうか。</p> <p>【キーワード】 社会的余剰、市場の成功、独占</p>	林敏彦 (放送大学教授)	林敏彦 (放送大学教授)
5	外部効果と政府の役割	<p>企業や消費者の経済活動が、契約当事者以外の第三者に影響を及ぼすことを外部効果という。外部効果の例にはどのようなものがあり、外部効果が存在すれば市場が失敗すると言われるのはなぜだろうか。</p> <p>【キーワード】 外部効果、コースの定理、市場の失敗</p>	林敏彦 (放送大学教授)	林敏彦 (放送大学教授)
6	公共財	<p>社会の構成員が同じ量だけ消費するしかないサービスは、公共財と呼ばれる。市場は公共財の最適供給に失敗するというのはどういう意味なのか。公共財のただ乗り問題とは何か。公共財は政府が供給すべきなのだろうか。</p> <p>【キーワード】 純粋公共財、リンダール均衡、ただ乗り問題</p>	林敏彦 (放送大学教授)	林敏彦 (放送大学教授)
7	不確実性と情報	<p>金融活動に限らず経済活動は絶えず不確実性にさらされている。リスクと不確実性には民間の保険だけで対応が可能だろうか。情報が偏っている場合、市場はうまく機能するだろうか。何らかの政府の介入は必要だろうか。</p> <p>【キーワード】 期待効用仮説、保険、逆選考、依頼主・代理人関係</p>	林敏彦 (放送大学教授)	林敏彦 (放送大学教授)
8	政府の失敗	<p>外部効果、公共財、情報の偏在などがある場合、市場は失敗するといわれる。では、それらを補正する役割に担う政府は失敗しないのだろうか。投票のパラドックス、政府の活動に伴う英じえんしー費用などについて考えてみよう。</p> <p>【キーワード】 投票のパラドックス、間接民主主義、官僚制度</p>	林敏彦 (放送大学教授)	林敏彦 (放送大学教授)
9	マクロ経済政策 (※改訂回)	<p>政府は景気や雇用、物価や国際収支など、マクロ経済の運営に大きな役割を担うと考えられている。政府は財政政策によってどこまでマクロ経済を制御できるのだろうか。日本銀行が直面する金融政策上の課題は何だろうか。</p> <p>【キーワード】 財政政策、金融政策、IS-LM分析、総需要、総供給</p>	野間敏克 (同志社大学教授)	野間敏克 (同志社大学教授)
10	社会保障政策 (※改訂回)	<p>年金を含む社会保障制度は、近代国家が担うべき重要な責務となっている。社会保障の基本原則、日本の社会保障の制度的特徴、現状と問題点などについて考える。</p> <p>【キーワード】 社会保険、社会保障、国民負担率、年金制度</p>	坂井素思 (放送大学准教授)	林敏彦 (放送大学教授) 坂井素思 (放送大学准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	労働政策	<p>日本の家計所得の8割を占めるのは勤労所得である。労働市場にはどのような変化が起こっているのだろうか。人々の働き方に変化は見られるのだろうか。日本の労働市場政策について考えてみる。</p> <p>【キーワード】 労働市場の失敗、失業の問題、日本の雇用政策</p>	林敏彦 (放送大学教授)	林敏彦 (放送大学教授) ゲスト出演 大竹文雄 (大阪大学教授)
12	交通産業と経済政策 (※改訂回)	<p>交通における産業政策とインフラ整備は重要な公共政策として位置づけられている。本章では交通部門の市場特性と料金設定政策、及び交通社会資本整備における経済学的課題について考察する。</p> <p>【キーワード】 交通市場、料金決定論、インフラ整備、公共交通政策</p>	新井圭太 (近畿大学准教授)	新井圭太 (近畿大学准教授)
13	中山間地域政策 (※改訂回)	<p>地方自治体も経済政策を担当している。その中から、国レベルとは異なる自治体の政策について、農山村あるいは中山間地域が抱える課題と政策の変遷について考える。</p> <p>【キーワード】 中山間地域、農業、林業、地域政策</p>	伊藤勝久 (島根大学教授)	伊藤勝久 (島根大学教授)
14	環境政策 (※改訂回)	<p>大量消費・大量廃棄経済は、環境にどのような影響を及ぼしているのだろうか。地球環境と経済活動、大気汚染・土壌汚染・騒音・ヒートアイランド現象やごみ処理システムについても考える。</p> <p>【キーワード】 外部不経済、静脈産業、環境問題、ごみ処理</p>	坂田裕輔 (近畿大学教授)	坂田裕輔 (近畿大学教授)
15	国際公共政策 (※改訂回)	<p>近年、中国を中心とするアジア諸国の急成長を機に、開発国家戦略、地域経済協力、エネルギー問題、グローバルな環境問題等、国際的な広がりを持つ政策課題の重要性が増している。世界政府なき国際公共政策は可能だろうか。</p> <p>【キーワード】 日本型経済モデル、政策の国際協調、グローバルな政策課題</p>	林敏彦 (放送大学教授)	林敏彦 (放送大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8930511	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名(メディア) = 途上国の開発政策 ('09) = (TV)

[主任講師(現職名) : 高木 保興(放送大学教授) ]

### 講義概要

途上国の貧困問題は、21世紀に入っても改善の兆しを見せていない。スーダン南部のダルフルを中心とする内戦は、未だに終戦への見通しが立っていない。また、ジンバブエの桁外れのインフレは、食糧不足に拍車をかけ、子供や女性に深刻な影響を及ぼしている。この科目では、途上国が貧困から脱出できるためには、どのような点を重視して政策を推進するほうがベターなのかについて、検討を加える。

### 授業の目標

多くの大学院用のテキストが、基礎の重要性を強調し、分析の厳密性を求めている中で、この授業では、途上国に関する主要問題を毎回取り上げ、その問題を掘り下げていく過程で、修士論文の課題になりうるテーマを示唆するという手法をとる。この科目を学ぶことで、途上国が発展していく上で何が重要かを理解し、各自の修士論文の中に、関連する項目として、少しでも活かすことができれば、目標は達成されたことになる。

### 履修上の留意点

この科目は、学部開設科目「途上国の開発('07)」を取得し、ある程度途上国に関する知識を持っていることを前提にしている。したがって、前もって、この学部科目の履修が望ましい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	不安定なアフリカ諸国	なぜ、アフリカには政治的に不安定な国が多いのか、これが1回目の課題である。アフリカの専門家武内進一氏をゲストとして迎え、過去の植民地時代の残滓、外国の資源を求めての介入、民主主義的制度の移植などが、内戦とどのように結びついているのか、意見を伺っていく。  【キーワード】 アフリカの途上国、政治的不安定	高木保興(放送大学教授)、コラム: ゲスト	高木保興(放送大学教授)、ゲスト: 武内進一(アジア経済研究所アフリカ研究グループ長)
2	歪んだ所得分配	なぜ、中南米諸国には、所得分配が極端に歪んだ国が多いのか、これが2回目の課題である。さらに、共産主義活動は、政権をなぜ奪取できなかったのか、についても、中南米諸国の専門家恒川恵市氏に意見を伺っていく。  【キーワード】 所得分配、中南米諸国、社会(関係)資本	高木保興(放送大学教授)、コラム: ゲスト	高木保興(放送大学教授)、ゲスト: 恒川恵市(政策研究大学院大学教授)
3	一次産品輸出は促進すべきか	一次産品輸出の拡大は、どのような問題を途上国にもたらすのか、これが3回目の課題である。地下資源では、枯渇と国土荒廃問題を、プランテーションでは国際価格変動との関係を明らかにしたい。  【キーワード】 流通業者、政商、農業社会の不安定化	高木保興(放送大学教授)	高木保興(放送大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	農業と水不足	途上国の主要産業である農業には、水は無くてはならないものだが、水に関する紛争は耐えない。水不足の主要な問題を議論することが4回目の課題である。1地域の水配分、上流と下流の水配分、そして、都市工業と地方農村の水配分について検討を試みる。  【キーワード】 灌漑事業、貧困削減、社会(関係)資本	高木保興(放送大学教授)	高木保興(放送大学教授)
5	バランスの取れた工業化は望ましいか	バランス・グロースは望ましい成長・発展の姿か、これが5回目の課題である。3種のバランス・グロースを紹介し、その検討を試みる。  【キーワード】 バランス・グロース、コストとベネフィット	高木保興(放送大学教授)	高木保興(放送大学教授)
6	初期工業化戦略	近代工業をスタートさせるのに必要なことは何か、これが6回目の課題である。比較優位産業は何か、輸出に必要なノウハウは何かなど、潜在的企業家に起業させるのに必要な情報を、政府はいかにして提供すればいいのだろうか。  【キーワード】 輸出加工区、経済特区、殖産工業化政策	高木保興(放送大学教授)	高木保興(放送大学教授)
7	輸入代替政策は必要か	輸入代替政策は産業育成に必要なか、これが7回目の課題である。日本の自動車産業の成功例は、途上国の見本として活用できるか。タイや台湾は、なぜ、自動車産業の育成に失敗したのか。自国企業と外国企業の区別は必要なのか。これらの問題点について検討する。  【キーワード】 輸出加工区、経済特区、殖産工業化政策	高木保興(放送大学教授)	高木保興(放送大学教授)
8	債務問題はなぜ発生するのか	途上国には、なぜ、債務問題が頻発するのか、これが8回目の課題である。債務問題の発生原因を探ることで、何が明らかにされるだろうか。世界経済の変動による影響を最小に留めるには、途上国政府はどうすればいいのか。  【キーワード】 債務問題、ハイパー・インフレ	高木保興(放送大学教授)	高木保興(放送大学教授)
9	構造調整政策は途上国に有効か	1980年代に世銀によって推進された構造調整政策は、途上国にとって有効と言えるのだろうか、これが9回目の課題である。同時に、政府主導の開発の長所と短所も議論される。  【キーワード】 構造調整、政府主導、	高木保興(放送大学教授)	高木保興(放送大学教授)
10	東アジアに奇跡を起こしたものは	なぜ、東アジアに高度成長国が集中したのか、これが10回目の課題である。東アジア諸国の成長を押し上げた外部要因は何か。内部要因として、世銀は何を指摘しているのか。  【キーワード】 東アジアの奇跡、マクロ経済の安定	高木保興(放送大学教授)	高木保興(放送大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	東アジアの通貨危機	<p>東アジアの通貨危機は、なぜ、深刻になったのか、これが11回目の課題である。アメリカとIMFの対応について、メキシコ(1994年)とタイ(1997年)のケースを比較しながら、政治的要因が色濃く反映されていることを指摘する。</p> <p>【キーワード】 通貨危機、伝染、地域協力</p>	高木保興(放送大学教授)	高木保興(放送大学教授)
12	途上国にとっての2国間EPAと地域共同体	<p>2国間FTAと地域共同体とは、途上国に異なった影響を及ぼすのか、これが12回目の課題である。同時に、21世紀に入って、2国間FTAが活発になってきたのは、なぜかについても、検討する。</p> <p>【キーワード】 地域共同体、安全保障、経済連携協定</p>	高木保興(放送大学教授)	高木保興(放送大学教授)
13	援助の考慮点	<p>援助について議論するとき、気をつけなければならない点は何か、これが13回目の課題である。NGOの援助は効果が上がっているが、ODAは適切になされていないという指摘は、的を射ているのか。組織の目的を明確にすることから議論を始める。</p> <p>【キーワード】 ODA、NGO、組織の目的</p>	高木保興(放送大学教授)	高木保興(放送大学教授)
14	社会的企業と貧困削減	<p>途上国の貧しい人に無担保で融資をしながら、高い返済率を確保して、ビジネスとして継続を可能にする試みが展開されている。なぜ、貧しい人への融資が成功を収めているのか、これが14回目の課題である。</p> <p>【キーワード】 社会的企業、グラミン銀行、KIVA</p>	高木保興(放送大学教授)	高木保興(放送大学教授)
15	途上国政府の役割	<p>途上国政府は、何を実行し、何をすべきでないのか、これが15回目の課題である。債務問題に対する構造調整政策や通貨危機に対するIMFコンディショナリティに共通することは何か。制度や政策に先進国のものを導入しても、期待通りの結果が生まれない理由は、どこにあるのかが議論される。</p> <p>【キーワード】 行動決定要因、制度</p>	高木保興(放送大学教授)	高木保興(放送大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8930520	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 自治体と政策 ('09) = (TV)

[主任講師 (現職名) : 天川 晃 (放送大学教授) ]

[主任講師 (現職名) : 稲継裕昭 (早稲田大学大学院教授) ]

### 講義概要

最初に自治体と政策を検討するための、政治的サイクルと政策的サイクルという枠組みを提示する。次に自治体の政治行政の制度的枠組みと近年の改革について説明をする。さらに、自治体とコミュニティ、住民の関係を概観し、これらをつなぐ自治体の諸政策の課題を検討する。最後に、現代の自治体と政策のあり方を歴史的・比較的文脈の中に位置づける。

### 授業の目標

分権改革後の自治体は、自治体運営(ガバナンス)の主体としての責任が大きくなった。都道府県、市町村を問わず、それぞれの自治体は、地方制度の枠組みの中で、自らが持つさまざまな資源を活用しつつ住民の求める政策を展開することになった。この科目では、政策主体としての自治体という観点から、自治体が当面する政策課題について、歴史的比較考察を含めて、検討する。

### 履修上の留意点

自治体の直面する諸課題について、性急な回答を求めることよりも、理論的・歴史的な考察を踏まえつつ検討することが望まれる。学部の政治学・行政学関係の諸科目を履修していることが望ましい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	自治体と政策	講義全体のイントロダクション。自治体の活動はあるサイクルを持って展開される。4年毎に行われる選挙のサイクルと、1年毎に編成される予算のサイクルである。また、自治体はさまざまな種類の政策を展開するが、個別政策のサイクルがある。これらがどのように交錯するののかについて検討する。近年、自治体政策をめぐる大きな環境変化が生じつつあり、政策における自治体の役割もあらためて再検討する。 【キーワード】 政治のサイクル、政策のサイクル、政策過程、政策の種類、参加と協働、ガバナンス	天川	天川・稲継
2	分権改革	包括的地方自治ガバナンス改革としての分権改革の実績と課題について検討する。さらに、三位一体改革など税財政改革の背景と意味を含め、今後の改革の課題についても考える。 【キーワード】 分権一括法、三位一体改革、市町村合併、未完の分権改革	稲継	稲継
3	自治体の制度	自治体の制度を二つの角度から考える。一つは都道府県と市区町村の二層制の制度である。これは中央政府と自治体との関係という問題に関わるが、ここでは二層制度が何を期待されていたのかという問題を考える。もう一つは歴史的に一貫する自治体の制度の特徴と制度改革の問題を考え、近年の自治体制度の動きと今後の展望を考えてみる。 【キーワード】 二層制、融合型と分離型、内務省一府県システム、内閣一道州制システム、画一化と多様化、地域自治区	天川	天川

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	議会と議員	自治体議会の権能・機能、地方議会の構成と運営について考える。議会を構成する議員は、どのような属性の人がついているのか、報酬等はどうなっているのか、また、住民参加と地方議会の関係をどう考えるかについて触れる。 【キーワード】 議会の役割、標準規則、議員報酬、議会と住民参加、地方議会改革	稲継	稲継
5	首長と執行機関	自治体の首長と議会の関係について考える。両者の関係を歴史的、比較的検討した上で、自治体の内部行政組織にまつわる問題を指摘する。最後に二元代表制と自治体の政策に関する近年の研究について紹介する。 【キーワード】 首長公選制、局部法定主義、執行機関多元主義、二元代表制、政策過程	天川	天川
6	人事行政	地方公務員の種類と数について簡単に見た後、職員の採用・配置と異動・昇進など、人事全般に関する問題を考える。また、人事交流や給与についても扱う。時代環境の変化の中で今後の人事行政はどうなっていくのかについても考える。 【キーワード】 地方公務員、配置と異動、昇進制度、人事交流、給与体系、積み上げ型褒賞システム	稲継	稲継
7	税財政構造と予算管理	マクロな税財政構造を説明した上で自治体の予算編成をめぐる問題を考える。歳入と歳出について基本的な理解を得ると共に、予算編成のスケジュールと決算過程、および最近の自治体における予算改革について理解する。 【キーワード】 地方交付税、国庫支出金、地方税、地方債、予算編成、自治体財政健全化法	稲継	稲継
8	自治体改革	分権改革と並行して進められた自治体自体の改革の諸様相を考える。NPM(ニュー・パブリック・マネジメント)に基づく考え方、行政評価、指定管理者制度、公会計改革などの具体的事例についても検討する。 【キーワード】 集中改革プラン、NPM(ニュー・パブリック・マネジメント)、行政評価、指定管理者制度、公会計改革	稲継	稲継
9	自治体とコミュニティ	少子高齢化社会への変化の中で自治体とコミュニティの関係はどのように変化してきたのか。自治体とコミュニティの関係の再編と再生の課題を検討する。 【キーワード】 少子高齢化、限界集落、コミュニティ、町内会、NPO、中間団体、ソーシャル・キャピタル	天川	天川
10	開発と環境	日本の地域開発は「地域の均衡ある発展」を目標としてきたが、その開発の結果として大都市部の過密と農山村部の過疎という不均衡を生んできた。その後、開発の目標や手法も変化してきた。国家中心の都市計画法も次第に分権化されさまざまな自治体でまちづくりの経験が重ねられてきた。今後必要な都市と農村の関係を含めて発展の方向を模索する。 【キーワード】 国土総合計画、国土形成計画、条件不利地域、持続可能な発展、環境基本法、都市計画、まちづくり、合意形成、自治基本条例	天川	天川

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	福祉政策と自治体	自治体の福祉行政をめぐる問題を考える。融合型自治制度の枠組みで、福祉政策を担うのは自治体である。福祉政策の展開を見る中で、また、生活保護を素材として中央地方関係を考える。さらに、福祉政策を担う第一線公務員の行動様式も合わせて考える。  【キーワード】 福祉の磁石、福祉政策の展開、生活保護、第一線公務員	稲継	稲継
12	警察と教育	中央一地方関係の観点から見ると、警察行政と教育行政は他の政策分野とは異なる行財政の構造を持っている。これらの政策分野の戦前・戦後の制度改革の経過とも無縁ではない。この制度の歴史的背景を見るとともに、これら行政分野の現状と課題を明らかにする。  【キーワード】 占領改革、内務省解体、自治体警察、公選教育委員、「逆コース」、体感治安、危機管理	天川	天川
13	自治体のネットワーク	自治体は地域的・制度的には独立した存在であるが、近隣の自治体、同種の自治体などとの間にさまざまなネットワークを持っている。自治体間の公式な関係だけでなく、市長や議員、職員、さらには市民団体や個々の市民が持っている個人的なネットワークもある。これらのネットワークと自治体の政策とはどのような関係があるだろうか。  【キーワード】 広域行政、地方六団体、姉妹都市、国際協力、政策ネットワーク、鉄の三角形、政策波及、政策革新	天川	天川
14	地方自治の歴史	「地方自治は民主主義の学校」という理念が語られるが、実際の地方自治の歴史はどうだったのか。近代日本の地方自治の歴史を「民主化」、「国際化」、「現代化」という観点から振り返り、これからの地方自治の方向を考える。  【キーワード】 民主化、国際化、現代化、三新法、市制町村制、大正デモクラシー、戦時体制、「民主主義の学校」	天川	天川
15	国際比較	日本の地方自治のあり方の特徴を明らかにするには、諸外国の地方自治との比較検討が必要である。ヨーロッパにおける地方自治の類型化を中心として、さまざまなパターンの地方自治を比較検討し、日本の自治体の特徴を考える。  【キーワード】 英米型と大陸型、連邦制国家と単一主権国家、分離型・融合型、内政の総括官庁、活動量、ウルトラ・ヴァイレースの法理	稲継	稲継

事務局 記載欄	開講 年度	平成20年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8930376	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 社会的自我論 (' 0 8 ) = ( R )

[主任講師 (現職名) : 船津 衛 (放送大学教授) ]

### 講義概要

自我の社会理論を展開した研究者であるC. H. クーリー、G. H. ミード、H. ブルーマー、R.H.ターナー、K. ガーゲンらの理論を中心に検討し、社会的自我論の問題点を明らかにし、新たな自我論の形成を目指します。

### 授業の目標

自我に関する理論的研究の流れをフォローし、自我の社会的あり方を理解し、さらに、人間の自我についての新たな見方を身につけることを目標とします。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	社会的自我論の展開	自我に関するこれまでの理論を検討し、自我の社会性を明らかにする社会的自我論の必要性を強調します。  【キーワード】 社会的自我	船津 衛(放 送大学・教 授)	船津 衛(放 送大学・教 授)
2	近代的自我論から現 代的自我論へ	これまで支配的であった近代的自我論を批判的に検討し、その問題点を明らかにし、そこから現代的自我論のあり方について考えていきます。  【キーワード】 近代的自我	同上	同上
3	現代人の自我のゆく え	現代に生きる人間の自我の様相として、「アイデンティティの喪失」、「多面的、流動的自我」などについて考察します。  【キーワード】 現代人の自我	同上	同上
4	自我と第一次集団	社会的自我論のスタート台となったアメリカの社会学者C. H. クーリー (cooley) の自我論を取り上げ、自我が第一次集団 (primary group) における他者との関わりにおいて社会的に形成されることを明らかにします。  【キーワード】 第一次集団	同上	同上

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
5	「鏡に映った自我」	<p>クーリーの自我論の主要概念である「鏡に映った自我」(looking-glass self)について、その内容を検討し、これまでの批判をふまえて、その問題点を指摘します。</p> <p>【キーワード】 「鏡に映った自我」</p>	船津 衛(放送大学・教授)	船津 衛(放送大学・教授)
6	自我と「自己感情」	<p>クーリーの自我論において、自我とイコールにされている「自己感情」(self feeling)の具体的内容を検討し、その意義と問題を明らかにします。</p> <p>【キーワード】 自己感情</p>	同上	同上
7	自我と「役割取得」	<p>自我論を確立したアメリカの哲学者、社会心理学者のG. H.ミード(Mead)の「役割取得」(role taking)による自我形成論をとりあげ、その背景と意義について論じます。</p> <p>【キーワード】 「役割取得」</p>	同上	同上
8	「主我」と「客我」	<p>ミードの自我論において自我を構成する2側面とされる「主我」(I)と「客我」(me)の概念を検討し、その問題点とこれまでの解釈について問題とします。</p> <p>【キーワード】 「主我」、「客我」</p>	同上	同上
9	自我とコミュニケーション	<p>ミード理論では、自我とコミュニケーションが深くかかわっており、そこにおいて「意味のあるシンボル」(significant symbol)が大きな役割を果たしていることを明らかにします。</p> <p>【キーワード】 「意味のあるシンボル」</p>	同上	同上
10	自我とシンボリック相互作用	<p>アメリカの社会学者であり、シンボリック相互作用論(symbolic interactionism)の創始者であるH. ブルーマー(Blumer)の自我論の内容とシンボリック相互作用論における位置について明らかにします。</p> <p>【キーワード】 シンボリック相互作用</p>	同上	同上
11	自我と「自分自身との相互作用」	<p>ブルーマー理論の主要概念である「自分自身との相互作用」(self interaction)を取り上げ、その内容と意義について論じます。</p> <p>【キーワード】 「自分自身との相互作用」</p>	同上	同上

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
12	自我と役割形成	<p>ミードやブルーマーの理論を展開したアメリカの社会学者 R. H.ターナー (Turner) の「役割形成」(role making) 概念を取り上げ、その意義と内容について検討します。</p> <p>【キーワード】 役割形成</p>	船津 衛(放送大学・教授)	船津 衛(放送大学・教授)
13	自我の社会的コンストラクション	<p>自我論の新しい展開である自我の社会的コンストラクション論について、アメリカの社会心理学者のK. ガーゲン (Gergen) の理論を取り上げ、その意義について論じます。</p> <p>【キーワード】 社会的コンストラクション</p>	同上	同上
14	自我のナラティブ・コンストラクション	<p>自我が「ナラティブ」(narrative)を通じて形成され、変容するというガーゲンの見解を取り上げ、その内容をくわしく検討します。</p> <p>【キーワード】 ナラティブ・コンストラクション</p>	同上	同上
15	自我のリコンストラクション	<p>社会的コンストラクション論の中心的テーマであり、社会的自我論の主要テーマである「自我のリコンストラクション」について考察し、そこから新たな社会的自我論の形成を目指します。</p> <p>【キーワード】 自我のリコンストラクション</p>	同上	同上

# ＝ 法システム I ( '06 ) ＝ ( R )

－生命・医療・安全衛生と法－

- [ 主任講師 (現職名) : 中嶋 士元也 (放送大学客員教授) ]  
 [ 主任講師 (現職名) : 町野 朔 (上智大学法学研究科教授) ]  
 [ 主任講師 (現職名) : 野村 豊弘 (学習院大学教授) ]

## 全体のねらい

国民一般ないしは職業に携わる人々(被用者)の生命の維持あるいは健康の保全に係わる法思想、法制度や法理論を解説し、医療・保健をめぐる種々の法律問題を研究しようとするものである。そのうちでも、この印刷教材で取り扱う対象は限定され、国民を対象とする一般医療における医師・医療機関と患者の契約関係をめぐる法律問題ならびに被用者を対象とする産業保健が中心的に考察される。そして、その前提として、生命倫理と医療道德のあり方と法規範との相互関係を論じなければならない。この観点は、現代の先端医療がはらむ問題との関係で特に重要である。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	生命倫理と法	そもそも、生命倫理・医療倫理を維持するために法律を使うことは許されるか。平成14年にクローン人間の作成を厳罰に処する「クローン技術規制法」の成立をめぐる議論を照会しながら、法と倫理の関係を考察する。	町野 朔 (上智大学 法学研究科 教授)	町野 朔 (上智大学 法学研究科 教授)
2	国境を越える生命倫理	「クローン技術規制法」は、各国はクローン人間禁止のための措置を執るべきだという国際的合意に後押しされて成立したものである。しかし、人クローン胚の作成も禁止されるべきかを巡って、各国の議論は大きく分かれている。生命倫理の国際化を考慮しながら、わが国の生命倫理立法のあり方を探る。	町野 朔 (上智大学 法学研究科 教授)	町野 朔 (上智大学 法学研究科 教授)
3	終末期医療と法	ある場合には国民の生命をも剥奪する刑法は、法律の中でも最も峻厳なものである。医療過誤、患者の自己決定権侵害に対して、日本の刑事司法はどのように対応してきたか、またその刑事立法はどうあるべきか、を検討していく。	町野 朔 (上智大学 法学研究科 教授)	町野 朔 (上智大学 法学研究科 教授)
4	生殖補助医療と民事法	医学の世界では、人工授精・体外受精・受精卵移植等の生殖補助医療技術はめざましい発展をとげている。そこで可能とされる技術のうち、どこまでが法的に認められるのか。日本では、この問題については、医学の専門家集団の判断に委ねられてきた。しかし、法的な観点からの考察は不可欠であり、また、そのような医療技術によって生まれてきた子どもの法的な親子関係をどのように決定するのかという問題を明らかにしなければならない。	野村 豊弘 (学習院大 学教授)	野村 豊弘 (学習院大 学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
5	医療行為・医療契約	治療に関して、医者と患者との間には、医療契約が締結されると考えられる。しかし、幼児や高齢者について、どのような要件を満たせば、医療契約が締結されると評価できるかが問題となる。また、意識不明の救急患者などのように、患者が意思を表明できない場合に、医療契約がどのように締結されるのか。さらに、医師が治療内容をどのように説明し、それを前提に患者がどのように自己決定するかについても考察する。	野村豊弘 (学習院大学教授)	野村豊弘 (学習院大学教授)
6	医療過誤紛争	医師の手技上の過失、説明義務の不履行などの医療過誤に基づく損害賠償について考察する。特に、一般的な不法行為の場合とはどのように異なるかに着目する。また、死亡が確実であるような疾患について、診断の遅延があったような場合（適切な時期に診断がなされても、死亡は避けられなかったときもある）などを例に、医療過誤における損害とは何かについても取り上げる。	野村豊弘 (学習院大学教授)	野村豊弘 (学習院大学教授)
7	職場における安全衛生	労働安全衛生法（安衛法）ならびに付属法令は、労働基準法とあいまって、職場で働く人々の安全と健康を確保し、また系的な職場環境の形成を促進することを目的として制定されている。本章では、これにつき考察する。	中嶋士元也 (放送大学客員教授)	中嶋士元也 (放送大学客員教授)
8	労働災害（1）－実態と補償の仕組み	安衛法が労災防止のために、膨大な措置を規定しているにもかかわらず、不幸にして労災は絶えず発生している。本章では、労災の歴史や実態について、解説する。	中嶋士元也 (放送大学客員教授)	中嶋士元也 (放送大学客員教授)
9	労働災害（2）－救済方式	法制度は、不幸にして仕事を原因とする労災が発生した場合に、被災労働者や遺族のために行政ルート（補償）や裁判ルート（損害賠償）をもって、これを救済しようとする。本章では、労災救済の法的仕組みを探る。	中嶋士元也 (放送大学客員教授)	中嶋士元也 (放送大学客員教授)
10	過労死・過労自殺の予防と救済	労基法や労災保険法は、けがや職業病を補償をもって救済するが、一定の要件の下に、職業病とはいえない作業関連疾病をも救済する。その代表的な疾病が、日本で深刻な問題を提起している、いわゆる過労死・過労自殺である。本章では、これらの法的問題を検討する。	中嶋士元也 (放送大学客員教授)	中嶋士元也 (放送大学客員教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	公衆衛生・感染症・予防接種	これらは、医学としての公衆衛生学・予防医学の対象であるが、法律制度は、これらの分野の効果的な対策のために、どのような仕組みを用意しているであろうか。本章では、この問題を概観する。	中嶋士元也 (放送大学 客員教授)	中嶋士元也 (放送大学 客員教授)
12	精神障害者の権利と精神医療	我邦十何万ノ精神病者ハ実ニ此病ヲ受ケタルノ不幸ノ外ニ、此邦ニ生レタルノ不幸ヲ重ヌルモノト云フベシ。これは、1918年、日本の精神医学と精神医療の創始者・呉秀三博士の遺した言葉である。日本の精神医療と精神医療法は、博士の言葉にどのように応えてきたのか。	町野 朔 (上智大学 法学研究科 教授)	町野 朔 (上智大学 法学研究科 教授)
13	医療・健康情報の保護	医療機関においては診療情報や薬剤情報が、また職場での健康診断等を通じて多くの被用者の健康情報が発生する。これら医療・健康情報は、個人情報保護法の下においても、特に厳正な処理の求められている情報である。法的問題点を探る。	中嶋士元也 (放送大学 客員教授)	中嶋士元也 (放送大学 客員教授)
14	医薬品の安全と被害の救済	医薬品は、患者の治療に不可欠なものであるが、合成化学物質を素材とする医薬品等は、内在的な危険性をも包蔵している。医薬品事故(薬害)が発生した場合、製薬会社の製造物責任や医師の使用上の過失は法律上どのように扱われるであろうか。	中嶋士元也 (放送大学 客員教授)	中嶋士元也 (放送大学 客員教授)
15	食品の安全と被害の救済	食品に含まれる有害物質は、人間にとって一般に危険であるばかりではなく、母親を通して胎児にまで多大な悪影響を及ぼす。すなわち、食品の安全は、全国民の最大の関心事である。法は、これにどのように対処しようとしているか。	中嶋士元也 (放送大学 客員教授)	中嶋士元也 (放送大学 客員教授)

事務局 記載欄	開設 年度	平成 19 年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8930368	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	----------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 法システムⅡ ( '07 ) = (TV)  
 ー比較法社会論ー日本とドイツを中心にー

[ 主任講師 (現職名) : 広渡 清吾 (東京大学教授) ]

### 講義概要

日本の法と社会にはどのような特徴がみられるだろうか。その特徴を明らかにする一つの方法としてドイツの法と社会との比較を行う。近代日本の法制度は、ドイツの法制度を模範にして作られ、また、日本法の理論もドイツから継受されてきた。この歴史的な背景に加えて、第二次世界大戦後のドイツと日本は、敗戦国として共通の課題をかかえながら、それぞれに固有の歩みをみせ、国際社会においてもしばしば比較される地位にある。様々な領域と問題に即して、二つの法と社会を比較し、日本の特徴を示したい。

### 授業の目標

日本とドイツの比較を通じて、日本の社会における憲法の意義、戦後責任の問題、女性の法的地位、労働者と企業をめぐる法的問題、外国人と共生する社会をめぐる法的問題、社会における法と法律家の機能と役割、また、法の形成における市民の役割などについて特徴づけを行い、理解を深める。法制度の内容を把握するとともに、社会のなかで法がどのように機能するか、どのような条件によって法の機能が左右されるかについて考察し、理解を深める。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	比較法社会論は何を問題とするのか	比較法社会論は、日本の法と社会の特徴を明らかにするための方法論である。法と社会の比較の意義とその方法について検討し、ドイツを比較の対象とすることの意味について明らかにする。第2回以降の各論のための総論を提示する。	広渡 清 吾 (東京大学 教授)	広渡 清 吾 (東京大学 教授)
2	戦後の反省としての憲法	敗戦国としての日本とドイツは、新憲法を制定して戦後の歩みを始めた。新憲法は「戦争」をどのように位置づけるか、「軍事力」をどのように取り扱うかを最大の問題の一つとした。二つの社会の歩みの共通性と差異について考える。	同上	同上
3	「戦後」はどのように終わるのかー戦争責任と戦後責任	日本とドイツの戦争犯罪は、極東国際軍事法廷およびニュールンベルク国際軍事法廷で裁かれた。しかし、戦争が引き起こした問題は、今日に至るまで終わっていない。これについての「責任」のあり方を考える。	同上	同上

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	社会のなかの憲法—統治構造のあり方および憲法と国民の関係	憲法は国家と国民の関係を定める基本法である。では憲法と国民の関係は、具体的にどのようなものであろうか。統治構造のあり方、基本権の位置づけ、憲法裁判の役割、憲法が社会の統合に果たす役割などについて、比較して考える。	同上	同上
5	法のなかの女性—男女平等の法的意味	近代の法は人の平等を原則にしながらも、性による平等を承認してこなかった。第2次世界大戦後にはおおむね男女の平等が実現するが、抽象的なものにとどまり、なお実質的な平等に向けての問題が法と社会に残る。この流れを整理し、現在の問題を明らかにする。	同上	同上
6	婚姻・家族の変容と法	女性の役割を家庭に閉じこめ、政治や経済活動を男性固有のものとする「性別役割分業」の考え方は、社会において根強くあり、また、法制度を伝統的に規定してきた。婚姻と家族の大きな変容のなかで、法制度の対応が要求されている。その状況を比較的に分析する。	同上	同上
7	アイデンティティとしての氏—夫婦同氏制の問題	日本法は、夫婦と親子（未婚の子）が同じ氏であるべきことを定めている。氏は、「個人の呼称」であるから別氏を認めよとする主張も強い。ドイツはすでに夫婦が別氏を選択することを認めている。同氏制にはどのような根拠があるのか。それぞれの議論を比較しながら考える。	同上	同上
8	企業のあり方と法の役割	ドイツの企業は、「社会国家」という憲法の規定を背景にして、労働者の企業運営への参加を認める独特の制度を法によって与えられている。「共同決定制度」というこの仕組みを中心にして、日本の企業との比較を考える。	同上	同上
9	法からみる労働者の組織と働き方	労働者は集団を組織して労働条件の改善のために企業と交渉する。労働者組織は、企業のなかでの労働者の働き方に大きな影響を及ぼす。法は、労働者組織のあり方や労働者の働き方を規制する。一方で労働者組織、そして他方で法が、労働者の働き方にどのような役割を果たしているか、日本とドイツを比較してみる。	同上	同上
10	国民と外国人の2分法の揺らぎ—国民国家と多様な共生社会	ドイツ社会に住む外国人の比率は1割に近くなっている。日本でも1980年代後半から外国人労働者が増加してきた。外国人を国民から区分する法制度の比較しながら検討し、外国人と共生する社会の法制度のあり方を考える。	同上	同上

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	グローバル化の 下での国際移住 と法	グローバル化の下で国境をこえる人々の流れは、ますます増大している。各国は、このような国際移住にどう対応するか、政策と法制度の検討をたえず迫られている。とくに、ドイツも日本も少子化・高齢化への対策として移民の活用が提案されている。国際移住の実態をみながら、日本とドイツの問題と政策、法制度の変化を比較してみよう。	同上	同上
12	社会の法化－社 会における法の 使われ方	人々の法の利用の程度（裁判所の利用の頻度）を比べるとドイツは、日本よりもはるかに大きい。つまり、ドイツは日本に比べて「社会の法化」が進んでいるといわれる。これは、どのような原因によるものかを法制度や人々の法意識、法についての観念などを比較して考える。	同上	同上
13	社会のなかの法 律家－どのよう に養成され、ど のような役割を 果たすのか	日本はドイツに比べて法律家の数がはるかに少ない。法律家（弁護士・裁判官・検察官）の養成はどのように行われているか。また、法律家はどのような役割を果たすのか。日本とドイツの近年の法曹養成制度の改革をとりあげながら、社会のなかの法律家をめぐる問題を考える。	同上	同上
14	市民による法形 成と司法参加－ 法における市民 の役割－	市民は様々な場面や領域で広い意味での法を形成する役割を果たす。日本で新たに実施される裁判員制度は、その一つである。ドイツでは市民が素人裁判官として活動する。これらを比較しながら、市民の法における役割を考える。	同上	同上
15	変化のなかで「 法と社会」をと らえる－講義の まとめ	ドイツと日本の比較は、それぞれの法と社会の特徴を明らかにする。しかし、この相互の特徴は、それぞれ歴史的に形成されてきたものであるが、同時に未来に向けて変化し、ある場合には同じところに収斂する可能性すらある。講義のまとめとして、触れることのできなかつた問題を含めて、これからの問題を考えてみよう。	同上	同上

＝ 法システムⅢ（'06）＝（R）

－ 情報法 －

〔主任講師： 宇賀 克也（東京大学大学院教授）〕

〔主任講師： 長谷部 恭男（東京大学大学院教授）〕

全体のねらい

情報に関する法律問題について、憲法、行政法、民法、知的財産法、刑法の観点から多角的に分析するとともに、情報倫理の問題、図書館の機能についても解説する。情報のデジタル化、ネットワーク化に伴う問題に比重を置くが、基礎的な法原則についても十分な理解が得られるように配慮する。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	情報法の概要	情報法の講義においては、憲法、行政法、民法、知的財産法、刑法という法律学の視点で情報に関する諸問題を取り扱うとともに、情報倫理の問題や図書館の機能についても解説する。初回は、その全体の概要を説明する。	宇賀 克也 (東京大学大学院教授) 長谷部恭男 (東京大学大学院教授) 他分担協力者	全 員
2	憲法上の諸原則	表現の自由、プライバシー、知る権利、財産権など、情報法に関わる憲法原理について概略を説明し、あわせて異なる憲法原理が対立する可能性について触れる。	長谷部恭男	長谷部恭男 (東京大学大学院教授)
3	情報倫理	インターネットなどのコンピュータネットワーク社会の秩序を保つには、従来の法律による規制だけでなく、情報倫理と呼ばれる規範が必要となっている。この情報倫理について、具体的な問題を通して、さまざまな側面から考えていく。	山口 和紀 (東京大学大学院教授)	山口 和紀 (東京大学大学院教授)
4	放送制度	放送の規律根拠、番組編集準則、集中排除措置、NHKと民間放送の二本立て体制など、放送制度の基本原則について説明し、多メディア化・多チャンネル化に伴うこれらの原則の変容について触れる。	長谷部恭男	長谷部恭男
5	通信制度	電気通信事業は、20世紀最後の約20年間に、国家による独占（あるいは国家によって保護された独占）事業から、その民営化および競争の導入へと大きな変革を遂げた。この章では、通信事業に関わる法制度を概観した後、通信事業の特質を検討し、さらに通信の秘密について説明する。	同 上	同 上

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
6	情報公開	政府情報の原則公開の理念に立脚して、国民・住民等に情報開示請求権を付与する情報公開法・情報公開条例の基本的構造がどうなっているのか、電磁的記録の情報公開についてはどのような問題があるのかを解説する。	宇賀 克也	宇賀 克也 (東京大学大学院教授)
7	個人情報保護	個人情報保護の法制度が備えるべき基本的要素は何かを OECD 8 原則、EU 指令等を参照しつつ検討し、わが国の個人情報保護に関する法制度の特徴を説明する。あわせて、行政情報化に伴う個人情報保護の課題につき述べる。	同 上	同 上
8	行政情報化	行政情報化推進基本計画に基づく国の行政情報化の推進状況と今後の課題、とりわけ、申請・届出という行政手続のオンライン化に関する法律問題を検討する。	宇賀 克也	宇賀 克也
9	データベースサービスとコンテンツ	文献や図書については多くのデータベースサービスが、ネットワークを介して利用者に提供される。このようなサービスの基本概念と仕組みについて説明する。 (1)データの分類 (1.1)1次情報と2次情報 (1.2)ハイパーテキスト (1.3)テキストとマルチメディア (2)データベース・コンテンツの作成法 (3)情報検索システムの仕組み (4)統合メディア環境を目指して	中川 裕志 (東京大学教授)	中川 裕志 (東京大学教授)
10	電子商取引 (その1)	取引に関する情報がデジタル化・ネットワーク化されることで、紙を前提として行われてきた取引に大きな変化が生ずる。これが電子商取引である。では、いったいどのような電子商取引が発展しようとしているのだろうか。また、そこに含まれる法的問題はどのようなものだろうか。これらについて、国際的な視点を含めて考えたい。	山本 豊 (京都大学大学院教授)	山本 豊 (京都大学大学院教授)
11	電子商取引 (その2)	インターネットを通じた電子商取引においては、相手が誰であるか、また送られてきた情報が改ざんされていないかを確認することが難しい。このセキュリティ上の問題を解決するために考案された電子署名と、それをめぐる法制度を中心に、電子商取引についての法律問題をより掘り下げて検討する。	同 上	同 上

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
12	知的財産法 (その1)	特許法、著作権法、不正競争防止法などの知的財産法は、情報の財産的価値を保護するための法として捉えることができる。この観点から、知的財産法が、どのような目的で、いかに設計されているかということ概観する。	井上由里子 (神戸大学 大学院教授)	井上由里子 (神戸大学 大学院教授)
13	知的財産法 (その2)	デジタル化、ネットワーク化の進展に伴って、知的財産法に関する新たな問題が次々に生じている。個々の論点につき、国際的動向も踏まえて検討する。	同 上	同 上
14	情報の刑法的保護	情報を刑法でどのように保護するかについては、国家機密、財産的情報、個人情報など、その性質に応じた議論が必要である。現行法における情報の刑法的保護を概観した後、将来のあるべき姿について検討することにした。	佐伯 仁志 (東京大学 大学院教授)	佐伯 仁志 (東京大学 大学院教授)
15	インターネット と刑法	インターネット上の様々な不正行為に対して、既存の刑罰法規をどこまで適用することができるのか、適用できない場合にどのような刑罰法規が新たに設けられたのか、今後設けられるべきなのか、といった点を検討することにした。	同 上	同 上

= EU 論 ( ' 0 6 ) = (TV)

- [ 主 任 講 師 (現職名) : 柏倉 康夫 (放送大学教授) ]  
 [ 主 任 講 師 (現職名) : 植田 隆子 (放送大学客員教授) ]  
 [ 主 任 講 師 (現職名) : 小川 英治 (一橋大学大学院教授) ]

全体のねらい

EU 論では、欧州統合について、その歴史から現状の分析、さらには今後のゆくえについて、政治学、経済学、法学、国際関係論、社会学、文化論等のアプローチを通じて、様々な角度から多面的に考察することをねらいとしている。そして、EUにおける統合のプロセスやメカニズムそして統合がもたらす諸効果そしてEUが抱える今後の課題を理解することができる。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	ヨーロッパ統合の歴史	本講義では、欧州の歴史の中で統合に関係する重要な部分に光を当てる。統一された「欧州」というアイデンティティの萌芽・育成という視点からローマ帝国や中世のキリスト教世界などにまで遡って考えてみる。統合とは各国の主権が融合されてひとつになることである。国民国家が育成され、国家の基本的な人権ともいえるべき、各国固有の権利である主権が樹立されたが、その内容を考えてみる。今日のヨーロッパ統合の前提は、平等で民主主義的な各国間の関係や共通の社会経済システムが発展していたことにある。それは、欧州において市民革命と産業革命という二つの革命が近代市民社会と資本主義をいち早く発達させたという背景があったからである。こうした基礎の上に、二十世紀の二つの大戦を経て今日の欧州統合の出発点である欧州石炭鉄鋼共同体(ECSC)や欧州経済共同体(EEC)の設立がある。	渡 邊 啓 貴 (東京外国語大学教授)	渡 邊 啓 貴 (東京外国語大学教授)
2	機構と政策決定の仕組み	EUという言葉と同様にECという言葉も耳にする。EUとECは同じなのか、どのような関係にあるのか。EUの政策の中には、EUが中心の意思決定機関となり、構成国を引っ張っていく分野と構成国の協力が中心となって政策が進められていく分野がある。それぞれ何が異なっているのか、どのような特徴をもつのか。また、EUは単なる政治的対話によって動いているのではなく、EU内に機関を設定して、機関が意思決定を行い、同時に履行確保をおこなっている。EUの政策はどのように決定されるのか、EUの機関にはどのようなものがあるのか、それぞれの関係はどのようなものか。EUの政策がどのように策定され、どのように実施されていくのか、ここでは、次回以降に講義される具体的な政策の基礎となる枠組を説明する。	中西優美子 (専修大学教授)	中西優美子 (専修大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
3	EU の法制度	EUは「法の共同体」と言われるように、EUは構成国が合意した条約に基づいて行動する。構成国がこれまで合意した条約にはどのようなものがあるのかを説明する。また、EUの機関は条約に基づいて立法を制定したり、決定を行ったりする。EU立法には、どんなものがあり、どのような特徴をもっているのかを説明する。また、EUは、国際組織ならびにアメリカや日本などの第三国とも交渉を行ったり、国際条約締結したりする。ここでは、立法手続や条約締結手続について取扱う。さらに、EUの基本原則（権限付与の原則、補完性原則および比例原則）、構成国とEUとの関係を説明し、EU法に対する理解を深める。	中西優美子 (専修大学 教授)	中西優美子 (専修大学 教授)
4	EU の司法制度	EUの司法制度は、EUの立法制度と深く結びついている。EUの機関が立法を制定する際に、条約に定められた手続が遵守されたか、EUは立法する権限をもっていたか。そのような審査をする手続、すなわち、EU立法がEU法に違反して制定された場合、そのEU立法を取消す、欧州司法裁判所による取消訴訟が存在する。EUの機関が立法を制定すると、構成国はEU立法を執行する義務を負う。その履行が確保されているか否かを審査する手続、構成国に対する条約違反手続がある。判決に従わない場合には、構成国は強制金を課される場合もある。国内裁判所がEU法に関連する事項に関して判決を下すにあたって、EU法の解釈の方法が分からない場合、国内裁判所は欧州司法裁判所に先決裁定を求めることができる。EUが国際協定を締結するにあたって、その協定がEU法と合致するか否かを事前に明らかにするために、EUの機関および構成国は欧州司法裁判所に意見を求めることができる。	中西優美子 (専修大学 教授)	中西優美子 (専修大学 教授)
5	経済統合への道、統合にかかわる政策	EUにおける経済統合への道のりは1952年の欧州石炭鉄鋼共同体 (ECSC) を創設するパリ条約に始まった。1958年には欧州経済共同体 (EEC) を設立するローマ条約が発効し、1968年には自由貿易協定から関税同盟に発展した。1970年には経済通貨同盟構想を提示したウェルナー報告が提出され、1979年に欧州通貨制度 (EMS) がスタートした。1987年には単一欧州議定書が発効し、域内市場完成の目標期限が設定された。このように1992年に域内市場統合が完成するまでの道のりを概観する。経済統合への道のりにおいては、関税を撤廃し、経済的障壁を取り除くだけでなく、関税同盟に代表されるような域内共通政策を採用することによっても単一市場への統合が推進された。ここでは、関税同盟に加えて、共通政策として共通農業政策と共通通商政策を取り扱う。さらに、EUの地域格差を是正するために設立された構造基金やマーストリヒト条約の下の結束基金を説明する。	小川英治 (一橋大学 大学院教授)	小川英治 (一橋大学 大学院教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
6	通貨統合	<p>マーストリヒト条約における経済通貨同盟 (EMU) のタイムスケジュール及び収斂条件に言及しながら、通貨統合に至るまで道のり、すなわち、欧州通貨制度 (EMS)、経済通貨同盟の第1段階・第2段階、1999年1月にユーロが導入されて到達した経済通貨同盟の第3段階までの道のりを振り返る。その際に、実際のデータを見ながら、通貨統合のための収斂条件の達成状況を確認する。経済通貨同盟の下でユーロを発行し、共通の金融政策を運営する欧州中央銀行制度とその金融政策を説明する。通貨同盟が様々な為替相場制度の中で厳格な固定為替相場制度として位置付けされることを示した上で、通貨同盟の便益と費用、そして、通貨同盟を成功させるための条件を示す最適通貨圏の理論を解説する。一方、財政政策は、各国の権限が認められ、分権化したままである。「安定成長協定」の下で財政赤字をGDPの3%に制限するよう財政規律が求められている。最後に、EU拡大に伴うユーロの行方について触れる。</p>	小川英治 (一橋大学 大学院教授)	小川英治 (一橋大学 大学院教授)
7	経済・通貨統合 の現実	<p>1992年に完成した市場統合は、EU内に財の単一市場、サービスの単一市場、そして、資本と労働の自由移動という形で進められた。そして、これらの市場統合の実効性がどこまであがったかについて、実際のデータを用いながら、財・サービスの価格の収斂（一物一価の法則）、金利の収斂、賃金の収斂を確認する。さらに、ユーロが導入された1999年以降、そして、ユーロの現金通貨が流通し始めた2002年以降においてこれらの価格・金利の収斂が一層進んだことを確認し、通貨統合がもたらす価格・金利の収斂効果を説明する。一方、市場統合によって単一市場が成立したとしても、単一市場において競争が確保されなければ、一物一価の法則は成立しない。EUにおける競争政策について言及する。また、欧州における労働市場の硬直性が賃金の収斂を妨げていることを指摘する。さらに、マーストリヒト条約に設定されている通貨同盟に参加するための収斂条件がどのような状況にあるかについて、考察する。</p>	小川英治 (一橋大学 大学院教授)	小川英治 (一橋大学 大学院教授)
8	EUの国境管理 ～移民とイスラ ーム～	<p>EU統合により、内部国境が消滅し外圍国境のみとなったが、シェンゲン条約への参加/不参加により、シェンゲン空間の属する国と国境管理を残す国に分かれている。EUは共通難民・移民政策に踏み出しており、ビザ発行や難民審査等を通して国境の管理問題に直面することになる。具体的な域外国境の管理問題という点では、「東」と「南」に弱い環を抱える。東においては、拡大したEU諸国と未加盟国との間に新国境と民族の分離の問題がある。南からはジブラルタル海峡を越えて不法に入国する移民が多い。こうした国境管理の前線に立つのは、EUの「途上国」だが、既に定住外国人の統合問題を抱え新たな新移民に対して警戒的な中心部の「指導」と「援</p>	梶田孝道 (元一橋大 学大学院教 授)	梶田孝道 (元一橋大 学大学院教 授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
		助」のもとに管理はなされている。巨大な共同体が成立され、国境は外囲国境のみとなったことから、管理の内実が変化し、国境管理から現場での管理へと重点移行が見られ、この問題はアイデンティティ・カードによる管理の問題ともリンクする。一方で非正規移民の流入とスマグリングの増加、他方でテロ対策の必要が生じ、各国の内務省や警察の連携が進んでおり、市民社会の状況と対照的である。		
9	域内言語の多様性と言語政策	EUは2004年5月、25か国体制となり、域内の公用語は全部で20か国語となった。フランス・グルノーブルでは、「多言語文化はチャンスかハンディキャップか」と題したシンポジウムが開催されたように、多様な言語をEUの文化的資産とするためのさまざまな企てが行われている。欧州議会での自国語使用の保障、EU委員会での翻訳作業の実態、域内のすべての人々に複数の言語を習得する機会を提供するエラスムス計画の実践など、域内の多言語の実態と相互理解と連帯の促進につとめるEUの言語政策の意義を考察する。	柏倉康夫 (放送大学 教授)	柏倉康夫 (放送大学 教授)
10	EUのアイデンティティ	戦間期に始まる欧州統合の運動では、戦争防止とともに、市民の自由を守るために民主主義を堅持するという指導理念が息づいていた。これは戦後のEC(EU)の誕生とその後の拡大にも引き継がれて、EUのアイデンティティとなってきた。域内にあっては単一市場を形成する過程で、互いの価値観を尊重する「相互承認の原則」として根付き、EUはこの原則を域外に対して経済のもならず政治的にも適応しようとしている。イラク戦争で見られたアメリカとEUの意見の相違の根底は、こうした考え方の相違がある。この回ではEUのアイデンティティ形成を歴史的に展望する。	柏倉康夫 (放送大学 教授)	柏倉康夫 (放送大学 教授)
11	EUの拡大	第一次から第五次までの拡大の系譜を歴史的に概観し、その特色と意義を検討する。とくに、欧州で東西対立が終結した後の軍事的非同盟諸国(スウェーデン、フィンランド、オーストリア)への第四次拡大、および、2004年5月の旧共産党一党独裁諸国およびマルタ、キプロスへの拡大を中心に解説する。さらに、バルカン諸国への拡大過程、トルコとの加盟交渉についても検討する。	植田隆子 (放送大学客 員教授)	植田隆子 (放送大学客 員教授)
12	EUの対外関係	EUの共通外交安全保障政策(CFSP)が導入されるに至った歴史(その前身の欧州政治協力についても説明する)と、その概念、およびそれを支えるEUの組織・政策形成の仕組みについて検討する。さらに、CFSPの枠より広い、EUの対外関係に関し、重要度の高い、拡大EUが隣接する国々に対する政策、対米関係、対ロシア関係や国連、欧州安全保障協力機構(OSCE)などに対する政策についても解説する。	植田隆子 (放送大学客 員教授)	植田隆子 (放送大学客 員教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
13	EU の安全保障政策	CFSP の「道具」と言われる、欧州安全保障防衛政策 (ESDP) について、その概念とそれを支える EU の機関 (政治安全保障委員会、軍事委員会、軍事幕僚部、防衛庁、衛星センターなど) および、具体的なケース (作戦行動の実際) について検討する。EU の安全保障政策は EU の多くの加盟国が属している北大西洋条約機構 (NATO) との緊張・協力関係の中で形成されてきたので、大西洋同盟との関係についても解説する。	植田隆子 (放送大学客員教授)	植田隆子 (放送大学客員教授)
14	EU の科学技術政策	欧州における科学技術政策において、科学者の果たした役割は大きく、科学と政策の連携が国境を越えて進められてきたことが、EU 統合への道筋を作ってきたとも言える。戦後、素粒子原子核分野における国際共同機関として CERN (欧州核研究センター) が設立され、欧州における基礎物理研究における国際交流の基盤となった。その後トリエステに、国際理論物理学センターが設立され、第三世界の基礎科学の立ち上げに寄与するとともに、東西欧州をつなぐ要となった。また、欧州物理学会は、学生交流の枠組みであるエラスムス計画の中で、物理学生流動スキームを設立して単位互換制度を確立するなど、その推進に寄与してきた。さらに、欧州物理学会は、フランス、ドイツ、イタリアで出版されていた学術雑誌を統合して、「欧州物理学会ジャーナル」を刊行するなど、欧州統合を学術的交流の面から推進している。このような欧州における学術研究機関や学協会の動きを研究し、そのよって立つ思想的社会的基盤を検証し、それが統合後、EU の科学技術政策にどのように継承され生かされているかを見ていく。日本の科学者の組織が、国際的な場 (特にアジア地域) での科学技術政策に対して果たすべき役割は何か、を考える際のヒントとしたい。	北原和夫 (国際基督教大学教授)	北原和夫 (国際基督教大学教授)
15	日本と EU の関係	第2次大戦以後の日本と欧州の関係は大きな変遷をたどった。まず、冷戦期においては、日欧関係は政治的に良好な関係と経済的に厳しい摩擦関係の並存状態が長く続いたが、その典型的な例を上げ、このような関係の存続した背景を検証する。次いで、冷戦の終了後、特に 1995 年頃より日欧関係は全般的に良好な「協力の時代」となってきたが、何故そのような変化が起きたのか、日欧双方における状況を検証し、その上に立って将来的展望を探る。さらに、より広い日米欧関係の視点より、冷戦の終焉と欧州統合の前進が米欧関係に及ぼしている影響を概観し、日米欧間の関係にいかなる意味を持つのか考察する。最後に欧州の対アジア政策を概観するとともに、アジアの地域統合の動きにつき、欧州統合の歴史とアジアの現状を比較しつつ、欧州統合が示すアジアへの教訓探り、日本の進むべき方向を探求する。	木村崇之 (外務省参与・元 EU 代表部大使)	木村崇之 (外務省参与・元 EU 代表部大使)

事務局 記載欄	開設 年度	平成 19 年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8910316	履修 制限	有	単位 数	2
------------	----------	----------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 国際社会研究Ⅱ ( ' 0 7 ) = ( R )  
 - 中国近代政治史 -

[主任講師： 山田 辰雄 (放送大学教授)]

**講義概要**

歴史なくして現代を語ることはできない。なぜなら、現代は過去の歴史構造に拘束されているからである。その反面、過去は現代のすべてを説明することもできない。なぜなら、現代は過去に経験しなかった新しい現象を生み出すからである。本講は、現代の中国政治を意識しつつ、20世紀前半の中国近代政治史を扱う。

**授業の目標**

- ①各回の教科書に基づく講義は放送の半分とし、後の半分は各回の括弧内の問題について原資料を提示し、学生とともに分析の過程、論理構成、学界の動向等について学ぶ。
- ②各回の課題は、政治学・政治史の問題として一般性をもたせる。
- ③全体の流れとして、近代中国政治史に集権・独裁と自由・民主との対比を鮮明にする。
- ④中華人民共和国の政治を常に意識しておく。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	中国近代政治史 を学ぶために	学部での勉強の蓄積を踏まえて、大学院で中国近代政治史を学ぶために必要な問題を取り上げる。分析力・構成力の涵養、課題の選択、資料の収集、参考書、図書館・研究機関・本屋、語学、国際交流等の問題がそれである。(一つの論文ができるまで)。	山田 辰雄 (放送大学 教授)	山田 辰雄 (放送大学 教授)
2	清 末 の 政 治	19世紀の中国の王朝体制は、内なる矛盾と外国の圧力のなかで崩壊の危機に直面していた。この危機をいかに克服するかをめぐって、洋務運動・変法運動・革命運動が生まれ、中国の近代化の潮流が形成された。(改良と革命)。	同 上	同 上
3	辛 亥 革 命	1911年辛亥革命が起こり、清朝が崩壊した。革命勃発の原因と過程、軍隊の役割、議会制民主主義の成立と崩壊、2つの憲法、袁世凱の台頭、革命の指導権などの問題を通して、辛亥革命の性格を論じる。(代行主義)。	同 上	同 上
4	袁世凱の政治	袁世凱は清朝の軍近代化の指導者であり、辛亥革命後政権を掌握した。彼は武力を基礎にして反対派を弾圧、議会制民主主義を破壊して、最後に帝制樹立を試みた。従来革命に対する反動と捉えられてきた袁の政治を現代的観点から再考する。(袁世凱政治の評価について)。	同 上	同 上

社会経営科学プログラム

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
5	軍 閥 政 治	1916年の袁世凱の死から1928年の国民革命軍による北伐完成までは、軍閥混戦の時期と呼ばれる。軍閥混戦の過程を通して軍閥とは何か、どうして近代中国に軍閥が生まれたのか、軍閥の行動様式と歴史的位置づけを論じる。(人物研究)。	同 上	同 上
6	中華革命党から 中国国民党へ	1919年の中華革命党から中国国民党への転換は、中国革命の変容でもあった。この転換を促した要因として、軍閥の反乱、大衆運動の台頭、ソ連・コミンテルン・中共の働きかけ、帝国主義との対立等があった。(党・軍・大衆)。	同 上	同 上
7	中国共産党の成 立と国共合作へ の道	1921年の中国共産党の誕生は、新しい社会的変化を反映していた。その背後には第一次世界大戦、ロシア革命、新文化運動と五四運動等があった。誕生間もない中共は労働者・農民の組織を基礎にして国民党に接近していく。(中国共産党の組織論)。	山田 辰雄	山田 辰雄
8	国共合作の政治	1924-1927年国共両党は、反軍閥・反帝国主義の共通の目標の下に統一戦線を形成した(国共合作)。ここでは、国共合作の展開と崩壊の過程を扱い、あわせてその後の両党の発展を示唆する政治路線を明らかにする。(三民主義の解釈について)。	同 上	同 上
9	蔣介石の台頭と 訓政時期の諸問 題	国民党は、蔣介石の指導下に1927年反共化し、28年には北伐を完成してひとまず全国を統一した。新政権は、孫文の理論に則り訓政時期(指導された民主主義)を開始したが、その統一の不完全さ故に後年に多くの問題を残した。(訓政・党の指導・大衆の政治参加)。	同 上	同 上
10	中国共産党のソ ヴィエト革命	1927年国共分裂後、中共中央は武装闘争に転換した。この基盤は労農兵からなるソヴィエト政権であった。党中央は都市中心の革命に重点を置いたが、国民党の弾圧に破れ、農村を基礎とした毛沢東が台頭する。(李立三と毛沢東)。	同 上	同 上
11	安内攘外政策と 抗日民族統一戦 線政策	1931年の満州事変の勃発は、激しく対立する国民党と共産党の再接近をもたらした。日本の侵略に対する両党の対応、民衆の抗日、国際関係と国内建設、西安事件などを通して両党の対立と接近の過程を論じる。(安内攘外論と抗日民族統一戦線論)。	同 上	同 上

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
12	抗日戦争	1937-45年の時期を扱う。日中戦争は日米開戦により、太平洋戦争に拡大していく。日本軍の侵略、国共両党の協力と対立、戦争をめぐる国際関係が分析の対象となる。国共両党はまたこの戦争を通して戦後の力関係の基礎を築いた。(毛沢東の権力確立過程)。	同上	同上
13	国共内戦	1945年日本の敗戦とともに国共両党の対立は激化する。アメリカによる両党の調停も失敗に帰し、46年から内戦が勃発する。土地革命、知識人の動向、インフレ、国民党の腐敗と軍事的誤りが中共の勝利に貢献した。(中国革命における中間派について)。	同上	同上
14	日中関係の160年	今日、日中間に歴史問題をめぐる対立が絶えない。中国近代政治史を踏まえ、日中両国民が相互に理解しあえる枠組みを提起したい。時代区分、多様な側面(相互依存、競存、敵対)、多国間関係の側面からこの問題を論じる。(日本の基本的立場と新しい枠組みを求めて)。	同上	同上
15	20世紀中国政治の連続性	その時々々の現代中国の政治を取り上げ、歴史的観点から分析する。今回は、1989年の天安門事件を、20世紀中国政治の歴史的連続性の観点から分析する。(アイデンティティ、排他的支配、代行主義)。	同上	同上

事務局 記載欄	開設 年度	平成 19 年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8910324	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	----------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 国際政治 ( ' 0 7 ) = (TV)

[ 主任 講 師 (現職名) : 藤原 帰一 (東京大学教授) ]

### 講義概要

現代世界の国際関係を解説する。第一部 (基礎) では国際政治の基本概念を説明する。第二部 (外交) ではより焦点を絞って、外交とは何を目的にどのような手段を行使する政策領域であるのかを考察する。次に、第三部 (体系) では国際政治の体系を、横並びの闘争 (力の均衡) と縦の支配 (帝国と覇権)、さらに横断的な協調の可能性 (相互依存) から考察する。第四部 (変容) と第五部 (統合と紛争) では現代国際関係の特徴を議論する。

### 授業の目標

現代国際政治に見られるさまざまな現象を、ごく基本的な問題に置き直して検討する。平和は兵隊が保つのか、非西欧諸国は主権国家といえるのか、戦争を制限する試みには意味はあるのかなど、素朴で、トゲのように刺さる問題から議論を起し、歴史上の事例を踏まえて考えてゆく。ひとつの状況を異なる視点から考え、そのなかでとることのできる複数の選択を構想する能力を身につけることが、この授業の目的である。

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講 師 名 (所属・職名)	放送担当 講 師 名 (所属・職名)
1	基礎 1 戦争の体系とし ての国際政治	近代国際政治は国家を主体とし、その国家が戦争を遂行することを当然の手段として認める体系である。どうしてそのような体系が生まれたのか、ヨーロッパ中世末期の状況にさかのぼって、国際政治の誕生を議論する。	藤原 帰一 (東京大学 教授)	藤原 帰一 (東京大学 教授)
2	基礎 2 国際秩序はどう 構想されてきた か	国家間の対抗が国際政治の常であるとしても、戦争ばかりが続くわけではない。それでは、戦争がない状態はなぜ生まれるのか、またそれはどのような条件によって支えられるのか。思想家たちの構想にさかのぼって、国際秩序の類型を整理する。	藤原 帰一 (東京大学 教授)	藤原 帰一 (東京大学 教授)
3	基礎 3 誰が国際政治の 主体なのか	国際政治は国家を主体とする体系である、といわれる。だが、それにはどんな意味があるのか。国家と市民を主体とする国際政治概念の相克を論じる。	藤原 帰一 (東京大学 教授)	藤原 帰一 (東京大学 教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	外交1 権力と国益	外交の目的は権力を行使することで自国の国益を最大にすることである。それでは、何が権力として有効に働くのか、また国益とはなにか。それが今回の課題である。	藤原 帰一 (東京大学 教授)	藤原 帰一 (東京大学 教授)
5	外交2 外交政策の種類	外交政策にはさまざまな手段と領域がある。そして、数多い手段のうち、どれを選べばもっともその状況に適切な対応となるのか、その判断が外交政策の可否を決めることになる。外交政策の多様な類型について考察する。	藤原 帰一 (東京大学 教授)	藤原 帰一 (東京大学 教授)
6	外交3 外交政策はなぜ 誤るのか	さまざまな国際問題、特に危機管理に関わる領域では、昔から実に数多くの判断の誤りが繰り返されてきた。なぜ、外交政策は間違えるのか。外交政策の決定を扱うこの回では、その一点に絞って考えてみたい。	藤原 帰一 (東京大学 教授)	藤原 帰一 (東京大学 教授)
7	体系1 力の均衡とはな にか	国際政治のなかでももっとも基本的な概念が力の均衡であり、現実主義者にとってはほとんど唯一の秩序の観念である。この力の均衡の意味を、それを体現した制度とされるウィーン体制の検討を通して考える。	藤原 帰一 (東京大学 教授)	藤原 帰一 (東京大学 教授)
8	体系2 同盟の力学	力の均衡を支える政策のなかでも代表的なものが同盟であり、近代国際政治の始まりから冷戦期、さらに米ソ冷戦が終わった後もなお、同盟の役割は失われていない。それでは、この同盟とはいったい何か、その多様な形態と機能について考察する。	藤原 帰一 (東京大学 教授)	藤原 帰一 (東京大学 教授)
9	体系3 帝国と覇権	大国による他の地域の支配は、ローマ帝国の昔から植民地帝国など数多く行われてきたが、このような「帝国」を概念として明確に捉える試みは、こと国際政治学のなかでは少なかった。この限界を捉えて、帝国の系譜を考察したい。	藤原 帰一 (東京大学 教授)	藤原 帰一 (東京大学 教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	変容1 国際政治はどのように拡大したのか	17世紀まで、国際政治とはヨーロッパの大国を主体とした君主の世界であった。これが現在、どう変わったのか。ひとつには、地理的な変化がある。ヨーロッパを主体とした国際政治は、アメリカへ、さらにアジア、アフリカへと主体が地理的に拡大した。また、国内の担い手も変わる。君主や貴族に限られた国際政治の担い手が、国内政治の民主化とともに変化を遂げたからだ。このような国際政治における地理的拡大と身分的拡大についてここでは考えてみよう。	藤原 帰一 (東京大学 教授)	藤原 帰一 (東京大学 教授)
11	変容2 ナショナリズム	近代国家とは国民国家とも呼ばれる。それは、国民が共通の伝統と文化によって支えられているというナショナリズムが各国の基礎に置かれているからだが、それではナショナリズムとは何だろうか。そして、ナショナリズムは、国際政治を考える上でどのような意味があるのか。	藤原 帰一 (東京大学 教授)	藤原 帰一 (東京大学 教授)
12	変容3 戦争とその変化	冷戦期の戦争とは、核抑止体制のもとで、核戦争につながる可能性の少ない紛争を大国が熾烈に戦うというものだった。その冷戦も終り、大国の国際政治と地域紛争とのつながりは切れている。そのなかで生まれた戦争のかたち、新しい戦争について考える。	藤原 帰一 (東京大学 教授)	藤原 帰一 (東京大学 教授)
13	統合と紛争1 相互依存は国際政治を変えるのか	長く敵国であったドイツとフランスが同じEUのもとで協力するという変化ほどヨーロッパ統合の成果を示すものはない。それではなぜEUは成立したのか。また、地域統合はヨーロッパに限られた現象なのか。地域統合の過程と条件を考える。	藤原 帰一 (東京大学 教授)	藤原 帰一 (東京大学 教授)
14	統合と紛争2 EUはなぜ生まれたのか	現代国際政治の特徴は、経済分野の争点が、戦争と平和という伝統的課題と並び、時にはそれ以上に重要となった点に求められる。通貨体制と貿易体制について、統合の進展と、その生み出した新たな紛争について解説を加えたい。	藤原 帰一 (東京大学 教授)	藤原 帰一 (東京大学 教授)
15	統合と紛争3 国際政治の制度化	予算を見ても、人員を見ても、国連は世界政府と呼べるようなものではない。だが、国連のような公式の組織ばかりでなく、非公式の協議や機構を見れば、国際関係における制度形成はやはり進んできた。制度化の条件を探してみたい。	藤原 帰一 (東京大学 教授)	藤原 帰一 (東京大学 教授)

事務局 記載欄	開講 年度	平成20年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8930392	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 大学のマネジメント (' 08) = (R)

[主任講師 (現職名) : 山本 眞一 (広島大学大学院教授) ]

[主任講師 (現職名) : 田中 義郎 (桜美林大学大学院教授) ]

### 講義概要

近年、大学を巡る諸環境は大きく変化し、とくに18歳人口の減少は私学経営に大きな影を投げかけ、また国公立大学においては法人化後の大学運営に格段の工夫が求められている。さらに雇用構造の変化や科学技術の高度化、大学マーケットのグローバル化などに対応するためには、従来の大学事務処理を遥かに超えるマネジメントの革新が求められている。本科目では、これらの変化に対応するための知識や考え方を、大学事務職員を始めとする関係者に身に付けさせることを目的とする。

### 授業の目標

受講者が現職の大学職員あるいは管理職にある教員であることが多いとの前提の下、できる限り実践的かつ実際的な教育内容を提供するよう努める。このことにより、受講者に広く大学マネジメントに関する知識を提供するとともに、彼らが現実に直面している大学マネジメントの諸課題を適切に解決するための問題設定、解決に至るための複数の代替案の策定、採用すべき解決案の決定、実際のマネジメントへの応用など、幅広い実践力を身につけさせるようにする。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	大学を巡る環境変化	今、わが国では、18歳人口の減少や国際化、知識基盤社会の到来などの社会変化の中で、大学を巡る諸環境は大きく変化してきている。その変化が大学にどのような影響を及ぼすか、とりわけ大学経営にとってどのような意味を持つのかを考察する。 【キーワード】 18歳人口減少、国際化、外国大学との競争、知識基盤社会、大学教育の大衆化、科学技術、競争的環境の進展、国立大学の法人化	山本眞一 (広島大学大学院教授)	山本眞一 (広島大学大学院教授)
2	大学という組織の特性	大学は、教育・研究を任務とする教員という専門職を多数抱えている組織である。彼らの活動の活性化を図り、かつ大学が社会に説明責任(アカウンタビリティ)を果たすには、どのようにすればよいのか、大学という組織の特性および経営体としてのあり方を念頭に論じる。 【キーワード】 高等教育、学術研究、学問の自由、大学の自治、アカウンタビリティ、教授職、政府と大学、学校法人、国立大学の法人化、市場、意思決定	山本眞一 (広島大学大学院教授)	山本眞一 (広島大学大学院教授)
3	大学事務職員の現状と能力開発の必要性	近年、大学経営を支える事務職員の役割に関心が高まっている。これまでのアンケート調査等から見た彼らの現状を紹介するとともに、これからの大学経営にとって重要な職員の能力開発について論じる。 【キーワード】 事務職員、大学の意思決定、教授会、大学経営、職員の役割、職員の能力開発、学長のリーダーシップ、国立大学の法人化	山本眞一 (広島大学大学院教授)	山本眞一 (広島大学大学院教授)
4	外国の大学マネジメント(アメリカ)	大学のマネジメントをより効果的にするには、外国の大学事例にヒントを求めることも意味がある。ここではアメリカ大学のマネジメント事例を取り上げ、組織化、意思決定、管理運営の方策など大学経営の諸側面について論じる。 【キーワード】 CEO学長、エグゼクティブズ、理事会、職務記述書、大学経営、大学組織、多様性、競争的環境、アドミニストレーター、ファンドレイジング、大学の大道具	田中義郎 (桜美林大学大学院教授)	田中義郎 (桜美林大学大学院教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
5	外国の大学マネジメント(イギリス、そしてヨーロッパ高等教育圏)	<p>ヨーロッパ諸国は、ヨーロッパにおける雇用可能性と移動性を高め、高等教育の競争力を強化するために、ヨーロッパ高等教育圏を模索している。ここでは、イギリスの大学、特にオックスフォードの昨今の経営改革を事例に上げつつ、ボローニャ・プロセスへの参加によって期待される大学の活性化について論じる。</p> <p>【キーワード】 オックスフォード大学、ボローニャ・プロセス、経営組織改革、競争的環境、雇用可能性、移動性、学位の互換性、学部・大学院構造、ヨーロッパ高等教育圏</p>	田中義郎 (桜美林大学 大学院教授)	田中義郎 (桜美林大学 大学院教授)
6	大学広報・学生募集戦略	<p>競争的環境が進む中で、大学経営にとって重要なことは、大学の認知度を高め、優秀で意欲ある学生を多数集めることである。ここでは、1980年代にアメリカの大学で広まったマーケティングとエンrollment・マネジメントの手法の導入とその後、そして今日的課題について、我が国の大学事情に照らして論じる。</p> <p>【キーワード】 学生募集、大学広報、戦略的思考、個性的大学、競争的環境、多様性、優秀性、大学教育のユニバーサル化、マーケティング、エンrollment・マネジメント、大学のブランディング</p>	田中義郎 (桜美林大学 大学院教授)	田中義郎 (桜美林大学 大学院教授)
7	国公立大学の人事・労務・財務	<p>国公立大学の人事・労務および財務は、これまで公務員制度や国の予算決算システムの制約下にあったが、法人化を機にそれぞれの大学の自律に基づく判断と業務の効率的実施が求められるようになった。その新しい制度の枠組みとその実際の運用を解説する。</p> <p>【キーワード】 公務員法制、労働法制、公的規制と大学の特性、教職員人事、運営費交付金、中期計画、経営の効率化</p>	工藤敏夫 (大学評価・学位授与機構理事)	工藤敏夫 (大学評価・学位授与機構理事)
8	私立大学の人事・労務・財務	<p>前回取り上げた国立大学に続いて、私立大学について、その経営にとって欠かせない人事・労務・財務の知識とその運用の実際を、専門的・実務的立場から眺め、実務者として必要な知識やノウハウについて教授する。</p> <p>【キーワード】 労働法制、学校法人会計、教員人事、職員人事、私学経常費補助、運営費交付金、企業会計、経理事務、資金運用、募金戦略、監査</p>	井原 徹 (実践女子学園理事・前早稲田大学理事)	井原 徹 (実践女子学園理事・前早稲田大学理事)
9	大学の教務・学生サービス	<p>近年の大学教育を巡る環境変化の中で、大学教育の質的向上や学生支援の充実がますます重要性を増している。ここでは、大学経営の根幹である教務および学生サービス・プロフェッションについて、その現状と今後のあり方を論じる。</p> <p>【キーワード】 教育活動支援、アカウントビリティ、成績管理、履修管理、カリキュラム管理、研究活動支援、学修指導、学生生活支援、職務記述書、大学の小道具、教育者マインド、大学教育のユニバーサル化、プロフェSSIONナル化</p>	田中義郎 (桜美林大学 大学院教授)	田中義郎 (桜美林大学 大学院教授)
10	大学の研究管理	<p>科学技術の振興が重要な国家戦略となる中、大学における研究活動の役割に注目が集まるようになってきた。産業界との連携、知財関係なども含めて、効率的な研究管理のあり方について実態を踏まえて考える。</p> <p>【キーワード】 研究資金、大学院、研究室運営、インキュベータ、知財法制、研究マネジメント、産業界との連携、イノベーション</p>	山本眞一 (広島大学 大学院教授)	山本眞一 (広島大学 大学院教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	評価と大学経営	<p>認証評価の制度化に伴い、大学教育の質保証が求められている。また、資源確保のためにはさまざまな評価を経なければならない。このようにさまざまな評価が始まった今日の大学環境の中で、これにどう対処すればよいのかを論じる。</p> <p>【キーワード】 大学評価、認証評価、質保証、学位の国際的通用性、国立大学法人、専門職大学院</p>	山本眞一 (広島大学大学院教授)	山本眞一 (広島大学大学院教授)
12	大学の危機管理	<p>大学マネジメントにとって危機管理のノウハウは必要不可欠である。各種の不祥事、教育・研究上の事件・事故、また長期的には財務上の問題など、大学経営を脅かす各種の要因を如何に軽減し、解決するかについて論じる。</p> <p>【キーワード】 理事長・学長のリーダーシップ、迅速な意思決定、管理運営組織、広報、危機管理のノウハウ、問題認識</p>	山本眞一 (広島大学大学院教授)	山本眞一 (広島大学大学院教授)
13	大学改革の実際 (国公立大学)	<p>近年、法人化に伴いその変化の著しい国公立大学について、その改革の実際を関係者へのインタビューなども交えて紹介し、またその改革の背景や今後の課題について、さまざまな観点から分析しつつ受講者に紹介する。</p> <p>【キーワード】 法人化、中期目標・計画、運営費交付金、外部資金、経営マインド、学長のリーダーシップ、社会貢献</p>	山本眞一 (広島大学大学院教授)	山本眞一 (広島大学大学院教授)
14	大学改革の実際 (私立大学)	<p>18歳人口の減少に伴う学生マーケットの縮小、大学教育のユニバーサル化とそれに伴う質の維持の要請など、私立大学を巡る環境は大きく変化している。ここでは、優れて、固有と思われる教育改革の事例を私立大学に求め、担当者へのインタビューなども交えて紹介し、その背景や今後の課題について論じる。</p> <p>【キーワード】 18歳人口の減少、大学教育のユニバーサル化、全入時代、教育接続、教育プログラム、GPグッドプラクティス、リーダーシップ、競争的環境、個性が輝く大学、教育改革</p>	田中義郎 (桜美林大学大学院教授)	田中義郎 (桜美林大学大学院教授)
15	21世紀知識社会と大学のマネジメント	<p>これからの知識社会において大学は、知識の生産(研究)・伝達(教育)・活用(社会貢献)において大きな役割が期待されている。経営環境の変化の中で先行き不透明な側面があるが、これらの側面を克服しつつ役割を果たすべき大学の将来とそのマネジメントについて論じる。</p> <p>【キーワード】 知識社会、生涯学習、雇用環境、科学技術、グローバル社会</p>	山本眞一 (広島大学大学院教授)	山本眞一 (広島大学大学院教授)

# ＝ 経営システム I ( '06 ) ＝ ( R )

－企業の公的経営－

〔主任講師(現職名) : 佐々木 弘 (神戸大学名誉教授) 〕

〔主任講師(現職名) : 山田 幸三 (上智大学教授) 〕

## 全体のねらい

受講者が関心をもつテーマや修士論文で取り上げようとするテーマをより広い学習分野の中から選択できるよう「経営システム I」は、講義内容を大きく、二つに分けた。前半の第 I 部では私企業（民間企業）の経営を対象とし、後半の第 II 部では公企業の経営を対象とする部分から構成させるよう努力した。それぞれの分野の重要問題を簡潔に学ぶことにしよう。

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
<b>第 I 部 私 企 業 の 経 営</b>				
1	環境の中で生きる企業	企業は経済社会という経営環境の中で活動する組織体であり、その環境とのさまざまなやり取りの巧拙が存続に影響を及ぼす。しかし、企業は環境に対して単に受動的に適応するだけではなく、自らの戦略的な活動によって発展・成長を遂げる。	山田 幸三 (上智大学教授)	山田 幸三 (上智大学教授)
2	経営戦略の策定	経営戦略は、企業と環境とのかかわり方を将来志向的に示す構想であり、能動的な活動によって経営環境に適応していくために不可欠な役割を果たす。ここでは、経営戦略の内容と機能について概観しておくことにしよう。	山田 幸三 (上智大学教授)	山田 幸三 (上智大学教授)
3	全社戦略	経営戦略は、組織の階層の違いを反映して事業戦略と全社戦略とに分けることができる。全社戦略は事業構造の戦略とも呼ばれ、企業全体に関する課題を広範で長期的な視点から分析して事業戦略間の整合性を検討する。ここでは、全社戦略の内容と課題を説明する。	山田 幸三 (上智大学教授)	山田 幸三 (上智大学教授)
4	事業戦略	事業戦略は、競争と不可分の関係にあり、「誰に」「何を」「いかに」という 3 つの問題に答えて差別化を図る必要がある。ここでは、顧客の分析と競争の分析を中心に事業戦略を策定するための基本的な論点について説明する。	山田 幸三 (上智大学教授)	山田 幸三 (上智大学教授)
5	競争優位と事業システム	持続的な競争優位を構築するためには、製品やサービスのレベルではなく、事業システムという仕組みのレベルで競争相手との差別化を実現することが本質的な課題である。ここでは、事業システムと競争優位に関する基本的な論点を考える。	山田 幸三 (上智大学教授)	山田 幸三 (上智大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
6	事業システムの設計と構築	事業システムでの競争優位は難しく持続するという性質をもっている。ここでは、事業システム設計と構築のための基本的な選択と事業システムの設計のための基本的な論点について考える。	山田 幸三 (上智大学 教授)	山田 幸三 (上智大学 教授)
7	情報化時代の事業システム	1990年代以降の競争では、品質に加えてスピードや俊敏性がキーワードとなっている。情報化の進展は、戦略の実現に必要な組織の俊敏性を高めるために重要な役割を果たす。情報とコンピュータネットワークの特性に見合った事業システム作りが求められている。	山田 幸三 (上智大学 教授)	山田 幸三 (上智大学 教授)
8	新事業開発と支援システム	新事業開発は企業の主要な戦略課題であるが、日本企業の成功確率は決して高いとはいえない。ここでは、新事業開発のための戦略と支援システム構築の基本的な論点を説明する。	山田 幸三 (上智大学 教授)	山田 幸三 (上智大学 教授)
第 II 部 公 企 業 の 経 営				
9	公企業とは何だろうか	公企業とは何だろうか。資本主義体制下においても、なぜ私企業だけで、すべてをやれないのか。公企業の存在理由や意義は何か。公企業は(私企業に比して)どのような経営原則に基づいて経営されているのか。	佐々木 弘 (神戸大学 名誉教授)	佐々木 弘 (神戸大学 名誉教授)
10	公企業と公益企業	公企業としばしば混同されるものに、公益企業という用語がある。そこで、公益企業とは何か。公企業との相違点はどこにあるのか。具体的にはどのような産業群にみられる企業をいうのか。できれば、近年の公益企業規制改革の動向にも触れてみたい。	佐々木 弘 (神戸大学 名誉教授)	佐々木 弘 (神戸大学 名誉教授)
11	公企業の経営形態(その1)	公企業とひとくちでいっても、実際には、公企業は様々な経営形態をまとめて存在している。そこで、公企業の経営形態を類型化して示したうえで、その主要な形態のいくつかをとり出して、その特徴や課題を明らかにしていくことが必要となる。	佐々木 弘 (神戸大学 名誉教授)	佐々木 弘 (神戸大学 名誉教授)
12	公企業の経営形態(その2)	前章につづいて、ここでは、近年特に世間の広い関心を集めている「第三セクター」形態をとりあげ、その理論と実際、いくつかの問題点などを指摘したい。	佐々木 弘 (神戸大学 名誉教授)	佐々木 弘 (神戸大学 名誉教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
13	公企業の経営効率化をいかに促すか(その1)	公企業の経営効率化をいかに促すか。物価安定政策会議や経済企画庁(現内閣府)での議論、さらには、欧米における動向等を参考にしつつ、公企業の経営効率化への方策をいくつかの視点から論じる。	佐々木 弘 (神戸大学 名誉教授)	佐々木 弘 (神戸大学 名誉教授)
14	公企業の経営効率化をいかに促すか(その2)	最近、PFI方式や独立行政法人制度をはじめ、上下分離論方式や多様な経営委託など、公的サービスの供給方式の多様化が注目されるようになった。このような流れの中で、公企業はどうあるべきかを考えてみよう。	佐々木 弘 (神戸大学 名誉教授)	佐々木 弘 (神戸大学 名誉教授)
15	公企業の経営改革の方向をめぐって	公企業の今後のあるべき姿、経営改革のめざすべき方向が模索されている。ここでは、その主な立場の一つとして総合規制改革会議の考え方とそれに対する私自身の批判的論文を示すことによって、読者自身に考えてもらう材料を提供することにしたい。	佐々木 弘 (神戸大学 名誉教授)	佐々木 弘 (神戸大学 名誉教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8930538	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = コーポレート・ガバナンス ( ' 0 9 ) = ( R )

〔主任講師 (現職名) : 吉森 賢 (放送大学教授) 〕

〔主任講師 (現職名) : 齋藤 正章 (放送大学准教授) 〕

### 講義概要

コーポレート・ガバナンスは続発する企業の違法行動、経営破綻などにより国際的に注目を集めている問題領域である。この科目はこのような状況を阻止し、企業の持続的発展を確保するためにコーポレート・ガバナンスの制度化と実践はいつにあるべきかを考察し、提言することを目的とする。

### 授業の目標

コーポレート・ガバナンスの定義を明らかにし、その背景を歴史、理論的、運用面の視点から考察する。営利企業の最終的成果は利益と企業価値により評価される。このために不可欠な会計、財務情報の理論と実際を理解し、これらに対する株式市場の反応過程を明らかにする。またM&Aが経営者への規律付けとして果たす役割、不正行為を監視・防止する会計監査、内部統制を把握する。状況依存性の視点から同族大企業と中小企業のコーポレート・ガバナンスの特質を理解する。最後に日独仏におけるアメリカモデルの採用とその実態、収斂の状況を概観し、日本のコーポレート・ガバナンスの将来像を展望する。

### 履修上の留意点

この科目の分析視角は歴史、理論、実態であり、多面的であるので、履修生には広い視野と高い知的好奇心が望まれる。特に会計、財務および証券市場に関する基礎的知識が重要であるので、学部科目「会計学」、「組織運営と内部監査」、コーポレート・ガバナンスに関しては学部科目「企業統治と企業倫理」、「企業戦略と企業文化」の履修が勧められる。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	コーポレート・ガバナンス総論	会社は「ヒト」なのか「モノ」なのか。会社は誰のものなのか。コーポレート・ガバナンスの意義・目的について解説し、本講義の全体像を俯瞰する。  【キーワード】 コーポレート・ガバナンス(企業統治)、利害関係者、株主、債権者、従業員、消費者、取締役会	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 教授 吉森賢 放送大学 准教授 齋藤正章
2	コーポレート・ガバナンスの歴史的視点	コーポレート・ガバナンスの問題は17世紀初頭の株式会社の誕生と共に生じていた。当時における所有と経営の分離がどのような結果をもたらしたかをアダム・スミスの指摘と事例により理解する。その後これを是正するためなされた制度的改革がかを概観する。  【キーワード】 株式会社、東インド会社、所有と経営の分離、機会主義的行動	放送大学 教授 吉森賢	放送大学 教授 吉森賢
3	コーポレート・ガバナンスの基本理論(1)	新制度学派の所有権理論とエージェンシー理論を理解し、所有権の歴史的発生過程と機会主義的人間観に基づくエージェンシー理論が日米欧5か国のコーポレート・ガバナンスの現実の問題をどの程度説明しうるかを考察する。  【キーワード】 新制度学派、所有権理論、エージェンシー理論、日米欧比較	放送大学 教授 吉森賢	放送大学 教授 吉森賢

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	コーポレート・ガバナンスの基本理論(2)	株式会社の発展を陰で支えてきたのは、会計である。会計にはどのようなコーポレート・ガバナンスの思考が組み込まれてきたのであろうか。会計の本質について考察する。また、会計の大きな役割である「情報提供機能」と「利害調整機能」について解説する。  【キーワード】 貸借対照表(バランス・シート)、資本中心主義、アカウントビリティ、情報提供機能、利害調整機能	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
5	コーポレート・ガバナンスと企業価値	企業価値とは何か、またその測定方法について解説する。また、コーポレート・ガバナンスと企業価値の関連性についても検討する。  【キーワード】 企業価値、株主価値、DCF法、経済付加価値(EVA)、市場付加価値(MVA)	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
6	株価の形成と指標	株式会社の経営の良し悪しは市場でどのように評価されるのか。株価形成の理論と各種指標について解説する。また、株価の高い企業がコーポレート・ガバナンスに優れているかどうかについても検討する。  【キーワード】 株価、株式市場、ファンダメンタルズ理論、効率的市場理論、需給理論、EPS、PER	高崎経済大学 准教授 阿部 圭司	高崎経済大学 准教授 阿部 圭司
7	M&Aによる市場規律	経営者が経営に失敗すると株価は低迷し、M&A(企業買収)の格好の標的とされる場合がある。これは企業内部のガバナンスがうまく機能しない場合に企業外部からのガバナンスと捉えることも出来る。こうした市場による規律について考察する。  【キーワード】 M&A、敵対的企業買収、ヘッジファンド、プライベート・エクイティ	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
8	企業不祥事と会計監査	会社が作成する会計情報の開示の正確性・透明性を担保するために、会計監査人による監査の充実が重要である。会計監査の概要について解説する。また、会計監査と後を絶たない企業不祥事との関連についても考察する。  【キーワード】 会計監査、会計監査人、監査法人、会社法	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
9	内部統制	金融商品取引法により、平成20年4月1日以後に開始する事業年度より適用されることとなった財務報告に係る内部統制制度について解説する。  【キーワード】 内部統制、金融商品取引法、SOX法、内部統制監査、財務諸表監査	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
10	日米欧の取締役会改革	コーポレート・ガバナンスの最も重要な機関である取締役会に焦点をあて、その構造を日本、アメリカ、イギリス、ドイツ、フランスについて比較する。次いで取締役会の改革がどのような形で実行されているかを概観し、日本の取締役会の有効性向上の参考にする。  【キーワード】 取締役会、社外取締役、単層型取締役会、二層型取締役会	放送大学 教授 吉森賢	放送大学 教授 吉森賢

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	同族上場企業のコーポレート・ガバナンス	同族上場企業に焦点をあて、日米欧5か国におけるこれら企業が上場企業全体に占める割合を比較する。同族上場企業の経営成果を非同族上場企業と比較し、同族企業特有の同族内ガバナンスと企業ガバナンスの構造と機能を比較する。  【キーワード】 同族企業、支配の三類型、ウェーバー、正当性、経営成果	放送大学 教授 吉森賢	放送大学 教授 吉森賢
12	中小企業のコーポレート・ガバナンスと事業承継問題	株式会社の9割以上を占める中小の非公開会社のコーポレート・ガバナンスについて考察し、中小企業再生のための手がかりを検討する。また、社長の世代交代によって生じる事業承継問題についても考察する。  【キーワード】 オーナー企業、中小企業庁、事業承継、中小企業会計	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
13	コーポレート・ガバナンスの収斂と課題	アメリカ型コーポレート・ガバナンスの制度的側面が日本、ヨーロッパ諸国においても採用されつつある。これとその前提をなす株主を主権者とする概念は歴史、価値観の異なるアメリカ以外の諸国においてどの程度の普遍妥当性を有するのかを検証する。  【キーワード】 制度、収斂、主権者、規範、資本主義、日米欧比較	放送大学 教授 吉森賢	放送大学 教授 吉森賢
14	コーポレート・ガバナンスの有効性と限界	コーポレート・ガバナンスは重要ではあるが、これのみで企業の永続的発展は期待できない。これと密接に関連する他の経営者機能である企業理念、企業倫理、企業文化、企業戦略を理解し、コーポレート・ガバナンスの役割を正當に評価する。  【キーワード】 経営者機能、企業理念、企業倫理、企業文化、企業戦略	放送大学 教授 吉森賢	放送大学 教授 吉森賢
15	コーポレート・ガバナンスの展望	本講義を総括し、コーポレート・ガバナンスは今後どのような進展をみせるのかについて占う。また、国や自治体、NPOや学校など非営利組織のガバナンスについても言及する。  【キーワード】 コーポレート・ガバナンス、大企業、中小企業、国家、地方自治体、NPO	放送大学 教授 吉森賢 放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 教授 吉森賢 放送大学 准教授 齋藤正章

## ＝ 環境マネジメント（'06）＝ (TV)

〔主任講師（現職名）：山口 光恒（東京大学特任教授）〕

### 全体のねらい

環境問題の対象が、従来の公害問題から、地球温暖化・オゾン層破壊などの地球規模の環境問題に拡大している。これに伴い企業、消費者、政府などの役割に大きな変化がみられる。本講座ではこれら当事者の新たな役割を探ると共に、地球温暖化、廃棄物問題、環境保護と自由貿易の両立については特に章を設けて考察する。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	地球環境問題とは	はじめに、公害問題との対比で地球環境問題の特徴を述べる中で、持続可能な発展(sustainable development)につき説明する。次いで地球環境問題の原因と本質を探り、政府、企業、消費者等の役割に簡単に触れる。	山口 光恒 (東京大学 特任教授)	山口 光恒 (東京大学 特任教授)
2	地球環境問題と企業	企業が変わらねば環境問題は解決しない。企業を動かす主体である政府、消費者・NGO、企業、自治体、金融機関、投資家等と企業の間接関係を考える。次に、企業を取り巻く世界の情勢及び日本企業の対応を概観し、企業経営と環境問題の関わりに触れる。	同上	同上
3	ISO環境管理システム	国際標準化機構（ISO）での環境管理標準化の経緯を振り返り、このうち特に第三者認証の対象でもあるISO14001環境管理システム制定を巡る国際会議での日米欧の立場や、規格制定に際するNGOの役割を解説する。その上で、14001のポイントと日本企業の対応を海外の事例も含めて紹介する。	同上	同上
4	製品面での環境配慮（LCA）	製品面での環境配慮の中核となるのは、製品の製造・使用・廃棄のライフサイクル全体を通じた環境への影響評価（LCA）である。ISOのLCA規格の内容を説明し、オランダや日本で研究が進められている環境負荷の重み付けについて検討する。それと並んでLCA手法による製品比較広告の困難性も検証する。	同上	同上

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
5	政府介入の必要性とPPP	環境破壊のメカニズムを明らかにするなかで、政府の介入の是非を検討する。この中でPPP（汚染者支払いの原則）の意味や、コースの定理を取り上げる。次いで、環境政策の目的を最適汚染削減水準の達成と、所与の水準の最小費用での達成の両面から考察する。	同上	同上
6	環境政策の手段 (直接規制、税)	環境政策の手段のうち、直接規制と経済的手法(税)の検討を行う。一般に直接規制については現実の効果を、経済的手法については理想的効果を比較する傾向にある。後者についてはヨーロッパの実例を基に何故理論と実際が乖離するか観点から検討する。	同上	同上
7	環境政策の手段 (排出権取引、自主協定)	排出権取引は直接規制と経済的手法の混合政策である。効率面では排出権取引とポーモル・オーツ税は同等の効果を持つが、排出量規制、コスト安定の面等で異なる。こうした点を含め両者を比較する。自主協定は最近注目され、ドイツ、オランダ、英国、日本等で用いられている。この環境効果、費用効果等を検討する。この他、環境破壊的補助金についても触れる。	同上	同上
8	消費者、NGO の役割	消費者は企業行動を変える有力なアクターである。欧米を中心にグリーンコンシューマーの動きを探る。消費者は住民でもある。日本の廃棄物処分場建設にみるごとく環境保護面での住民の役割も大きい。NGO（非政府組織）は政策提言能力を持ち、実際の環境政策に影響を与えている。日米欧のNGOの実態に迫る。	同上	同上
9	地球温暖化（IPCC第3次報告）	IPCC（気候変動に関する政府間組織）第1次報告は気候変動枠組み条約締結に、第2次報告は京都議定書採択に大きな役割を果たした。講義では2001年春の第3次報告を中心に、温室効果ガス排出見込みとその影響、それに対する適応策と防止軽減策等につき解説する。最後に2004年から執筆が始まった第4次報告についても触れる。	同上	同上
10	地球温暖化（気候変動枠組み条約と京都議定書）	1994年発効の気候変動枠組み条約の背景と内容、基本理念を解説し、問題点を探る。次いで1997年に採択され、先進諸国に初めて数量目標を課した京都議定書の内容と、ここで新たに導入された排出権取引等の「京都メカニズム」について検討し、未解決の途上国問題を展望する。	同上	同上

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	地球温暖化 (日・米・EUの 対応)	2001年3月アメリカは京都議定書からの離脱を宣言した。EUは2002年に京都議定書を推進すると共に、2005年からは域内排出権取引を開始する。こうした中で日本も京都議定書目標達成に全力を尽くしているが道のりはかなり険しい。京都議定書を巡る日・米・EUの対応とその背景を解説する。	同上	同上
12	地球温暖化(ポ スト京都議定 書)	京都議定書が規定するのは2012年までである。しかし議定書加盟国の温室効果ガス排出量は世界全体の1/3に過ぎない。100年後のグローバルな排出量を現在の水準以下に削減することが求められる中で、アメリカと主要途上国の参加を得て長期の対策を進めるための方策を探る。	同上	同上
13	廃棄物問題(拡 大生産者責任— その1)	2001年春、拡大生産者責任(EPR)に関するOECDガイドンスマニュアルが完成した。これを機に廃棄後の生産物の処理責任を自治体から生産者に移転する動きが世界で相次いでいる。主としてヨーロッパの動きを中心に、拡大生産者責任の本質に迫る。	同上	同上
14	廃棄物問題(拡 大生産者責任— その2)	日本でも拡大生産者責任の考え方に則り、容器包装リサイクル法や家電リサイクル法が制定され、自動車リサイクル法の制定にもつながった。他方、近年廃棄物の海外輸出が注目を浴びている。この点に関し、公害輸出及び資源の国際的有効利用という両面から問題の核心に迫り、環境を核としたアジア外交の展開を提唱する。	同上	同上
15	自由貿易と環境 保護	環境政策が自由貿易の阻害要因となるケースが出ている。環境条約非加盟国に対する貿易制裁措置と自由貿易の衝突がその典型である。この他日本の温暖化政策(自動車燃費規制)やEUの廃電気電子機器指令を巡り、環境規制が結果として貿易障害となる可能性を巡り具体的事件が発生している。環境と貿易の両立をはかる方策につき検討する。	同上	同上

[ 主 任 講 師 (現職名) : 鈴木 基之 (放送大学教授) ]

**講義概要**

環境工学は、環境問題の解決手法開発の学問である。環境問題そのものは、過去半世紀の間に大きく変化し、従ってその問題の解決のための考え方も変化している。工学は単なる個別の技術開発ではなく、将来ビジョンに基づく総合的なシステム確立を目指して、そのために科学技術を総動員することが求められる。本講義においては、いくつかの重要な分野における最先端の研究がどのようになされているのかを紹介し、総合的な見方を身につける助けとしたい。

**授業の目標**

地球上の限られた資源の量、限られた自然環境の恩恵という制限の中で、ますます人間活動が増大していくことが予想されている現在、人類が活動を持続していくために何が必要とされるのか、何が可能なかが今問われており、授業を通じて、この答えを見出すための「考え方」を学んで欲しい。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	環境問題とは	人間の活動の拡大・活性化によってそれを取り巻く環境との間に相克が生じてきた。すなわち、人間活動による環境の劣化が人間の生存に制約を与えることとなった。環境問題の発生、変化を概括し、その解決のために工学がどのようにかかわっていくことになるのかを考えてみよう。	鈴木基之 (放送大学教授)	鈴木基之 (放送大学教授)
2	環境中の物質変化の収支と速度	生産活動、人間活動から環境中に流出した物質はどのような挙動をとるのか、自然界の物質の流れに人間活動がどう影響するのかなどを定量的に理解するうえで基本となる物質収支の考え方、変化の速度などについて基本的な考え方を概説する。さらに物質の変化とエネルギー収支との関係に関して解説する。	同上	同上
3	環境リスク	人間活動に起因する化学物質が環境中に排出され、巡り巡って人体に影響を与えたり、自然生態系の健全性に影響を与えたりすることが懸念される。このような環境リスクには多種多様な要因、その影響も異なった形で現れるものとなるために、どのように評価して、どのような対策を考えるべきなのか、このような種々の環境リスクを総合的に考える手法を理解するようにしよう。	同上	鈴木基之 (放送大学教授)  ゲスト： 中西準子 (産業総合研究所化学物質リスク管理研究センター長)

社会経営科学プログラム

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	空気環境	大気・室内の空気を通じて人体、生態系に影響を与える有害物質の存在も重要である。近年重要となっている室内空気環境における問題として新しい建材などが原因となっている室内空気汚染に対して工学はどのような対応をしているのかを解説する。	同上	鈴木基之 (放送大学 教授)  ゲスト： 加藤信介 (東京大学 生産技術研 究所教授)
5	水管理(1) 上 水処理	水環境の劣化に伴い安全な飲料水確保のために種々の技術が用いられる。我が国における飲料水に関する発展の状況を概説するとともに、汚濁水源に対応するなど、飲料水処理に関する新しい浄水技術に関する工学の基礎を解説する。	同上	鈴木基之 (放送大学 教授)  ゲスト： 真柄泰基 (北海道大 学教授)
6	水管理(2) 流 域の水管理	環境水域は産業排水や生活排水、さらには都市の降雨排水、農地、山林からの流出水など流域全体から派生する排水などによる多様な影響を受けて水質や水域生態系の劣化が生じている。水域を健全に守るためには、河川流域の総合的な管理が必要となっており、それによって下流の海域の保全も可能となる。東京湾流域に関する研究事例を説明する。	同上	鈴木基之 (放送大学 教授)  ゲスト： 渡辺正孝 (慶應義塾 大学教授)
7	水管理(3) 藻 場・干潟の生態 工学	自然環境は身近なところを考えると、色々な面で人間活動の影響を受け、また同時に環境浄化の面で大きな役割を果たしている。水域環境における種々の機能を活用すると同時に、自然環境も保全するためには人間がどのような工学的な配慮が可能なのか陸域と海の接線である藻場・干潟における浄化機能を例に考えてみよう。	同上	鈴木基之 (放送大学 教授)  ゲスト： 岡田光正 (広島大学 教授)
8	水管理(4) 地 球規模の水資源	地球上の水は海域に大量に存在するが、太陽エネルギーを受けて蒸発し、降水となって地上に戻ってくるわずかの水が淡水資源として人間活動、陸上生態系を支えている。食料生産もその持続性は水資源にかかっている。世界的な水危機を迎える今、食料生産にかかわる大量の水の仮想的な移動など水問題に工学としてどのようにかかわるのかを考えてみよう。	同上	鈴木基之 (放送大学 教授)  ゲスト： 沖大幹 (東京大学 生産技術研 究所教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
9	資源循環（1） 資源生産性	現在の社会は大量な資源の採取、大量な廃棄に支えられている。資源の有効利用を図り、廃棄物をも最小にすることが資源の有効利用と環境保全のために必要である。資源生産性という概念の重要性について考え、循環型社会を構成するための技術的方策、社会的方策などについて考えてみよう。	同上	鈴木基之 (放送大学 教授)  ゲスト： 山本良一 (東京大学 生産技術研 究所教授)
10	資源循環（2） 固体廃棄物	活発化する人間活動から発生する固体廃棄物は、その処分場の問題や、廃棄物が生む環境影響の問題など多面にわたる問題を生じている。資源化が求められる廃棄物に関する現在の状況と今後の方向をプラスチック廃棄物などを考慮しつつ考えてみよう。	同上	鈴木基之 (放送大学 教授)
11	資源循環（3） バイオマス地域	循環型社会を構築していくためには自治体、地域、国など種々の単位での検討が必要であろう。このような方向での取り組みの例として千葉県山田町のバイオマスを中心としたプロジェクトを取り上げ、完結した物質循環を地域において構築していく上での問題などを検討している例をみてみよう。	同上	鈴木基之 (放送大学 教授)  ゲスト： 迫田章義 (東京大学 生産技術研 究所教授)
12	資源循環（4） バイオマス・プ ランテーション	バイオマスの利活用は資源循環・温暖化対策の上でも重要な課題である。大量のバイオマスを利用するにあたっては、バイオマス生産におけるプランテーション、生産物の工業的な変換など持続可能なシステムの設計・構築が必要となる。インドネシアにおけるバイオマス生産、利活用プラントの設計について示す。	同上	鈴木基之 (放送大学 教授)  ゲスト： 藤江幸一 (横浜国立 大学教授)
13	地球環境（1） 温暖化の予測	地球環境のように種々の現象が複雑に絡み合った対象の将来予測を行うのは容易ではない。このような場合に有効となる数理モデルはどのように構築されるかを考え、このモデルを用いて地球温暖化のどのような予測がなされているかの例を見てみよう。これによりモデル化の有効性と限界を理解しよう。	同上	鈴木基之 (放送大学 教授)  ゲスト： 西岡秀三 (国立環境 研究所理 事)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
14	地球環境（2） 温暖化への対策	地球温暖化は主として化石燃料の燃焼に伴う二酸化炭素ガスの発生により大気温室効果が増すことにその原因がある。この温暖化問題に対応する工学の取り組みを都市から発生する二酸化炭素の問題を例に考えてみよう。	同上	鈴木基之 (放送大学 教授)  ゲスト： 花木啓祐 (東京大学 大学院工学 系研究科教 授)
15	問題解決型から 着地点誘導型へ	人間活動は全ての面で環境と何らかの相互作用を有している。最終的に人類の活動を持続していく条件としてなにを考えていく必要があるのか、有限な資源と環境の下で人間活動のあるべき姿を考えていくためにはどのようなパラダイムの変更が必要なのかを本講義の総括として考えてみよう。	同上	鈴木基之 (放送大学 教授)

＝ 都市デザイン論（'06）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：香山 壽夫（東京大学名誉教授）〕

全体のねらい

私達の生活する都市を、どのようにつくるのか。そもそも、都市とは何なのか。近代の都市設計理念は何を作り出したか。それは、今どのような問題に直面しているか。今日の都市に求められているものは何か。それを解決するための方法は何か。こうした問題について具体例に即して考察する。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	序・都市とは何か	都市デザインの目的と方法について考察する 1) 私達の生きる空間としての都市 2) 醜い日本の都市の現実 3) 社会の枠組みとしての都市 4) 都市はどのようにしてつくられるか	香山 壽夫 (東京大学 名誉教授)	香山 壽夫 (東京大学 名誉教授)
2	都市のかたち (1) ー京都と江戸	3回にわたって、歴史的な都市をとりあげて、都市のかたちと、その意味について考察する 1) 都市のかたちー計画性と自発性 2) 京都のかたち 3) 江戸のかたち 4) 美しかった日本の都市	同上	同上
3	都市のかたち (2) ー古代と中世ヨーロッパ	1) 都市のかたちー幾何学形態と自然形態 2) 古代の都市のかたち 3) 中世の都市のかたち 4) 都市のまとまりー「親近性（コンパクトネス）」	同上	同上
4	都市のかたち (3) ールネサンスとバロック	1) 都市のかたちー持続と変革 2) ルネサンス都市のかたち 3) バロック都市のかたち 4) 都市の持続性	同上	同上
5	近代の都市デザイン理念(1) ー庭園都市	2回にわたって近代の指導的な都市デザイン理念について考察する 1) 産業革命の生んだ都市の悲惨 2) ユートピア的工業都市 3) エベネッツァ・ハワードの「庭園都市」 4) 郊外への展開	同上	同上

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
6	近代の都市デザイン理念(2) -塔の都市	1) モダニズムの都市デザイン 2) ル・コルビュジエの都市革新理念 3) 合理主義と革命願望 4) 新都市「チャンディガール」の悲惨	同上	同上
7	近代日本の都市デザイン(1) -文明開化と西欧化	明治以降今日までの日本の都市デザインは何を行ってきたのか、2回にわたって考察する 1) 消された町、江戸 2) 文明開化の都市イメージ 3) 市区改正から震災復興までの東京 4) 実らずに消えた新都市の夢	同上	同上
8	近代日本の都市デザイン(2) -戦災復興と再開発	1) 焼け野原と化した都市理念 2) 戦災復興とニュータウン建設 3) 自動車道路と超高層ビル 4) 前衛的都市提案の虚妄	同上	同上
9	新しい都市デザイン理念(1) -再開発批判から住区再生へ	20世紀後半に始まって今日更にひろがりつつある新しい都市デザインの動きについて2回にわたって考察する 1) モダニズムの理念に対する反省 2) J. ジェイコブスの再開発批判 3) イギリスのシヴィック・トラスト運動 4) 日本の町並み保存運動	同上	同上
10	新しい都市デザイン理念(2) -「親近性」を求めて	1) まちづくりの新しい動き 2) アメリカの「ニュー・アーバニズム」 3) イギリスの「アーバン・ヴィレッジ」 4) 町の秩序は住民がつくる	同上	同上
11	都市デザインの要素(1) -通り	これから4回にわたり、都市デザインを実際に行う時の手がかり、すなわち要素、について考察する 1) 歩行者のための都市 2) 「通り」の成立条件 3) 「通り」のかたち 4) 道は部屋になりたがっている	同上	同上
12	都市デザインの要素(2) -町広場	1) 人間のための広場 2) 「町広場」の成立条件 3) 「町広場」のかたち 4) 公共建築とは何か	同上	同上

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
13	都市デザインの 要素(3) ー水と緑	1) 都市と自然 2) 身近な自然 3) 「小自然」のかたち 4) 都市も人間も自然の一部	同上	同上
14	都市デザインの 要素(4) ー都市住居	1) 住居は全て集合住宅である 2) 日本の町家 3) ヨーロッパ・アメリカの連続住宅 4) 新しい試み	同上	同上
15	結・都市をいか につくるか	1) 都市の素晴らしさ 2) 共同体のかたちとしての都市 3) 「親近都市空間」をいかに実現するか	同上	同上

## ＝ 総合人間学（'06）＝（R）

〔主任講師（現職名）： 柏原 啓一（東北大学名誉教授）〕

### 全体のねらい

西洋哲学は、主として人間の知的な働きに、人間らしさを求めてきた。だが、この主知主義に基づく近代科学の偏重に翳りが見え始めた現在、人間を感情や意志や身体をも含めた諸機能の総合とみなして「人間学」を唱えた哲学者達の思想に、改めて注目する必要がある。総合的全人という人間の新たな自己理解に、道をつけたい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	人間学と人類学	人間学の原語のアンスロポロジーは、人類学とも訳される。この語の使用の例を歴史的に振りかえって、哲学的人間学に対する自然人類学や文化人類学の相関と相違について考察し、人間を総合的全人として理解する哲学的人間学の特質を明らかにする。	柏原啓一 (東北大学 名誉教授)	柏原啓一 (東北大学 名誉教授)
2	哲学における人間観	哲学の歴史における人間の自己理解のあとを概観し、西洋の人間観が知的理性に重きを置いてきた主知主義であることを見届ける。そのために、古代ギリシアにおける自然哲学から人間哲学への進展、近代哲学における知識論の形成のあとなどを探る。	同 上	同 上
3	科学と技術の時代	近代の主知主義的な人間観のもとで、科学とそれにとともなう技術とが大きな進展を見せたが、その背後に生じている問題に目を向ける。今日のわれわれにとって科学と技術の持つ意味を探るとともに、知性偏重を修正するための全人的視点の必要を説く。	同 上	同 上
4	カントの人間学 (1)	カントの主著が『純粹理性批判』『実践理性批判』『判断力批判』の三つから成ることの意味を、人間学的な観点から考える。すなわち、カントが知的理性の限界を指摘して、善や美の価値を求める人間の精神活動をも理性とみなし大事にしたことに注目する。	同 上	同 上
5	カントの人間学 (2)	カントの最晩年の著書である『実用的見地における人間学』の内容を紹介しながら、カントの考えていた人間学の構想が、現実的な人間を、認識、感情、欲求の三つの能力の総合と捉えて、この総合的人間の持つ課題の具体化の記述にあることを確認する。	同 上	同 上

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
6	シェリングの人間学的図式	後期シェリングの哲学において、近代の知的理性を中心とする人間観が崩され、替わって意志を中核に据える考えが提出される。ここではシェリングの『人間学的図式』の遺稿を取りあげて、シェリングの考えていた人間学の内容とその問題点に触れる。	柏原啓一 (東北大学 名誉教授)	柏原啓一 (東北大学 名誉教授)
7	フォイエルバッハによる神学の人間学化	フォイエルバッハのキリスト教批判は、キリスト教の神学を人間学に読み替えることであった。その語るところを追いながら、フォイエルバッハが近代理性に替えて感情を中心とする人間学を構築したことを見届け、さらにそのことの問題点をも指摘したい。	同 上	同 上
8	ディルタイの生の哲学	ディルタイは、知、情、意の総合から成る人間を生(生きること)と呼び、これを全体的人間(全人)とも称した。このディルタイの生の哲学に、精神文化を形成して止まない総合的全人の人間学を認め、その立場で説かれた解釈学や世界観学について触れる。	同 上	同 上
9	シェーラーの哲学的人間学	哲学的人間学の名称を用いてみずからの哲学の構築をはかったシェーラーの思想を取りあげる。有機体に階層を設け、人間を植物や動物の性格を含みつつこれを超えるものと規定するその方法に批判はあるが、世界開放性や可塑性に人間の特質を認める点は評価したい。	同 上	同 上
10	キルケゴールの実存思想	キルケゴールによって提出された実存としての人間観について考える。キルケゴールの語る実存とは、普遍的な理性というあり方に尽くされない自由な人間であり、自己の主体性の形成を課題とする人間である。近代を越える新たな全人としての人間観の典型をここに見る。	同 上	同 上
11	ニーチェの超人思想	価値の転換を唱えて旧来の哲学の枠組の解体をはかったニーチェの思想を取りあげ、超人と名づけられたニーチェの人間観について解説する。ニーチェの語る超人とは、自己完結的なあり方を打破し、たえず未来へと自己形成にいどみかかる力動的な人間のことである。	同 上	同 上
12	ヤスパースの実存開明の考え	ヤスパースの名著『哲学』の中で、人間がどう理解されているかを探る。人間は、日常的な生き方や科学的な知識獲得などさまざまな位相をしめすが、究極的には、自己の無根拠を知る限界状況によって、実存としての真の人間らしさに目覚めるのだ、という。	同 上	同 上

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所 属 ・ 職 名)	放 送 担 当 講 師 名 (所 属 ・ 職 名)
13	ハイデガーの現存在分析	ハイデガーは、『存在と時間』において、存在の意味を探求する中で人間を現存在と呼び、この現存在の分析を通して存在解明を行う。この現存在としての人間を、ハイデガーがどのように捉えているのかを学びながら、総体としての人間の姿を検討する。	柏原啓一 (東北大学 名誉教授)	柏原啓一 (東北大学 名誉教授)
14	欠如態の人間	哲学的人間学を唱導するプレスナーやゲーレンの思想を紹介する。人間の脱中心性による世界開放性を説くプレスナーも他の動物に較べて人間を欠陥存在と呼ぶゲーレンも、人間を欠如態と見ている点に特徴があり、ここに人間の文化形成の無限の可能性を求めたい。	同 上	同 上
15	人間学の総合性	総合人間学の講義の締め括りとして、改めて人間学の総合性について述べる。そして、国際化にともなう文化の多元化や価値の多様化の進む現代には、ことにこのような総合人間学の語る総合的視点からの未来開放的な人間理解が求められることに言及する。	同 上	同 上

= 表象文化研究 ( ' 0 6 ) = (TV)

[ 主任講師 (現職名) : 渡辺 保 (演劇評論家) ]  
 [ 主任講師 (現職名) : 小林 康夫 (東京大学大学院教授) ]  
 [ 主任講師 (現職名) : 石田 英敬 (東京大学大学院教授) ]

全体のねらい

新しい角度からの表象文化研究。本年度の新機軸は表象文化研究を美術、建築、彫刻、文学、演劇、音楽、映画の各分野を拡大し、かつ、平易に現代的に学生に理解されるように企画した。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	表象の舞台 (I)	「ラス・メニナス」をめぐって。 ベラスケス「ラス・メニナス」。ミッシェル・フーコー「言葉と物」。表象の問題の一般的設定。主体の問題。空間の問題。近代の問題。演劇性。表象装置。身体。 表象文化研究のキーワード解説。	小林 康夫 (東京大学大学院教授)	小林 康夫 (東京大学大学院教授) 石田 英敬 (東京大学大学院教授) 渡辺 保 (演劇評論家)
2	近代の関 —近代の乗り越 えとデイドロー	1 デイドロと『百科全書』 2 存在と表象がずれる以前 3 『百科全書』における全体性と普遍性 4 カントを乗り越えるデイドロ	青山 昌文 (放送大学教授)	青山 昌文 (放送大学教授)
3	表象の舞台 (II)	マネの作品(「草上の昼食」、「オランピア」、「鉄道」、「フォーリーベルジェールのバー」など)をめぐって。スキャンダルとモデルニテ。「世界の首都」パリの成立。鉄とガラスの都市。フラヌール。都市のなかの出会い。「表象」から「投影(プロジェクション)」へ。無意識のイマージュ。	小林 康夫 (東京大学大学院教授)	小林 康夫 (東京大学大学院教授)
4	詩と記号	マラルメからソシュールへ： マラルメの詩と「言語の学」の構想を、文字・活字・書物・言語の問題をめぐって概説したのち、ソシュールの記号学がどのように19世紀の言語と表象の問いを転換させたのか、「一般言語学講義」と「アナグラム」研究にかけられていた表象批判の問題系を解説する。	石田 英敬 (東京大学大学院教授)	石田 英敬 (東京大学大学院教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
5	文化装置の誕生 —表象の政治性—	1 都市と表象装置 2 広場・街路・劇場 3 塔と超高層ビル 4 美術館の誕生と現在	青山 昌文 (放送大学 教授)	青山 昌文 (放送大学 教授)
6	伝統と近代 (I) —九代目団十郎 の試み—	演劇における近代と伝統的な古典劇の表象の分析。 明治の名優九代目団十郎は、近代にふさわしい歴史 劇としていわゆる「活歴」をはじめた。その成功と 失敗の両面を分析する。	渡辺 保 (演劇評論 家)	渡辺 保 (演劇評論 家)
7	伝統と近代 (II) —九代目団十 郎・挫折と回帰—	明治二十七年七月、日清戦争がおきる。この戦争劇 が流行。九代目は、これによって川上音二郎の戦争 劇に敗退して古典に回帰する。その挫折と回帰を通 して近代の意味を問う。	渡辺 保 (演劇評論 家)	渡辺 保 (演劇評論 家)
8	表象の舞台 (III)	「大ガラス」をめぐって マルセル・デュシャンの作品(「階段を降りる裸体」、 「彼女の独身者たちによって裸にされた花嫁、さえ も」、「泉」、「遺作」など)をめぐって。キュビ ズムとフォービズム。「表象」から「構成(コンポ ジション)」へ。無意識の欲望。レディーメイド。 オブジェ。シュールレアリズム。「ナジャ」の物語。 マニフェストの時代。見る装置。	小林 康夫 (東京大学 大学院教 授)	小林 康夫 (東京大学 大学院教 授)
9	女性作家と身体	「身体の美の歴史」とは、とりわけ「女性の美」の 問題だった。堂々と「男性の美」を鑑賞してしまっ た女性作家の身体性とは、いかなるものか。舞台か ら写真、そしてラジオまで、あるいは美食からファ ッションまで、食欲に20世紀の前半を生きぬいて、 国葬という儀式によって顕揚されたコレットを素材 とし、市民社会におけるジェンダー構造の変容とい う新たな問題系を浮上させる。	工藤 庸子 (放送大学 教授)	工藤 庸子 (放送大学 教授)
10	映像の時代 —映画と越境の 体験—	19世紀末にフランスで発明された映画は、またたく 間に国境を超えて広がり、物語装置として成長をと げた。ハリウwoods的「夢の工場」の強大化による、 映像文化の画一化が進む一方、さまざまな「新しい 波」が今もなお、映画の可能性を問い直し続けてい る。映像の時代を担い続ける、映画に固有のダイナ ミズムを明らかにする。	野崎 敏 (東京大学 大学院准教 授)	小林 康夫 (東京大学 大学院教 授) 野崎 敏 (東京大学 大学院准教 授)
11	音楽の解体	20世紀に入って、音楽の分野では「音楽の解体」 が起こったといわれる。そのようにいわれる理由は どこにあるのか、また、音楽は20世紀に入って実 際どのように変質したのか、19世紀以前の「調性」 音楽の「機能と声体系」にまで遡って考察する。	笠原 潔 (放送大学 教授)	笠原 潔 (放送大学 教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
12	表象の舞台 (IV)	「マリリン・モンロー」をめぐって： ウォホール・ニューヨークの時代。芸術が記号化することと「記号化した現実」との関係を、ウォホールに代表されるポップ・アートの表象戦略を解説しつつ解き明かす。	小林 康夫 (東京大学 大学院教授) 石田 英敬 (東京大学 大学院教授)	小林 康夫 (東京大学 大学院教授) 石田 英敬 (東京大学 大学院教授)
13	表象メディア論 I ーテレビを考えるー	TVの表象文化研究： 日常生活がテレビという記号装置によって作り出される私たちの世界の表象を、マクルーハン以後のメディア論を紹介した上で、テレビ番組の表象分析の具体例を提示しつつ分析する。	石田 英敬 (東京大学 大学院教授)	石田 英敬 (東京大学 大学院教授)
14	表象メディア論 II ーコンピューター	メディアとコンピュータの表象世界： サイバースペース上に成立するヴァーチャル・リアリティがもたらした表象世界とはどのようなものか。コンピュータ・アートの作品にみる表象作用を分析することによって明らかにする。	石田 英敬 (東京大学 大学院教授)	石田 英敬 (東京大学 大学院教授)
15	文化創造の現場へ ー来るべきもののためにー	表象文化研究の現在： 19世紀からの現代の表象文化を通時的に振り返り、21世紀の文化の行方を表象文化論の視点から展望する。	小林 康夫 (東京大学 大学院教授)	小林 康夫 (東京大学 大学院教授)

＝ 地域文化研究 I ( ' 0 6 ) ＝ ( R )

－ 近現代ヨーロッパ史 －

[ 主 任 講 師 ( 現 職 名 ) : 木 村 靖 二 ( 立 正 大 学 教 授 ) ]

[ 主 任 講 師 ( 現 職 名 ) : 近 藤 和 彦 ( 東 京 大 学 大 学 院 教 授 ) ]

全体のねらい

ヨーロッパ、とりわけ西欧社会が過去2世紀半の近代・現代の歴史過程で生み出した価値体系(文化全般)は、ヨーロッパ以外の現代国家・社会の骨格ともなっている。21世紀に入った現在、ヨーロッパ近代・現代の全体像はようやく明らかになるうとしている。18世紀中葉から現在まで、時代を追いながらそれぞれの重要なテーマを取りあげ、ヨーロッパ近現代史がもつ問題群を考えていきたい。

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	長い19世紀と 短い20世紀	フランス革命前後から第一次世界大戦までの時代を「長い19世紀」、第一次世界大戦から1991年のソ連・東欧社会主義圏の解体までを「短い20世紀」とする時代区分は、ヨーロッパ史では近年受け入れられるようになった。この新しい時代区分を参考に、ヨーロッパ近現代の主要な問題を紹介する。	木村 靖二 (立正大学 教授)	木村 靖二 (立正大学 教授)
2	啓蒙の時代	この講義の前半では、18世紀末から展開する本格的な近代(「長い19世紀」)の歴史をあつかう。今回はその前提として、啓蒙の時代(18世紀)における科学革命と『百科全書』をはじめとする出版、そして活発な公共圏を考える	近藤 和彦 (東京大学 大学院教 授)	近藤 和彦 (東京大学 大学院教 授)
3	産業革命と資本 主義システム	産業革命は18世紀末のイギリスに始まり、産業資本主義のシステムは世界史を大きく転換させた。だが、発明発見による生産力だけで世の中は変わるだろうか。最近の市場を重視する研究を踏まえて、消費社会の成熟から産業革命と資本主義システムの意味を再考する。	同上	同上
4	フランス革命と 国民国家	近代政治はフランス革命期の人権宣言から始まるとされる。しかし、封建制度の廃止、「自由・平等・友愛」をとらえたフランス革命にも、暗い裏面があった。国民国家という観点から、アメリカ独立、フランス革命、ナポレオン帝制を考える。	同上	同上
5	改革とロマン主 義	19世紀前半、イギリスが着々と自由主義の改革をかさねていたのと対照的に、ヨーロッパ大陸諸国はロマン主義の時代である。社会も文化も個性と情熱にあふれていた。激動のなかで諸国民の独立運動があり、また資本主義の矛盾をただすべき社会主義の構想もとなえられた。	同上	同上

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
6	戦争と国民の苦闘	19世紀半ば以降、イギリスはパクス・ブリタニカとよばれる繁栄を謳歌し、フランスもこれに続いた。これに対抗すべく、中欧・東欧の諸国でもさまざまな試行錯誤が続いたが、クリミア戦争はロシア、イタリア、ドイツ、そしてオーストリアの将来に決定的な影響を及ぼした。	近藤 和彦 (東京大学 大学院教授)	近藤 和彦 (東京大学 大学院教授)
7	「西洋事情」と 明治日本	19世紀後半、ヨーロッパ・アメリカが近代国家を構築していたちょうどそのときに、日本は開国し、急速な近代化を遂げた。波高き国際社会のただなかで祖国の行方を模索した日本人の「西洋事情」をめぐる問題意識を跡づけ、その同時代的な意味を考える。	同上	同上
8	帝国主義と大衆 社会	1870年代から第二次産業革命、科学技術の発達、公教育制度の普及、大衆社会の登場によってヨーロッパの内部も変わり、またアジア・アフリカとの関係も変化してくる。世界的な人口爆発と移民、本国内の富裕化、国家の役割と女性の解放論、そして列強による世界分割がきわだつのもこのころからである。	同上	同上
9	世紀末文化とベル エポック	19世紀末から第一次世界大戦まで、ヨーロッパは安定した経済成長期を経験した。それに支えられて市民文化は爛熟期を迎え、先進諸国を中心に楽観的 未来観がひろがった。しかし、他方ではそうした傾向に反発する新しい文化活動や政治運動も台頭してきた。	木村 靖二 (立正大学 教授)	木村 靖二 (立正大学 教授)
10	最初の破局とし ての第一次世界 大戦	第一次世界大戦はそれまでの国際関係・国内政治はもとより、人々の心性をも根底から揺るがし、同時に「戦争の世紀」でもある「短い20世紀」の開幕を告げた。大きな時代の転換点となった大戦を、破壊と創造の観点から再考する。	同上	同上
11	両大戦間期の混 沌	第一次世界大戦終結から第二次世界大戦が開始されるまでのほぼ20年間は、両大戦間期とよばれている。19世紀的価値観がヘゲモニーを失いながらも、20世紀の価値体系も形成途上にある「宙づりの時代」のなかで、新しい政治・文化を模索する試みを考察する。	同上	同上
12	ナチズムと第二 次世界大戦	ヨーロッパにおける第二次世界大戦は、「文明の破断」とまでいわれたナチス・ドイツによるユダヤ人・スラヴ系諸民族などにたいする蛮行で知られる。このようなことがなぜ起こりえたのか、それはヨーロッパの近代文明とどう結びつくのかを、最近の研究成果に基づき検討する。	同上	同上

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
13	分断のヨーロッパと冷戦	1950年代はじめ、ヨーロッパの東・西両陣への分断はほぼ確定した。それはヨーロッパ内部だけではなく、ヨーロッパと非ヨーロッパ地域との関係にも大きな変化をもたらした。分断にいたった背景は何か、分断がもたらしたものは何かを分析しながら、冷戦下の状況を考える。	木村 靖二 (立正大学 教授)	木村 靖二 (立正大学 教授)
14	現代社会への変容と「近代」への疑義	1950～1970年代はじめの20年間は、東西両陣営の経済とも、高い成長率を示す「黄金時代」であった。この間、ヨーロッパ社会の多くは現代社会へと変容をとげたが、それとともに「豊かな社会」への疑義・異議申し立ても現れる。	同上	同上
15	短い20世紀の終わりと新しいヨーロッパ	1991年のソ連の崩壊は、一つの時代の終わりでもあった。20世紀における社会主義の意味を検討しながら、さらに日本の状況とも比較しながら、新しいヨーロッパ(EU)の誕生の意義と歴史的位置づけを考える。	同上	同上

＝ 地域文化研究Ⅱ（'06）＝（R）

－東アジア世界の歴史と文化－

- [ 主任講師（現職名）： 川勝 守（大正大学教授） ]  
 [ 主任講師（現職名）： 吉田 光男（放送大学教授） ]  
 [ 主任講師（現職名）： 浜口 允子（放送大学名誉教授） ]

全体のねらい

東アジア世界とはなにか。その文化や社会はどのように形成され、いかなる特徴をもっているか。本講は東アジア世界を構成する中国・朝鮮を中心として、その歴史と現在をさまざまな角度から考察しつつ、併せてその研究方法や研究の現状を明らかにする。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	東アジア地域文化研究の方法、その特殊性と課題	東アジアの地域文化とは、中国の政治世界とその政治文化の影響を受けて古代以来の国家と社会の歴史を作ってきた朝鮮・日本・ヴェトナムなど周辺諸国の歴史文化をいう。その内容をいかに捉えるか。研究方法、研究目的については、その特殊性や課題に関連させて、学習・研究の指針を説明する。	川勝 守 (大正大学教授) 吉田光男 (放送大学教授) 浜口 允子 (放送大学名誉教授)	川勝 守 (大正大学教授) 吉田光男 (放送大学教授) 浜口 允子 (放送大学名誉教授)
2	東アジア世界とは何か、その考え方と現代的意義	東アジアの地域文化を理解するためには、冊封関係とよぶ中国皇帝と周辺君長との政治外交が行われる世界を東アジア世界として理解することが前提である。その理解にもとづき中国中華世界の展開、朝鮮・日本・ヴェトナムの中華世界の形成を捉え、東アジアの多極構造の歴史展開を考察する。	川勝 守 (大正大学教授)	川勝 守 (大正大学教授)
3	東アジアの世界文化遺産	東アジア地域の世界文化遺産はどのようなものが現在登録されているか。中国、朝鮮、日本、ヴェトナムなどについて、その内容を説明し、その文化遺産の特徴や特色を検討することを通じて、東アジア地域文化の一般的傾向や文化の価値などを考える。	川勝 守 (大正大学教授)	川勝 守 (大正大学教授)
4	中華帝国の生成・展開・崩壊－皇帝制度と官僚制－	中華帝国の政治システムの特徴は、BC221年の秦統一以来二千年にわたる皇帝制度とその行政施行機関たる官僚制にある。皇帝はどのようにして出現したか、13世紀の元世祖と14世紀の明太祖の事例を比較して、その官僚制を登用方法（科挙制度）、財政、税制度、裁判制度などの諸制度と関連させて考察する。	川勝 守 (大正大学教授)	川勝 守 (大正大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
5	朝鮮近世の政治システムー士族と両班ー	政治エリートである士族に焦点を当て、朝鮮近世の政治世界を解説する方法を考えていく。儒教、科擧、両班をキーワードにして、官僚制度や行政制度を分析し、政治と社会との相関関係や人々の政治意識にせまっていく。	吉田光男 (放送大学 教授)	吉田光男 (放送大学 教授)
6	中国近世の経済システムと都市網の形成	唐宋時期と明清時期という二回の商業革命の内容を比較し、そこに窺える中国経済の社会動態の構造的特色を理解したうえに、それが一八世紀の人口爆発や都市化の進展にどのように関連したかなど、今日における中国経済の飛躍の歴史的前提を考える。	川勝 守 (大正大学 教授)	川勝 守 (大正大学 教授)
7	朝鮮近世の流通と経済	朝鮮近世の流通経済は国家が強い統制をしていたところに特徴がある。貢人、市塵など、現在もっとも注目を浴びている研究課題を中心として、国家と商業の関係を考察し、朝鮮近世の経済世界がもつ特質を検討する。	吉田光男 (放送大学 教授)	吉田光男 (放送大学 教授)
8	伝統中国の社会構成ー中国エリートの生涯ー	中国近世は郷紳社会と呼ばれる。前近代から近代にかけて中国エリートの最後に登場した郷紳階層は宋元時代の士大夫やはるかな六朝や隋唐の士人とどこが異なるか。また、同時期の日本の武士や朝鮮の両班とどのような類似点と異質点があるか。ある郷紳エリートの生涯を通して伝統中国の社会構成を考えてみる。	川勝 守 (大正大学 教授)	川勝 守 (大正大学 教授)
9	朝鮮近世の社会集団	氏族、郷案、郷吏など、朝鮮近世国家と住民との中間にはさまざまな社会集団が存在していた。現代の社会調査による研究成果をとりいれながら、朝鮮近世における社会集団のもっていた歴史的意味を考察する。	吉田光男 (放送大学 教授)	吉田光男 (放送大学 教授)
10	中国近世の生活文化	中国近世の生活文化は今日の中国生活文化に直接につながる。上海付近の綿業地帯と蘇州付近の製糸絹織物業地帯の各市鎮志の年中行事・民間習俗の事例から娯楽や遊びは中国近世生活文化のいかなる特色や価値を示すものであろうか。	川勝 守 (大正大学 教授)	川勝 守 (大正大学 教授)
11	朝鮮伝統社会の文化と生活	朝鮮伝統社会は、儒教、仏教、道教、漢字などの外来文化が、巫俗などのさまざまな固有文化と融合する世界であった。近世の朝鮮を中心にして、朝鮮における伝統文化のあり方について、生活面まで掘り下げながら検討する。	吉田光男 (放送大学 教授)	吉田光男 (放送大学 教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
12	東アジアの家族 と女性	東アジアにおける男女の社会的関係は、一般に父権 家族制度とその道徳律の影響を受けてきたとされ る。そうした両性関係の形成過程を明らかにすると ともに、近現代におけるその態様についても考える。 またジェンダーの視角から家族や宗族を中心とした 社会の特質についても考察する。	川勝 守 (大正大学 教授) 浜口 允子 (放送大学 名誉教授)	川勝 守 (大正大学 教授) 浜口 允子 (放送大学 名誉教授)
13	中国近代都市の 形成と人々の生 活	中国には長い城郭都市の歴史があるが、19世紀中葉 になるとそうした伝統都市とは異なる新しい性格の 近代都市が誕生する。それはどのような空間であり、 如何なる役割を果たしたのか。また、そこで人々は 相互にどのような関係を築きつつ如何なる暮らしを 営んだのか。今日に続く20世紀の中国都市社会を考 える。	浜口 允子 (放送大学 名誉教授)	浜口 允子 (放送大学 名誉教授)
14	中国近現代農村 社会の特質と変 遷	近代にはいっても中国農村社会は伝統的な態制をな おも引き継ぐものであった。その農村にあって人口 の大多数をしめる農民の生活はどのようなものであ ったか。副業のあり方を中心にその具体相を述べ、 それが現代に至ってどのように変化したかを考察す る。	浜口 允子 (放送大学 名誉教授)	浜口 允子 (放送大学 名誉教授)
15	現代中国の歴史 的位置	現代中国の歴史は、社会主義の受容にはじまり、いま やそこから脱却するのか、それとも深化させるのかを 問う模索のさなかにある。この変化の大きい半 世紀の歴史を、幾つかの点に着目して検討する。	浜口 允子 (放送大学 名誉教授)	浜口 允子 (放送大学 名誉教授)

事務局 記載欄	開設 年度	平成 19 年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8910308	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	----------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 地域文化研究Ⅲ ( ' 0 7 ) = (TV)

—ヨーロッパの歴史と文化—

〔主任講師 (現職名) : 草光 俊雄 (放送大学教授) 〕

〔主任講師 (現職名) : 宮下 志朗 (東京大学大学院教授) 〕

### 講義概要

これまでヨーロッパの歴史は各国別に分断され、それらを一冊にまとめて論じるということが多かった。外交や戦争を扱うときには勿論他国との関係が論じられるが、それもあくまでも一国の歴史という脈絡のなかでしかなかった。しかしヨーロッパはいろいろな意味で、考えられる以上に有機的につながっている。ギリシア・ローマの古典文化、ゲルマン民族、キリスト教という三大要素ばかりでなく (民族的、宗教的にももっと複雑ではあるが)、古くからヨーロッパの人々は旅をし、知見を広め、自国の文化のなかにヨーロッパという普遍的なものを作り上げてきたと言っても良い。本講義ではそのようなヨーロッパの歴史のなかからいくつかのテーマを選び、国境にまたがる地域に広がる、国境を越えた文化を採り上げる。それはあるときには空間を支配する関係についてのネットワーク論であり、人やモノの移動や交流、交換と流通を考える社会史や文化史でもある。またヨーロッパが非ヨーロッパと出会ったときに自らのアイデンティティをどのように築いていったか、そしてそれがヨーロッパの地球規模での進出にどのような役割を果たしたのか、といった点にもふれて考えてみたいと思う。

### 授業の目標

当然のことながら、包括的なヨーロッパの歴史を学習することが目標ではない。授業で採り上げるテーマを一つのきっかけ、あるいは参考にして、学生のみなさんが自らの関心で越境する文化について調べたり書いたりしてくれることを望んでいる。放送授業や教科書にはそのためのいくつかの方法やヒントをちりばめておくつもりである。

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	イントロダクション—人、モノ、情報の交流—	授業の全体のテーマを紹介し、ヨーロッパの歴史を見ていくなかで、人、モノ、情報などがいかに国境を越えて交流していったか、そしてそれがどのようにしてヨーロッパのアイデンティティを築いていったか考えるヒントをまず提示する。	草光 俊雄 (放送大学 教授)  宮下 志朗 (東京大学 大学院教 授)	草光 俊雄 (放送大学 教授)  宮下 志朗 (東京大学 大学院教 授)
2	「旅人」の誕生	古来人々は戦のため (侵略や略奪、領土の拡大など) はるばる遠路他国への旅をしてきた。また宗教の布教のためあるいは商業の目的で、多くの困難を顧みず地球規模での旅をも行ってきた。そうした活動のなかで得た知見は様々な形で残されている (たとえばカエサルの『ガリア戦記』、ルイス・フロイスの『日本史』、マルコ・ポーロ『東方見聞録』など)。しかし近世になり、人々は知的好奇心のため、あるいはたんなるレジャーのために旅をするようになる。旅のネットワークとはどんなものだったのだろうか、それぞれの旅人がどのような目的で何を発見したのか。イギリス貴族のイタリアへのグランドツアーや、国内でも旅行家であったアーサー・ヤングのフランス旅行などを例にとって考えてみる。	宮下 志朗 (東京大学 大学院教 授)	宮下 志朗 (東京大学 大学院教 授)  草光 俊雄 (放送大学 教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
3	国境を越える書物	<p>印刷術が誕生した次の世紀には、ヨーロッパの内では宗教改革が起こり、外に向かっては、大航海時代を迎えてと、エピステモロジーの大きな変革の時期にさしかかる。そうした知や思想の所産である書物の文化も発展していくが、発禁処分といった抑圧の動きも強く働くことになる。そして各国語訳聖書に代表される「危険な書物」は、いわば国境の向こう側で生産され、送りこまれたりする。フランスを例に取れば、国境の商都リヨン、国外のアントワープ、スイスの諸都市が、フランス語による「危険な書物」を、ときにはその信念から、ときにはビジネスライクに製作して、送りこむのだ。こうした動きを、のちの18世紀の啓蒙の時代まで射程に収めて考えてみる。そしてまた、知的共同体としての「文芸の共和国」を束ねる存在、つまりは「サロン」「カフェ」の前身としての、印刷工房の役割にも注意を促したい。</p>	<p>宮下志朗 (東京大学大学院教授)</p>	<p>宮下志朗 (東京大学大学院教授)</p> <p>高宮利行 (慶応義塾大学教授)</p>
4	北欧へ自らをどう捉えてきたか	<p>我が国では理想的に語られることの多い北欧だが、現在の北欧ではヨーロッパ統合の進展を背景として「自らは何者であったのか」という問いを、歴史のなかで省察する動きが盛んになっている。ヨーロッパ世界の北の辺境に位置する北欧は、それだけで独特な自己意識と社会像を作り上げてきたように見える。しかし実際には、ヴァイキング時代から現代に至るまで、北欧と大陸ヨーロッパ世界との接触と交渉が繰り返されてきた。北欧の歴史を振り返るならば、他者との接触を通じ固有の文化と外来の文化を融合させて、独特な自己意識を形成するに至った過程を確認できよう。この回の講義では、第一にヴァイキング時代以来の北欧固有の文化観と大陸ヨーロッパ起源のキリスト教理念が融合することによって形成された自己意識の事例として近世のゴート主義を、第二に西欧市民社会の理念を咀嚼しながら構築され、現代へと繋がる北欧観に決定的な影響を与えた近代のスキャンディナヴィア主義を、第三に大陸ヨーロッパ世界との駆け引きのなかで産み出されてきた北欧アイデンティティが他者の自己理解形成にさえ影響を与えていく事例として現代のサーミあるいはバルト諸国の変貌を紹介する。この回はこれらの事例を検討することによって、北欧の自己理解が作り上げられる過程で、他者が果たした役割を具体的に検討することを目標とする。</p>	<p>古谷大輔 (大阪外国語大学准教授)</p>	<p>古谷大輔 (大阪外国語大学准教授)</p>

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
5	「好奇心」と「探究心」ー啓蒙主義と博物館の思想ー	普通、ヨーロッパの啓蒙思想は18世紀フランスに始まると考えられているが、大航海時代以降のヨーロッパがいかにして異文化にたいする好奇心を示し、探究心を持って異文化の思想や文物を収集していったか、そしてそれらがどのようにして体系的な知識の蓄積として新しい学問を生んでいったかを考える。初期近代に生まれた博物館が、絶え間ない探究心と新しい、あるいは珍奇な知識の収集を求める人々の活動によって成り立っていること、またそこには知のネットワークが存在していたことを見ていく。	草光俊雄 (放送大学 教授)	草光俊雄 (放送大学 教授)  宮下志朗 (東京大学 大学院教 授)
6	コレクターの誕生と芸術作品の流通	収集する欲望・ふるまいは、人類の属性のひとつかもしれない。ここでは、「コレクション」を、流通回路とは(一時的に)引き離して、その目的のために特別に整備された空間で、保護・保存し、(ときに)他者の視線にさらすモノの集合体と定義して、考察する。すなわち、一般的な図書館のようなものではなく、特定個人の趣味・好奇心の投影としての収集物、とりわけ芸術作品の「コレクション」を扱う。近代を迎えると芸術家のパトロンが出現し、片や作品のマーケットも生まれてくる。とりわけ商業都市ヴェネツィアは、流通市場での影響力を強く行使していくし、ヴェネツィア絵画も各国のコレクターに広がっていく。ここでは、パリ随一の優雅なコレクション空間である、ジャックマール・アンドレ美術館の沿革を探り、また、イタリアにコレクターの一族を訪ねて、芸術作品を鑑賞するとともに、それらが「コレクション」として、いかなる流通・移動の歴史をたどり、いかなる機能をはたしたのかを検証してみる。さらに私的なコレクションが、公的なものになっていく一つの傾向を考え、国家規模での美術館の成立を、イギリスのナショナル・ギャラリーの館長とのインタビューを紹介する。最後にオークション・ハウスのことを考える。	草光俊雄 (放送大学 教授)	草光俊雄 (放送大学 教授)  宮下志朗 (東京大学 大学院教 授)
7	食文化の地政学	今日ヨーロッパの食文化は、各国ごとに、また一国内でも地域ごとに特徴が見いだされる。一方、ある種普遍的とも呼べるヨーロッパ的な料理方法が存在するのも確かである。また食事に欠かせない飲み物も地域によって異なる。そしてそれはかつては素材の生育地域と密接に関連していた。イギリスや北フランス、北ヨーロッパには葡萄の生育が適さなかったために葡萄酒の生産は不可能であった。そうした地域では麦を原料とするビール、ウイスキーが主なアルコールであったし、またリンゴからとれたサイダー酒(シードル)も作られた。ヨーロッパを地政学的に捉えて、イギリスやフランスそしてイタリアなどの食文化を考え、さらにはなぜイギリスがボルドーやブルゴーニュの支配に固執したのかなどとい	草光俊雄 (放送大学 教授)	草光俊雄 (放送大学 教授)  宮下志朗 (東京大学 大学院教 授)

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
		った問題を考えてみたい。葡萄酒は教会のミサに欠かせなかったが、アルコールそのものの魅力もあったであろう。放送授業ではイタリア・トスカーナのワイナリーを訪ねてそこで作られるワインやオリーブオイルについて取材したものを使う予定である。		
8	ロシア「大使節団」と西欧化	ユーラシア大陸の東の大国ロシアと西欧諸国、特にイギリスとの文化的接触と影響について考える。中世に遅れてキリスト教国家となったロシアは、ギリシャ正教を取り入れた点で他のヨーロッパ諸国と大きな違いがある。また中世都市国家を持たなかったという点でも西欧的な市民社会形成という点で異なっている。しかし16世紀半ば以降、ロシアは西欧化を進めることによってヨーロッパの覇権を狙い始める。とくに17世紀にピョートル帝はオランダ、イギリスなどに長期旅行を行い、見聞を深めることによってロシアの西欧化を進めようとした。授業では特にピョートル帝の旅行を詳しく検討することで、ロシアの内部にある西欧志向とその反動であるナショナリズムの問題を考えてみる。	土肥 恒之 (一橋大学 大学院教授)	土肥 恒之 (一橋大学 大学院教授)
9	奢侈と経済ーヨーロッパ・ブランドの成立ー	奢侈は一国の経済を大きく変化させる。さらにその影響は一国を超えて広い地域に広がっていく。18世紀のヨーロッパは奢侈の広がり新しい技術を生み出し、その中で特産品が生まれそれがまた広く普及していく。どのような技術が生まれどのような製品が生み出されたのか、この分野の世界的権威 Maxine Berg 教授へのインタビューなどを交え、世界商品の成立について考える。	草光 俊雄 (放送大学 教授)	草光 俊雄 (放送大学 教授)  ゲスト： Maxine Berg (ウォ リック大学 教授)
10	異端のディアスポラ	ワルド (ヴァルド) 派は、リヨンの豪商ペトルス・ウアルドゥスが12世紀に創始した、贖罪と清貧を説く説教団である。この「リヨンの貧者」は異端宣告を受けて、ボヘミア、北イタリアなどに散開していくが、やがて衰微、フランスでは南仏の山塊の奥で、落ち武者のようにして、信仰の火をともしていくことになる。しかしながら、16世紀という宗教改革の世紀を迎えると、オリヴェタン訳仏語聖書の刊行に関して改革派との結びつきを強め、以後はプロテスタントの一翼を担っていく。こうしたワルド派の流転を、現地調査を交えつつ報告し、宗教のネットワークについて考察する。	宮下 志朗 (東京大学 大学院教授)	宮下 志朗 (東京大学 大学院教授)  草光 俊雄 (放送大学 教授)
11	アラビアン・ナイトの「発見」ーヨーロッパ世界の東方幻想ー	アラビア語の説話集『アラビアン・ナイト』は、18世紀初頭以来、ヨーロッパ各国語に翻訳され、ヨーロッパ人の東方幻想の基盤、諸芸術の靈感源として大きな役割を演じてきた。その受容の様相を、翻訳自体に見られる改変や、文学、音楽、絵画、舞台、映画などへの応用という視点から紹介する。	杉田 英明 (東京大学 大学院教授)	杉田 英明 (東京大学 大学院教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
12	スポーツの近代化	本来狩猟など上流階級の余暇の遊びであったスポーツが近代的な形をとるようになったのは19世紀イギリスであったが、それぞれの国々の余暇の様々なあり方と国境を越えたスポーツへの変化を見ていく。授業では特にテニス、ボートレース、登山を採り上げ、必ずしもイギリス発祥ではなかったこれらのスポーツがいかにイギリスにおいて近代化の道を歩んだかを考える。また日本においてこれらのスポーツがどのように受容され、どのように独自の発展をしていったかについても見ていくことにする。	草光俊雄 (放送大学 教授)	草光俊雄 (放送大学 教授)  宮下志朗 (東京大学 大学院教 授)
13	近代読者の成立	ここでは、「国境」ではなく、ことばが社会階層を越境して、広がっていく様相を考察する。「日常生活の簡単な文章を理解し、読み書きできる15歳以上の成人」、これがユネスコによる「識字者」の定義である。「読み書き能力」は、社会の安定した発展には不可欠なインフラなのである。だが日本のような、だれもが読み書きできることが当然の国家に暮らしていると、こうしたことも忘れがちになる。ここでは話をヨーロッパの19世紀にさかのぼって、読み書きの実体に迫りたい。19世紀は、人々の読み書き能力が急速に増大した時代であって、これと呼応して、新聞・雑誌、そして小説といったジャンルが発展し、社会に浸透していく。こうした変化を、さまざまな図像や、大ベストセラーとなった新聞小説等を見ながら確認し、読み書きの実践態(プラティック)と、その研究方法などについて考えてみたい。	宮下志朗 (東京大学 大学院教 授)	宮下志朗 (東京大学 大学院教 授)  草光俊雄 (放送大学 教授)
14	アーサー王伝説の展開	アーサー王伝説は、ローマ帝国が撤退した5世紀のブリテンで、北方から侵入したサクセン人に敗戦を強いられるケルト人のなかに、勇敢な戦争指揮官がいて、後にアーサーという名前が与えられて伝説化した。12世紀の歴史家が大いに喧伝したために、文学としてもフランスからヨーロッパ全土に広がった。その伝播には十字軍遠征の兵士達が一役を担ったと考えられる。しかし、最近の映画『キング・アーサー』に描かれたように、近年は伝説をケルト文化ではなく、ローマ軍の傭兵となってブリテンに駐屯したサルマート人求める説もある。 中世の終わりまで再話が繰り返され、長大な散文ロマンスが印刷されたが、近代精神の広がりとともに、アーサー王ロマンスの不義密通や超自然的な要素は嫌われ、忘れ去られた。アーサー王伝説がよみがえるのは、18世紀後半のロマン主義復興による振り返り現象だった。19世紀の文学、絵画、音楽に題材を提供したこの伝説は、カメレオンのように変容しながら、20世紀の映像の時代を生き抜いた。漱石にもすぐれた短編小説がある。 こうした時代的にも地域的にも広がりをもつアーサー王伝説は、リアリズム小説の衰退とともに盛んに	高宮利行 (慶応義塾 大学教授)	高宮利行 (慶応義塾 大学教授)  宮下志朗 (東京大学 大学院教 授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
		なったファンタジー文学の基礎を形成している。アーサー王伝説の発展とその特色を探るのがこの講義の狙いである。		
15	まとめ～ヨーロッパから日本への旅～	14回の授業を振り返り、とくにヨーロッパから日本への旅を考えてみる。基督教の伝来と「かくれキリシタン」、オランダ東インド会社、日本の近代化などをヨーロッパとの関係で考える。	草光俊雄 (放送大学 教授)  宮下志朗 (東京大学 大学院教 授)	草光俊雄 (放送大学 教授)  宮下志朗 (東京大学 大学院教 授)

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8940509	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 日本<sup>の</sup>歴史と社会 ( ' 0 9 ) = ( R )

〔主任講師 (現職名) : 五味文彦 (放送大学教授) 〕  
 〔主任講師 (現職名) : 杉森哲也 (放送大学准教授) 〕

### 講義概要

この講義は日本の歴史と社会を、都市という切り口から探ってみるものである。都市は政治・文化・社会の結節点にあることから、その都市の成立と展開の歴史を古代から現代にいたるまで探って、まず日本における都市社会の展開の道筋を追い、さらに建築空間の様相から都市の新たな展開の方向性をも捉える。

### 授業の目標

日本において都市がどのように形成されてきたのか、都市が歴史的社会的ありかたをいかに映し出しているのか、都市に凝縮された様々な社会関係はどうあったのか、日本の都市はどのような特色を帯びているのか、また今後、都市はいかなる方向をめざしているのか。これらの課題を考える材料となることをめざす。

### 履修上の留意点

特にないが、学部の日本史関連の科目もあわせて学習することを希望する。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	総論－日本の都市と社会－	日本において都市がいかに形成され、どう展開していったのかという問題を考える。これにより都市の視点から歴史と社会・文化とのかかわりを多角的に探ることの意味を提示したい。 【キーワード】 都市論	五味文彦(放送大学教授)	五味文彦(放送大学教授)
2	日本古代の飛鳥	5～6世紀の日本はヤマト王権の勢力が各地に伸張し、朝鮮三国に対抗しうる存在となった。都城成立以前のこの時期はいわゆる歴代遷宮の時代であり、政権の拠点となる本格的都市は建設されていない。しかし7世紀になって宮が飛鳥に集中すると、飛鳥には次々に宮殿や寺院などの公的施設が造営され、次第に政権拠点としての形を整えていった。その姿は、天皇家と蘇我氏との間の権力抗争の姿でもあった。 【キーワード】 蘇我氏と飛鳥寺、飛鳥の諸宮、飛鳥浄御原宮、飛鳥の公的施設	北村優季(青山学院大学教授)	北村優季(青山学院大学教授)
3	平城京の成立	平城京の広さは、今日からみても驚くべき規模であるが、なぜそうした巨大な都市を日本古代の人々が造営したのか、その理由を考えるのが今回のテーマである。この時期の「律令」は、自国を唐と並立する国と位置づけたが、そのゆえにこそ日本に長安を再現する必要があった。また同時に、都城は畿内豪族を天皇の元に再編する空間ともなっていた。平城京は思想の産物であるとともに、天皇を中心とする権力再編の場でもあった。 【キーワード】 律令国家の世界観、長安の再現、宅地の班給、権力集中の場	北村優季(青山学院大学教授)	北村優季(青山学院大学教授)

文化情報学プログラム

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	平安時代の京都	<p>8世紀末に造営された平安京はその後朝廷によって維持・管理がなされたが、10世紀後半になると、右京の荒廃が顕著になり左右対称の構造が崩壊した。摂関時代には左京を中心として寝殿造による貴族邸宅や諸司厨町が展開したが、院政期になると、里内裏の造営が盛んになると平行して大内裏(宮城)が空洞化しさらに白河・鳥羽に上皇の政治拠点が作られるなどしたため、京都には左京城を中心とする新たな都市空間が展開した。</p> <p>【キーワード】 右京の荒廃、大内裏と里内裏、庶民の祭礼、白河と鳥羽</p>	北村優季(青山学院大学教授)	北村優季(青山学院大学教授)
5	中世都市の形成	<p>11世紀から13世紀にかけて、博多や京都・奈良・鎌倉などの中世都市がいかにかに形成されてきたのかを探って、都市が中世社会にとってどのような位置を占めていたのかを考察する。</p> <p>【キーワード】 政治都市、宗教都市、港湾都市</p>	五味文彦(放送大学教授)	五味文彦(放送大学教授)
6	中世における都市社会の展開	<p>12世紀から14世紀にかけての中世社会において、都市社会がどう展開していったのかを、東アジア世界との関わりや日本列島の新たな流れのなかから考える。</p> <p>【キーワード】 市、宿、湊</p>	五味文彦(放送大学教授)	五味文彦(放送大学教授)
7	中世の都市文化	<p>15世紀から16世紀にかけて、中世の都市には新たな文化が成長したが、その動きをさぐって、現在につながる都市の諸要素がこの時期に用意されてきたことの意味を探る。</p> <p>【キーワード】 町、祇園祭り、館</p>	五味文彦(放送大学教授)	五味文彦(放送大学教授)
8	城下町の構造	<p>城下町は、日本の歴史が中世から近世へと大きく転換する過程で生まれた、新しい都市類型である。近世幕藩制国家における標準的な都市として、十六世紀末から十七世紀初頭頃までの比較的短期間に全国で一斉に展開した。城下町の成立は、日本の都市の歴史なかでも、画期的なことであった。そこで本章では、まず城下町を捉える方法を紹介するとともに、加賀藩の城下町である金沢を事例として取り上げ、その構造について具体的に検討する。次に近世日本が生み出した最大の巨大都市であり城下町でもある江戸を取り上げ、空間的にも社会的にも大きな比重を占めていた武家地の中の名藩邸の構造について、加賀藩の江戸藩邸を事例として検討する。</p> <p>【キーワード】 城下町、都市的要素、金沢、江戸、大名藩邸</p>	杉森哲也(放送大学准教授)	杉森哲也(放送大学准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
9	近世の京都	<p>京都は、古代律令国家の都城・平安京として建設されて以来、1200年余の歴史を有する都市である。とりわけ古代から近世に至る前近代において、一貫して国家の中核的機能を担い続けてきたことは、日本の都市の歴史を考えるうえで非常に重要な事実であると考えられる。第8章では、日本の歴史が中世から近世へと大きく転換する過程で城下町という新しい都市類型が生まれ、それが全国的に展開したことを述べた。それでは都城として成立して以来の歴史を有する京都にとって、近世という時代はどのように位置づけられるのだろうか。本章では、近世の京都に焦点を合わせ、その特徴の一端について検討する。</p> <p>【キーワード】 京都改造、近世京都、町、町掟、町会所</p>	杉森哲也(放送大学准教授)	杉森哲也(放送大学准教授)
10	札幌の建設	<p>札幌は、北海道開拓の拠点として建設された都市であり、一般にその歴史は近代都市として始まるものとして理解されている。しかし、札幌の建設の過程を検討してみると、近世から引き継いだ要素も含まれていることがわかる。本章では、札幌の建設を日本の都市の歴史という文脈の中で捉え直し、再検討することを試みる。</p> <p>【キーワード】 近世都市、近代都市、札幌、北海道開拓</p>	杉森哲也(放送大学准教授)	杉森哲也(放送大学准教授)
11	開港場の形成	<p>19世紀中葉における安政の5カ国条約の締結によって、5港が開港され、自由貿易が開始された。貿易の進展とともに、これらの開港場は、単に貿易港としてだけではなく、世界との接点として、日本の国際化(グローバル化)の尖兵として、経済・社会を中心に日本の近代化を推進する都市としての機能を果たした。横浜を中心に開港場の都市としての歴史的役割について考える。</p> <p>【キーワード】 開港、開港場、交通革命、国際化</p>	小風秀雅(お茶の水女子大学大学院教授)	小風秀雅(お茶の水女子大学大学院教授)
12	帝都の成立	<p>明治維新後、江戸は東京と改称されただけでなく、幕藩体制における政治都市「江戸」から近代国家の首都「東京」への変化は、その都市機能を大きく変化させた。なにより日本の中心としての首都の位置を明確にする儀礼の展開と国民の受容による国民国家の成立は、近代日本史の展開と密接に関連していたのである。その構造を明らかにすることは、近代日本史を都市の視点から再考することにつながる。</p> <p>【キーワード】 江戸から東京へ、憲法発布と東京、国家と国民の形成</p>	小風秀雅(お茶の水女子大学大学院教授)	小風秀雅(お茶の水女子大学大学院教授)
13	町屋論(特論1)	<p>特論1～3では、空間的立場から日本の都市史を捉え直してみる。特論1の町屋論では、日本の伝統的な都市建築であった町屋の形成と展開のプロセスを追跡し、日本都市の歴史的変化を建築の側から考える。</p> <p>【キーワード】 町屋、接道性、沿道性、地割</p>	伊藤毅(東京大学大学院教授)	伊藤毅(東京大学大学院教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
14	境内論(特論2)	<p>日本の都市の空間的組成を分解してみると、「境内」と「町」という素朴な空間類型に還元できる。中世都市はこの二つの空間類型の複雑な組み合わせとみることができる。前者の代表例が宗教都市であり、後者は交易都市である。</p> <p>【キーワード】 境内、町、宗教都市、交易都市</p>	伊藤毅(東京大学大学院教授)	伊藤毅(東京大学大学院教授)
15	グリッド論(特論3)	<p>格子状の道路パターン(グリッド)をもつ都市は古今東西を問わず、普遍的に存在しつづけてきた。本講では一見単純なグリッドがもつ多様な意味を探るとともに、そこに込められた時代の都市アイデアを考える。</p> <p>【キーワード】 グリッド、街区、都市計画、都市アイデア</p>	伊藤毅(東京大学大学院教授)	伊藤毅(東京大学大学院教授)

## ＝ 文化人類学研究（'05）＝ (TV)

～先住民の世界～

[主任講師： 本多 俊和 (スチュアート ヘンリ) (放送大学教授)]

[主任講師： 大村 敬一 (大阪大学大学院准教授)]

[主任講師： 葛野 浩昭 (立教大学教授)]

### 全体のねらい

今日、グローバリゼーションによる世界の画一化が進む一方、世界各地の民族やエスニック集団にみる文化的な多様性への関心が高まっている。こうした文化の多様性を正しく理解することによって、自民族至上主義（自民族中心主義）を克服し、真の意味での異文化理解にもとづいた共生的な国際関係の構築に貢献することが、文化人類学の重要な使命の一つである。この授業では、先住民に焦点を絞ってその歴史と現状を検討し、グローバリゼーションと文化的多様性の相克を共通のテーマとし、近代国民国家と先住民、国際法・憲法における先住民、言語政策と民族語保存運動、マス・メディアと先住民、先住民のアート、伝統的な知識と近代科学、「伝統」と「近代化」などを主題とした講義を通して、それぞれの分野の第一線で活躍している講師のフィールドワークを加味した授業で、文化多様性の理論と問題点を浮き彫りにする。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	先住民とは何か	先住民という概念をさまざまな視点から検討する。先住民と少数民族、エスニック集団の違い、16世紀にヨーロッパの歴史に登場した「野生人」としての先住民、「野蛮」視されてきた先住民像の修正などの問題を包括的にとり上げ、欧米を中心とした世界観を文化の多様性の視点からとらえなおす。	本多 俊和 (スチュアート ヘンリ) (放送大学教授)	本多 俊和 (スチュアート ヘンリ) (放送大学教授)
2	文化多様性への扉：人類学と先住民研究	グローバリゼーションが進行し、様々な紛争が頻発する今日の世界で、人類学は文化相対主義を支柱に文化多様性の尊重を掲げ、異なる価値観に対する寛容の精神を育んできた。しかし、こうした文化相対主義には、価値観が異なる文化的他者と自己の間に壁を築いてしまう本質主義に陥るおそれもある。この授業では、こうした人類学の理論的問題が先住民研究の場で先鋭化することを示し、理念的に文化多様性を議論するだけでなく、フィールドワークという具体的な現実の場に密着して文化多様性を考えることの重要性を示す。	大村 敬一 (大阪大学大学院准教授)	大村 敬一 (大阪大学大学院准教授)
3	人類学的実践の共同へ：フィールドワークと先住民	本質主義批判、オリエンタリズム批判の向けられる人類学であるが、そのフィールドワークは、あくまでも個別具体的な人々と私との対面的な関係とその変化に基礎を置くものである。そして今日、先住民の中には、それぞれ個別の想いや立場で自分たちのことを調べ、学び、教え、表現するフィールドワーク的営みを重ねている人々が少なくない。この授業では、人類学者のフィールドワークと先住民自身のフィールドワーク的営為とを重ね共同して見つめることを通して、人類学的実践の持つ可能性について考える。	葛野 浩昭 (立教大学教授)	葛野 浩昭 (立教大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	民族文化としての採集狩猟活動：イヌイトの事例から	採集狩猟を基盤とする生業活動は、農耕の対極に位置づけられることが多いが、極北地帯のイヌイトの生業活動を事例に、こうした二項対立的な解釈を吟味することを通して、現代における「伝統」と「近代」について考える。	本多 俊和 (スチュアート ヘンリ)	本多 俊和 (スチュアート ヘンリ)
5	民族文化としてのトナカイ飼育：サーミの事例から	1970年代、或る女性は「体が続く限り遊牧を続けたい」と語った。90年代、EU統合を前にして将来への不安を抱えながらも、或る男性は中学生の息子を連れてトナカイの追い込みに出かけた。2003年、息子の生まれた一人の青年は「今はいろんな選択肢があるけど、息子にもトナカイ飼育をして欲しい」と語る。この授業では3人の映像を通してサーミ人のトナカイ飼育を紹介すると同時に、それがサーミ民族文化の存続・発展の要であることについても考える。	葛野 浩昭	葛野 浩昭
6	野生の科学と近代科学：先住民の知識	世界の先住民は、狩猟・漁労・採集や農耕、牧畜などの生業活動を通して、環境を持続的に利用するための知識体系を築き上げてきた。この講義では、カナダ極北圏のイヌイトを事例に、伝統的な知識の可能性を問いながら、伝統的な生態学的知識が、グローバル化の原動力となってきた近代科学に対して提起する問題を考察する。	大村 敬一	大村 敬一
7	ロシア極東地域における先住民企業の生き残り戦略	ソ連崩壊と社会主義計画経済の破綻、資本主義化を目指したその後のロシア経済の混乱はシベリアや極東地域といった辺境地域にすむ先住民の経済にも大きな打撃を与えた。ここでは沿海地方のウデヘという少数民族の狩猟企業を例にとりながら、彼らの生き残り戦略を分析する。	佐々木史郎 (国立民族学博物館教授)	佐々木史郎 (国立民族学博物館教授)
8	先住民社会の変化と女性	ヨーロッパの入植者との接触によっておおきな社会変化を経験したオーストラリアの先住民社会では、社会の諸側面で変化への対応が見られる。見過ごされがちな女性たちも、この変化のなかにあり、柔軟な対応によって社会に力を与えることにもなっている。ジェンダーの視点から先住民社会の変化を考える。	窪田 幸子 (広島大学准教授)	窪田 幸子 (広島大学准教授)
9	アフリカの焼畑と混作：在来農法の語られ方	アフリカの熱帯雨林地帯では、狩猟採集、混作・焼畑農業など、自然との絶え間ない相互作用の中で、自然が生み出した多様性を生かす技法が発達している。国家や企業が森林を保護・活用すべき経済資源であると見なす中で、地域住民にとっての森との関係の全体像を考える。	小松かおり (静岡大学准教授)	小松かおり (静岡大学准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	メディアと先住民：表象する側とされる側	政府によるメディア政策。活字メディア、メディアとしての博物館、「民族」音楽などの媒体を通して、ドミナント社会のメディアに表象される先住民像とメディアを利用する先住民の自己表象を考察する。	本多 俊和 (スチュアート ヘンリ)	本多 俊和 (スチュアート ヘンリ)
11	民族文化から芸術活動へ：文化の創造的動態	先住民の間で高まりを見せている美術・文芸・音楽活動は、時に生活を支え、時にエスニック・アイデンティティを支えるための、民族文化資源の利用であり、民族文化の復興運動でもある。そして、これら芸術活動は、先住民からの first-voice として、また、グローバリゼーションと文化多様性の潮流とを媒介する声として、世界へ向けて発せられ、響き渡っている。この授業ではイヌイトとサーミの芸術活動を取り上げる。	葛野 浩昭 大村 敬一	葛野 浩昭 大村 敬一
12	先住民運動：過去、現在、未来	第二次世界大戦後におきた先住民運動の軌跡をたどる。戦後のアメリカ合衆国にはじまった公民権運動に出発点をもつ先住民運動が世界的に広がってきた様子を描く。	本多俊和 (スチュアート ヘンリ)	本多俊和 (スチュアート ヘンリ)
13	先住民と憲法	先住民の権利を国内において実現するためには憲法との適合性を考えなくてはならない。民族という集団に人権主体性が認められるか、特別な権利の保障は平等原則に反しないか、憲法の明文にないが民族にとって重要な権利をどのように保障するかなど問題は少なくない。本講では諸外国の事例も参照しつつ検討を行う。	常本 照樹 (北海道大学大学院教授)	常本 照樹 (北海道大学大学院教授)
14	アイヌ語の現在と未来	現在世界的に問題となっている「消滅の危機に瀕した言語」について考えるために、そのひとつとしてアイヌ語をとりあげ、特にアイヌ語を今継承しようとしている人々の動きを、アイヌ語教室やアイヌ語弁論大会などで自主的に活動しているアイヌたちに焦点を当てて紹介し、国や道の政策との関係を見ながら、日本という国においてそういった運動の持つ意味を考える。	中川 裕 (千葉大学教授)	中川 裕 (千葉大学教授)
15	座談会 共同の学問、共生の世界へ	以上の授業で提起された課題や問題意識をとり上げながら、先住民の視点から文化的な多様性に関する議論と総括を行なう。	本多 俊和 (スチュアート ヘンリ) 大村 敬一 葛野 浩昭	本多 俊和 (スチュアート ヘンリ) 大村 敬一 葛野 浩昭

事務局 記載欄	開設 年度	平成 19 年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8910294	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	----------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 言語文化研究 I ( ' 0 7 ) = ( R )

。一 国語国文学研究の成立一

〔 主 任 講 師 ( 現 職 名 ) : 長 島 弘 明 ( 東 京 大 学 大 学 院 教 授 ) 〕

#### 講義概要

江戸時代の国学は、日本古来の精神のあり方を考究する学問であったが、その一方で、古語や古典文学を文献を通じて明らかにする学問であった。その意味で、国学は、今日の国語学研究・国文学研究の先蹤と見なすことができるが、幕末・明治という変動の時代の中で、その国学的な語学研究・文学研究が、西欧文化をはじめとする様々なものの影響のもとに変容を重ねつつ、近代的な国語学研究・国文学研究として成立していった過程を明らかにする。

#### 授業の目標

この授業では、国学から国語学研究・国文学研究への学問的方法の変化を考察するだけではなく、国学・国語学研究・国文学研究が研究対象にしている、ことば ( 国語 ) や文学 ( 国文学 ) 自体が幕末・明治期にどのような変化を遂げているかを併せて考察し、研究対象の変容が、それを研究する方法の変容や革新と、密接に関わっていることを理解してもらうことを目標としたい。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 ( 所 属 ・ 職 名 )	放 送 担 当 講 師 名 ( 所 属 ・ 職 名 )
1	歌学・国学・国文学研究	伝統的な歌学を基盤として、江戸時代に入って契沖・真淵・宣長らによって確立した国学が、明治時代に至り新たな近代的国文学研究へと変化するまでの経緯と、それを促した歴史的な状況について考察する。	長島 弘明 ( 東 京 大 学 大 学 院 教 授 )	長島 弘明 ( 東 京 大 学 大 学 院 教 授 )
2	大学の設置と国文学研究	江戸時代の幕府の学問所から、明治政府による大学設置にいたる高等教育の学制改革と、和漢文学科から和文学科へ、さらに国文学科へという改組について触れながら、初発期の国文学研究が抱えていた問題について考察する。	同上	同上
3	文献学の成立	留学してドイツ文献学を学び、国文学に近代文献学の方法を取り入れたとされる芳賀矢一の業績に焦点を当て、江戸時代の国学者や漢学者による、本文批判や注釈等の文献学的方法との共通性・異質性を検証する。	同上	同上
4	文学史の成立	国文学の時代性に鋭い感性で切り込み、「国文学全史」を構想した藤岡作太郎の業績を中心に、文学史の概念の成立について考察する。	同上	同上

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
5	国文学と民俗学・歴史社会学・文芸学	文献学と文学史の方法を基本として進んできた国文学研究も、時代の変化に伴って、隣接する学問領域の方法から大きな影響を受けることとなるが、その中でも、特に大きな影響を与えている民俗学的方法・歴史社会学的方法・文芸学的方法について解説する。	林 廣親 (成蹊大学 教授)	林 廣親 (成蹊大学 教授)
6	詩歌論の近代Ⅰ	江戸時代の和歌・俳諧が、子規らによって近代詩歌としての短歌・俳句に生まれ変わり、また新体詩が確立・展開していく様相を、同時代の詩歌論、詩歌批評等の検討を交えながら考察する。(Ⅰは、主として新体詩の成立と短歌の革新について)	猪狩 友一 (白百合女子大学 教授)	猪狩 友一 (白百合女子大学 教授)
7	詩歌論の近代Ⅱ	同上。(Ⅱは、主として新体詩の展開と俳句の革新について)	同上	同上
8	漢詩文の近代	江戸時代後期の漢詩文と明治時代の漢詩文の継承と断絶に注目しつつ、新しい時代への対応を様々に模索しながらも、最終的には近代文学から脱落し、古典化への歩みを進めていった漢詩文について考察する。	長島 弘明 (東京大学 大学院 教授)	長島 弘明 (東京大学 大学院 教授)
9	小説論の近代Ⅰ	江戸時代の戯作から近代小説への転換の様相を、西洋の文学・文学論の移入(『小説神髓』・「文学極衰論争」・「没理想論争」等々)、言文一致体の問題、小説批評・文芸評論の展開等、様々な観点から検討する。(Ⅰは『小説神髓』『没理想論争』等を中心に明治20年代まで)	猪狩 友一 (白百合女子大学 教授)	猪狩 友一 (白百合女子大学 教授)
10	小説論の近代Ⅱ	同上。(Ⅱは、小説論の形成と展開を中心に明治20年前後から明治末まで)	同上	同上
11	演劇の近代	演劇の近世が演劇の近代に至る過程を、歌舞伎における活歴の試み、演劇改良運動の時代、新派劇の発生等の動きを押え、時々の演劇論の展開に留意しつつ、具体的に検討してゆく。	林 廣親 (成蹊大学 教授)	林 廣親 (成蹊大学 教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
12	国語学の成立	明治時代において、国学が近代的学問に脱皮する過程において、語学研究がどのような位置を占めたかを構築論的に解説する。その中において、近代の言語文化の様相を検討する。	近藤 泰弘 (青山学院 大学教授)	近藤 泰弘 (青山学院 大学教授)
13	文法研究の近代化	明治期の文法研究がどのような過程をたどって、西洋文典と和文典との折衷を果たし、また、それ以上のものになっていったかを実例を検討しつつ考え、「文法」というものの日本における構築のあり方を提示する。	同上	同上
14	表記論と近代の表記	外国語との出会いから生じた日本語表記への自覚と表記改良への意欲がどのような研究を呼びおこしたか、またそれが近代的な日本語表記の成立にどのように関わったかを検証する。	屋名池 誠 (東京女子 大学教授)	屋名池 誠 (東京女子 大学教授)
15	外国人の日本語研究	明治時代の帝国大学の外国人教師などの実例を調査し、外国人による日本語研究が果たした役割の重要性を述べ、その研究がその後どのような形で日本の学術に影響を与えたかについても考察する。	同上	同上

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8940517	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名(メディア) = 異文化の交流と共存 ('09) = (R)

{主任講師(現職名) : 工藤庸子(放送大学教授) }

### 講義概要

国際政治、歴史、文学、言語など、多角的な視点から、異文化の交流と共存について考察する。対象となるのは大航海時代から現代まで。欧米とイスラム世界、そしてアジアを視野に入れることになるが、15回の講義を構造化するために「宗教と文明」「人種と民族とジェンダー」「言語と文化」という大枠を設けることにした。講義ごとに具体的なトピックを設定して問題構成とアプローチの手法を実践的に提示する。

### 授業の目標

歴史や地域の条件を背景として、現代世界の諸問題を解析することが、講義の目標である。履修者は、知識を習得するだけでなく、人文社会科学の方法論を学ぶこと、文献を引用し、これをふまえて論述を展開する手法を身につけることが重要な課題となる。

### 履修上の留意点

世界史概論の講義ではない。基礎知識の不足している履修者は、各自、しるべき入門書で学んでおくこと。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	I 宗教と文明(1) 「キリスト教文明vs.イスラム?」	ヨーロッパのキリスト教世界とイスラムの出会いを概観し、啓蒙思想が生んだ「文明」の概念が、その後、変貌していゆくさまを見る。20世紀末、「宗教の復讐」(ジル・ケペル)として西欧の人々を驚かせたイスラム復興の運動に、いかなる歴史の必然があるのだろうか。  【キーワード】 文明と文化、啓蒙思想、ヨーロッパ、宗教と国家	工藤庸子	工藤庸子
2	I 宗教と文明(2) 「アメリカのイスラム: マルコムXの旅」	1960年代にブラック・ムスリムの説教師としてマルコムXは世に出た。マルコムは1950年代にキリスト教からネーション・オブ・イスラムのイスラムへと改宗している。しかし、やがてマルコムは主流派のイスラムへと再改宗する。このマルコムの遍歴を通じて、アメリカのイスラムの意味を考える。  【キーワード】 イライジャ・ムハマッド、ムハマッド・アリ、怒りのイスラム、巡礼	高橋和夫	高橋和夫
3	I 宗教と文明(3) 「ムスリム同胞団: スエズ運河のほとりで 生まれたイスラム復興 運動」	スエズ運河沿いの町イスマイリーヤの教師であったハサン・アルバンナーが1920年代に創始したムスリム同胞団は世界最大のイスラム教徒の組織に成長した。イギリス支配下の運河地帯でイスラム復興運動が起こったわけだ。イスラム復興を欧米の浸透へのムスリムの反応という視点から、アルバンナーの時代と思想を振り返る。  【キーワード】 スエズ運河会社、ムスリム同胞団、バンナーの道	高橋和夫	高橋和夫

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	I 宗教と文明(4) 「政教分離と共和国」	1989年フランスでおきた「スカーフ事件」はいかなる問題を 明るみに出し、「ライシテ」(政教分離)をめぐる議論を巻き おこしたか。イスラムの国トルコ、イギリスやドイツなどプロテ スタントの伝統に立つ国々と比較しながら、フランス共和国 とカトリック教会との歴史的な関係を分析する。  【キーワード】 ライシテ、プロテスタント、カトリック、学校教育、法律	工藤庸子 (放送大学教 授)	工藤庸子 (放送大学教 授)
5	I 宗教と文明(5) 「寛容と不寛容のプロ テスタントイズム」	プロテスタントイズムの波及と諸問題 国教会の成立と分裂の歴史的過程 プロテスタントの異分子たち(非国教徒とその言説、ユニタリ アンとメソジスト) 異端の文学 プロテスタントイズムの精神文化  【キーワード】 宗教、プロテスタント、非国教徒、カトリック、異端	大石和欣 (放送大学准 教授)	大石和欣 (放送大学准 教授)
6	II 人種と民族とジェ ンダー(1) 「奴隷貿易・奴隷制と いうトラウマ」	奴隷制の起源 イギリスの海外貿易と植民地政策 奴隷貿易の実態(イギリス、アメリカ) 奴隷制の実態(イギリス、アメリカ) 奴隷貿易廃止運動および奴隷制廃止運動とその言説 現代の人身売買  【キーワード】 奴隷制、奴隷貿易、植民地、人身売買	大石和欣	大石和欣
7	II 人種と民族とジェ ンダー(2)「傷と記憶と 歴史」	奴隷制、植民地化、旧植民地の経済破綻……人類の過去 におきてしまった悲劇、今日もおきている悲惨なドラマをい かに歴史にとどめるか。法律と文学テキストと無名の黒人少 年たちの遺書という3つの素材を通し、記憶の問題を考え る。アフリカの奴隷制と植民地化、そして独立後の現実にも 目を向けよう。  【キーワード】 記憶、歴史叙述、証言、弱者、アフリカ	工藤庸子	工藤庸子
8	II 人種と民族とジェ ンダー(3)「フランス人 海軍士官の見た明治 の長崎」	18世紀から20世紀初頭の植民地化の時代まで、ヨーロッパ によるアジアの「発見」を概観する。さらに、明治維新後の日 本に滞在したピエール・ロティの小説『お菊さん』をとりあ げ、海軍士官でもあった作家の証言の中に読みとれる異文 化理解のあり方を検討する。  【キーワード】 インド洋、アジア、鎖国、明治維新、女性、異国趣味	工藤庸子	工藤庸子
9	II 人種と民族とジェ ンダー(4)「西洋の衝 撃/イランのジャレ ール・アーレ=アフマド の『西洋かぶれ』を例 として」	古代ペルシア帝国以来の栄光を誇るイランも近代に入り 抗いがたい西洋の衝撃に直面した。自己のアイデンティ ティーを守りつつ、いかに西洋の技術を導入するか。日本 が中国が直面した課題にイランも苦悩してきた。この問題を 正面から扱ったアーレ=アフマドの評論を通して、近代化と アイデンティティーを考える。  【キーワード】 イスラム教シーア派、イラン革命、機械かぶれ	高橋和夫 (放送大学准 教授)	高橋和夫 (放送大学准 教授)

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	Ⅱ 人種と民族とジェンダー(5) 「トルコの苦悩/民主主義、民族主義、世俗主義」	<p>建国以来のトルコ共和国の二つの国是は、世俗主義と一民族神話であった。しかしながら、この二つの原則は民主主義と矛盾してまいいか。トルコは国民の多くはイスラミ的な価値を反映した政治を望んでいるからである。またトルコ国内のクルド人は民族の権利を主張しているからである。トルコは民主主義、民族主義、世俗主義の間で苦悩している。</p> <p>【キーワード】 オスマン帝国、「オスマン・トルコ」帝国、アタテュルク、トルコ軍、イスラム政党</p>	高橋和夫	高橋和夫
11	Ⅱ 人種と民族とジェンダー(6) 「多文化(=他文化)の表象としての移民へのまなざし」	<p>イギリスにおける移民の構成と歴史的過程 南アジア系移民 ブリティッシュ・ムスリムとラッシュディー事件 移民法と錯綜するイデオロギー(同化主義、多文化主義、反人種主義、新人種主義) 他民族・外国人の表象</p> <p>【キーワード】 移民、植民地、エスニック・マイノリティ、表象、人種主義、同化主義、多文化主義</p>	大石和欣	大石和欣
12	Ⅲ 言語と文化(1) 「ディアスポラな英語の増殖」	<p>グローバル化する英語 『オックスフォード英語辞典』とジョンソン博士の『英語辞典』 英語の歴史とパクス・ブリタニカ 膨張する英語の不安 「英語帝国主義」という考え方は妥当か?</p> <p>【キーワード】 英語帝国主義、英語辞書、パクス・ブリタニカ</p>	大石和欣	大石和欣
13	Ⅲ 言語と文化(2) 「多言語・多文化の国家 中国」	<p>中国における二重の多様性 ①漢民族・漢語/周縁諸民族・少数民族語 ②漢民族の地域性と漢語内部の方言分岐 特に近代の文脈において、これらがどのように捉えられ、また乗り越えられようとしたか。</p> <p>【キーワード】 漢語、少数民族語、共通語(普通話)、方言</p>	宮本徹 (放送大学准教授)	宮本徹 (放送大学准教授)
14	Ⅲ 言語と文化(3) 「漢字文化圏」	<p>東アジア漢字文化圏において漢字が果たした役割と意味を、中国では長く失われ、明治初年に日本において再“発見”された韻図・『韻鏡』を通して考える。</p> <p>【キーワード】 漢字文化圏、書物、韻鏡、古逸叢書</p>	宮本徹	宮本徹
15	Ⅲ 言語と文化(4) 「多文化共生社会を求めて」	<p>「国民」の統一と自立のシンボルとしての「国語」という概念は19世紀ヨーロッパで確立し、その後、世界に広まった。脱植民地化の時代におけるベトナムとインドネシアの言語政策を紹介し、最後に、外国語学習の問題もふくめて、グローバル化の時代における多文化共生という身近な課題について考える。</p> <p>【キーワード】 国語教育、言語政策、多言語主義、地域社会</p>	工藤庸子	工藤庸子

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8940525	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = ことばと情報 ('09) = (R)

[主任講師 (現職名) : 杉浦克己 (放送大学准教授) ]

[主任講師 (現職名) : 大橋理枝 (放送大学准教授) ]

### 講義概要

日常的なコミュニケーションの中でのことばの理解(会話の含意、言語行為論など)、自然言語を処理する仕組み(音声認識・文字認識や態素解析・構文解析についてなど)、及び人の脳の中での情報伝達のモデル(ニューラル・ネットワークの構築など)などのトピックを通して、ことばで情報を伝達する仕組みや、そこで伝達される内容に関して、様々な角度から扱う。

### 授業の目標

人間が相手に対して何かを伝えようとして発するものを「ことば」と捉えた上で、なぜことばは通じるのか、という問いを考えることによって、人が言葉を操ることについての本質に迫ることを目標とする。

### 履修上の留意点

特になし

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	「ことば」とは、「言語」とは、そして「情報」とは	この授業の全体像を受講者に示し、それぞれの回でどんな内容が扱われるのかを紹介した上で、授業を聞くについて必要な「ことば」「言語」及び「情報」の捉え方を明確化させる。  【キーワード】 「ことば」、「情報」	杉浦克己(放送大学准教授) 大橋理枝(放送大学准教授) 秋光淳生(放送大学准教授)	杉浦克己(放送大学准教授) 大橋理枝(放送大学准教授) 秋光淳生(放送大学准教授)
2	「育ち」に潜む情報	妹:「この服、いいよねー。滅多にないよねー。素敵だよねー。ここが特に良くない?うーん、すごいな。こういうの、持ってないし。」 姉:「じゃあ…(5千円札を手渡しながら)はい。」 という会話は、さほど不自然とは思えないだろう。では何故この会話がなぜ成り立ち得るのか。姉は妹の発話から、何を、どうやって、理解したのかを、文化背景を考慮する立場から考える。  【キーワード】 コミュニケーション、コンテキスト、価値観、社会慣習、言語使用域、コードスイッチング、言語的社会規範	大橋理枝(放送大学准教授)	大橋理枝(放送大学准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
3	会話の文脈の成立	<p>妹:「これ、素敵だよなー。でも今月ピンチなんだよなー。」          姉:「じゃあ…(5千円札を手渡しながら)はい。ちゃんと返してね。」          という会話は、会話としては筋が通っていると思えるが、実はかなり大きな飛躍を含んだ発話が並んでいる。何故この会話が成り立ち得るのかを、会話の文脈に注目する立場から考える。</p> <p>【キーワード】          隣接ペア、協調の原則と4つの公理、丁寧さの原理、ポライトネスのルール、ポライトネス理論、関連性の原則、表意と推意</p>	同上	同上
4	発話することの能動性	<p>妹:「これ、素敵だよなー。でも今月ピンチなんだよなー。」          姉:「じゃあ…(5千円札を手渡しながら)はい。ちゃんと返してね。」          妹:「わかった。月末までに返す。」          という会話があれば、姉は月末までには妹から5千円受け取るであろうと予想できるようになる。妹の発話の何が、そのような予想を成り立たせる根拠となるのか。「発話することの能動性」を考える。</p> <p>【キーワード】          言語行為(発話行為)、(言語行為の遂行に必要な)権限、直接的言語行為、間接的言語行為、発話内行為、成功条件</p>	同上	同上
5	「内容」と「使い方」	<p>姉:「これ、素敵ね。うちの娘によく似合うと思うわ。でも、今これを買ってしまったら、今月足が出てしまうわ。」          妹:「あなたの台所はいつも火の車なのね。(5千円札を手渡しながら)はい。足(た)しにして。」          姉:「どうも有難う。恩に着的わ。」          という会話では、特定の内容を示す語として解釈しなければ話が通じない単語が幾つか入っている。私達は普段どうやって然るべき「特定の内容」に到達しているのか。単語が指し示す内容や使い方の面から考える。</p> <p>【キーワード】          辞書、文法規則、多義性、比喩、慣用句、視点の切り替え</p>	大橋理枝(放送大学准教授)	大橋理枝(放送大学准教授)
6	音声認識と音声合成	<p>言語による伝達の媒体となる言語音について概説し、音声、音韻、音節、音素、母音、子音などについて簡単に説明する。          自然言語処理の一例として、音声認識と音声合成を取り上げ、その具体的な手法の一端を紹介し、言語音の物理的特徴のどのような点が、言語音の弁別の中核を成しているかを示す。          【ポイント】特徴を抽出する</p> <p>【キーワード】          音声、音韻、音節、音素、母音、子音、フォルマント、わたり音、アクセント、イントネーション、特徴抽出</p>	杉浦克己(放送大学准教授)	杉浦克己(放送大学准教授)

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所 属 ・ 職 名)	放 送 担 当 講 師 名 (所 属 ・ 職 名)
7	文字認識	<p>言語による伝達の媒体としての文字について概説し、文字の形についての視点である字形、字体、書体、などについて説明する。</p> <p>自然言語の一例として、コンピュータで“文字”を扱う技術の基礎と文字認識技術の発達を概説する。いわゆる文字コードの基本的な考え方と経緯・現状について概説する。静的な図形としての文字の認識と、動的な行為としての文字(今書かれている文字)の認識の質的な違いを取り上げ、自然言語処理には分析対象そのものの特徴を扱う静的な手法と、対象の変化をとらえる動的な手法があり得ることを示す。<b>【ポイント】</b>コード体系、変化をとらえる。</p> <p><b>【キーワード】</b> 字形、字体、書体、文字コード、図形認識、筆勢、筆圧、静的認識、動的認識</p>	杉浦克己(放送大学准教授)	杉浦克己(放送大学准教授)
8	形態素解析	<p>ことばの“意味”をとらえる基本的な考え方を示し、意味を表す最小の単位としての形態素について概説する。</p> <p>自然言語処理の一例として、形態素解析の具体的な手法を概説し、ことばと意味の関係をとりえる処理のごく基本的な考え方と解析方法の実際例を提示し、併せて形態素解析技術の応用可能性について紹介する。</p> <p><b>【ポイント】</b>要素に分解する</p> <p><b>【キーワード】</b> 形態素、意義素、慣用句、最長一致、辞書、活用形、自立語、付属語</p>	杉浦克己(放送大学准教授)	杉浦克己(放送大学准教授)
9	構文解析	<p>意味理解のための第一歩の例として、形態素相互の関係をシソーラスのような形態で記述することを概説する。</p> <p>実際の言語行動は、形態素の単位ではなく、文の単位で行われる。ことばを形態素という要素まで分解して分析することができただけでは不十分であり、形態素が一定のきまりに従って連なった文の単位での処理が不可欠である。文の構造やその生成は、どのような点に着目すれば可能になるのかを、構文解析の具体的な手法の一端を例として概説する。</p> <p><b>【ポイント】</b>要素相互間の関係を記述する</p> <p><b>【キーワード】</b> シソーラス、文法、語法、構文、句構造文法、生成文法、入れ子型構造、逆ポーランド記法</p>	杉浦克己(放送大学准教授)	杉浦克己(放送大学准教授)
10	文の理解	<p>言語によって伝えられる情報が「わかる」とは、どういうことなのだろうか。自然言語処理の具体的な実例として第6～9回で紹介してきたような技術を総合し、は、言語によって伝えられた情報が「わかる」ということの様々な側面を、自動要約やテキスト生成の技術の実際を紹介しながら考える。</p> <p><b>【ポイント】</b>分析を総合する</p> <p><b>【キーワード】</b> テキストマイニング、機械要約、抄録、情報検索、命題生成、</p>	杉浦克己(放送大学准教授)	杉浦克己(放送大学准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	ニューラルネットワークとは	我々が普段ものを見たり、ことばを用いて会話をしたりするとき、一体脳の中ではどういった情報処理が行われているのだろうか？以降4回にわたり、脳の情報処理モデルについて述べる。そこで、以降3回の準備として、脳の仕組み、およびそのモデルであるニューラルネットワークについて説明する。 【キーワード】 脳の情報表現、神経細胞のモデル、ニューラルネットワーク	秋光淳生(放送大学准教授)	杉浦克己(放送大学准教授) 秋光淳生(放送大学准教授)
12	教師あり学習とパターン認識	今までに提案されてきた脳の学習法則を分類すると、例題と解答を用いて学習を行う「教師あり学習」と、出力されるべき解答に関する情報(教師信号)を用いない「教師なし学習」の二つに分類される。今回の講義では、「教師あり学習」の代表例である、「誤差逆伝播型学習則」について説明し、この学習則を用いて機械がパターン認識を行う例を示す。 【キーワード】 教師あり学習 パターン認識、誤差逆伝播学習則、汎化と過学習	秋光淳生(放送大学准教授)	秋光淳生(放送大学准教授)
13	自己組織化学習とクラスタリング	脳は入力に対して期待する出力(教師信号)が与えられない場合であっても、環境に適応するように学習を行っている。この講義では、こういった「教師なし学習」の例として自己組織化学習を取り上げ、説明する。応用例として、パターン分類(クラスタリング)について述べる。 【キーワード】 教師なし学習、トポロジカルマップ、Hebb則、クラスタリング	同上	同上
14	強化学習と行動の決定	強化学習とは、報酬を与えられた場合に、その与えられた報酬をもとにどのような行動をするべきかを学習する仕組みである。このように環境との相互作用をしながら、自分の行動の仕方を決定する、その学習の仕組みについて説明する。 【キーワード】 強化学習、報酬、大脳基底核	同上	同上
15	再び、「情報」とは、「言語」とは、そして「ことば」とは	これまでに扱ってきた内容の復習として、第11章～第14章、第6章～第10章、第2章～第5章、の順に振り返り、ことばが何故通じるかをもう一度考える。 【キーワード】 ことば、情報、伝達、処理、理解	杉浦克己(放送大学准教授) 大橋理枝(放送大学准教授) 秋光淳生(放送大学准教授)	杉浦克己(放送大学准教授) 大橋理枝(放送大学准教授) 秋光淳生(放送大学准教授)

= 総合情報学（'06）= (TV)

- 〔主任講師（現職名）：中島 尚正（産業技術総合研究所理事）〕  
 〔主任講師（現職名）：原島 博（東京大学大学院教授）〕  
 〔主任講師（現職名）：佐倉 統（東京大学大学院教授）〕

全体のねらい

急速に発展している情報技術は、現代の情報化社会を支える基盤として社会全体に大きな影響を与えており、広く産業、経済、政治、教育、芸術、文化等における知的活動を質的に変えつつある。社会の諸活動における知の営みと情報の関係を正しく理解することは、21世紀に生きる私達にとって、文系・理系の区別なく必要とされることであり、総合情報学は広義の情報リテラシーを幅広く身に付けることを目的としている。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	総合情報学の視座	講義の第1回目として、総合情報学の全体像を概観し、併せて講義の進め方についてオリエンテーションをおこなう。	中島 尚正 原島 博 佐倉 統	中島 尚正 原島 博 佐倉 統
2	情報技術の発展 (1) -メディアの進化-	・情報技術の発展過程 ・情報技術の発展パターン（法則）	原島 博 北川 高嗣 (筑波大学 教授)	原島 博 北川 高嗣 (筑波大学 教授)
3	情報技術の発展 (2) -新しいリアリティの可能性-	・ヴァーチャル・リアリティ、ミックスド・リアリティ ・ウェアラブル・コンピュータ、ユビキタス・コンピュータ ・人間と情報技術の関係	原島 博 北川 高嗣 (筑波大学 教授)	原島 博 北川 高嗣 (筑波大学 教授)
4	産業と生産の情報化	情報化の流れは、生産と流通のしくみを一変させ、情報関連産業だけでなく、製造業をはじめとして産業の構造を変容させている。ここでは、その実例を紹介しながら、これからの産業と生産の方向を考える。	中島 尚正	中島 尚正

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
5	情報と経済	情報化とともに経済のグローバル化が進むが、コミュニティの衰退という問題も生じている。近年、新たな交換媒体として注目されている「地域通貨」を紹介しながら、情報化と経済の関連、コミュニティの今後のあり方について考える。	西部 忠 (北海道大学大学院准教授)	植田 一博 (東京大学大学院准教授) 西部 忠 (北海道大学大学院准教授)
6	情報と組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報化時代の経営学</li> <li>・組織論、企業戦略、顧客関係</li> <li>・ネットワーク・ビジネス</li> <li>・セキュリティ</li> </ul>	佐倉 統	佐倉 統
7	メディアアートとテクノロジー	コンピュータの出現で可能になったアートの新しい動きについて、映像を中心に紹介する。	原島 博	原島 博
8	情報化時代とメディア	多様なデジタルメディアの普及が、メディアの世界にどのような変容を引き起こしつつあるのか、今後、メディアの世界と我々はどのような関係を構築できるのかを、ソシオ・メディア論を軸に、ビデオ・ジャーナリズム、メディア・リテラシーなどのキーワードを織り込みながら展開する。	佐倉 統	佐倉 統
9	情報化社会と教育	バーチャルユニバーシティ（オンラインによる大学教育）やホームスクーリング（ネットワークや通信教材によって自宅で学習する形態）によって大きく変容しつつあるフィンランドの教育の現状を追い、これからの教育環境のあり方について議論する。	山内 祐平 (東京大学大学院准教授)	佐倉 統 山内 祐平 (東京大学大学院准教授)
10	情報装置としての人間	人間は、環境との間でインタラクションをおこなう情報装置であると考えられることができる。このような情報学の立場からの人間理解の系譜を解説し、併せて、情報学と進化論を結びつけて人間の認知や行動を捉えようとする最近の動きを紹介する。	植田 一博 (東京大学大学院准教授)	佐倉 統 植田 一博 (東京大学大学院准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	ロボットと情報	科学情報の流通のあり方と併せて、 ・ロボット研究の現状と展望 ・人間観との関係 ・ロボットと社会 について解説する。	佐倉 統	佐倉 統
12	情報と脳	科学情報の流通のあり方と併せて、脳科学の最前線と情報技術の関係を紹介し考察する。	佐倉 統	佐倉 統
13	情報と生命科学	科学情報の流通のあり方と併せて、ゲノム科学の最前線を解説するとともに、新しい遺伝観、生命観について考察する。	佐倉 統	佐倉 統
14	情報化社会と人間	・情報化技術が人間をどう変えるか ・情報化社会の倫理 ・哲学や人文学と情報化技術	佐倉 統	佐倉 統
15	総合情報学の展開と課題	講義の最終回として、3名の主任講師の座談会形式で、総合情報学の今後の課題について語る。	中島 尚正 原島 博 佐倉 統	中島 尚正 原島 博 佐倉 統

事務局 記載欄	開講 年度	平成20年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8930333	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 世界の芸術文化政策 ('08) = (TV)

〔主任講師 (現職名) : 笠原 潔 (放送大学教授) (平成20年10月ご逝去) 〕

〔主任講師 (現職名) : 西村 清和 (東京大学大学院教授) 〕

### 講義概要

芸術文化は、一つの民族、一つの文化が生きた証であり、また、後世に多くのことを伝える貴重な文化遺産でもある。そうした芸術文化を現在に活用し、また後世に伝えていくためには、的確な芸術文化政策を探る必要がある。この講義では、そうした芸術文化・芸術文化政策に関する世界の取り組みの現状を紹介しながら、今後、どのような芸術文化・芸術文化政策を創出していくべきかについて考える。

### 授業の目標

本講義の第1の目標は、芸術文化や芸術文化政策の重要性を受講者に理解させることにある。また、芸術文化を保護・保存し、さらには新たな芸術文化政策を創出していくためには、世界では現在どのような取り組みがなされているか、また、芸術文化政策を実際の現場で運用する際にはどのような留意点が生じてくるか、といった点に関する認識を受講生に深めさせることも、本講義の目的である。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	芸術文化政策原論	芸術は、ある民族、ある文化が生きた証であり、人類にとって貴重な文化遺産である。そうした芸術文化の意義、また芸術文化政策の意義について語る。	西村清和(東京大学大学院教授) 徳丸吉彦(お茶の水女子大学名誉教授) 笠原 潔(放送大学教授)	西村清和(東京大学大学院教授) 徳丸吉彦(お茶の水女子大学名誉教授)
2	古代中国音楽論に見る芸術文化政策の諸相	古代中国の音楽論は、実は、芸術文化政策を巡る議論であった。この講義では、孔子・墨子・孟子・楽記などの音楽論の紹介しながら、芸術文化政策上の諸問題について考える。	笠原 潔(放送大学教授)	徳丸吉彦(お茶の水女子大学名誉教授)
3	近代日本の西洋音楽教育政策	芸術文化政策の1ケース・スタディーとして、明治以後昭和戦前期までを中心に、日本が西洋音楽をどのように取り入れ、国民教育に利用したかを考えてみる。唱歌のような国家による公的な教育政策だけでなく、校歌、民謡など、幅広い事例をとりあげ、それらの音楽が、人々が近代国家日本の「国民」としての意識や心性を身体化させてゆく上でどのような機能を果たしたかを明らかにしてゆきたい。	渡辺 裕(東京大学大学院教授)	渡辺 裕(東京大学大学院教授)
4	ミュージアムの思想	欧米の博物館では、展示品を展示するだけの従来の展示法を越え、展示品から何を学ぶのかを明らかにするような新しい展示法が試みられている。海外のミュージアムでのそうした試みを実写映像を交えながら紹介する。	笠原 潔(放送大学教授)	徳丸吉彦(お茶の水女子大学名誉教授)
5	アーカイブの思想	日本に比べて、西洋ではアーカイブ(文書館)がはるかに充実している。諸資料を集積することによって過去から何を学ぼうとするのか、海外でのアーカイブ活動の実写映像を交えながら、文化を支えるアーカイブの意義について考える。併せて、日本のアーカイブが抱える問題点についても触れる。	笠原 潔(放送大学教授)	徳丸吉彦(お茶の水女子大学名誉教授)
6	資料の保存・修理・測定の科学	芸術文化を支える文化財としては各種の資料があるが、こうした資料を後世に伝えていくためには、保存・修理、さらには測定の科学が不可欠である。この講義では、資料の保存・修理・測定に関わる現場の状況を紹介する。	森田 稔(九州国立博物館学芸部長)	森田 稔(九州国立博物館学芸部長)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
7	無形文化財のドキュメンテーション	芸術文化を支える文化財の中には、無形文化財のように、形のないものもある。そうした文化財をどのように記録し、また、後世に向けて保存していくか、具体的な例に則し、松浦晃一郎ユネスコ事務局長へのインタビューを交えながら紹介する。	徳丸吉彦(お茶の水女子大学名誉教授)	徳丸吉彦(お茶の水女子大学名誉教授)
8	エリート文化と大衆文化	伝統的には、唯一無二のオリジナルな芸術作品を頂点とする高級文化こそを真の文化とし、一般大衆が喜ぶキッチュやオリジナルの大量の複製からなる大衆文化をえせ文化とする価値観が支配的であった。だが現代社会において、はたして文化の真正性とはなにをいうのかを、あらためて考えてみたい。	西村清和(東京大学大学院教授)	西村清和(東京大学大学院教授)
9	写真がもたらした文化変容	1839年に写真が発明されたことで、人類が世界を見る見方が大きく変化し、文化のありようも変容した。写真は、貴族しか持てなかった自己の肖像を一般大衆も持つことを可能にし、いわばイメージ・デモクラシーをもたらしたが、同時に新たな疎外も生み出した。そうした現代映像文化の深層を探る。	西村清和(東京大学大学院教授)	西村清和(東京大学大学院教授)
10	電子メディアが開く美的文化の諸相	インターネットやケータイ、ゲームは、こんにちではわれわれの環境となってしまった。電子メディアに乗って日常的に交換され消費される膨大な量の言葉やイメージや音は、ヴァーチャルな空間に渦巻いている。はたしてそこにはどのような生活環境や美的文化が発生しているのかを考える。	西村清和(東京大学大学院教授)	西村清和(東京大学大学院教授)
11	展覧会の企画から開催まで	芸術文化政策の講義で学んだことの実践への応用の1例として、展覧会の企画から準備、開催に至るまでの過程を実際に即して紹介し、シミュレーションする。	森田 稔(九州国立博物館学芸部長)	森田 稔(九州国立博物館学芸部長)
12	コンサートの企画から上演まで	第11回の講義と同様に、コンサートの企画から準備、上演に至るまでの過程を紹介し、芸術文化政策を実際の現場で実践する際には、どのような視点が必要か、どのような問題が生じるか、などについて考える。	徳丸吉彦(お茶の水女子大学名誉教授)	徳丸吉彦(お茶の水女子大学名誉教授)
13	海外への日本の芸術文化の紹介	今日、海外への日本の芸術文化紹介の試みは、国の機関、民間団体、個人などさまざまなレベルで行われている。また受け入れ側の団体の種類や機能も多様である。日本の伝統音楽の場合を例にして、日本と海外の相互の立場から文化の紹介について考える。	薦田治子(武蔵野音楽大学教授)	薦田治子(武蔵野音楽大学教授)
14	インドネシア、バリ島の芸術文化政策	インドネシアでは、1950年代から、国家の文化指針のもと、バリ島の芸能に対する文化政策がバリ州政府によって進められ、その結果、現在の「バリ芸能」が誕生した。本講義では、インドネシアの社会的背景を踏まえながら、バリ芸能に関する文化政策の内容やその過程について論じる。	梅田英春(沖縄県立芸術大学准教授)	梅田英春(沖縄県立芸術大学准教授)
15	新しい芸術文化政策の創出	全15回の講義のまとめとして、今後どのような新しい芸術文化政策を創出していくべきか、これまでの講義の内容を踏まえてそれぞれの視点から提言する。	西村清和(東京大学大学院教授) 徳丸吉彦(お茶の水女子大学名誉教授) 笠原 潔(放送大学教授)	西村清和(東京大学大学院教授) 徳丸吉彦(お茶の水女子大学名誉教授)

事務局 記載欄	開設 年度	平成 19 年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8930341	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	----------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 文化政策の展開 ( ' 0 7 ) = ( R )

—芸術文化の振興と文化財の保護—

[ 主 任 講 師 (現職名) : 根木 昭 (東京芸術大学教授) ]

### 講義概要

総論として、文化政策学の体系、文化政策の意義、基礎となる事項、一般的な構造、法制と予算を概観し、本講義で主たる考察対象とする芸術文化の振興、地域文化の振興、文化財の保護に関し、その意義と一般的な枠組みについて把握する。各論として、国による芸術文化活動の支援、国立文化施設の設置・運営、地域文化活動の支援、地域文化施設の設置・運営、文化財をめぐる国際的な動向、文化財の新たな類型である文化的景観について考察する。最後に、21世紀における文化政策の新たな方向性を提示する。

### 授業の目標

授業の目標は、次の6点に要約される。①文化政策学の「学」としての体系を把握する。②文化政策の意義、一般的な構造等の基本的な事項を押さえる。③芸術文化振興の意義と一般的な枠組み、現状の把握と今後の在り方を考察する。④地域文化振興の意義と一般的な枠組み、現状の把握と今後の在り方を考察する。⑤文化財保護の意義と一般的な枠組み、国際的な動向、文化的景観の価値について考察する。⑥以上を総括し、今後の文化政策の新たな方向性を探る。

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	文化政策学の体系 —その視点と枠組み、隣接分野との異同—	文化政策学を、学問の一領域 (discipline) として、どのような視点から、どのような体系のもとに、その対象と範囲を把握するか。文化政策学が提唱されるに至った経緯を踏まえ、かつ隣接学問分野である文化経済学、文化経営学 (アートマネジメント論) とも比較しながら、総括的に考察する。	根木 昭 (東京芸術 大学教授)	根木 昭 (東京芸術 大学教授)
2	文化政策の意義 —その性格と特質—	文化政策は、他の政策分野に比し、どのような性格を持っているか。文化政策の主体、民間との相互連携の必要性、行政的側面における規制行政と給付行政との二重性、給付行政の面に現れる行政作用の特殊性など、文化政策の特質を、文化芸術の人間社会における役割を踏まえて考察する。	根木 昭 (東京芸術 大学教授)	根木 昭 (東京芸術 大学教授)
3	文化政策の基礎 —その背景、形成過程と評価—	文化政策の背景をなしているものは何か。また文化政策の形成過程はどのようにとらえられるか。今日の文化政策の背景として考えられる4つの事項を整理するとともに、政策形成の一般のプロセスを踏まえ、国 (文化庁) ・地方公共団体の文化政策の形成過程と評価について眺める。	根木 昭 (東京芸術 大学教授)	根木 昭 (東京芸術 大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	文化法制と文化 予算—法制の体 系と予算の構造—	文化法制の体系、文化予算の構造は、どのようになっているか。文化法制については、その全体像を整理し、体系的に把握するとともに、文化芸術創造享受権について考察する。文化予算については、主として文化庁の予算を中心に、その構造を把握するとともに、諸外国の文化予算とも比較する。	根木 昭 (東京芸術 大学教授)	根木 昭 (東京芸術 大学教授)
5	文化芸術振興基 本法と文化振興 条例—文化政策 の法的基礎—	文化芸術振興基本法、文化振興条例は、どのようなものであろうか。文化芸術振興基本法の全体の構成と制定の意義、文化芸術振興の基本理念の構造、第一次基本方針の性格と構成の概要等について理解するとともに、地方公共団体の文化振興条例と文化計画の相互関係、制定・策定の状況を眺める。	根木 昭 (東京芸術 大学教授)	根木 昭 (東京芸術 大学教授)
6	芸術文化の振興 —その意義と一 般的な枠組み—	芸術文化振興の意義と一般的な枠組みは、どのようにとらえられるか。文化政策の中における「芸術文化」の位置付けを確認し、支援行政としての側面を把握するとともに、その一般的な枠組み(芸術活動の基盤の整備、奨励・援助、場の確保、芸術家等の育成、国際交流の推進)を把握する。	根木 昭 (東京芸術 大学教授)	根木 昭 (東京芸術 大学教授)
7	地域文化の振興 —地域社会と地 域文化振興の進 展—	今日、地域文化の振興は、地域の固有文化を核とした地域振興へと変わりつつある。地域文化活動が活発化した原因とその背景、住民の動きと国・地方公共団体等行政側の施策の取組みとその意義を把握するとともに、現在地域が置かれている状況と照らし合わせながら、地域文化の振興策を探る。	枝川明 敬 (東京芸術 大学教授)	枝川明 敬 (東京芸術 大学教授)
8	文化財の保護— その意義と一般 的な枠組み—	今日、文化財は、地域の経済社会を活性化させる有力な手段として大きな期待が持たれている。文化財の概念を明らかにし、文化財保護の歴史を跡付けるとともに、文化財保護法の誕生とその後の進化を把握し、現行制度における文化財の対象、内容、体系、手法を理解し、今後の方向性を探る。	垣内恵美子 (政策研究 大学院大学 教授)	垣内恵美子 (政策研究 大学院大学 教授)
9	国による芸術文 化活動の支援— 支援行政の実態 とあり方—	国による芸術文化の振興施策の中で特に重要な芸術文化活動の支援行政は、どのようになっているか。国(文化庁)の文化芸術創造プラン、独立行政法人日本芸術文化振興会の芸術文化振興基金、民間のメセナ活動による支援を概観するとともに、今後の支援に関する包括的な枠組みのあり方を考察する。	根木 昭 (東京芸術 大学教授)	根木 昭 (東京芸術 大学教授)
10	国立文化施設の 設置・運営—国 立劇場・国立博 物館・美術館等 —	国立文化施設の設置・運営は、設置者行政として現れるが、平成の行政改革に伴い、その母体は、今日すべて独立行政法人となった。このような国立文化施設の設置・運営の意義を確認するとともに、各国立文化施設について、その目的を踏まえた上で、それぞれの具体的な事業内容を把握する。	根木 昭 (東京芸術 大学教授)	根木 昭 (東京芸術 大学教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	地域文化活動の支援—国と地方公共団体の役割—	地域文化活動の支援は、基本的には地方公共団体の責務であるが、国としても、一定の文化水準の維持を図る観点から、全国的な規模や視点で行うべき事業もある。地域文化活動支援の根拠を探るとともに、国と地方公共団体の機能分担、現実の支援策について眺め、今後の方向性について考察する。	枝川明敬 (東京芸術 大学教授)	枝川明敬 (東京芸術 大学教授)
12	地域文化施設の設置・運営—文化会館と博物館・美術館—	地域文化施設としては、文化会館、博物館・美術館がある。文化会館は、音楽、演劇、舞踊、オペラ等の舞台芸術の上演可能な施設である。博物館・美術館は、社会教育施設であるとともに文化施設でもある。これら文化施設の実態と課題について眺め、併せて、指定管理者制度についても考察する。	枝川明敬 (東京芸術 大学教授)	枝川明敬 (東京芸術 大学教授)
13	文化財保護をめぐる国際的な動向—世界遺産条約、無形遺産条約と文化多様性条約—	今日、文化財は、広く人類共通の遺産として、保護されるべきことが認識されるようになり、そのための条約として、ユネスコの世界遺産条約、無形遺産条約及び文化多様性条約が締結されている。この三条約について、誕生の経緯、その意義と一般的な枠組み、今後の課題と方向性を探る。	垣内恵美子 (政策研究 大学院大学 教授)	垣内恵美子 (政策研究 大学院大学 教授)
14	文化財の新たな類型—文化的景観—	文化的景観は、世界遺産条約における文化遺産の概念の拡大を踏まえ、国内的には、景観法と足並みをそろえて誕生した新たな文化財の類型である。景観概念の発展を見た上で、国際的な動向と景観法の枠組みを確認し、文化的景観の現状と定量的な評価の可能性を探り、その社会的価値を考察する。	垣内恵美子 (政策研究 大学院大学 教授)	垣内恵美子 (政策研究 大学院大学 教授)
15	文化政策の今後の方向—21世紀の新たな文化政策を目指して—	今後における文化政策のあり方は、どのように考えるべきか。文化政策の背景にある普遍化と個性化の二つの方向を押さえるとともに、中核領域の一層の深化、関連領域への関わりの必要性、教育・経済・民間との関係の強化などを踏まえ、今後、総合文化政策として構築していく必要性を提示する。	根木 昭 (東京芸術 大学教授)	根木 昭 (東京芸術 大学教授)

# ＝ 生命環境科学 I ( ' 0 5 ) ＝ (TV)

－生物多様性の成り立ち－

〔主任講師： 松本 忠夫（放送大学教授）〕

## 全体のねらい

生命体は様々な地球環境のもとで、おそらく40億年近くかけて進化してきたが、その結果として、今日の大きな生物多様性が見られる。そのような多様な生命体の姿は、ゲノムの中の遺伝情報が表現型として表れたものである。本講義では、遺伝情報がどのようにして進化史の中で改変し、また現実にもどのように発現されて多様化しているのかを環境との対比で見ることとする。さらに、野外自然における生物多様性の調査法を解説すると共に、人間活動が生物多様性の減少に大きく影響している現代の様相を見ることにする。

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	「生命環境科学 I」のねらい、生物多様性について	今日の生物の多様性が生じた理由は実にさまざまであるが、特に大きな理由として無機環境への適応性、生活資源の獲得力、そして生物間の相互作用がある。それらに関しての様相を概観し、本講義全体のねらいを解説する。	松本 忠夫 (放送大学教授)	松本 忠夫 (放送大学教授)
2	様々な生物社会とその成立メカニズム	生物は多かれ少なかれ、同種個体が集団（群れ、群落、コロニーなど）を形成して生活しているものが多い。そのような集団を社会と見ることができるが、いかなる理由でそれらの社会が成立しているのかについて、特に環境との関連で説明する。	松本 忠夫	松本 忠夫
3	植物の多様な繁殖様式と、動物との関係	植物では、動物とは個性が大きく異なり、動物にはみられない多様な性表現が存在する。ここでは、被子植物にみられる性表現と受粉様式の進化を解説するとともに、それには動物の影響が大きかったことを紹介する。また、植物が動物からの摂食に耐えるためのさまざまな適応戦略を説明する。	松本 忠夫 大原 雅 (北海道大学 大学院教授)	松本 忠夫 大原 雅 (北海道大学 大学院教授)
4	動物の多様な繁殖様式	通常動物は有性生殖を行うが、中には単為生殖、多胚生殖、幼形生殖などの無性生殖を行うものがある。また、親による子の保護様式と関係して、卵生、卵胎生、胎生などが見られる。さらに哺乳類では雌親による授乳が発達している。本章では、このように多様な動物の繁殖様式を説明する。	松本 忠夫	松本 忠夫

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
5	植物の発生と環境 適応	植物は固着生物なので、環境に対して柔軟に適応する能力が進化の過程で発達した。中でも植物の生活を支えている光合成に関しては、環境適応が必須のため、光合成器官である葉の発生は、外界の環境に適応して実に大きな可塑性を発揮する。葉の発生の可塑性と環境適応との関係について、発生を制御する遺伝子の働きの視点から、現在の理解を紹介する。	塚谷 裕一 (東京大学大学院教授)	塚谷 裕一 (東京大学大学院教授)
6	動物の発生と環境 適応 (1) 諸事例	動物の中には、発生・発育過程において環境の影響を受けて、その形態や性質が大きく変化するものたちがいる。生存のための環境適応と解釈される。また、繁殖における戦略として性転換をする魚類、さらには昆虫類の環境適応としての多型現象にもふれる。そして、そのような多様な形態や性質をもたらす進化的要因および体内メカニズムについて説明する。	松本 忠夫	松本 忠夫
7	動物の発生と環境 適応 (2) 昆虫の翅形質 の例	昆虫類はその進化の中で翅を獲得することで陸上に大きく繁栄できた。しかし、昆虫によっては翅を形成しない種類もいる。一方、チョウ類のように翅の色彩や斑紋が華美であったり、擬態していたり多彩な分類群がいる。ここではそのような昆虫類における翅形成の有無、色彩や斑紋の多様性などが成立するに至った進化的要因および翅形成の体内メカニズムについて説明する。	松本 忠夫  三浦 徹 (北海道大学大学院准教授)	松本 忠夫  三浦 徹 (北海道大学大学院准教授)
8	社会性生物における カースト分化	社会性生物は、集団で生活し、その中に少数の生殖者そして多数のワーカーや兵隊など非生殖者といったカースト分化が見られることを特徴としている。そして、陸域において大繁栄している。ここでは動物の社会性について解説する。そして、繁栄の鍵となっているカースト分化がもたらされた進化的要因およびカースト分化の分子生物学的メカニズムについておもにシロアリを例にして説明する。	松本 忠夫  三浦 徹	松本 忠夫  三浦 徹
9	社会行動の発現メ カニズム、 ミツバチの例	ミツバチは多様なハチ類の中でも最も高度な社会性を獲得した昆虫として、分子生物学の分野で近年、注目されつつある。そして、その多様かつ複雑な行動、特に、働きバチたちが利用するダンス言語(記号的言語)や、コロニーを防衛するための攻撃行動(利他行動)は、脳機能の進化という観点から興味深いものである。ここではミツバチを巡る分子社会生物学の現状を紹介し、その将来像を展望する。	久保 健雄 (東京大学大学院教授)	久保 健雄 (東京大学大学院教授)
10	菌類における環境 適応	菌類の環境適応は、意外に理解が乏しいが、菌類も外界の環境に対する適応的な反応を行なうことが知られている。ここでは特に、大型真菌類の子実体(いわゆる茸の部分)における環境適応をとりあげる。また重力に対しても子実体は顕著な反応を示す。これらが孢子散布に果たす役割を概説する。	塚谷 裕一	塚谷 裕一
11	菌類の形態形成メ カニズム	菌類の形態形成は、その組織構造の点でかなり特異である。例えば細胞性粘菌は、アメーバ状の細胞が集合した後、互いにシグナルをやりとりして、機能分担をしながら多細胞からなる形態形成を成し遂げる。また真菌類の子実体は、多細胞の器官であるが、基本的に菌糸が複雑にからまりあいながら作り上げられており、分化の程度は浅く、脱分化・再分化が容易に起こる。これらの形態形成メカニズムは未だ十分理解されていないが、特異な機構であり、注目に値する。	塚谷 裕一	塚谷 裕一

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
12	生物環境の調査法 (陸上生物)	植物群落は、陸上の生態系の一次生産を担い、また動物の生息空間の構造を大きく規定している。植物の種組成や種多様性、さらには動物の生息空間としての植物群落の構造を調査するための方法と、その結果の分析法についてまず紹介する。陸上の動物の調査法は、動物の種類に応じた様々な方法が知られているが、ここではその中から鳥類の個体数調査法を取り上げ、解説するとともに、調査結果を植物群落の調査結果と対応づけるやり方についても概観する。	加藤 和弘 (東京大学大学院准教授)	加藤 和弘 (東京大学大学院准教授)
13	生物環境の調査法 (水界生物)	水界にも多様な生物が生育・生息しており、その調査方法は生物の種類に応じて異なる。ここでは河川での生物調査を念頭に置き、一次生産の主体である付着藻類と、調査が比較的容易で環境指標性も高い底生無脊椎動物の調査方法について説明する。さらに、そのような調査によって得られたデータを分析して、種多様性の数値化や生物相の地点間での比較、さらには生物の生息環境の善し悪しの評価を行う手順についても解説する。	加藤 和弘	加藤 和弘
14	人間活動と生命環境科学(1) 生物の絶滅問題と生物多様性の価値	現在の地球における生態系の多様性、種の多様性、遺伝子の多様性に対しての人為の影響はたいへん大きい。そして、近代では非常に多数の生物が絶滅し、現在も絶滅の危機に瀕している生物が多い。特に熱帯多雨林域における森林群集全体の喪失は、生物多様性を一気に著しく減少させてしまうので重大問題である。ここでは、そのような生物絶滅の様相を説明し、絶滅をくい止める方策について考える。さらに、生物多様性の価値についても考える。	松本 忠夫	松本 忠夫
15	人間活動と生命環境科学(2) 環境に放たれた人工物質および移入種の影響	近年、人間は生活向上のために、実に様々な化学物質を作ってきた。そして、現在はある意味では大変便利な時代となった。しかし、それらの化学物質そのものあるいは変形物は、環境に放たれたとき、生命体をおびやかす物質としても働くものがある。その様な物質として殺虫剤、除草剤などいろいろあり、内分泌攪乱、ガン誘発などが疑われていて、それらは生物多様性にも影響を与えていると思われる。そこでその様相および対策について説明する。ここでは、さらに、世界の他地域からの不用意な生物の移入が、在来生物相を圧迫している例についてもふれる。	松本 忠夫	松本 忠夫

事務局 記載欄	開講 年度	平成20年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8920257	履修 制限	有	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 生命環境科学Ⅱ ('08) = (TV)  
 -環境と生物進化-

※この科目は「生物環境科学Ⅱ('06)」を一部改訂した科目です。  
 改訂回は1, 5, 6, 7, 8回です。

〔主任講師 (現職名) : 星 元紀 (放送大学・教授) 〕

〔主任講師 (現職名) : 二河 成男 (放送大学准教授) 〕

### 講義概要

生物の個体にとっては、自分自身を除くすべては環境である。このような意味における環境と生物の相互作用を軸として、生物の進化を総合的に考えることにする。

### 授業の目標

生物と地球環境は、互いに作用しあいながら、進化の過程を通じて現在のような姿になっていること、同じような関係が個体内や、細胞内にも認められることを学ぶことによって、生物進化と環境との関わりを、分子から生物種間の関係にわたる広い観点から理解することを目指す。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	生物にとって環境とは何か (※改訂回)	「環境と生物進化」を考えるための序章として、生物にとっての環境とは外界の物理化学的自然環境だけではなく、細胞内の環境、生体の内部環境、さらには同種他個体や異種生物との直接的間接的な相互作用等があることを紹介する。ついで、環境との関わりにおいて生物進化を概観する。	星 元紀(放送大学・教授)	星 元紀(放送大学・教授)
2	原始地球環境と化学進化:生命誕生への第一歩	地球は今から45億5000万年前に誕生した。原始地球環境で無生物的に有機物が合成され、蓄積した有機物を基に生命が誕生した。こうした過程を概説するとともに、当時の生態系特に海底熱水系についても述べる。	山岸 明彦 (東京薬科大学教授)	山岸 明彦 (東京薬科大学教授)
3	生命の起源とRNA	生命誕生間もない頃の原始的な生命体はいったいどのような物であったか。有力な説の1つにRNAワールド仮説がある。この仮説では、原始的な生命体を形づくっていた物質は主にRNA分子であり、現在ではDNAやタンパク質が担う遺伝情報や触媒機能といった生命活動の基礎を、生命の起源の頃はRNAが担っていたとする。その根拠について解説する。	二河成男(放送大学・准教授)	二河成男(放送大学・准教授)
4	極限環境での生物の生存戦略	さまざまな極限環境、たとえば100℃以上の高温、低温、高圧、酸性、アルカリ性等に、生物とくに微生物が生育している。微生物がこれらの環境に適応するためのさまざまな戦略を解説する。	山岸 明彦 (東京薬科大学教授)	山岸 明彦 (東京薬科大学教授)
5	細胞の出現 (※改訂回)	細胞は生物を構築する基本単位であるとともに、機能分子にとっては環境としての意味をもっている。細胞の起源とその構造と機能について述べる。	星 元紀(放送大学・教授)	星 元紀(放送大学・教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
6	分子状酸素の増加 (※改訂回)	原始地球上には酸素分子は乏しかったが、水分解型の光合成生物が出現したことによって、大気中のその濃度が上昇した。酸素濃度の上昇が生物進化に与えた影響について概説する。	星 元紀(放送大学・教授)	星 元紀(放送大学・教授)
7	真核細胞の出現 (※改訂回)	生物全体の系統進化を概観した後に、種類の異なる原核細胞が共生しあうことによって真核細胞は生まれたとする共生説の根拠を紹介しつつ、ミトコンドリアおよび葉緑体の起源と進化について述べる。	星 元紀(放送大学・教授)	星 元紀(放送大学・教授)
8	多細胞生物の出現 (※改訂回)	単細胞生物から多細胞生物が進化してきた道筋を考察するとともに、多細胞生物を構成する細胞は内部環境の恒常性と他細胞との情報交換によって、個体としての整合性が維持されていることを紹介する。	星 元紀(放送大学・教授)	星 元紀(放送大学・教授)
9	発生の場としての細胞環境	生物の発生において個々の細胞は周囲の環境からの情報を受容して分化する。環境要因としては細胞外基質や分泌因子などが重要であり、その作用機構の解明が進んでいる。この講義では発生における細胞環境や幹細胞の環境(ニッチ)について概説する。	八杉 貞雄 (帝京平成大学教授)	八杉 貞雄 (帝京平成大学教授)
10	生物の大進化と地球環境	生物の進化が環境要因の影響下におこることはいうまでもない。環境の影響は発生中の生物にとっても重要であり、近年は環境を通じた発生と進化の密接な結びつきが明らかになりつつある。この講義では、進化、発生、環境の全体像について概説する。	八杉 貞雄 (帝京平成大学教授)	八杉 貞雄 (帝京平成大学教授)
11	寄生:異種生物という環境における生存戦略	寄生者にとっては、宿主生物の体内が生きていく環境である。寄生者と宿主の間にみられる高度な相互作用、そして巧妙な駆け引きや生存戦略について学び、理解を深める。	深津 武馬 (産業技術総合研究所研究グループ長)	深津 武馬 (産業技術総合研究所研究グループ長)
12	内部共生と進化	密接な生物間相互作用のもとに成り立つ「内部共生」と、それにとりまわらぬ相互依存関係の発展としてとらえられる生物進化について、多様な事例に沿いつつ紹介し、その本質と帰結について考察する。	深津 武馬 (産業技術総合研究所研究グループ長)	深津 武馬 (産業技術総合研究所研究グループ長)
13	環境とゲノム	ゲノム維持機構は、環境ストレスから生物を守るとともに、様々な環境に適応する多様な生物種を生み出す原動力にもなっている。このシステムを支える分子の働きを解説する。	三谷 啓志 (東京大学教授)	三谷 啓志 (東京大学教授)
14	生物集団の個体数変動	生物の数の多さ少なさ、変動性・安定性などはどのように決まっているのかについて紹介し、それが生物進化に果たす役割について解説する。	宮下 直 (東京大学准教授)	宮下 直 (東京大学准教授)
15	生物種間の相互作用と進化	自然界で生物種どうしは競争・捕食・寄生・共生など相互に作用し合いながら共存しており、これが生物の多様性を生み出す原動力となっている。ここでは生物間相互作用の実態と、それが生物の多様化に果たす役割について概説する。	宮下 直 (東京大学准教授)	宮下 直 (東京大学准教授)

事務局 記載欄	開設 年度	平成 19 年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8920230	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	----------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 複雑システム科学 ( ' 0 7 ) = (TV)

[ 主 任 講 師 (現職名) : 生井澤 寛 (放送大学教授) ]

### 講義概要

自然科学、特に物理学は、自然の理解にあたって、構成要素や基本的・普遍的な原理の追究を、ときには理想化や単純化をしながら行ってきた。こうして我々は、通常見る物質が、原子・分子から成り、それらが、電子、陽子、中性子などの素粒子から成り、素粒子はさらに…と言うように階層性を持つ構成要素とそれらの相互作用を発見し、ミクロな世界だけでなく、宇宙の生成に至るまでの自然の様々な様相の理解にかなりの成功を収めたし、いまでも同様のやり方で探求を続けている。

では、例えば空気が主に窒素、酸素と水の分子からなることを知って、台風がどうして、どこに、いつ発生し、どういう運動をするかを理解できるだろうか。これは決して易しい問題ではない。まず問題を難しくするのは、分子の数が膨大であることによる複雑さのほかに、海流、海水から太陽熱を吸収して蒸発する水蒸気と上昇気流、雲の生成消滅等、熱平衡にない (非平衡) 状態、エネルギーや物質の出入りがある状況 (開放系という)、さらに無数の雲の渦の生成消滅と非線形な相互作用が絡むからである。非線形な作用があれば、要素の数が少なくても、運動には本質的な複雑さが生ずるし、加えて、開放系で非平衡状態であるために、複雑さは増す。にもかかわらず、いつか無数の渦の中のどれかが成長して台風という形 (形態形成) を取り、一つの存在として発達しながら (自己発展・自己組織化) 動き始める。

実は良く見れば、我々が日常見るほとんどのもの (生命・生物と進化、乱れた水の流れ、気象など) が、この様な複雑システムであり、ものの変化や秩序の形成は非平衡性、非線形性によって動かされている。これらの様相を、「木 (構成要素) もみながら森 (全体) も見る」と言う見方で探求し、自然や社会現象、経済活動などを理解する手がかりを得ようと言うのがこの科目のねらいである。

### 授業の目標

複雑システムの示す複雑さの要因とそれから生まれる多様な可能性を理解することによって、自然現象を総合的に探求する姿勢を養う。

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	複雑さは何から生まれるか	マクロな系は、分子数が多すぎてとても個々の分子の運動まで追跡できない典型的な複雑システムである。しかし、温度とエントロピーを導入し、体積や圧力、成分比など、系のマクロな変数の振る舞いに限定すれば、熱力学は、平衡状態の間の普遍的な振る舞いを記述し、系の変化の方向の予測を可能にする。この熱力学をお手本にして、複雑システムに共通の普遍性を探ることが、複雑システム科学の目標である。 そこで、この講で複雑さは何から生ずるかを具体的に見て行こう。まず、熱力学の対象でもある相変化にともなう臨界現象には、マクロに成長するゆらぎが共通し、スケール普遍性やフラクタル性が現れる。エネルギーや物質が出入りする開放系では、必然的に非平衡状態が生まれ、複雑さを誘起する。また、2重振り子のように簡単な系での複雑性は非線形性による。さらに、相互作用や構造の階層性・複雑さ、それに系の不安定性、緩和時間と時空条件の変化の差も複雑性の産み手であることを見る。	生井澤 寛 (放送大学教授)	生井澤 寛 (放送大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
2	複雑さから何が 生まれるか	前講で見た複雑さを産むものから、どのように複雑さが出現するかを見よう。非線形性による複雑さの代表はカオスである。ここではまず、上田により非線形電気回路で最初に発見されたカオスを紹介し、カオスの性質・可能性について考える。そして、カオスにも見られる自己相似性をもたらすフラクタル性とスケール不変性、臨界現象について見て行く。これらの性質が、経済現象にどう現れ、どう予測につながるかを専門家にインタビューしてお話を伺う。	生井澤 寛	生井澤 寛
3	準結晶：複雑さ の中の美しさ	19世紀以来の古典結晶学では、原子を秩序正しく並べる方法は原子を周期的に並べて結晶にすることだけであると信じられてきた。しかし、1980年代にこの常識を覆す準周期タイリングをモチーフとする準結晶の発見があった。準周期性、非結晶学的回転対称性、自己相似性、高次元結晶学など、原子が構成する複雑構造である準結晶の秘密を探る。	堂寺 知成 (京都大学 大学院准教授)	堂寺 知成 (京都大学 大学院准教授)
4	複雑分子：秩序 構造の建築家	ソフトマター、複雑流体（界面活性剤、脂質、液晶、ブロック共重合体）の領域では、複雑な分子が自己組織化（ボトムアップ）的にメソスケールの秩序構造を作ることが知られている。分子の複雑さが作る新しい多様な秩序という観点で従来の研究を概観し、複雑性と多様性の意味を議論する。さらに複雑性を増すように分子をデザインすることでアルキメデス・タイリング、ケルビン多面体などの構造が生成される。	堂寺 知成	堂寺 知成
5	共連続相：ミク ロ世界のラビリ ンス	さまざまな物質、生命系では2種以上の物質が複雑に入り組んだ共連続相とよばれる構造が現れる。とりわけソフトマター系では数学的に周期的極小曲面とよばれる種々の周期的な共連続構造が自己組織化する。幾何、物理、化学、生物、工学の境界領域で発展してきた共連続相の研究を概観し、シミュレーションで構造形成を観察する。	堂寺 知成	堂寺 知成
6	ダーウィン進化 機構	ランダム突然変異と自然淘汰に基づくダーウィン進化機構は、ラマルク進化機構と異なり、分子生物学セントラルドグマや物理化学と整合性がある。それはまた、生物進化のみならず、一般的な複雑な系の最適化問題・学習問題の解法でもある。	伏見 譲 (埼玉大学 教授)	伏見 譲 (埼玉大学 教授)
7	分子を進化させ る I	ダーウィン進化機構を試験管の中のDNAやRNAに適用すると、ランダムな塩基配列の分子集団から出発しても、高機能な分子が速やかに進化してくる。これは情報の物理的起源と言うべきものである。また、物質の自己組織化現象の極致ともいうべき生命の起源に関する、RNAワールド仮説を支持するものである。	伏見 譲	伏見 譲

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
8	分子を進化させるII	ダーウィン進化機構を試験管内の蛋白質に適用しようとする、遺伝子型/表現型対応付けの問題を解決する必要がある。この対応付けのウイルス的戦略は1分子の進化に対しては細胞型戦略より効率が良く、生命の起源においてウイルスが果たした役割に示唆を与えている。	伏見 譲	伏見 譲
9	粉体とは何だろうか：砂は流れるか	砂の様に巨視的な大きさを持ち、粒子間斥力とエネルギー散逸が重要な物体を粉体と言う。実験室での砂やガラスビーズの振る舞いから、砂丘の運動、雪崩、地震までも含めて紹介し、その物理の可能性を探る。	早川 尚男 (京都大学教授)	早川 尚男 (京都大学教授)
10	粉体の振る舞い：経験則として何が知られているか	粉体の特徴や統計則を幾つか紹介する。粉体の粒子間の衝突で散逸を表現するはねかえり係数は、高校で習ってきたのとは異なり、衝突速度や角度に強く依存する。また、粉体を積み上げると力は一様に伝播せずランダムな鎖状に力が伝わる。また粉体が行れる時には普通の流体ではストレス(接線応力)とずり速度が比例するのに対して、ストレスはずり速度の2乗に比例する(バグノールド則)。また空中に分散した状態でも一様状態は不安定でクラスター化していくという現象やその法則性を紹介していく。	早川 尚男	早川 尚男
11	粉体をどう記述するか	未だに粉体を統一的に物理的に記述する方法はない。そのうち、シミュレーション法や、応力鎖に関する理論的手法、ガス状態の記述とその連続体方程式を用いて、バグノールド則に関する簡単な説明を紹介する。	早川 尚男	早川 尚男
12	複雑さを生み出す基礎	*相転移と臨界点：対称性の破れ、イジング模型と二元合金の模型、平均場近似、液相気 相転移と臨界点 *量子系の相転移：ミクロな系と量子力学、量子多体系、量子融解転移	今田 正俊 (東京大学教授)	今田 正俊 (東京大学教授)
13	空間構造と時間構造の発生	*空間構造：欠陥と秩序の破壊、複雑な周期性を持つ秩序 *非平衡ダイナミクス：非平衡状態からの緩和、スピノーダル分解・核形成 *自己組織化	今田 正俊	今田 正俊

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
14	強相関量子系	<p>*量子相の多様性と複雑性：多電子系、多原子系、物質の性質の多様さ</p> <p>*強い相関・ゆらぎと階層構造</p>	今田 正俊	今田 正俊
15	複雑さの他の例 とまとめ：複雑 システム科学の 可能性	<p>複雑さは、訳の分からないものをもたらすだけでなく、秩序や組織、新しい構造も産み出す。非平衡・開放系の簡単な例では、エネルギー散逸や粘性によりきれいな渦（ベナール対流）が生まれたり、化学反応の時空構造が自発的に生ずる（ベルーゾフ・ジャボチンスキ反応）。脳の働きも、複雑システムとしてだんだん把握できてきている。受精卵からの発生や、細胞・機能分化も、制御された実験の進化で、複雑な仕組みが解きあかされてきている。ここでは、この生物化学の進歩を、専門家に伺う。そして、まだ進化の途中にある複雑システム科学の可能性について考えて行く。</p>	生井澤 寛	生井澤 寛

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8960500	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 物質環境科学 ('09) = (TV)

〔主任講師 (現職名) : 濱田嘉昭 (放送大学教授) 〕  
 〔主任講師 (現職名) : 秋鹿研一 (放送大学特任教授) 〕

### 講義概要

物質の変化を分子レベルのミクロの視点で捉えることにより、環境問題を真に理解することができる。最初の4章で物質の循環、化学結合、反応、分析などの基礎的事項を学ぶ。次の2章で環境分析、未利用資源の利用、さらに続く2章で大気環境の観測や現象など、いわゆる環境化学的な事項を学ぶ。引き続き5章では環境を乱しながらも文明の発達の源泉であった産業活動との関連、そこでの対応技術を学ぶ。最後の2章では環境問題への対策活動、将来への展望などをまとめる。

### 授業の目標

「物質環境科学Ⅱ(仮)」では、エネルギー、エントロピーを切り口としたマクロの話題を取り上げる予定であり、本教科では、環境問題を考えるときのミクロの視点、主として化学的視点について論じ、専門家養成ではない一般の受講生(視聴者)にも分かる内容とする。基礎的な化学的素養は学部の教科目を前提とするが、重要な点を講義の前半において要約する。通信指導に関わる8章程度までは、入門あるいは基礎的事柄とする。

### 履修上の留意点

環境問題をミクロの視点から理解すると共に、その背景として理解の道具となる基礎的な化学を学ぶ。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	物質の循環と移動	環境問題を考える上で、自然環境における物質の循環と移動、それに伴う物質の変化、状態の変化を全体として把握しておくことは基本的に重要である。地球上の生命に関わる代表的な物質を例に挙げて、物質循環の姿を要約すると同時に、それらの循環と移動を起こしている原因となる力についても把握しておく。 【キーワード】 システム、環境、相互作用、水、炭素、窒素、マクロとミクロ	濱田嘉昭(放送大学教授)	濱田嘉昭(放送大学教授)、秋鹿研一(放送大学特任教授)
2	化学結合と分子間相互作用	分子は原子が化学結合力で結ばれたものである。化学結合にもさまざまな種類があるが、電子を仲介とした原子の結びつきとして統一的に把握しておきたい。マクロの物体はミクロの分子が会合したものであるが、それらはビー玉あるいは小さな鉄の球が単に積み重なったようなものではなく、分子と分子の間に働く分子間相互作用によって、結びついている。これらについて基本的な事柄を理解しておきたい。 【キーワード】 化学結合、電子のやりとり、分子軌道、分子間相互作用	濱田嘉昭(放送大学教授)	濱田嘉昭(放送大学教授)、秋鹿研一(放送大学特任教授)
3	化学反応の基礎	分子は光や熱をエネルギーとして、衝突を介して別の分子に変化する。この変化の過程をマクロの立場で理解するのが熱力学であり、ミクロの立場で理解するのが統計力学である。平衡が、前後の分子の性質で決まることを学ぶ。さらに、化学反応の変化の様子を記述する反応速度論、反応機構論を学ぶ。これらの基本的な考え方や扱い方を復習する。 【キーワード】 自由エネルギー、エンタルピー、エントロピー、分配関数、反応速度、活性錯合体、素反応	秋鹿研一(放送大学特任教授)	秋鹿研一(放送大学特任教授)、濱田嘉昭(放送大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	環境分析の基礎	<p>自然環境・生活環境にどのような物質がどの程度に存在するかが、ヒトを含めたさまざまな生物の活動や生態系のバランスに大きく影響する。それを調べるには何らかの観測をして、データを収集する必要がある。検出・測定には、当該の物質に相応しい装置を使用することが重要であり、観測データをどのように処理あるいは評価するかも、環境分析において重要な事柄である。</p> <p>【キーワード】 濃度、分解能、検出限界、ダイナミックレンジ、信号の飽和、誤差</p>	濱田嘉昭(放送大学教授)	濱田嘉昭(放送大学教授)、鈴木勝久(横浜国立大学教授)
5	環境分析の方法と問題点	<p>環境分析に多用される代表的な分析法について、その特徴と適用範囲や限界などを実例に沿って説明する。</p> <p>【キーワード】 ガスクロマトグラフ、イオンクロマト、マススペクトル、赤外分光器、pH計、XRD</p>	平田誠(大分大学准教授)	平田誠(大分大学准教授)、濱田嘉昭(放送大学教授)
6	未利用物質の有効活用	<p>環境に大きな負荷を与えないように、資源やエネルギーの有効活用が必要である一方、高機能で効率的、あるいは用途に応じた新素材や製品を開発することも重要である。いくつかの事例を紹介し、化学の知識と技術が重要であることを学ぶ。</p> <p>【キーワード】 バイオマス、植物資源からの化学製品製造、CO2問題、カーボンニュートラル、醗酵化学、水問題</p>	平田誠(大分大学准教授)	平田誠(大分大学准教授)、秋鹿研一(放送大学特任教授)
7	大気環境の観測	<p>地球温暖化の科学的な根拠が明らかにされ、それへの対策が人類の生存の持続性を掛けた課題として提示されている。ここでは、その科学的な根拠を実際の観測とそのデータに基づき再検討することとする。ここでは、成層圏での観測と解析(光化学、ラジカル反応)から、地球規模で問題となっている、オゾンホール問題、温室効果ガスなどについて、化学反応の立場から論ずる。</p> <p>【キーワード】 成層圏、微量成分、大気環境、分光器、光化学、オゾンホール、温室効果ガス</p>	鈴木勝久(横浜国立大学教授)	鈴木勝久(横浜国立大学教授)、濱田嘉昭(放送大学教授)
8	大気環境の現状と対策	<p>さまざまな観測データをもとにどのような予測が可能になるのか、モデルの検証も含めて検討する。また、さまざまな段階での対策が考えられるが、その効果についても検証しておく必要がある。ここでは地表圏での、地域に特有な大気環境を扱い、気体分析(ミラマス、FTIR、濃縮とガスクロ)と解析(多環芳香族の反応、光化学スモッグ生成など)について論ずる。NOx、SOxについても測定法、一般的な対応についてはここで、論ずるが、エネルギー変換時に生成するNOx、SOxなどの生成機構、対策技術などは10章で論ずる。</p> <p>【キーワード】 光化学スモッグ、VOC、環境規制、酸性雨</p>	鈴木勝久(横浜国立大学教授)	鈴木勝久(横浜国立大学教授)、秋鹿研一(放送大学特任教授)
9	環境保全-化学プロセス	<p>企業活動や個人の生活において、必ず出る廃棄物を最小に抑え、排出の場合には有害性を除去することが求められている。どのような対策が採られ、その化学的なメカニズムがどのようにになっているかの実例を紹介する。製造プロセスには多段階の反応を組み合わせ、その過程で副生成物が生ずるものも多い。これを1段で完結する触媒反応に変革する努力が行われてきた。硫酸などを反応物の1部としたプロセスを酸触媒プロセスに変えた例を示す。触媒反応の考え方、活性、選択性、触媒の機能について論ずる。</p> <p>【キーワード】 触媒反応、分子の活性化、触媒機能、律速段階</p>	秋鹿研一(放送大学特任教授)	秋鹿研一(放送大学特任教授)、企業研究者

回	テーマ	内容	執筆担当講師名 (所属・職名)	放送担当講師名 (所属・職名)
10	環境保全-エネルギー変換プロセス	現在の日常生活は、エアコン、迅速大量交通手段など、快適な環境維持・空間と時間の利用においてさまざまな文明機器を使用することが前提になり、エネルギーと物質の大量消費を招いている。これらにおける環境対策としてどのような工夫がなされているのかについて、事例を紹介しながら考察する。発電プロセスで生ずる燃焼NO <sub>x</sub> 、自動車エンジンより排出されるNO <sub>x</sub> の生成機構、それを無害化する触媒の作用を学ぶ。(電力、ガス、自動車産業関連) 【キーワード】 脱硫、脱硝、ディーゼルとガソリンの燃焼の違い、金属触媒、酸化物のレドックス	秋鹿研一(放送大学特任教授)	秋鹿研一(放送大学特任教授)、鈴木勝久(横浜国立大学教授)
11	環境浄化-民生プロセス	身の回りの民生機器、住居などでの環境はどのように守られているか? 光分解触媒を塗布した壁、有害物質を分解する触媒付ストーブ、フロンや含塩素化合物を分解固定化するプロセスなどを紹介し、その機能を化学的に解説する。(民生分野関連) 【キーワード】 酸化チタンの光活性化、吸着、気体と固体の反応など	秋鹿研一(放送大学特任教授)	秋鹿研一(放送大学特任教授)、滝田祐作(大分大学教授)
12	機能性物質の創成	望むものと望まないものを分離することは環境保全にとってきわめて重要である。分子のサイズの穴を規則的に有する結晶鉱物であるゼオライトの発展が目覚ましい。自然鉱物から合成ゼオライトの発展を探る。さらにはフラーレンなどの巨大炭素分子、ゼオライトを鋳型にした炭素ゼオライトなどの化学を論ずる。イオン交換樹脂、ゼオライトのイオン交換性、酸性。 【キーワード】 分子ふるい、平衡を超える反応操作、固体酸	秋鹿研一(放送大学特任教授)	秋鹿研一(放送大学特任教授)、企業研究者
13	マイクロからマクロへ	マクロの物体は水素結合やワンドルワールス力などの力によってマイクロの粒子が集合したものであるが、マクロの物体の性質はマイクロの粒子の性質の単純な和ではない。物質世界は小さな要素粒子が結びつき大きな物質系、階層を作ることによって、新たな性質を発現するようになる。マイクロの粒子の集合によってどのような性質が発現するのか、それをいかに利用できるのかについて学ぶ。 【キーワード】 相、液晶、超臨界流体、機能性高分子、クラスター、ナノサイエンス	濱田嘉昭(放送大学教授)	濱田嘉昭(放送大学教授)、大学研究者
14	グリーンケミストリー	日本化学会などの学協会が世界の動きと連動させて取り組んでいる。化学プロセスを設計するあるいは評価する際に環境負荷や化学物質リスクを最小限にすることを旨とするものである。Eファクター、LCAなどのグリーン度評価法について学び、幾つかの実例をもとに有機合成、製薬、などの化学プロセスを学ぶ。 【キーワード】 グリーンケミストリー、アトミックエコノミー、廃棄物規制	濱田嘉昭(放送大学教授)	濱田嘉昭(放送大学教授)、秋鹿研一(放送大学特任教授)
15	グローバル環境問題を考える	環境に排出される物質、環境の中を循環・移動する物質をどのように管理するかは、経済・産業活動がグローバル化する現在において、人類的な課題である。どのようなシステムが構築されているのか、どのような問題を内包しているのか、将来の展望などを検討する。マイクロの観点からの環境問題について、現状とこれからの対策について総合的に考える。 【キーワード】 環境基本法、大気浄化法、Rhom規制、元素の資源問題、化石資源問題、バイオ燃料問題	濱田嘉昭(放送大学教授)、秋鹿研一(放送大学特任教授)	濱田嘉昭(放送大学教授)、秋鹿研一(放送大学特任教授)、鈴木勝久(横浜国立大学教授)、平田誠(大分大学准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	平成20年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8920249	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名(メディア) = 物質環境科学Ⅱ ('08) = (TV)  
 -宇宙・自然システムと人類-

- [主任講師(現職名) : 海部 宣男 (放送大学教授) ]  
 [主任講師(現職名) : 杉山 直 (名古屋大学教授) ]  
 [主任講師(現職名) : 佐々木 晶 (国立天文台教授) ]

### 講義概要

地球上の生命、および人類とその文明は、膨張する宇宙で進んだ自然の営みから生まれたものである。地球と生命・人類の創生をもたらし、またその存続を支える物質・エネルギーの源泉とその転化・変遷・循環のしくみは、どのようなものなのか。人類にとっての存続基盤であるさまざまなレベルの環境は、どのようにして生まれ、成り立っているのか。私たち人類文明の基盤とその現在とを物理学的・歴史的視点からグローバルに考察する、全15回の講義である。人類文明はいま存続の可能性すら問われるに至っているが、当面する問題や危機の背後にあるエネルギー・物質の流れや大きな時間・空間にわたるその変遷を踏まえて、宇宙の中の人類とその文明を、現代科学の視点でとらえなおす。

### 授業の目標

私たちが生き、活動しているこの世界(自然)環境について、その本質と歴史、変化のしくみを物理学・天文学・地球科学にもとづいて全体的・重層的に理解することが、本講義の第一の目標である。そうした自然システムの理解を基盤として、人類が活動する基盤である地球、人類自身の活動がいまや脅かしつつある環境、そして人類と文明の未来について、科学的で長期的な視点をもって深く考えることのできる地球市民の視座を獲得することが、第二の(そして、最終の)目標である。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	人類環境と宇宙	本講義の総論である。「環境」についての総合的かつ物理学的な考察を行い、人類とその環境を生み出した基盤が宇宙・地球の運動と歴史にあることを概観し、人類と環境問題の位置づけにふれながら、この講義全体の展望を与える。 【キーワード】 人類環境、生命環境、宇宙環境	海部宣男 (放送大学教授)	海部宣男 (放送大学教授)
2	宇宙の環境とそこに存在するエネルギー	宇宙の環境とはどのようなものか学び、そこに存在する多様な構造を、多様なエネルギーの存在形態としてとらえる。具体的な内容としては、まず惑星系から銀河、銀河団、宇宙の大規模構造へとまたがる宇宙の多様な構造について見ていく。次に、密度や温度が10桁以上も異なる各々の構造の環境についてまとめる。そして、そのような多様な環境を生み出した、宇宙でのエネルギーを生み出す機構について解説する。 【キーワード】 階層構造、銀河、銀河団、エネルギー	杉山 直 (名古屋大学教授)	杉山 直 (名古屋大学教授)
3	宇宙における物質生成	ビッグバンの熱的な歴史におけるエネルギーの役割と、そこでの物質の生成について理解する。具体的な内容としては、インフレーションと呼ばれる宇宙初期の莫大な膨張に導かれたビッグバンの誕生から、空間の膨張に伴う宇宙の熱的な環境の進化、そして、そこでの構造の形成について解説する。以上をふまえて、まとめとして地球という人間の生まれた環境が、宇宙全体から見たときにどのように実現しているのかについて述べる。 【キーワード】 ビッグバン、膨張宇宙、構造形成	杉山 直 (名古屋大学教授)	杉山 直 (名古屋大学教授)
4	恒星進化と物質・エネルギーの流れ	恒星進化を概観し、恒星で起きる元素合成、化学反応とそれらの放出過程を踏まえながら、恒星活動による物質とエネルギーの転換、その銀河系への影響をまとめる。 【キーワード】 恒星進化、元素合成、星周ダスト、質量放出	有本信雄 (国立天文台教授)	有本信雄 (国立天文台教授)

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
5	超新星による銀河環境への影響	超新星爆発について現在の理解の到達点をまとめ、超新星爆発が銀河系の物質・エネルギー環境にどのような影響を及ぼしてきたかを考察する。わが太陽系の形成において及ぼしたと考えられる影響(物質組成、トリガなど)にも触れる。 【キーワード】 Ia型超新星、II型超新星、化学進化、銀河系	有本信雄 (国立天文台教授)	有本信雄 (国立天文台教授)
6	星間分子雲からの地球環境の形成	星が生成放出した元素から星間物質、特に多量の氷やシリケート、有機分子を含む分子雲ができること、さらに星間分子雲から太陽系と地球の形成に至る過程を概説する。また近年の太陽系外惑星の発見と太陽系形成論の新展開を踏まえ、地球の形成までにおこった物質の分別過程・変化について考察し、地球という生命を生んだ環境の成立とその位置を理解する。 【キーワード】 星間分子雲、原始惑星系円盤、惑星形成	海部宣男 (放送大学教授)	海部宣男 (放送大学教授)
7	太陽	太陽とはどんな星かという概論から始め、ひので衛星の最新の画像により研究の最前線について紹介し、最後に太陽と地球の関係、地球環境への影響について述べる。 【キーワード】 太陽、太陽フレア、太陽黒点、宇宙天気	櫻井 隆 (国立天文台教授)	櫻井 隆 (国立天文台教授)
8	地球の初期のエネルギー	惑星形成段階から現在に至る地球・惑星のエネルギー史を説明する。惑星集積段階では、微惑星・原始惑星の衝突の運動エネルギーの解放や金属中心核の生成に伴う重力エネルギーの解放により莫大な熱が内部に発生して、マグマの海が形成される。集積が収まると、冷却が進み、マントルが形成され、ウラン、トリウム、カリウムなどの放射性元素が主要な熱源になる。一方で、地表付近や大気では、過去から現在に至るまで、太陽エネルギーが重要な役割を果たしている。 【キーワード】 惑星集積、マグマの海、放射性熱源、太陽エネルギー	佐々木 晶 (国立天文台教授)	佐々木 晶 (国立天文台教授)
9	地球の物質循環－生命が存在する惑星の維持	地球・惑星の長いスケールの物質循環とその変遷について概説する。地球内部と表層・大気との間の物質循環には、マントル対流や、それに関係する活動が大きくかかわっている。地球ではプレートテクトニクスが重要な役割を果たす。物質循環が、過去どのように変わってきたか、現在どのような状況にあるか。とくに、水や二酸化炭素の循環について、火星や金星と比較して概説して、なぜ地球だけが生命が繁栄できた環境になったかを議論する。 【キーワード】 物質循環、プレートテクトニクス、生命存在環境、二酸化炭素	佐々木 晶 (国立天文台教授)	佐々木 晶 (国立天文台教授)
10	地球型惑星の環境のエネルギーバランス	地球型惑星の気候が温室効果と大気大循環のエネルギーバランスのもとにどのように成り立っているのかを、金星・地球・火星を比較しつつ論じる。これらの惑星は大きさ・太陽からの距離・大気量・大気組成・自転速度などが互いに違っており、このことが異なる気候システムを生み出している。 【キーワード】 惑星 気候 温室効果 大気大循環	今村 剛 (宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究本部 准教授)	今村 剛 (宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究本部 准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	生物関連元素の循環 - 微生物との共進化	地球表層を構成する陸域、大気、海洋を通じての短い時間スケールの物質循環、特に炭素・窒素などの生元素の循環には微生物を中心としたエネルギー獲得系などの生命活動が密接に関与し、現世を含めて地球の環境に大きな影響を与えている。本章では、これらの生元素の循環と地球表層での生命活動との相互作用について具体的な例を挙げながら考察する。さらに生命におけるエネルギー獲得系と地球の進化の関係についてもふれる。  【キーワード】 生元素循環、エネルギー獲得系、微生物	小池勲夫 (琉球大学監事)	小池勲夫 (琉球大学監事)
12	天体の運動と気候変動	惑星間の重力相互作用により、地球の軌道や自転軸の傾きが長い時間で周期的に変化する。また太陽活動の変動に伴い、地球の受ける太陽放射が変化したり、雲の量が変化することが知られている。これらの変化量はわずかであるが、それから大きな気候変動が生まれる可能性がある。その変動は、地球では海底堆積物や氷床に記録されている。一方で、火星の極冠の縞模様も気候変動の記録と考えられるようになってきている。過去の気候変動の事例と、その機構についての最新の知識を説明する。  【キーワード】 ミランコビッチ・サイクル、気候変動、火星の極冠、自転軸傾斜角	佐々木 晶 (国立天文台教授)	佐々木 晶 (国立天文台教授)
13	地球の環境への生命活動・人間活動のインパクト	地球表層に誕生した生命は様々なプロセスを通じて地球の環境を変え、そのことによって結果的に生命の進化、多様性を導いてきた。ここでは生命活動によって地球表層の大気、海洋、陸域の酸化還元状態などの化学的環境や地形などの物理的環境がどのようなインパクトを受けたか、またそのインパクトがどのような生命の多様性、進化をもたらしたかについて具体的な事例を挙げて解説する。さらに人間活動が地球環境に与えたインパクトについても考察する。  【キーワード】 生命の進化、物理的・化学的環境、人間活動	小池 勲夫 (琉球大学監事)	小池 勲夫 (琉球大学監事)
14	文明と環境	長い時間スケールで見れば地球環境は激しく変化してきた。その中で人類はわずかな歴史を刻んできたに過ぎないが、厳しい環境を克服するための技術を開拓し、自然の根底を貫く法則を理解すべく科学を発展させて、文明の形態を大きく変化させてきた。その科学・技術文明が逆に人類にとって深刻な環境問題を引き起こすに至った現在の状況を掘り下げて考え、環境を保全しつつ人類活動をいかに進めるかを考えてみたい。今こそ、人類の英知が求められているのである。  【キーワード】 地球変動、環境問題、科学と技術の進歩、環境保全の取り組み	池内 了 (総合研究大学院大学教授)	池内 了 (総合研究大学院大学教授)
15	宇宙史の中の地球・生命・人類・文明	本講義全体のまとめをかねて、広く宇宙スケールで人類文明の位置を振り返り、文明の存在可能性とも絡めながら現在進行している宇宙文明の科学的探査を紹介し、そうした活動の意義を考える。最後に、現代の人間にとっての環境をどう捉えるべきかを宇宙・地球・生命の視座から見直すとともに、文明をもたらした科学・技術の人類にとっての意味を改めて考える。  【キーワード】 宇宙の中の人類、人類文明、地球市民の環境論	海部宣男 (放送大学教授)	海部宣男 (放送大学教授)

＝ 地球環境科学（'05）＝ (TV)

〔主任講師： 木村 龍治（放送大学教授）〕

〔主任講師： 藤井 直之（名古屋大学名誉教授）〕

〔主任講師： 川上 紳一（岐阜大学教授）〕

全体のねらい

地球は、大気、海洋、地殻、マントル、核などのサブシステムが集まった一つの巨大なシステムである。地球を構成するサブシステムは構成物質が異なるため、さまざまな時間スケールで変動している。また、現在の地球環境は、46億年にわたる地球の歴史的産物である。地球システム科学の立場から、地球のダイナミクスの研究方法や歴史解読のアプローチを講義し、地球環境と人間の関わりについて考察していく。

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	地球システムからみた地球環境	私たちは変動する地球環境の中で生きている。天気の変り変わりや異常気象は、変動する地球環境を身近に感じることができる現象である。気候の変動には数十年から数百年スケールのもから、10万年周期の氷期・間氷期サイクルまでである。さらに、プレート運動による大陸の離散集合の歴史は数億年といった長い時間スケールの中で起こる。さまざまな時間スケールで変動する地球環境を理解するには、地球をシステムとして捉える地球システム科学の考え方や研究手法が重要である。	木村 龍治 (放送大学教授)  藤井 直之 (名古屋大学名誉教授)  川上 紳一 (岐阜大学教授)	木村 龍治 (放送大学教授)  藤井 直之 (名古屋大学名誉教授)  川上 紳一 (岐阜大学教授)
2	地球システムの成立と特異性	地球環境は46億年前の太陽系の形成に始まる長い時間の経過の中で変化してきた歴史的産物である。地球には海があり、多様な生物が息しているユニークな惑星である。惑星形成過程や生命の起源論、グリーンランドやオーストラリアで進められている初期地球環境の地球史的研究の現場を紹介しつつ、地球システムの成立とその特異性について考察する。	川上 紳一	川上 紳一
3	気象システム	毎日の天気予報に深く関係する気象の変化のメカニズムについて述べる。現在の天気予報は地球全体の大気循環のコンピューターシミュレーションを基礎にして行われているが、シミュレーションの初期値を作成するために気象観測が必要である。気象はグローバルな大気循環からローカルな現象まで、さまざまなスケールの現象が階層構造をなしている。特に集中豪雨など気象災害をもたらすメソスケールの気象は特別なプロジェクト研究が必要である。現代の気象研究の最前線を紹介する。	吉崎 正憲 (気象庁気象研究所主任研究官)	吉崎 正憲 (気象庁気象研究所主任研究官)  木村 龍治
4	海洋システム	海洋は地球環境に大きな役割を占めているが、人間が陸地に住んでいるために、その実態を明らかにするのは容易ではない。しかし、海洋は陸地と同じような豊かな生物環境を構成している。海洋に関する物理、生物、化学、地学などのさまざまな側面を現代の海洋学はどのような方法で研究するのであろうか。特に、海洋研究船による現代の海洋調査について述べる。	小池 勲夫 (琉球大学監事)	小池 勲夫 (琉球大学監事)  木村 龍治

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
5	近未来の海洋観測	人工衛星の発展やIT革命によって、従来は不可能であった方法で、海洋の観測ができるようになった。従来は、海洋研究船による観測が主流であったが、現在、国際協力によって、無人の漂流ブイによる海洋観測が全世界で展開されている。そのプロジェクトを「アルゴ計画」という。また、エルニーニョのモニターのために、赤道太平洋で係留ブイによる観測が実施されている。それらの近未来を指向した海洋観測を、プロジェクトに関わっている研究者が説明する。	湊 信也 (海洋研究開発機構アルゴグループサブリーダー)	岡 正太郎 (海洋研究開発機構アルゴグループ研究員) 木村 龍治
6	気候変動Ⅰ	地球は常に太陽から、ほとんど一定の光を受け続けているにもかかわらず、大気環境が常に変動しているのはなぜであろうか。変動には、さまざまな周期が存在する。短い変動は、雷雲や台風などの突発的な気象擾乱の発生による。天気の変化は、中緯度帯に形成されている偏西風の流体力学的な不安定による。季節変化は、太陽放射量の変化による。それらの原因はかなり解明されているが、1年より長い周期の変動もある。数年の変動はエルニーニョ現象に関係している。それより長い気候の変化は、海洋の変動と関係が深い。大気環境の変動特性について考察する。	木村 龍治	木村 龍治
7	気候変動Ⅱ	1988年以来、地球環境問題が大きな社会問題になった。これをきっかけにグローバルな気候変化の研究が盛んになり、コンピューターシミュレーションによって、将来の気候予測が実施されている。東京大学気候システム研究センターは、日本の気候研究の中心的存在であるが、その所長を長く務めた住教授が現代の気候研究の最前線について語る。	住 明正 (東京大学教授)	住 明正 (東京大学教授) 木村 龍治
8	生物圏と地球システム	生物圏も地球システムの重要な構成要素である。深海底熱水生態系、珊瑚礁、干潟などの生態系を紹介し、それらが地球環境とどのように関わっているかを講義する。特に、地球表層の炭素循環に対する海洋微生物の役割について考察する。	川上 紳一	川上 紳一
9	固体地球と表層環境のカップリング	過去の大規模火山噴火の事例紹介、その気候変動との関連性を論じる。さらに、地球の火山活動は、プレートテクトニクスと密接に関わっていることを示す。また、大陸移動、超大陸の形成・分裂サイクルと表層環境、スーパーブルーームの活動などを講義する。	藤井 直之	藤井 直之
10	マンツルダイナミクス	プレートテクトニクスの原動力やプレート内火山活動を理解するには、地球内部ダイナミクスを詳しく研究する必要がある。地震波トモグラフィーによる地球の3次元構造モデルの研究、地球内部物質科学の知見を用いたその解釈、さらにマンツル対流のコンピューターシミュレーションの結果を紹介し、地球内部の変動のしくみを解説する。	藤井 直之	藤井 直之

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	地球磁場変動	地球磁場の特徴とその時間変動を論じる。また、地球磁場の逆転現象、地質時代の地球磁場を研究する古地磁気学の原理を講義し、地球磁場の変動と地球環境の関連性を論じる。	藤井 直之	藤井 直之
12	地球史解説	地球の歴史を解説するには、地層や岩石に刻まれた過去の出来事を読み解く必要がある。K/T境界の粘土層の分析結果をもとに提唱された恐竜絶滅の天体衝突仮説を解説し、この仮説が地球史研究に与えたインパクトを紹介する。古生代末の生物大量絶滅事件に関する研究にも言及する。また、南オーストラリアの潮汐リズムを記録した堆積岩から地球自転周期や月軌道を復元する研究を現地での取材を含めて紹介し、地球史の解説のアプローチを紹介する。	川上 紳一	川上 紳一
13	地球を変えた 光合成	地球が誕生したころの大気には、ほとんどまったく酸素がなかった。現在の地球大気の20%は酸素分子でできており、性質が大きく変化した。その移り変わりを記録したさまざまな堆積岩から地球大気の変遷を読み解いていく。地球大気に酸素をもたらした最初の微生物として注目されているシアノバクテリアとその構築物であるストロマトライトについて、南オーストラリア、現生ストロマトライト、縞状鉄鉱床などの露頭の様子を解説する。	川上 紳一	川上 紳一
14	全球凍結事件と多細胞動物の出現	約8億年前から6億年前の氷河時代の地層が世界各地に分布する。それらが堆積した緯度を推定する古地磁気学、氷河堆積物と縞状炭酸塩岩や縞状鉄鉱床の奇妙な組み合わせやその謎解きから提唱された全球凍結仮説、そして、これらの氷河時代が終わって突然登場する多様な多細胞動物など全球凍結仮説を巡る研究現場（南オーストラリアの縞状鉄鉱床、氷河堆積物の露頭紹介）をレポートし、地球史解説の研究の進め方、検証可能な作業仮説の重要性などを論じる。46億年の地球と生物の歴史を振り返り、変動する地球環境と生物進化の関連性を明らかにする。	川上 紳一	川上 紳一
15	地球環境と人類の 未 来	地球環境変動を地球システム科学のアプローチで研究する意義を総括する。また、地球環境と生物進化から私たち人類が歴史的存在であることを確認する。人類の出現とその地球環境への影響をグローバルかつ地球史的に捉え、多様な生物との共存していくためには何をなすべきか考察する。また、地球環境の理解には、地球科学の研究が不可欠なことを、オゾン層の破壊など具体例をもとに示す。	木村 龍治 藤井 直之 川上 紳一	木村 龍治 藤井 直之 川上 紳一

## ＝ 情報システム科学（'06）＝（R）

〔主任講師（現職名）：長岡 亮介（放送大学客員教授）〕

〔主任講師（現職名）：平尾 淳一（大東文化大学教授）〕

### 全体のねらい

情報科学は、技術的な応用という実用性の観点からも、文化全体への影響力の大きさという社会的な観点からも、もっとも注目される科学の領域であることは疑いない。しかし、他方で、情報技術のあまりに急激な発展と普及、爆発的な知識の蓄積と拡大は、技術の開発者と技術の利用者の間の溝の拡大として結果し、結果として大量に生産される技術の大衆消費的な状況を産みつつあるといっても良い。これは、科学的な知識の継承と発展という視点から見ても、危機的なことである。

本講義は、通常、情報科学とよばれる分野に属する数多くの話題の中からいくつかを選び、それらについて、科学、技術、歴史、社会の複眼的視点から眺望を試み、現代情報化社会の抱える諸問題を考えるための科学的な最小限の基礎知識を講じようとするものである。

技術的な話題も必要最小限に登場するが、情報技術についての知識や経験は教材を理解する上で必須でないが、受講生の経験、知識に応じた自発的な研究学習が期待される。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	情報化の歴史 (1)	はじめに講義全体の趣旨を簡単に解説する、そして、今日の情報化社会が誕生するまでに人類が辿ってきた情報化の歴史(PC以前まで)を概観し情報処理の意味を反省的に捉え返す。合わせて、講義の中で参照されるソフトウェアの入手方法をはじめ、後半の講義を理解するに際して必要な前提となる技術的な注意点を述べる。	長岡 亮介 (放送大学 客員教授)	長岡 亮介 (放送大学 客員教授)
2	情報化の歴史 (2)	PCの普及からインターネットの爆発から今日に至るまで情報化の急激な展開の総括を試みる。	長岡 亮介	長岡 亮介
3	情報の数学的基礎 (1)	情報の基礎にある符号化を支える数学的な基礎について概観し、機械が「計算」したり「思考」したり「情報伝達」することの意味を考える。	平尾 淳一 (大東文化 大学教授)	平尾 淳一 (大東文化 大学教授)
4	情報の数学的基礎 (2)	画像と音声といった multi-media 情報の処理を中心に、情報の取得・表現・伝達といったプロセスにおける数学的背景を解説する。	平尾 淳一	平尾 淳一

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
5	情報管理、ファイル管理	ディレクトリなどファイルシステムの基本について述べる。また、テキストファイルとバイナリファイル、実行ファイル（プログラム）とデータファイルの違い、いわゆるファイル名、拡張子、OSについて述べる。	平尾 淳一	平尾 淳一
6	テキスト処理の基礎（1）	情報の作成と管理は、情報処理の根幹である。とりわけ文書情報は、人間の知的な活動の中心にあるといて良い。コンピュータを活用した文書管理について数回をかけて論ずる。テキスト処理言語として、高性能なエディタを紹介する。	長岡 亮介	長岡 亮介
7	テキスト処理の基礎（2）	Perl を中心に、本格的で応用範囲の広いテキスト処理言語を紹介する。	長岡 亮介	長岡 亮介
8	論理的な文書作成	Web の言語である HTML で一気に普及したマークアップランゲージのもっとも典型的かつ規範的かつ実用的な LaTeX の基本的な特徴である論理的な文書作成術を概説する。	長岡 亮介	長岡 亮介
9	テキスト処理言語と LaTeX	表計算ソフトなどで作られた基礎データをもとに、LaTeX で処理できるデータを作る基本的な手法を紹介する。	長岡 亮介	長岡 亮介
10	ウェブのマークアップ	ウェブのマークアップ言語である HTML の考え方、およびそれを補完ないし拡張する技術を紹介する。	平尾 淳一	平尾 淳一
11	マルチメディアと XML	簡単な画像処理および画像や音声を含むデータの表現・構成のためのマークアップを紹介する。	平尾 淳一	平尾 淳一

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
12	インターネットによる情報発信	インターネットを支える基本技術とサーバの仕組みを解説する。	平尾 淳一	平尾 淳一
13	ソフトウェアの開発を巡って	プログラミング（ソフトウェアとしての実装）の具体的な姿を紹介する。	長岡 亮介	長岡 亮介
14	ICT 社会と知の変容	インターネットの歴史的な意味を、フリーなソフトウェアの運動がもたらした知の革命を中心に考察する。	長岡 亮介	長岡 亮介
15	インターネット時代の諸問題	セキュリティをはじめ、インターネットに存在する深刻な諸問題について考える。	長岡 亮介 平尾 淳一	長岡 亮介 平尾 淳一

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8960518	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 基礎情報科学 ('09) = (R)

〔主任講師 (現職名) : 川合慧 (放送大学教授) 〕

〔主任講師 (現職名) : 萩谷昌己 (東京大学教授) 〕

### 講義概要

情報に関する学問分野は、記号論、計算機科学、計算機工学といった比較的に基礎分野を扱うものから、情報学、さらには人間社会と密接に絡み合うメディア関連の諸学問まで極めて幅広いものとなっており、その学習にあたっては、全体と部分を見る努力の焦点を定めにくい。本科目ではこのように広い情報分野の中で、基礎学問としての計算機科学の核となる概念である「計算」に焦点をあて、その数理的な概念と性質、計算のモデル化と計算量、計算可能性、さまざまなタイプの計算システム、そしてその物理現象としての実装とを総合的に扱う。

### 授業の目標

全15回の講義を通じ、本来抽象的であり理解することが容易ではない「基本概念としての計算」の姿を会得する。また、計算量やそのオーダ、計算可能性などについての具体的な理解を、数式等の助けを可能な限り借りることなしに得ることを目的とする。現代のコンピュータの動作についての、パソコン利用的な表面的ではない本質的な部分のイメージを体系的に学ぶことが最終目標である。

### 履修上の留意点

「情報科学の基礎('07)」および「数学基礎論('08)」の履修が望ましいが、本科目の履修に必須ではない。グラフ理論や形式言語等の知識があれば理解はさらに深まるであろう。実際のプログラム言語の利用経験も理解の助けにはなるが、本科目ではより抽象的かつ包括的な計算を取り扱う。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	情報とその表現	我々が一般にイメージする「情報」は、本来は普遍的な概念である情報の、個々の局面での様々な出現形態である。ここでは情報の本質と、その表現に使われる種々の約束事について、多面的な例をもとにして理解する。  【キーワード】 情報, 情報処理, 表現	川合慧 (放送大学教授)	川合慧 (放送大学教授) 萩谷昌己 (東京大学教授)
2	情報の処理と計算	我々が普段目にする「計算」、たとえば四則演算のようなものは、もともとの意味の忠実な表現を維持するようにして実行される、記号の間の変換操作である。ここでは、アルゴリズムと呼ばれる様々な「計算手順」の具体例によって、計算処理の本質を理解する。  【キーワード】 意味と記号, 計算	川合慧 (放送大学教授)	川合慧 (放送大学教授) 萩谷昌己 (東京大学教授)
3	再帰の本質	一定数の記述部品を使って計算を表現する場合、同じ部品を状況を変えて何回も利用するが、自分自身を下請けとして使用することもある。ここでは、再帰と呼ばれるこの手法によって組み立てられる計算のやり方と性質とを理解する。  【キーワード】 再帰, 関数	萩谷昌己 (東京大学教授)	川合慧 (放送大学教授) 萩谷昌己 (東京大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	パターン照合による計算	データの間に対応関係を定める処理をパターン照合と呼ぶ。データの構造や制限された任意性の利用により、パターン照合による計算が実現できる。ここではパターン照合による計算のやり方を学び、その性質を理解する。  【キーワード】 パターン照合, バインディング	萩谷昌己 (東京大学教授)	川合慧 (放送大学教授) 萩谷昌己 (東京大学教授)
5	オートマトンと状態遷移	一連の入力を与えると内部の状態が順々に変化してゆくような抽象的なシステムをオートマトンと呼び、その性質は詳しく調べられている。ここではオートマトンを用いた計算のやり方と、その構成方法について学ぶ。  【キーワード】 オートマトン, 状態遷移	萩谷昌己 (東京大学教授)	川合慧 (放送大学教授) 萩谷昌己 (東京大学教授)
6	チューリングのテープ機械	オートマトンの入出力を無限長のテープを使って行ない、テープ上に計算結果を残す働きをもつシステムとしてチューリング機械があり、計算論では中心的な意味をもつ。ここではその原理と計算の様子および主な性質を学ぶ。  【キーワード】 チューリング機械, 遷移表, テープ	萩谷昌己 (東京大学教授)	川合慧 (放送大学教授) 萩谷昌己 (東京大学教授)
7	計算モデルの等価性	これまでに見た様々な「計算のやり方」は、その基本要素の種類に応じて「計算モデル」として整理される。ここではその様子を学び、これらの計算モデルが互に他の真似をすることができるという意味で等価であることを理解する。  【キーワード】 計算モデル, シミュレーション, 等価性	萩谷昌己 (東京大学教授)	川合慧 (放送大学教授) 萩谷昌己 (東京大学教授)
8	計算量	計算モデルのすべてに渡って、そのモデルに従った手順(アルゴリズム)を実行した際に、結果を得るまでの手間という量(計算量)を考えることができる。ここではその基本的な性質と主要項である計算量のオーダーについて学ぶ。  【キーワード】 計算量, 計算の手間, 計算量のオーダー	川合慧 (放送大学教授)	川合慧 (放送大学教授) 萩谷昌己 (東京大学教授)
9	計算量の実際	各種の実用的な計算では計算量が莫大になることが多い。ここではそのような計算の例として、膨大な数の局面を検査する必要のあるゲームプレイと、解手順の計算量の大きさを利用する暗号処理について学ぶ。  【キーワード】 ゲーム, 探索空間, 暗号, 一方向関数	川合慧 (放送大学教授)	川合慧 (放送大学教授) 萩谷昌己 (東京大学教授)
10	計算の複雑さ	計算量をそのオーダーによって分類すると、問題の大きさが変化した場合の計算量の変化の振舞いが明らかになる。いくつかのオーダーの例でこれを調べ、計算量のオーダーの階層性を学び、関連する未解決問題「P=NP?」を理解する。  【キーワード】 計算量階層, 多項式オーダー, 指数オーダー, P=NP問題	川合慧 (放送大学教授)	川合慧 (放送大学教授) 萩谷昌己 (東京大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	計算不能!	<p>ここで取り上げた計算モデルはすべて数学の証明論の枠組みで取らえられる。数学基礎論では証明不可能な問題があることが不完全性定理の名で知られているが、その「計算版」として計算不可能な問題が構成できることを学ぶ。</p> <p>【キーワード】 計算可能性, 不完全性定理, 対角線論法</p>	萩谷昌己 (東京大学教授)	川合慧 (放送大学教授) 萩谷昌己 (東京大学教授)
12	いろいろな計算	<p>計算論におけるいくつかの話題として、いつでもundoができる可逆計算, 量子力学にもとづく量子計算, 分子の反応を利用する分子計算などの実際と, その原理とを理解する。</p> <p>【キーワード】 可逆計算, 量子計算, 分子計算</p>	萩谷昌己 (東京大学教授)	川合慧 (放送大学教授) 萩谷昌己 (東京大学教授)
13	記号と情報	<p>何かを意味し, かつ知覚できるもの, という記号の定義を, 情報科学の文脈に摘要し, 計算の諸概念を分析する。また, メッセージがもつ情報の大きさについての数値化の例としての情報量と, その計算とのかかわりを理解する。</p> <p>【キーワード】 記号, 情報の表現, 情報量</p>	川合慧 (放送大学教授)	川合慧 (放送大学教授) 萩谷昌己 (東京大学教授)
14	計算の実現	<p>計算で扱う様々な情報の処理は, 計算の要素を様々な方法で表現することにより, 現実に動作する物理的な装置として実現できる。ここではその概略と, 現実のコンピュータにおける2進表現の使用理由について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 論理演算, 2進表現</p>	川合慧 (放送大学教授)	川合慧 (放送大学教授) 萩谷昌己 (東京大学教授)
15	現代的コンピュータ	<p>現代のコンピュータは「計算」を行なう機械であるが, その成り立ちは現実の工学的な実現可能性に強く縛られている。ここではその概略と, 実際に用いられているプログラム言語と呼ばれる計算記述の様子を学ぶ。</p> <p>【キーワード】 コンピュータ, プログラム格納方式, プログラム言語</p>	萩谷昌己 (東京大学教授)	川合慧 (放送大学教授) 萩谷昌己 (東京大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2009年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8960526	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 数理科学の方法 ('09) = (R)

{主任講師 (現職名) : 熊原啓作 (放送大学教授) }

### 講義概要

コンピュータの発達と共に計量的手法があらゆる分野に浸透し、数理科学的手法が必要とされ使われている。この講義では数理科学の個別科学への応用例を提示する。数理科学やその考え方がいかに活用されているかを解説する。数理物理学から生まれ、情報科学、通信工学など広い応用を持つフーリエ解析学、生命現象を数学的に解明しようとする数理生物学、一見数学と無縁に思われる文化的方面にもデータ解析を活用する文化情報学、そして日々の経済動向の裏にある数理経済学を取り上げる。

### 授業の目標

様々な場面で数学的考え方がいかに有効に活用されているか、またその限界とこれからの課題についても理解を深めることを目標とする。数理科学あるいは応用数学は、数学者が準備してくれた道具を便利に使うというようなものではなく、新たに問題に応じて数学を作ることであることも強調したい。

### 履修上の留意点

15回の講義では厳密に理論を展開することはできないので、どうしても包括的な話が多くなるが、数学的論理の展開も不可欠である。数学に不慣れな受講者は細部より流れを読むようにし、この講義はいわば数理科学ガイダンスと理解していただきたい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	数理科学の方法	数理科学の概観と全担当講師によるそれぞれのパートにガイダンスを与える。  【キーワード】 数学と数理科学, 生物学と数理科学, 文化情報学と数理科学, 数理経済学と数理科学	熊原啓作(放送大学教授)・梶原毅(岡山大学教授)・村上征勝(同志社大学教授)・丸山徹(慶應義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・梶原毅(岡山大学教授)・村上征勝(同志社大学教授)・丸山徹(慶應義塾大学教授)
2	フーリエとフーリエ解析	数理物理学における問題の解決のために誕生したフーリエ解析の誕生と生い立ちを見る。  【キーワード】 振動, 熱伝導, フーリエ級数, フーリエ級数複素形	熊原啓作(放送大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)
3	フーリエ解析の発展と数学における影響	フーリエ解析の発展が数学の基礎を見直すことにつながり、実数、関数、収束、積分などの基礎概念の明確化を必要とし、集合論やルベーグ積分論誕生の一因にもなった。数学がいかに大きな影響を与えたかを見る。  【キーワード】 関数と実数, フーリエ級数の収束問題, リーマン積分, フーリエ積分, 集合論, ルベーグ積分	熊原啓作(放送大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	フーリエ解析の諸結果	フーリエ解析の興味あるいくつかの性質について概観する。ギブズ現象、直交関数展開としてのフーリエ級数、一般フーリエ級数を紹介し、フーリエ級数の概収束、フーリエ変換、サンプリング定理を取り上げる。  【キーワード】 ギブズ現象、直交関数、関数空間、プランシュレルの定理、不確定性原理、サンプリング定理	熊原啓作(放送大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)
5	フーリエ解析の新しい流れ	フーリエ解析は加法群に拡張される。その例として整数上のフーリエ変換とさらなる一般化の方向を示し、有限フーリエ変換と高速フーリエ変換を概説する。フーリエ変換は周波数情報を与えるが、その成分が何時現れるかを教えてはくれない。その欠陥を補うものとして誕生したウェーブレット変換を取り上げる。  【キーワード】 指標、離散フーリエ変換、双対定理、高速フーリエ変換、ウェーブレット変換	熊原啓作(放送大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)
6	単一集団モデル	生物集団の個体数の変動は、数理生態学の基本的なテーマである。最初に単一集団のモデルを説明する。微分方程式モデルの導きかた、マルサスモデル、ロジスティックモデルについて、データと比較しながら述べる。小集団をあつかう確率モデルについても説明し、微分方程式モデルとの関係についても触れる。  【キーワード】 生物現象、微分方程式モデル、確率モデル	梶原毅(岡山大学教授)	梶原毅(岡山大学教授)
7	複数集団モデル	前回にひきつづき、互いに相互作用する複数集団のモデルを扱う。始めに競争関係を扱うロトカ・ヴォルテラ競争モデルについて、アインクライン法、および数学的解析、生物学的意味について説明する。次に、ロトカ・ヴォルテラ捕食モデルについて、解が周期的になることを説明し、それをを用いた漁獲の効果の解析を説明する。  【キーワード】 競争モデル、単調性、捕食モデル、保存量	梶原毅(岡山大学教授)	梶原毅(岡山大学教授)
8	体内の病気モデル	人間の体内は観察が容易ではないので、病気の様子を調べるために数理モデルを作って研究することが役に立つ。主として HIV 感染のさまざまな段階を対象としたモデルについて、数学解析と生物学的意味について説明する。さらに、免疫が自己を攻撃する自己免疫病のモデルについても説明する。  【キーワード】 エイズ、免疫系、安定性、抗原多様性閾値、自己免疫	梶原毅(岡山大学教授)	梶原毅(岡山大学教授)
9	感染症の流行モデル	人間にとって切実な問題である病気の流行についてはデータも豊富で、昔から研究が盛んである。感染症の流行をあつかういくつかの基本的なモデルについて説明する。さらに、具体例として、狂犬病などの伝播のモデル、また空間的に一様でない防御の効果のモデルについて説明する。  【キーワード】 体内の病気、エイズ、肝炎、免疫細胞	梶原毅(岡山大学教授)	梶原毅(岡山大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	文化領域の数量分析	文章や絵画を中心に、文化の研究領域における数量的アプローチの目的、意義および研究方法を紹介する。特に類似性という観点から、分析に用いる情報(変数)の選択や必要な統計量について説明する。  【キーワード】 数量分析, 情報(変数)選択, 平均値, 分散, クラスタ分析, 主成分分析	村上征勝(同志社大学教授)	村上征勝(同志社大学教授)
11	文章の数量分析	文章の類似性の分析で著者に関する疑問の解明を試みた幾つかの研究を紹介する。具体的には「シェークスピア＝ベーコン説」の検討、『静かなドン』盗作説の解明、アメリカ合衆国憲法に関する論説12編の著者の推定、『源氏物語』の文章の分析、犯罪事件の文章の分析等を紹介する。  【キーワード】 シェークスピア＝ベーコン説、『静かなドン』、『連邦主義者』、『源氏物語』, 最頻値, 出現頻度, クラスタ分析, 判別分析	村上征勝(同志社大学教授)	村上征勝(同志社大学教授)
12	浮世絵の数量分析	浮世絵・美人画に描かれてた顔を対象に、目、鼻、口などの部品間の角度を分析することで、9人の浮世絵師たちの描画法の差異の解明を試みた研究を紹介する。また、歌舞伎劇で女役を演じる男性の顔の描き方について、数量分析でどのようなことが明らかになったかも紹介する。  【キーワード】 浮世絵, 美人画, 役者絵, 女形, 角度情報, 主成分分析	村上征勝(同志社大学教授)	村上征勝(同志社大学教授)
13	効用関数の存在	集合上で定義された擬順序を実数値の関数(効用関数)で表現する可能性について述べる。制約条件下における最適化行動の分析は、経済理論におけるひとつの基本的類型である。効用関数はこの種の分析上不可欠の役割を果たす。併せて、必要とされる位相空間論の基本的な概念・事実についても解説したい。  【キーワード】 位相空間, 擬順序, 効用関数, Debreuの定理	丸山徹(慶應義塾大学教授)	丸山徹(慶應義塾大学教授)
14	期待効用の理論	生起しうる事象に対して定義された、いろいろな確率を数列づけする擬順序が与えられたとき、それを表現する効用関数の存在について研究する。とくに効用関数がある関数の期待値の形式で与えられるための条件に焦点をあわせて論ずる。基礎的準備として、測度・積分、そして確率測度を作る空間の*弱位相についても解説し、ひとつの現代解析学への案内としたい。放送授業では効用関数と中心に丁寧に説明する。基礎的準備については印刷教材と精読されたい。  【キーワード】 測度と積分, 確率測度族上の*弱位相, 期待効用	丸山徹(慶應義塾大学教授)	丸山徹(慶應義塾大学教授)
15	経済の均衡	効用関数に基づき、経済を構成する主体の最適化行動を分析する。つづいて多数の主体の間に成り立つバランス—つまり一般均衡の概念を論じて、現代経済学の基本的分析視角を紹介する。  【キーワード】 ラグランジュの未定乗数法, 二次形式の符号, 需要関数の導出, 一般均衡	丸山徹(慶應義塾大学教授)	丸山徹(慶應義塾大学教授)

この冊子に掲載した平成 21 年度新規開設科目の講義内容は、教材の原稿等を作成する時点で主任講師等が執筆しており、実際に印刷教材及び放送教材を制作する時点で内容等を組み替えていることもあり、必ずしも最終的な印刷教材・放送教材と一致していない部分がありますので、ご容赦ください。

なお、放送大学ホームページに掲載されている講義内容については、最新の内容にリアルタイムで更新しております。



古紙配合率70%再生紙を使用しています